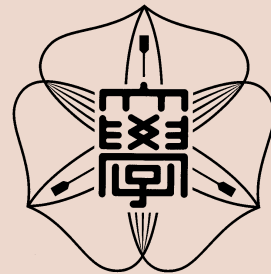


21世紀の大きな展開に向けて

～研究主導型大学としての展開を求めて～

21世紀の大きな展開に向けて
～研究主導型大学としての展開を求めて～



北海道大学シンボルマーク

平成12年度
点検評価課題

●教員の総合的業績評価について
●大学院教育について

平成12年度 北海道大学年次報告書



平成12年度 北海道大学年次報告書

表紙写真

「工学部旧本館（原形）」

北海道大学

総長 丹 保 憲 仁 撮影

21世紀の大きな展開に向けて

～ 研究主導型大学としての展開を求めて～



平成12年度 北海道大学年次報告書

「新たな大学像の確立を目指して - 大学院大学としての展開を求めて - 」

1875年夏、日本最初の近代大学である札幌農学校として呱呱の声を上げて以来125年の時を閲した。クラーク先生の残された「Boys, be ambitious!」の言葉に導かれて、北海道大学は日本近代化のパイオニアとして多くの困難を乗り越え、今日の豊かな日本を作る過程で大きな働きをしてきた。今世界は、成長の果てに世界環境制約の時代に突入し、心ある人々は近代の閉塞をどのようにして乗り越えて、明日の人類の幸いを描こうかと必死の努力を始めている。

この時代にあって北海道大学は、踏跡の無い道に分け入り新しい文明の展望を開くパイオニアたらんと、大いなる野心に燃えている。創基120周年を記念した1996年から、世紀が改まり創基125周年を祝いたいと考えているこの2001年の六年間に、本学が文明転換のためのしっかりとしたエンジンとなる事が出来るように、新たな構造を持つ研究主導型大学院大学へと北海道大学を再構築し、充実した人間教育と基礎教育を行う学部教育課程を全学の責任で大学院組織の下に再構成するための、基礎的議論と具体の仕組みを作るための努力が着実に進められてきた。北大の責任者としてこの六年をとられる事なき創成の努力を重ねる人々の中で働けたことを感謝したい。新たな提案と個々の創造的努力は、的確な組織的評価を経て始めて独善と偏見でなく、定着した具体の成果となる。始めてから8年もの月日に亘り、多くの北大人が常に創造的、献身的に設計・遂行してきたこの点検評価の展開の中に北海道大学の未来を見ることが出来る。

今年度は、教員の教育・管理運営・社会貢献活動という、重要な側面でありながら研究活動に比して明確な評価のなし難かった部分について、平成4年以来の継続的な検討を集成して在籍全教員の活動実績のデータベース化を計り、次年度からの全面公開に至る最終検討段階を踏んだ。平成11年度の全学合意に基づいて、平成13年度以降は大学の情報開示の核となる個々の教員の総合的業績評価の調査結果が、個々人の研究実績、教育業績、学部・大学の管理業績、社会貢献業績のデータベースとして公開されることになる。

平成5年全国の大学に先がけて全学規模で始まった「学生による授業評価」は、平成6年に全教員について行われ、FDの評価の一環としての目的を持つ「授業アンケート」という形で平成8年再提案され、平成11年度から毎年実施されてきた。学生の反応と対比させて教員個々の自己評価を加え、FDのための点検評価の価値を高めてきた。各教員に結果を戻すと共に、結果の数値化や、積極的な情報開示の方向での検討が進められている。

今年度は大学院教育についての、大学院学生（留学生・社会人学生を含む）全員のアンケート調査を始め、次年度以降の大学院教育、学業支援等の基本構造を大学院重点化大学として設計するための基礎資料の集成の第一段階とした。

北海道大学の点検評価は、大学の運用の基本を成す事項について必要に応じて行う調査と、大学の透明な運用（情報開示）と自己評価資料などの基本情報のデータベースの構築と更新のための毎年の点検と特徴を分けて行われる。結果は改善評価の判定を付して公示される。

点検評価に精力的に取り組んで頂いた、点検評価委員会のメンバーの方、事務局・学部の担当職員のご苦勞に心から感謝する。

明解な点検評価の積極的な実行と、その情報開示が、大学の自律的運用を社会に認めてもらい、学問の自由を大学人が自らになうことを社会に許されるための必須の要件であることを忘れてはならない。

平成13年3月

北海道大学 総長 丹 保 憲 仁

本年度の点検・評価について

本学では、平成4年度から毎年度、点検評価を実施しているが、これまでの活動を総括し、平成9年度からは「従来の網羅的なものから、本学がその時々直面する全学的な課題に絞って点検評価を行い、改善すべき方策を提言し、その提言を受けて総長がリーダーシップを発揮して改善のための具体的な行動に結び付けるシステム」による点検評価とし、より実効あるものとした。

これらの結果は、毎年度、取りまとめて年次報告書として刊行・公表している。

平成12年度は、「教員の総合的業績評価について」、「大学院教育について」の2課題について、それぞれ専門委員会を設置して、点検評価を実施した。

1) 検討課題：「教員の総合的業績評価について」

教員業績評価専門委員会（委員長：福迫 大学院工学研究科長・工学部長）

大学教員は、教育者、研究者の両面を持っており、また、大学が自主性・自律性をもって、教育研究水準の維持向上を図ることは当然のことであり、また更に大学の管理運営に果たすべき役割も必須のことである。

しかしながら、現状における教員個々に対する業績評価は、ともすれば研究業績が重視され、教育や管理運営に係る業績が適正に評価されていない。

本学では、教員個々の評価は、教育、研究、管理運営及び社会への貢献その他の業績を総合的に行う必要があるとの観点から、全国の大学に先駆けて平成10年度から「教員の総合的業績評価」について専門委員会を設置して検討してきた。

平成12年度は、教員の「教育、管理運営、社会貢献業績調査」を実施し、個人ごとに取りまとめて「教育、管理運営、社会貢献活動一覧」として刊行・公表した。

また、教員の総合的業績評価のためには、学生による授業評価も必要との観点から、平成11年度に引き続き「学生による授業アンケート」を実施し、その結果の分析を行った。

本学では、研究業績に関しては平成4年度から「研究活動一覧」を刊行・公表しており、「教育、管理運営、社会貢献活動一覧」を刊行・公表することにより、教員の教育、研究、管理運営、社会貢献に係る業績が出そろふことから、「平成13年度には教員の教育、研究、管理運営、社会貢献の業績による総合的な業績評価の在り方を検討すること」を提案した。

2) 検討課題：「大学院教育について」

大学院教育専門委員会（委員長：西 大学院地球環境科学研究科長）

本学は、大学院重点化大学として大学院における教育をその中心に据えようとしているが、その教育理念・方針と教育の実態が必ずしも調和がとれていないこと、また、本学の学生委員会が行った「学生生活実態調査報告書」（1998年版）によると、大学院学生からは「教育指導の在り方」などについて多くの意見や要望が出されていることから、平成11年度から点検評価課題として「大学院教育について」を取り上げた。

平成12年4月には、全ての研究科が重点化されたことから、研究科の現状についてヒアリングを実施して問題点等を整理するとともに、大学院学生に対するアンケート案を検討した。

これらを踏まえて、「平成13年度に大学院学生に対するアンケートを実施すること」を提案した。

平成12年4月には、大学評価・学位授与機構が設置され、国立大学に対する第三者機関による評価が本格的に開始されようとしており、大学における点検評価の役割は益々重要となってきた。大学はこれまでに様々の点検・評価活動を行ってきたが、より一層の充実を期待する。

最後になったが、両専門委員会委員長の指導力と各委員の献身的な努力に対し、深謝したい。

点検評価委員会幹事会座長

副学長 富 田 房 男



入 学 式



学位記授与式

「国際広報メディア研究科」を設置



4月1日、言語文化部を中核として、留学生センター及び情報メディア教育研究総合センターの協力のもとに、独立大学院「国際広報メディア研究科」が設置され、初代研究科長に言語文化部フランス語教育系・表象文化研究系大平具彦教授が就任されました。

新研究科は、「国際化する情報、対話、思考」を基軸とする現代社会状況に対応すべく、多元文化の時代における合意プロセスと新たな公共性の確立に向けた教育・研究を通じて、国際ジャーナリスト、国際機関や自治体、企業における広報専門家などの高度専門職業人の養成を目的としています。

研究科の構成は、公共伝達論講座、国際広報論講座、国際広報戦略論分野、国際地域文化論講座、言語伝達論講座、日本語文化論講座及びマルチメディア表現論講座の6講座1分野から成っています。

特色として、社会との繋がりを重視して、国際広報戦略論分野において野村総合研究所との連携講座を設けたこと、実践的教育をめざしてインターンシップ制度を取り入れたことが挙げられます。

「北ユーラシア・北太平洋地域研究センター」の表札上掲

本年4月19日付けで、北ユーラシア・北太平洋地域研究センターが設置（旧農学部図書館）されたことに伴い、7月31日に丹保総長、福田センター長及び若松事務局長により表札が上掲された。

センター設置にあたっては、中核となる基幹研究員（教授1名、助手1名）と各部局等に所属する教官（プロジェクト研究員）21名以内が、陸域環境・資源変動研究、海域環境・資源変動研究及び情報ネットワーク構築研究の各プロジェクトごと研究参加すると同時に、設定したプロジェクトごとに、関連する教官が流動的に人員構成することにより、具体的な達成目標を掲げたプロジェクト研究に適合する新たな研究組織（「共同研究プラットフォーム」）のさががけとして設置された。

現在、福田センター長のもと、9部局19名のプロジェクト研究員が陸域環境・資源変動研究班、海域環境・資源変動研究班及び情報ネットワーク構築研究班に分かれ、国内はもとよりソウル大学校及びアラスカ大学等の海外研究機関とも研究協力体制を確立し、研究に当たっている。



「遺伝子病制御研究所」を設置

遺伝子病制御研究所は、本年4月に免疫科学研究所と医学部附属癌研究施設を統合して、癌や免疫関連疾患のいわゆる難治疾患の原因、発病のメカニズム、制御等の研究を目的として設立された。

同研究所では、設立を記念して、11月20日（月）札幌グランドホテルにおいて、記念講演会、記念式典及び祝賀会を開催した。

記念講演会は、「遺伝子病と免疫学研究の将来展望」をメインテーマとして、橋本嘉幸佐々木研究所長、高橋利忠愛知県がんセンター研究所副所長、松島綱治東京大学大学院医学系研究科教授による講演が行われ、新研究所のスタートにふさわしい先端的研究の紹介に、約190人の参加者は、深い感銘を受けていた。

200人を超える学内外の関係者が出席して行われた記念式典では、小野江和則研究所長による式辞、前出吉光副学長、井上芳郎医学研究科長、徳永正晴理学研究科長の挨拶の後、文部省の遠藤昭雄学術国際局長（赤塚義英研究機関課課長補佐代読）、続いて片桐一旭川医科大学副学長、神保孝一札幌医科大学医学部長から祝辞が述べられた。

締めくくりの祝賀会には、240人が参加し、富田房男副学長の祝杯に始まって、名誉教授等から励ましのスピーチをいただき、藤本征一郎医学部附属病院長の乾杯により参加者全員で研究所の設立を祝った。

いずれの行事にも、大学院生、研究生等の若手研究生も多く参加し、研究所に寄せる期待の大きさを感じさせる盛大な式典となった。



宇宙飛行士 毛利衛さんに名誉学位を授与

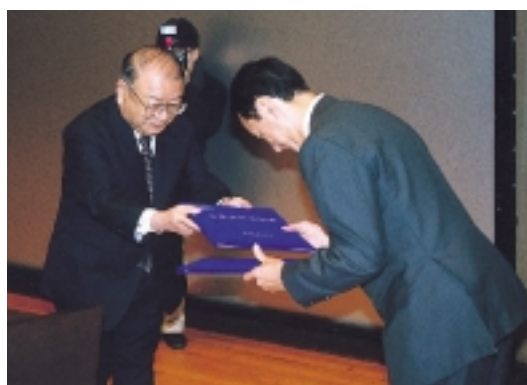
本学出身の宇宙飛行士 毛利 衛さんが4月17日に来学され、総長はじめ本学関係者と懇談を行った後、体育館で行われた授与式で総長から名誉学位（博士号）を授与されました。

今回の授与は、米スペースシャトル「エンデバー」で2度目の宇宙飛行を果たし、数多くの科学実験による研究成果に加え、多くの人々に科学への興味を喚起した功績をたたえたものです。

本学では、これまで27名の外国人研究者に名誉学位を授与していますが、日本人では今回が初めての授与となりました。

授与式の後、毛利さんは、新入生ら約2千人を前に、この度の宇宙飛行で撮影した地球の映像を交えて「宇宙を語る」をテーマに講演し、「地球と宇宙を広く見渡せる広い視野と聡明で強い意志、生命全体を考慮した優しさを持って欲しい」と語りかけました。学生からの質問に対しては「高校までは、答えは1つという訓練をされているが、これからは教科書に書いていないことをどこまで掘り下げられるかという意識が大切」、「大学では、自分の理論で先生の期待するものと違うことを考えていくことが重要」とアドバイスされ、学生達に共感と感銘を与えていました。

多忙なスケジュールの中、久しぶりに母校を訪れた毛利さんは、講演終了後も在職していた工学研究科や自らも学んだ理学研究科を訪問し、本学を後にしました。



北海道大学情報教育館・放送大学北海道学習センター

合築棟竣工記念式典の開催

北海道大学情報教育館・放送大学北海道学習センター合築棟が竣工し、これを記念して4月26日（水）に記念式典及び祝賀会が開催されました。

この建物は、6階建て、延べ約6,470㎡で、1階～4階までを本学が、5～6階は放送大学北海道学習センターが入居の合築棟です。1階は「交流ラウンジ」、2階は「広報センター」・「情報メディア教育実習室」・「マルチメディア公開利用室」、3階は「スタジオ型多目的中講義室」・「教材作成・メディア編集室」・「SCS講義室」・「国際文化交流活動室」・「言語教育用マルチメディア教室」等、4階は「高等教育開発・生涯学習計画・入学者選抜企画各研究部の教官研究室」等となっており、5～6階は放送大学北海道学習センターで、北海道大学と放送大学北海道学習センターとが有している高等教育機能と関連施設を集結させて、情報教育、情報発信の推進を図るとともに、地域における生涯学習の拠点として、さらには学生、社会人の交流の場として大きく貢献するものと考えております。

式典に先立ち、白川文部省大臣官房審議官、堀北海道知事、井上放送大学学園理事長、丹保総長及び若松事務局長の5人の手でテープカットが行われました。

記念式典は、合築棟6階の大講義室で行われ、国・道・市町村関係者、道内大学・各種団体・企業関係者、放送大学・北大関係者等、150人余名が出席し、丹保総長、井上放送大学学園理事長の式辞に始まり、白川文部省大臣官房審議官、堀北海道知事からの祝辞、平井施設部長の工事概要説明、さらに祝電披露と続き、盛会のうちに終わりました。

引き続き、施設見学を行った後、エンレイソウに移動して祝賀会が行われました。

祝賀会では、前出副学長、麻生放送大学副学長から挨拶があり、廣重北海道医療大学長の発声により、祝宴が催されました。桂札幌市長（山札幌市教育委員会教育長代読）、有江北海道高等教育機関整備促進期成会会長から祝辞をいただき、富田副学長の乾杯で宴を閉じました。



北海道大学運営諮問会議の開催

去る7月17日（月）、事務局大会議室において、第1回目の本学運営諮問会議が開催されました。

運営諮問会議は、平成11年5月の国立学校設置法の改正に伴い、本年4月1日付で設置されたもので、委員はすべて学外の有識者から構成されており、本学の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項、本学の教育研究活動等の状況について本学が行う評価に関する重要事項、その他本学の運営に関する重要事項について、総長の諮問に応じて審議し、及び総長に対して助言又は勧告を行うことを任務としています。

当日は、委員12名のうち9名が出席され、本学からは、総長、両副学長、附属図書館長及び事務局長が出席しました。

会議では、まず、会長及び副会長の選出が行われ、会長には北海道電力株式会社相談役の戸田一夫委員が、副会長には北海道医療大学長の廣重 力委員が選出されました。

その後、丹保総長から、北海道大学の改革の現状について説明した後、「北大の現況と近未来の諸問題」を中心に活発な意見交換が行われました。

なお、運営諮問会議委員は次のとおりです。

大 石 道 夫	財団法人かずさDNA研究所長
桂 信 雄	札幌市長
児 島 仁	日本電信電話株式会社相談役
坂 元 弘 直	東京国立博物館長
沢 邦 彦	富士電機株式会社代表取締役社長
武 井 正 直	株式会社北洋銀行代表取締役会長
田 中 秀 征	福山大学教授
戸 田 一 夫	北海道電力株式会社相談役
東 功	株式会社北海道新聞社代表取締役社長
廣 重 力	北海道医療大学長
藤 野 政 彦	武田薬品工業株式会社代表取締役取締役会長
松 田 昌 士	東日本旅客鉄道株式会社取締役会長



ソウル大学校 李 総長に名誉学位を授与

平成12年8月7日(月), 大韓民国ソウル大学校 李 基 俊 総長に対し, 名誉学位を授与しました。

李総長は, 1970年代当初, 数値流体力学の学問分野を韓国において初めて確立し, ポリマー及び懸濁液の物理過程の計算機シミュレーションによる解明に多大な研究業績を残され, 今日の韓国における計算科学分野の基礎を築かれました。

その後, 現在までに150編以上に及ぶ研究論文を発表されるなど活発な研究活動を展開されるとともに, ソウル大学校化学工学科主任教授として数多くの前途有望な人材を各界に輩出され, 主任教授としての重責を果たされました。

また, 国立韓国工学部長協会会長, 教育改革大統領諮問委員会委員, 韓国科学技術アカデミー会員及び国立韓国工学アカデミー会長の要職を歴任し, 韓国における科学技術政策に重要な役割を果たされるとともに, 韓国工学技術教育学会及び韓国レオロジー学会を韓国で初めて設立するなど, 学会活動においても顕著な功績を残されています。

李総長と本学との交流は1993年から始まりました。同年8月に工科大学長として本学を訪問, 本学工学部との間で部局間交流協定を調印され, その後本学工学部との間での数多くの国際シンポジウムや合同シンポジウムを実施し, 1997年7月の学生交流覚書締結への礎を築かれました。

その後, ソウル大学校と本学との交流は, 1997年10月に締結した大学間交流協定へと発展し, 1998年8月には第1回北海道大学 - ソウル大学校合同シンポジウムを本学で開催する運びとなりました。

同氏がソウル大学校総長に就任された1998年以降, 1999年8月の調査団一行の来訪, 同年10月の第2回ソウル大学校 - 北海道大学合同シンポジウムのソウル大学校での開催など, 本学との交流はより一層の進展をみました。

また, 本学として初めての大学間交流協定に基づく「北ユーラシア・北太平洋地域に関する共同研究」の実施や8月7日から開催された第3回合同シンポジウムには李総長はじめ多数の教官, 事務官が来訪されるなど, ソウル大学校と本学との密接な関係と研究者, 学生及び事務官などの幅広い交流は, 来るべき21世紀に向けて益々進展することが期待されます。

このような李総長の本学の教育・研究の進展に寄与した功績に対し, このたび本学は名誉博士を贈ったものです。



「平成ポプラ並木」の記念植樹を実施

本学創基125周年記念事業の一つである「平成ポプラ並木」の記念植樹が、去る10月18日（水）12時30分からサークル会館南側の「平成ポプラ並木」創生地において行われました。

当日は、今冬初めての雪が舞う天候にもかかわらず、本記念事業の支援をいただいている創基125周年記念事業後援会の堂垣内 尚弘 会長をはじめ、本学教職員、学生及び一般市民ら約500人の方が記念植樹に参加しました。

記念植樹では、初めに堂垣内後援会会長、丹保総長の挨拶があり、井上キャンパス環境専門委員会委員長から「平成ポプラ並木」の概要が報告され、その後、堂垣内後援会会長、丹保総長、学生代表の3名の手により最初の1本が植えられ、松田農学部附属演習林長から植樹にあたっての説明があった後、参加者全員で植樹を行いました。

「平成ポプラ並木」は、現在のポプラ並木の北西、広大な農場の北端に位置しており、新旧の並木を眺めることができる場所に、長さ300m、両側で合計70本の苗木が植樹されました。

今回、植えた苗木は、現在のポプラ並木から枝を採取し、挿し木により農学部附属演習林で育成したもので、現在のポプラの2世と言えます。

今は約4～5mの若木ですが、20年後には樹高20mにも成長し、現在のポプラ並木に匹敵する立派な姿になることと思いますので、皆さん大切に見守っていただきたいと思います。



目 次

第Ⅰ部 教員の総合的業績評価について

第1章 教員の教育，管理運営，社会貢献業績について

「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」の検討経緯，目的	1
検討経緯	1
目 的	2
「平成13年度への提言事項」	4
教員の「教育，管理運営，社会貢献業績」の調査から報告書及び「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」の作成まで	5
教育，管理運営，社会貢献業績調査に係る主な意見	25

第2章 学生による「授業アンケート」について

はじめに	31
授業アンケートの内容	31
「学生による授業アンケートおよび教官自己評価アンケート調査」の実施から報告書の作成まで	34
調査対象の解析	42
アンケート結果と解析	42
授業評価の総合評価	62
学生による評価と教員自己評価との比較	63
評点平均の度数分布	64
自由意見の解析	66
アンケート結果の公表について	66
授業アンケート結果のランキングについて	68
次回への分析の提案	70

第Ⅱ部 大学院教育について

はじめに	83
『大学院教育に係るアンケート』（案）の作成と実施について	84

第Ⅲ部 本学における学術研究の潮流

工学分野	103
------	-----

第Ⅳ部 第三者評価（外部評価）の実施状況

【平成12年度の実施状況】

1 教育学研究科・教育学部	115
2 農学研究科・農学部	117
3 低温科学研究所	119
4 遺伝子実験施設	121
5 エネルギー先端工学研究センター（1）	122
6 エネルギー先端工学研究センター（2）	124
7 医療技術短期大学部	126

第Ⅴ部 点検・評価結果に基づく改善事項

経緯	131
1 第三者評価（外部評価）の推進	132
2 研究業績データベースの構築	132
3 全学における点検評価システム	132
4 各種委員会の見直し	133
5 ファカルティ・ディベロップメントの推進	135
6 教員の総合的業績評価	135

統計資料

1 組織	139
2 部局別職員数	142
3 在籍学生数	143
4 学位授与者数	145
5 入学者	146
6 就職	150
7 平成11年度日本育英会奨学生採用者数	153
8 図書蔵書数	154
9 平成11年度科学研究費補助金・外部資金受入状況	154
10 国際交流	155
11 外国人留学生数	157
12 平成11年度決算額（歳入・歳出）	160
13 土地・建物・船舶数	161

点検評価関係資料

1 北海道大学点検評価規程	165
---------------------	-----

2	北海道大学点検評価委員会組織図	168
3	北海道大学点検評価システム・タイムスケジュール	169
4	平成12年度～平成9年度点検評価課題	170
5	平成8年度～平成4年度点検評価事項	171
6	北海道大学における点検評価報告書発行状況一覧	175
7	北海道大学における第三者評価（外部評価）実施状況一覧	179
8	平成12年度北海道大学点検評価委員会等名簿	181
北海道大学施設配置図		185

第 部

教員の総合的業績評価について

第I部

教員の総合的業績評価について

第1章

教員の教育，管理運営，社会貢献業績について

「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」の検討経緯，目的

検討経緯

北海道大学では，平成4年度から教育活動，研究活動，管理運営に関する自己点検評価を開始した。このうち個々の教員の評価については，平成4年に研究活動の成果を指標とする評価方法が検討され，平成6年には「大学等機関別・専門分野別の研究実績比較」として，研究成果の質や様々な指標が，さらに平成7年には「研究業績のデータベース構築」が検討された。これらの検討の経緯を踏まえて，平成8 - 9年に研究業績のデータベース構築がなされ，平成10年にはデータベースのホームページによる公表が行われた。それ以降，教員の研究業績については，毎年度データベースの更新がなされ，ホームページからの閲覧が可能となっている。

つぎに，教育業績評価に関しては，点検評価の初年度である平成4年に，教育内容の改善のための方策として，「学生による教育指導の評価」及び「教官のための教育指導研究会」が提案された。「学生による教育指導の評価」は，平成5年の試行を経て，平成6年に授業をもつ全教員に対して調査が実施され，平成7年には「学生による教育指導の評価による教員の意識と行動の変化の評価」が行われた。これらの動きのなかで，個々の教員による授業内容の改善・向上を勧奨するためには，研究業績だけではなく，教員の教育活動，教育業績が評価されるべきことが明らかになってきた。

なお，教育業績評価の実施にむけては，平成6年に教育業績評価の指標となるべきキーワードが検討された。しかし，平成7年に研究業績のデータベースが検討された際，教育業績の評価方法は未だに確立しているとはいえない状況であったので，さらに研究業績のデータベース化を進め，教育業績評価の項目の確定を待つて教育業績データベースが構築されることを期待するものとされた。さらに高等教育機能開発総合センターは，平成8年度に教育業績の評価を研究対象として取り上げ，「北海道大学における教育業績の評価法」としてまとめた（高等教育ジャーナル：2号，1996）。また平成8年の点検評価では，教育業績評価のみならず，さらに進めて，教育業績，研究業績，管理運営への貢献を統合した総合評価の必要性が述べられた。教育業績評価の必要性は，平成9年度の「学業成績評価についてのアンケート調査」のなかでも，多くの教員

から要望のあった事項でもあり、教育改善のための「ファカルティ・ディベロップメントの実施」とともに取り組むべき重要な方策とされるに至った。これらの経緯を踏まえ、平成10年度は、教育業績評価実施のためのフォーマットが作成された。

管理運営のあり方も平成4年より評価の対象とされていた。しかし、当初は大学全体の管理運営の評価が中心であり、個々の教員の管理運営に対する業績の評価は、後に議論されるようになった。社会貢献に関しては、平成4年に公開講座や大学放送講座への参加を評価すべきことが述べられた。これらの講座は、大学が社会に提供する生涯学習の重要な柱であり、個々の教員の参加を教育業績評価の項目として評価すべきことが検討された。

このように、教員の研究業績、教育業績、管理運営、社会貢献業績の評価は、それぞれ別の専門委員会で検討されてきたが、平成8年、管理運営専門委員会から「教員の総合業績評価と流動化」が課題として示され、個々の教員について、教育業績、研究業績、学部・大学への貢献及び社会への貢献を総合的に評価するシステム構築の検討が必要となった。総合評価の必要性は、大学審議会からの「大学教員の任期制について」の答申でもふれられている。すなわち、任期制においては、研究業績のみならず、教員の大学に対する総合的貢献が問われるからである。また、大学院重点化の進行とともに、特に教員の研究業績が重視される傾向が高まっているが、教育を含め、大学が多様な役割を社会から期待されている状況にあつては、教員の大学に対する総合的な貢献こそが重視されなければならない。

こうした観点から、平成10年度の教員業績評価専門委員会では、連年にわたり検討を続けてきた「教員の総合的業績評価」にむけ、教育、管理運営、社会貢献の業績の評価の必要性と方法について議論が重ねられ、平成11年度には、「個々の教員の教育、管理運営、社会貢献に係る業績調査」、「教育、管理運営、社会貢献の業績のデータベース化の検討」が課題とされた。この提言をうけ、平成11年度は、平成10年度の教員の教育、管理運営、社会貢献に係る業績調査を実施することとし、単年度調査用フォーマットに検討・改善を加えた後、11月1日から11月19日の期間に、在籍する教員2172名を対象に調査を実施した。その結果、平成10年度に本学における教育・管理運営等の実績を有する者2031名のうち、82.9%にあたる1684名から回答があった。また、当初、個人データの公表を行なう予定であったが、平成11年度は試行期間とし、平成12年度の調査から個人データを公表することで合意が得られた。

平成12年度は、前年度の試行実績を踏まえ、また意見書欄（自由記載）の意見等をもとにフォーマットにさらに検討・改善を加え、8月24日から9月29日の期間に、在籍する教員2176名を対象に調査を実施した。その結果、平成11年度に本学における教育・管理運営等の実績を有する者2136名のうち、87.3%にあたる1865名から回答があった。また、今年度は、平成11年の合意に基づき、研究業績に加え、教育、管理運営、社会貢献業績についても、個人データが公表される。

目 的

点検評価の目的は、平成4年に大学が評価体制を発足させて以降、繰り返し述べられているところである。すなわち、大学は、急激に変化しつつある社会の要望に積極的に対応するために、自ら変革を図る必要がある。また、今日の日本の大学は、日本国内において高度の教育・研究水準を維持するだけでなく、さらに世界的な水準に到達するために、不断の変革を求められてい

る。大学の点検評価は、大学が日本および世界の将来を担う社会責任を十分に果たしているかどうかを評価し、不十分な点に改善を加え、大学が真に社会が求める教育研究機関へと自ら飛躍していくことを目的とする。また評価は、大学が組織として社会から期待される役割を十分に果たしているかどうかを問うものであるが、組織としての大学は、個々の教員の活動に支えられてその使命を全うできるものであり、大学の評価と個々の教員の活動の評価は不可分のものである。

そこで、今日の大学に科された役割が高度の教育と研究水準の維持にあることを考えると、第一に、教員についても、教育活動と研究活動の双方にわたり、その貢献を適切に評価する必要がある。従来の教員評価においては、研究業績が重視され、教育業績はほとんど評価されなかったが、教育内容の改善には研究活動にも優る多大の時間と能力が必要であり、その払われた努力や成果には正当な評価が与えられなければならない。

第二に、教員の関心が研究に集中するなかで、大学や学部の管理運営への関与は二次的なものと考えられてきた。しかし、社会のニーズを把握し、それに対応できる適切な教育・研究体制を確立するためには、学部、大学等の管理運営への教員の参加が不可欠である。組織の効率的な管理運営がなければ、個別の教育・研究における成果も期待できないからである。また、個々の教員の管理運営に費やす労力・時間が増大するなかで、教員全員が管理運営のための公正な負担をすることが求められる。こうして、個々の教員の管理運営に対する努力や成果も正当に評価されなければならない。

第三に、複雑高度化した現代社会において、高度専門的な教育機関としての大学や専門家としての教員には、学生を対象とする教育活動や学界中心の研究活動の他に、さまざまな役割が期待されている。これまで大学にアクセスすることのなかった社会人、高校生等に対する生涯教育の実践などはその一例である。また、研究の成果についても、それを広く社会に還元し、専門的な知見を役立てることが求められており、これらの活動も、大学及び教員の業績の一部として評価される必要がある。しかし、教員の本来の責務が大学における教育・研究活動にあることを考えると、その活動範囲にも自ずと制約がある。

以上、教員の総合的業績評価にむけ、研究業績のみならず、教育業績、学部・大学の管理運営の業績及び社会貢献業績をそれぞれ評価する必要性が明らかにされたが、教育業績の評価については、その数値化や指標による評価が未だ難しい状況にあり、管理運営業績についても、大学の社会的役割や管理運営のあり方が改めて問われている現状では、少数の基準に基づく評価は困難である。最後に社会貢献業績については、現代社会に多様な価値観が存在することを考えると、ある活動が社会にどの程度貢献したのかを客観的に評価するのが著しく困難といわざるをえない。したがって、教育業績、管理運営業績及び社会貢献業績については、当面は様々の視点からの評価が可能のように、データの集積と提示にとどめられる。データの収集と提示を毎年度継続することと並行し、一部の指標に着目した数値目標の設定や基準の設定の是非が検討されるべきである。

平成13年度への提言事項

1. 教員自身による実績の説明について

「教育，管理運営，社会貢献」のそれぞれについて，個々の教員が自らの考え方や実績について説明を加える欄（自己アピールの欄）を設けることについて，その意義や必要性を検討する必要がある。

2. 「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」のデータベース化について

「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」は，データベース化するとともに，「研究活動一覧」と同じように，各教官がパソコンから各業績を入力できるようにすべきであるという意見があり，さらにその可能性を検討する必要がある。

3. 「教員業績」の公表方法について

現在，「研究者総覧」「研究活動一覧」はデータベース化され，ホームページから閲覧可能となっている。また，今回実施された「教育，管理運営，社会貢献業績調査」の結果は，「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」として冊子で公表される。しかし，それぞれが別個のメディアによって公表されることの不都合や，相互の項目に重複があることから，これらを一つの冊子（合冊）やCD・ROMとすることの可能性，さらには，「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」についてはデータベースのみとし，冊子やCD・ROMによる公表を廃止することの是非を，さらに検討する必要がある。

4. 「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」のデータ入力の実進について

「教育，管理運営，社会貢献業績調査票」の提出については，現在，提出するかどうかの判断が個々の教員に委ねられている。そのため，提出率について部局間でバラツキが見られるところである。しかし，今後，大学評価・学位授与機構などの評価の進展に備え，調査票記載の項目のいくつかについては，全教員についてデータを整備する必要があることから，すべての教員について調査票の提出を促すための方策について，その必要性も含め，検討する必要がある。

5. 「教育，管理運営，社会貢献に係る業績」の評価のあり方について

「平成12年度・教育，管理運営，社会貢献活動一覧」は，個々の教員のデータの提示であって，指標による重み付け等による評価にまでは踏み込んでいない。将来の教員の総合的な業績評価にむけ，評価のあり方の検討を継続する必要がある。

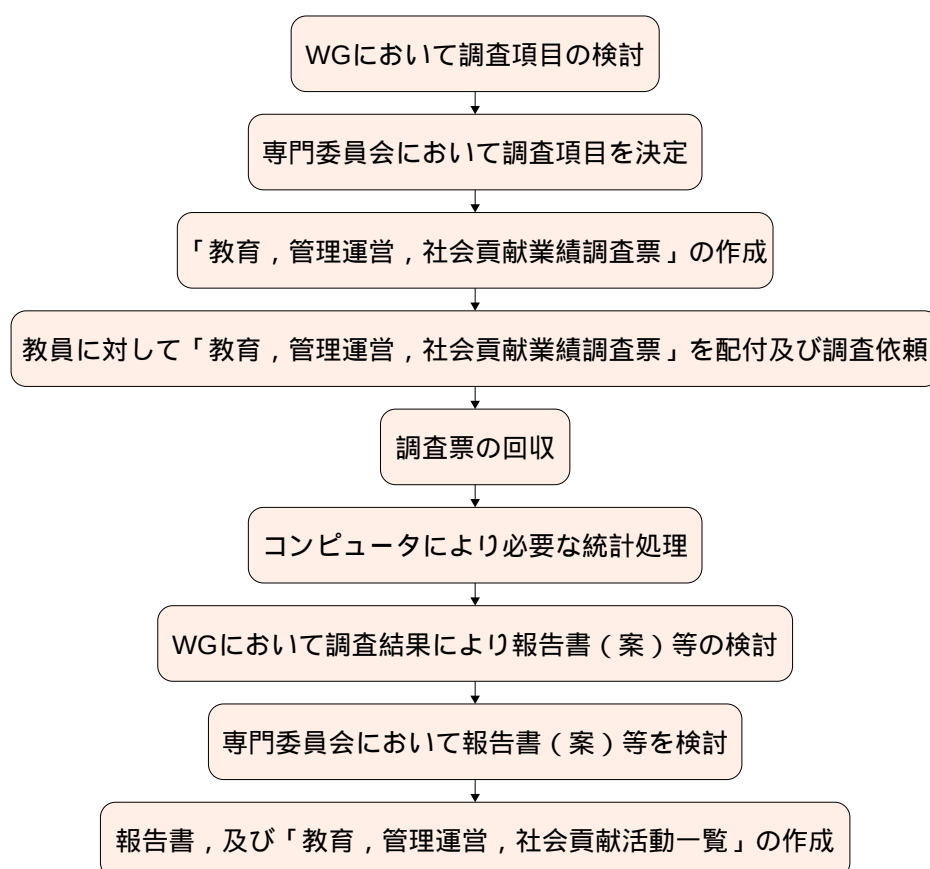
教員の「教育、管理運営、社会貢献業績」の調査から報告書及び「教育、管理運営、社会貢献活動一覧」の作成まで

この調査は、平成12年8月に本学の専任教員（調査時点で本学に在籍し、かつ平成11年4月から平成12年3月の間に本学に在籍していた教授、助教授、講師及び助手）を対象に実施した。

調査票は、9月29日までに各部局等が取りまとめ、事務局の総務課企画室（点検・評価担当）へ学内便で返送することとした。

回収された調査票は、「学部における担当授業総科目数」など主な調査事項ごとの平均値等を算出するためコンピュータ処理を行った後、報告書の取りまとめ作業、及び個人ごとの業績により「教育、管理運営、社会貢献活動一覧」を年次報告書の別冊として作成した。

報告書の取りまとめ、及び「教育、管理運営、社会貢献活動一覧」の作成に係る流れ図は次のとおりである。また、調査の依頼文書及び調査票等を次頁以降に示す。



平成12年8月

教 員 各 位

点検評価委員会教員業績評価専門委員会
委員長（工学研究科長） 福 迫 尚一郎

教員の「教育，管理運営，社会貢献業績（平成11年4月～平成12年3月の業績）」
の調査について（依頼）

このことについて、点検評価委員会では、「教員個々の評価は、教育，研究，管理運営及び社会貢献の業績を総合的に行う必要がある」との考えから、平成10年度から「教員の総合的業績評価の在り方」を課題の一つとして取り上げ、「教員業績評価専門委員会」を設置して検討してきました。

この度、本専門委員会では、「教育，管理運営，社会貢献業績」に係る調査票を取りまとめ、本学の専任教員（調査時点で本学に在籍し、かつ平成11年4月から平成12年3月の間に本学に在籍していた教授，助教授，講師及び助手）を対象に業績調査を実施することといたしました。

送付した書類は、

教員の「教育，管理運営，社会貢献業績（平成11年4月～平成12年3月の業績）」の調査について（依頼）

「平成12年度 教育，管理運営，社会貢献業績調査票」記入要領

「平成12年度 教育，管理運営，社会貢献業績調査票」

が一体となったものです。

つきましては、記入要領を参考の上、「平成12年度 教育，管理運営，社会貢献業績調査票」に必要な事項を記入し、調査票のみを所属部局の〆切日までに事務担当掛へ提出願います。

趣旨をご理解の上、全教員が調査票を提出されるようご協力方よろしくお願いします。

なお、調査結果は、個人ごとの一覧として刊行・公表しますので、あらかじめご承知置きます。

おって、不明の点は下記に照会願います。

調査に関する照会

教員業績評価専門委員会委員長 工学研究科長 福 迫 尚一郎（TEL 6110）

〃 委員 法学研究科 教授 畠 山 武 道（TEL 3072）

事務担当

総務課企画室点検・評価担当 市山又は笹原（TEL 3600）

「平成12年度 教育、管理運営、社会貢献業績調査票」記入要領

平成11年4月から平成12年3月までの間の業績を記入してください

記入欄に付されている○数字は、データの集計・分析を電算処理するために利用するものです。
該当項目がないときは、0と記入してください。

所属部局、職名、研究分野、氏名、年齢

所属部局、職名及び年齢は平成12年4月1日現在で記入願います（①、②）。

所属部局名については、最初に研究科名とその専攻名、次に学部名とその学科名を記入してください。併せて下記の部局コード番号表を参考にしてコード番号も記入してください。

研究分野については、研究者総覧に倣って3つ以内を記入してください。

部局コード番号

部 局 名	番号	部 局 名	番号	部 局 名	番号
文学研究科・文学部	01	言語文化部	13	遺伝子実験施設	25
教育学研究科・教育学部	02	地球環境科学研究科	14	留学生センター	26
法学研究科・法学部	03	国際広報メディア研究科	15	量子界面エレクトロニクス研究センター	27
経済学研究科・経済学部	04	低温科学研究所	16	エネルギー先端工学研究センター	28
理学研究科・理学部	05	電子科学研究所	17	高等教育機能開発総合センター	29
医学研究科・医学部	06	遺伝子病制御研究所	18	先端科学技術共同研究センター	30
歯学研究科・歯学部	07	触媒化学研究センター	19	情報メディア教育研究総合センター	31
薬学研究科・薬学部	08	スラブ研究センター	20	総合博物館	32
工学研究科・工学部	09	大型計算機センター	21	保健管理センター	33
農学研究科・農学部	10	アイソトープ総合センター	22	体育指導センター	34
獣医学研究科・獣医学部	11	機器分析センター	23	医療技術短期大学部	35
水産科学研究科・水産学部	12	実験生物センター	24		

研究科、学部の附属施設に所属する教官は、研究科・学部のコード番号を記入してください。

教育の業績

A 教育の指導に係る業績

1 教育の経験

1) 北海道大学における専任教員としての在籍年数

平成12年3月末日までの年数を記入してください。

1年未満の期間は月数を記入してください。例：0年6月

2) 北海道大学以外の高等教育機関（高等専門学校以上。以下同じ）における教育経験年数

3) 1)～2)に該当しない場合で、高等教育機関における非常勤講師の教育経験年数

2 学部教育の実績

1) 担当授業科目

担当授業科目について以下の項目を記入してください。担当授業科目とは、授業科目表に記載され、単位が認定される講義、演習、文献購読、論文指導（全学教育科目の「論文指導」など）、実験、実習、その他などをいいます。助手の教員の担当する実験・実習も含まれます。教職課程科目、HUSTEPの担当もここに記入してください。

なお、学内非常勤担当科目も、ここに記入してください。

科目名（実働単位数）

科目名はカリキュラム上の分類で記入してください。

実働単位数は次の方法で計算して記入してください。

計算方法

授業の担当形態は、単独、分担、チーム担当など様々です。ここでは授業に参加し、学生に接している時間を記入してください。授業の準備に要した時間、休講時間及び代講してもらった時間は算入しません。

授業時間は、便宜上、授業科目の種類にかかわらず、90分授業15回を2単位として計算します。

15回又は、その年度の授業全体に参加したときは2単位とします。

他は「参加授業（90分授業）回数×2÷15」で計算します。

小数点第2位を切上げて記入してください。

例えば1回参加は「 $1 \times 2 \div 15 = 0.14$ 」で、「0.2単位」と記入します。

科目区分

全学教育、専門教育のいずれかを○印で囲んでください。

担当教員

担当教員数を記入してください。

クラスサイズ

成績を評価する学生総数を記入してください。

授業形式

授業形式を下記から選択し、記号を記入してください。

A：講義、B：演習・ゼミ、C：実験・実習・技術演習・実技調査指導、

D：小グループ（チュートリアル）、E：その他（HUSTEPなど）

授業内容キーワード

内容に関するキーワードを、必要であれば記入してください。なお、より詳しい授業内容は、シラバスに記載されています。シラバスは、科目名及び教員名から検索することができます。

総科目数を記入してください（③）。

2）担当授業科目の内訳、総実働単位数

担当授業科目の内訳を実働単位数で記入してください。

複数教員担当の場合も実際の参加時間で計測し、研究・診療の見学への対応は、実際の学生に対面した時間で計算します。なお、就任まもない場合にも年間に換算して記入してください。計算方法は、1）のと同じです。

総実働単位数を記入してください。（④）

3) 卒業論文指導

所属する学部により異なりますが、学生に対する卒業論文指導について、指導に直接要した時間（年間対面指導総時間）（⑤）と年間指導人数（⑥）を記入してください。

なお、大学院の論文指導は別に扱います。

4) セミナー等

カリキュラム上の授業科目になっていないセミナー等について記入してください（⑦）。

5) 学生指導

正規の授業の範囲を超えて学生を指導したことがあれば、下記の各項目について記入してください。なお、時間数は年間の総時間数を記入してください。

クラス担任

クラス担任として費やした時間を記入してください。

留学生の指導

留学生の指導に費やした時間を記入してください。

就職のための指導

授業外の補講、個人学習等

授業外の補講、演習・個人学習指導、学習グループのボランティア的指導等に費やした時間及び内容を記入してください。

病院臨床実習等

安全指導等

教育実習、工場見学、社会見学、調査への引率

修学、生活、クラブ活動への指導

その他

～ 以外で、学生の指導を行ったことがありましたら、その時間及び内容を記入してください。医員、研修医の指導なども、ここに記入してください。

また、合計時間数を記入してください（⑧）。

3 大学院教育の実績

1) 担当授業科目

担当授業科目について、学部と同じ要領で、以下の各項目を記入してください。

なお、学内非常勤担当科目も、ここに記入してください。

科目名（実働単位数）

科目名はカリキュラム上の分類で記入してください。

実働単位数は次の方法で計算して記入してください。

計算方法

授業の担当形態は、単独、分担、チーム担当など様々です。ここでは授業に参加し、学生に接している時間を記入してください。授業の準備に要した時間、休講時間及び代講してもらった時間は算入しません。

授業時間は、便宜上、授業科目の種類にかかわらず、90分授業15回を2単位として計算します。

15回又は、その年度の授業全体に参加したときは2単位とします。

他は「参加授業（90分授業）回数 × 2 ÷ 15」で計算します。

小数点第2位を切上げて記入してください。

例えば1回参加は「 $1 \times 2 \div 15 = 0.14$ 」で、「0.2単位」と記入します。

課程

修士又は博士のいずれかを○印で囲んでください。いずれにも該当するときは、両方を○印で囲んでください。

担当教員

担当教員数を記入してください。

クラスサイズ

成績を評価する学生総数を記入してください。

授業形式

授業形式を下記から選択し、記号を記入してください。

A：講義，B：演習・ゼミ，C：実験・実習・技術演習・実技調査指導，D：その他

授業内容キーワード

内容に関するキーワードを、必要であれば記入してください。

総科目数及び総実働単位数を記入してください（⑨，⑩）。

2) 担当大学院学生数

大学院の指導は、各大学院生の研究テーマと関連して直接指導した者のみについて、研究指導学生数及び学位取得人数を記入してください（⑪～⑭）。研究指導学生数とは、在籍している研究指導学生の総数をいい、学位取得の有無を問いません。

また、特別研究学生とは、他大学の大学院に在籍している学生で、本学の大学院又は研究所等において研究指導を受けようとする学生のことです。

（人）には留学生数を、内数で記入してください。

3) 論文博士取得のための研究指導

論文博士取得のため直接指導した卒業生、社会人、他大学学生等の総数を記入してください（⑮，⑯）。

（人）には留学生数を、内数で記入してください。

4) 論文審査の数

主査又は副査として論文審査を行った数を記入してください（⑰～⑳）。

（人）には留学生数を、内数で記入してください。

4 学外非常勤講師等の実績（実働単位数）

北海道大学以外の高等教育機関における学部教育・大学院教育の実績を記入してください（㉕）。

実績は、学部教育・大学院教育と同様の方法で計算した実働単位数で記入してください。

なお、学内非常勤講師については、「2 学部教育の実績」及び「3 大学院教育の実績」の欄に記入してください。

5 その他の教育の指導に係る業績

該当するものがありましたら、記入してください（㉖）。

レポートの評価及び添削、教材作成などの補助業務も、ここに合計時間数および内容を記入してください。

B 教育の改善に係る業績

北海道大学における教育の質の向上に対する積極的行動を評価します。

専門分野の教育の質の向上及び機関としての教育の質の向上に対する観察可能な姿勢，すなわちファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を評価するものです。

Facultyは教員個人，教員の集団，学部等を指し，FDは，一般に，教育資質の改善への行動を指し，教授法の改善，カリキュラムの改善及び教育組織の改善に積極的に参加し，実際に改善していくことを意味します。

ここでは大学における教員として関連の教育行動を具体的に改善する努力のデータを記入することになります。北海道大学におけるすべての活動を記入してください。

1 授業用教科書等の執筆

1) 教科書

2) 翻訳書

講義・演習等で使用するために執筆した教科書，翻訳書等を記入してください（27，28）。文献については，本学の『研究活動一覧』の書式（著者名，書名（雑誌名），総ページ数（頁（最初 - 最後）），発行所，発行場所，発行年等）で記入してください。複数の場合は各々記入してください。

3) 教材の作成

電子メディア，プリント，OHP，テープ，地図，模型等で一般的に使用できるものを，タイトルを付して記入してください（29）。

2 教育改善に関する著書，論文，啓蒙文等

教育改善に関して執筆した著書，論文，啓蒙文等を記入してください（30）。新聞等への執筆もここに記入してください。

3 FDの企画・運営等

1) 教育活動に関する講演，発表

教育活動に関する講演，発表等について，論題，会の名称，主催，開催日，開催地，対象者，参加者規模（人数）等を記入してください（31）。

2) 教育活動に関する研修会（FD）の担当

研修会の企画，講師等について，対象となる大学・学部名，対象者，参加人数，内容，企画実施（主催に参加した場合）等を記入してください（32）。

3) 教育活動に関する研究

題名，参加人数等について記入してください（33）。

4) 教育活動に関する研究補助金の取得

題名，金額等について記入してください（34）。

5) 教育活動に関する受賞

受賞名について記入してください（35）。

6) その他

1)～5)以外にFDに関わったことがありましたら，記入してください（36）。

4 FDへの受講参加

教育改善に関する様々な集会（FDを目的とした研修会，講演会，研究会，セミナー，シンポジウム，ワークショップ，新任教員研修会，専門分野の教育学会，例えば工学教育学会，医学教育学会，語学教育学会等）への参加について記入してください（37）。

5 その他の教育の改善に係る業績

該当するものがありましたら，記入してください。個人的に行っている教授法の工夫なども，ここに内容を記入してください（38）。

管理運営の業績

ここでは，北海道大学における管理運営への貢献を記入してください。

1 部局長等

学部長，研究科長，研究所長，センター長，施設長，言語文化部長，附属病院長，附属農場長，附属演習林長，評議員等の職にあった場合は，職名及び任期を記入してください。

なお，任期については，平成11年4月から平成13年3月までが任期の場合は，「平成11年4月～13年3月」と記入してください。

2 全学的委員会，専門委員会，ワーキンググループ等

全学的委員会等の総件数，名称及び役職（委員，委員長，小委員長，ワーキンググループ座長等）を記入してください（39）。

ただし，公表できないものは記入しないでください。

総件数には，名称を公表できないものも含めてください。

3 所属部局等における管理運営の実績

研究科，学部，研究所，研究センター等における委員会等（学科長，講座責任者等を含みます）の総件数，名称及び役職（委員，委員長，小委員長，ワーキンググループ座長，世話人，責任者等）を記入してください（40）。

4 その他の管理運営の業績

その他で負担が顕著なものがありましたら，記入してください（41）。

社会貢献の業績

1 審議会，委員会等の実績

専門分野に関連して兼職している審議会，委員会等の総件数，名称，役職（委員，会長，部会長，委員長，小委員長等）及び年間開催回数を記入してください（42）。

ただし，公表できないものは記入しないでください。

総件数には，名称を公表できないものも含めてください。

2 国家試験委員等の実績

各種の国家試験等の出題委員，採点委員等に就任したことがあれば，総件数及び名称を記入してください（43）。

ただし，公表できないものは記入しないでください。

総件数には，名称を公表できないものも含めてください。

3 上記以外の公的社会活動の実績

上記以外に，国際機関，国，地方公共団体，学術団体及びその他の公的団体からの委嘱を受け，本学の下承を得てなされた活動で，専門分野に関連して積極的に社会貢献したと思われるものがありましたら，総件数，名称及び活動の内容を記入してください（44）。

4 学会，学術団体等への貢献

1) 学会，学術団体等

学会，学術団体等（学会会議を含む。以下同じ）の理事長，会長，部会長，理事，監事，運営委員，企画委員等に就任したことがあれば，総件数，名称及び役職を記入してください（45）。

2) 学会，学術団体等に対するその他の貢献

学会，学術団体等において，特別の企画・運営（国際シンポジウムの開催，学会の特別検討委員会の委員，改革委員会座長等），機関紙・雑誌の編集，論文の査読及びその他の重要な職務に携わったことがあれば総件数，名称及び内容等を記入してください（46）。

5 診療等による貢献

社会に対して高度先端医療を担う本学の附属病院・保健管理センターにおける診療等について記入してください（47）。特定の患者に対する症例検討会以外の研究会に要した時間は算入しないでください。医師養成の卒後教育のための時間は，教育業績の欄に記入してください。

6 社会人学習等への貢献

1) 公開講座，講演会等

高校生・一般社会人等を対象とする公開講座，講演会等の講師を担当したことがありましたら記入してください（48）。

2) 大学・学部・学科紹介パンフレット等の作成への参画

大学・学部・学科紹介パンフレット等の作成にあたり，企画・編集等で積極的に貢献したことがありましたら記入してください（49）。

3) 高校生を対象とした学部体験入学等への参画

大学，学部，学科又は学会等の主催する高校生対象の学部体験入学等の企画，準備，引率，講演，模擬授業等で積極的に貢献したことがありましたら記入してください（50）。

4) その他，社会人学習等に貢献した事項

該当するものがありましたら，記入してください（51）。

7 専門分野に関連して作成した作品

文芸作品，芸術作品，建築作品，化石モデル等，該当するものがありましたら記入してください（㉕2）。

8 以上の他に，専門分野に関連した社会貢献の事項

該当するものがありましたら記入してください（㉕3）。また，外部の団体（企業，民間団体を含む）からの要請による研究会，講演会等への参画で，貢献が顕著なものもここに記入してください。

「平成12年度 教育、管理運営、社会貢献業績調査票」

(平成11年4月～平成12年3月の業績)

所属部局： _____ ①

--	--

 (部局名を記入して、記入要領のコード表によりコード番号を右欄に記入願います。)

職 名： 1 教授，2 助教授，3 講師，4 助手 (該当する番号を右欄に記入願います。) ②

--

研究分野： _____
 氏 名： _____ (ふりがな _____)
 年 齢： _____ 歳

教育の業績

A 教育の指導に係る業績

1 教育の経験

- 1) 在籍年数 年 月
 (助手 年 月，講師 年 月，助教授 年 月，教授 年 月)
 2) 北海道大学以外の高等教育機関での教育経験年数 年 月
 3) 1)～2)に該当しない場合で、高等教育機関での非常勤講師の経験年数 年 月

2 学部教育の実績

1) 担当授業科目

科目名(実働単位数)	科目区分	担当教員	クラスサイズ	授業形式	授業内容キーワード
()	全学教育	人	人		
()	専門教育	人	人		
()	全学教育	人	人		
()	専門教育	人	人		
()	全学教育	人	人		
()	専門教育	人	人		
()	全学教育	人	人		
()	専門教育	人	人		
()	全学教育	人	人		
()	専門教育	人	人		

③ 総科目数

2) 担当授業科目の内訳，総実働単位数

講義()	演習()	実験・実習()	その他()
-------	-------	----------	--------

④ 総実働単位数

3) 卒業論文指導

年間対面指導総時間	⑤	時間	年間指導人数	⑥	人
-----------	---	----	--------	---	---

4) セミナー等

対 象	1 学部学生のみ	2 大学院学生と合同
年 間	⑦	単位相当

5) 学生指導

クラス担任	時間	
留学生の指導	時間	
就職のための指導	時間	
授業外の補講，個人学習等	時間	内容：
病院臨床実習等	時間	内容：
安全指導等	時間	内容：
教育実習，工場見学，社会見学，調査への引率	時間	内容：
修学，生活，クラブ活動への指導	時間	内容：
その他	時間	内容：

⑧ 合計時間数 時間

3 大学院教育の実績

1) 担当授業科目

科目名（実働単位数）	課 程	担当教員	クラスサイズ	授業形式	授業内容キーワード
()	修士	人	人		
()	修士	人	人		
()	修士	人	人		
()	修士	人	人		
()	修士	人	人		
()	修士	人	人		
()	修士	人	人		
()	修士	人	人		

⑨ 総科目数

⑩ 総実働単位数

2) 担当大学院学生数

修士課程	研究指導学生数	人(人)	学位取得人数	人(人)
博士課程	研究指導学生数	人(人)	学位取得人数	人(人)
研究生	研究指導学生数	人(人)	学位取得人数	人(人)
特別研究学生	研究指導学生数	人(人)	学位取得人数	人(人)
合計人数	⑪ 人, ⑫(人)		⑬ 人, ⑭(人)	

(人)には留学生数を，それぞれ内数で記入してください。

3) 論文博士取得のための研究指導 ⑮ _____人, ⑯ (人)

(人)には留学生数を，内数で記入してください。

4) 論文審査の数

主査	修士課程⑰ 人, ⑱(人)	博士課程⑲ 人, ⑳(人)
副査	修士課程㉑ 人, ㉒(人)	博士課程㉓ 人, ㉔(人)

(人)には留学生数を，それぞれ内数で記入してください。

4 学外非常勤講師等の実績(実働単位数)

講義()	演習()	実験・実習()	その他()
-------	-------	----------	--------

⑳ 総実働単位数

5 その他の教育の指導に係る業績

㉔ 総件数 件

B 教育の改善に係る業績

1 授業用教科書等の執筆

1) 教科書

	②⑦ 総件数 件

2) 翻訳書

	②⑧ 総件数 件

3) 教材の作成

	②⑨ 総件数 件

2 教育改善に関する著書，論文，啓蒙文等

	③⑩ 総件数 件

3 FDの企画，運営等

1) 教育活動に関する講演，発表

	③① 総件数 件

2) 教育活動に関する研修会（FD）の担当

	③② 総件数 件

3) 教育活動に関する研究

	③③ 総件数 件

管理運営の業績

1 部局長等

職 名	任 期
	平成 年 月～ 年 月
	平成 年 月～ 年 月

2 全学的委員会，専門委員会，ワーキンググループ等

1) 総件数

③⑨ 件

2) 主なものの3つ以内

委員会等の名称	役 職

公表できない委員会等の名称は記入しないでください。

3 所属部局等における管理運営の実績

1) 総件数

④⑩ 件

2) 主なものの3つ以内

委員会等の名称	役 職

4 その他の管理運営の業績

④⑪ 総件数 件

社会貢献の業績

1 審議会，委員会等の実績

1) 総件数

④② 件

2) 主なもの3つ以内

審議会，委員会等の名称	役 職	年間開催回数
		回
		回
		回

公表できない審議会，委員会等の名称は記入しないでください。

2 国家試験委員等の実績

1) 総件数

④③ 件

2) 主なもの3つ以内

委 員 等 の 名 称

公表できない委員等の名称は記入しないでください。

3 上記以外の公的社会活動の実績

1) 総件数

④④ 件

2) 主なもの3つ以内

団体，機関等の名称	活 動 の 内 容

4 学会，学術団体等への貢献

1) 学会，学術団体等

総件数

④5 件

主なもの3つ以内

団 体 等 の 名 称	役 職

2) 学会，学術団体等に対するその他の貢献

総件数

④6 件

主なもの3つ以内

団体等の名称	実施した企画等の内容，役割	開 催 地

5 診療等による貢献

機 関 名	診 療 科	週平均時間	年間時間
		時間	時間
		時間	時間

④7 年間総時間数

6 社会人学習等への貢献

1) 公開講座，講演会等

主 催 者		対象者		参加人数	人
講座等名					
講義題名					
主 催 者		対象者		参加人数	人
講座等名					
講義題名					
主 催 者		対象者		参加人数	人
講座等名					
講義題名					

④⑧ 総件数 件

2) 大学・学部・学科紹介パンフレット等の作成への参画

④⑨ 総件数 件

3) 高校生を対象とした学部体験入学等への参画

⑤⑩ 総件数 件

4) その他，社会人学習等に貢献した事項

⑤⑪ 総件数 件

7 専門分野に関連して作成した作品

⑤⑫ 総件数 件

8 以上の他に，専門分野に関連した社会貢献の事項

⑤⑬ 総件数 件

「教育，管理運営，社会貢献業績調査表」に係る意見

ご協力ありがとうございました。

本調査について、内容にかかわらず様式その他、ご意見があれば下欄に記入願います。

次年度以降の参考にさせていただきます。

北海道大学点検評価委員会

[illegible]

教育，管理運営，社会貢献業績調査に係る主な意見

1) 評価に関する意見

- (1) イギリスの大学ランキングに用いる評価項目¹⁰のうち，研究は1.5×，教育は2.5×の比重をつけて統計している。今回の評価データは，少なくとも研究に関するデータと同様の網羅的表現とする必要がある。(2) 項目が多く冊子にすることは難しい。コンピュータ上で書きこめるようにする必要がある。(3) 各個人の教育等の努力がみえるようにする必要がある。これからの評価は公開を原則としている。今回のデータ表出はこれまで点検評価委員会⁵で5年以上も検討してきて，研究データの表出と歩調を合わせようとしたものであったが，まだ，不十分である。
- 社会貢献，管理運営に関しては，実質的に大きな負担を強いられるもの，実際に大きな貢献をしているものと，形式的，名誉職的なものが混在している。難しいと思うが，内容を正しく評価する方式を少しずつさぐってほしい。
- 地方演習林教官の場合，フィールドの管理運営や地域社会貢献が日常的に求められており，これにかかる時間は札幌キャンパス内の教官と比較するのは困難と考えられる。独法化を考えた場合，この種の業務比重は一層高まることが予想され（北大の独自性を出す意味で），地方在勤者独自の評価基準も必要と思われる。

2) 調査への反対あるいは疑問

- この調査にかぎらず，最近アンケート，調査等が多すぎ，教育・研究業務に加えて大きな負担となっています。それぞれの委員会の御事情もありましょうが少し自粛していただけると助かります。当方もできるだけまじめにお答えしようと努力しているのです。
- 一，社会貢献に関しては，本人の登録によるのは日本人の道德感に反する。
一，この調査は貢献している人にとっては，迷惑であり，貢献していない人が，その種の点検によって改善する程大学人の倫理感は甘くないのではないか。つまり効果に疑問が多い。
一，社会貢献なるものは，本務たる研究・教育と，投入する時間とエネルギーの上でゼロ・サム関係に立つ。従って，大学が自ら奨励するのは疑問がある。
教育については，シラバスと教務資料を調査すれば，すぐにわかることである。学内・学部内の委員についても同様。よって，本人に書かせることのみが，この調査の目的であることになるが，その様にする労力（本人と事務）を考えると，試みそのものの効果に疑問が残る。
- このような記入の方法はまとめる方はまとめ易いのですが，記入する立場には非常に時間がかかる苦痛を伴う調査です。（この手のものが当該機関のみならず，財団，法人，民間etcで多数あります。たまったもんではありません。改善策は非公開と公開とに内容を分

けて、公開部分についてはそのどれかを指示するだけですむようにすれば良いのです。) 例1: 助手とか助教授への就任年月日を書くのは履歴書と同じスタイルで一般的ですから記入し易いのですが、在籍年数といわれるとそれだけで余計な時間がかかるのです。例2: 卒論は実働単位数に出さない(出せない?) のに対して、実験や演習に対して実働単位数を出すのは矛盾すると思って、算出しなかったが、実験等の実働時間は形式上の単位数担当時間より非常に多いが、どうするか? 他部局や他大学のこの種の業績と比較する時には留意しなくてはならないこととして、面倒な調査項目に対して回答者が(面倒だから) 無かったものとして記入せずに流していることがあることを挙げられます。“ 実害のない調査にはそういう対応をしなくてはやってられないよ ” という話はまかり通っています。

- 最近、多くの同様なレポートを作成することが多い。その目的は、大学の教官の業績等を広く公開する上で重要だと思われる。しかしながら、これらの調査の結果が何か形があるものに反映されているのかどうか疑しい。例えば、今回の評価が研究費や人事に反映するのであるか? もしそうでなければ、このようなレポートを提出することには、意味がないと考える。時間の労費である。むしろ積極的に活用すべきであると考え。例えば今回の調査が毎年調査している論文業績評価の結果が将来傾斜配分される総長経費の資料になるとしたら、もっと多くの教官がこの調査に対して認識を新たにすると考える。また、教官の講義数(時間)などは当然事務職員が把握しているはずのものであるわけで、教官が記入し直すものではない。そのためにすでに書類を出しているはずである。
- 学生の指導(教育)が中心となる職種、研究が中心となる職種、診療が中心となる職種などそれぞれのCaseにわけた調査表が必要と思われます。全ての大学職員を同一の調査表で記入させるのは無理があるのでは。自分自身の事を考えますと、診療、研究、学生・大学院生の指導、各種学会、研究会活動で全く時間がなくなります。土日ありません。昨年度の休日は一年間を通して10日に満たないと思います。しかしこの調査表を記入するとほとんどの項目はゼロとなってしまいます。これで正しい評価ができるのでしょうか。

3) 調査の時期

- 昨年度の事を思い出すためには、調査時期を、遅くとも5月までにしていただく必要があると思います。できれば3月末か4月初めに。
- 1年以上前を思い出して記入することはむずかしい。Formatを決めて、平成12年度の業績調査であるならば平成12年4月に書式を配布し記入していただいたらいかがと思う。平成13年4月に回収すれば、すぐ集計ができる。

4) 調査の項目

- 施設長などの管理職ではないが極小規模施設でありながら独立部局であるため、専任の事務職員・専任教授のいない状態で実質的な管理責任を負っている。施設の全国連絡会議出席、パート事務員の監督指導、部局としての事務書類の作成、利用者への対応指導、建物を含む設備・機器の管理、施設経理、各種連絡調整、公報業務などにもかなりの時間を

取られているが、今回の調査ではそのような範ちゅうの仕事についてあまり記載するところがないように思える。

- 1. 本調査は自己申告制であり、客観性がない。第三者機関がきちんと調査しないと言葉のうまい人、自分に都合のいいことを並べる人、数字のあまい解釈と使い方ができる人の評価が高くなる。
 - 2. 上記も踏まえ、この種の客観評価はむずかしいが、全学の被教育者（学生、大学院生、研究生）に、「あなたが他の学生等に推薦できる授業、実習名をあげてください。」という質問を出すことが最も単純でいいと考える。この質問は、欧米の学生アンケートの中には必ずある。
 - 3. 医学部では、小生他、何名かの教授が、上記2を踏まえ、「リクエストレクチャー」という形式をカリキュラムに入れるように学部長に提言しているが、進行の兆しは見えない。北海道大学は、国公立大学の中でも教育への具体的動きが鈍いように感じる。
- 委員会の内容によってその負担はバラツキがある。実際に費やされた時間等も考慮すべきである。実際の診療は行なっていないが、病理組織検査、病理解剖等を行なって、病院の診療に寄与しているので、このあたりの評価もして欲しい。コンピュータネットワークが研究、教育の基盤として不可欠になっている。そのため、機器の接続、管理、維持等の業務が教官にも大きな負担となっている。このような事も含めて評価すべきである。
- 33：公的社会活動の項目がありますが、これは「大学の下承を得てなされた活動」とあります。しかし、ボランティア的社会的活動の重要性がさげばれている今日、教官による私的（？）社会活動（ボランティア活動）も評価されて良いのではないかと思います。そのような項目の設置の御検討をいただければ幸いです。
- 学生指導、特に大学院生に関しては、単純に時間に表われない部分が多くあります。日頃の簡単なやりとりが集積してある大きな着想に至る場合はどのように数値化してよいのかわかりません。また、学生の作成した論文や発表資料の修正や、学会登録手続きの代行等にも多くの時間を費やす場合もありますが、これらの時間は不定期であり、数値化しにくいところがあります。特に助手の場合は指導教官の補佐として関わるため、○で指示された項目5・6・9・10・11～14に反映してよいのか不明です。
- 社会貢献業績調査の様式は不十分である。国内のみならず海外からのFAXおよび電子メールによる問合せに対し、技術的指導、助言を行うことが増えている。それに費す時間・努力は増大傾向にある。本調査による評価は、年令、業績、経験、能力（例えば語学）にあまり関係なく、社会的地位の高い順（職位）になる。学会、学術団体の役員や貢献出来る機会を、職位の高い人が独占するためである。大学院の講義資格が得られない助教授が存在した事実を点検評価の最大の課題とすべきである。

- 学部・修士をとわず、実習科目を担当する教官とは別に、実習を行う上でのとりまとめや諸手続きを行う者に対する評価を行うべきと考えます。例えば私は乗船実習のとりまとめを毎年のように行っていますが、練習船がトロール網実習を行うには農林水産大臣の許可が必要であり、そのための同意書を関係漁業協同組合からとりよせたりしなくてはなりません。また寄港地での水産関連施設に見学を依頼したり、実習を行う練習船の担当者と実習項目を調整したりと様々な準備が必要です。また、実習終了後も農水省や漁組に対して報告書を作成したりと、仕事があります。もちろん、これらの仕事は学部の事務職員の方々の御協力があって、はじめて完了できる仕事であり、多大なる援助をいただいております。このように屋外（フィールド）で実習を行うことは、単に担当教官が学生といっしょに来て指導すれば終り、というわけではなく、実習の前後でかなりの時間を費して、とどこおりなく実習ができるよう仕事をこなしている者がいるわけです。この点からいえば、実習担当教官とは別に、「とりまとめ・調整業務」を評価する意義を御理解いただけたと思うのですが、どうでしょうか？
- 特に臨床医にとって「研修医の指導（臨床の）」にどのくらいの時間を使っているかをアピールできるかどうかは大きな問題だと思います。記入するのは大変ですが、私のように教育や診療や管理的業務が多い者にとっては、励みにもなりますし、日常業務をふり返る機会にもなると感じました。ホームページで報告（記入）できると助かります。特に前年度の内容をコピー＆ペーストできる機能がついていれば、所要時間も大巾に減ると思います。
- 私の主たる業務は留学生及び日本人対象の相談業務ですが、相談に関して記入できるところがなかったように思えます。P16の5．診療等による貢献に含めるか、別の項目を立ててほしい。
- 現在、所蔵標本の・整理・照合・保管・データベース化の作業を続行中である。学内・専攻内での日常的業務として行われなかったものであるが、こゝ数10年殆ど整理されてこなかったものであり、総点数10万点位の内、50万点の整理の目途がついた。このような作業は大学における研究・教育のもっとも基盤をなすものであるが、業績としては一切考慮されてこなかったし、現在もされていないようである。だからといって、等閑視してよいものではない。何らかの形で、業績としてカウントする必要がある。

5) 調査の対象者及び対象期間

- 助手の場合、少なくとも本講座においては、学部教育の担当授業科目は、正式、公式にはゼロとなりますが、実質的に学生と深くコミュニケーションする授業科目もあり、その扱いをどのようにすればよいのかわかりかねましたので、空欄にしておきました。その点御承知おき下さい。
- Ⅲ「社会貢献」については、年度毎でなく、「最近5年間」といった期間について質問するのがよいと思います。Ⅱの2.3.については、件数だけでなく、委員会の回数または総時間を質問する必要があるでしょう。またこの調査は（部分的には？）毎年行う必要はなく、

3年ごと、あるいは5年ごとにしてはどうでしょうか。

- 昨年度前期は在外研究のため不在でした。このような事情は考慮されるのでしょうか。
- 海外長期出張等の不在による活動減があると単年度のピックアップでは正しく評価できなくなるのでしょうか。学科内における評価がぬけているのではないのでしょうか。

6) 調査の方法

- 担当している授業については、授業要領等で公表しているので、教務掛のデータから直接調べてほしいと思います。
- PCによる直接入力方式にしていきたい。
- 同じようなことを、色々な、調査で書いております。何か一つの形式でまとめられないのでしょうか？あまりにも点検評価の書類作成が多く、1年中何かの書類を書いている感じがします。

Webpage等一カ所にまとめて、各点検評価委員会がその委員会で必要な部分のみ、PrintOutしていただけるとお互いの労力が減って時間を有効に使えと思いますが、いかがでしょうか？

- 本調査の大部分の項目は、庶務および教務掛が持っている情報だと思います。また、教官の労務管理上、事務方が、もっているべき情報だと思います。将来の人的資源の教育と研究への配分、投資量を決め、また、教官の労働量を正しく評価するためにも、庶務や教務にきちんとデータをもたせるべきだと思います。労務管理もできない事務など民間では考えられないことではないでしょうか。教官に対して、自己申告のみで調べるのは無意味です。上のように労務管理上のデータを示して、不足があれば追加申告するようにすべきです。前年度に、何人の修士の副査をやったのかなどおぼえてられません。しかし教務にはデータはあるはずです。

7) その他

- 大学の教官にとっての最も重要な職務は、研究と教育と考えます。この2点が十分に果された上で、管理運営への参加や社会への貢献度が評価されるべきだと思います。特に現在のよう、教育に対して問題が噴出している時、本務がおろそかになっているような例も見られ、本末転倒の感を否めません。大学の管理運営をする教官が居なければ困りますし、大学で得た成果を社会へ還元することは重要です。本務をおろそかにしては、大学の本質を問われかねませんし、日本の将来にとっても問題だと思います。国や地方自治体などの委員会に入っていなければ社会貢献や仕事をしていないと見られがちな風潮が感じられます。大学の2/3以上の教官はじっくりと研究と教育に力を入れ、残りの1/3~1/5程度の教官（特に教授）が大学の外でも活躍をすればよいと思います。大学自体の実力・本質がなくなったり、弱まったりは元も子もありません。調査の意義や方法を考える必要があると思います。高い品格と実

力を有する若者を，多く社会に出すことが，最も大きな社会貢献と，私は思っております。

- この様な調査が行なわれると，いつも自分のやっている事は何だろうと思う。評価できないものを評価するにはどの様にすべきなんだろうかとも思う。例えば，多くの時間を野外調査等を学生と一緒にこなすと，学生の修士論文，博士論文に寄与するが，他の事は一つもできなくなる。でもそれが，我々にとってもっとも重要な事で，多くの人に理解してもらわなければならない事だと思っている。その様な事が表に出る様な調査評価方法も考えていただければ幸いです。
- 学部に籍を置いていない教官（例えば大計センター専任教官）には，学部学生の便覧やシラバスなどの基本的な情報が全くとどいていない（学部科目を担当していても！）。FDを受講したくても，その案内すらこない。全学共通科目（例えば，一般教育演習など）を開講したくても，その照会の文書がこない。このような差別的状況の中で，教育業績評価を一率に行うことは，問題があると思う。

第2章

学生による「授業アンケート」について (平成11年度後期および平成12年度前期)

はじめに

北海道大学の点検評価委員会は、平成4年に設置され、「学生による授業評価」を平成5年に試行、平成6年には全教員の授業を対象に本実施した。平成7年には、学生の授業評価に対する教員のレスポンスをアンケート調査した。ここでは、学生による授業評価は、授業改善に有効であり、2から3年に1度は実施すべきであると結論された。

一方、点検評価委員会では発足の当初から、教員の教育業績評価の必要性、教育に関する教員研修の必要性が議論されてきた。教育業績評価のフォーマットは、平成8年に提案され、平成10年に委員会で再検討して、平成11年から毎年実施することとなった。一方、学生側からの評価ということで、平成11年度前期の授業について学生による授業評価として「授業アンケート」を実施し、その詳細な解析結果は年次報告書に印刷された。平成11年後期、12年前期の「授業アンケート」は、平成11年前期のものと同じ内容とし、結果の経年変化解析方法の検討を目的とした。

また、このアンケートの結果は、各教員にフィードバックされるとともに、公表の方向で検討されてきた。したがって、今回は、結果の公表の方法についても検討した。

フィードバック用には、自らの評点の全体での位置づけを知るために、総合評価点の度数分布のグラフもそえ、順位もわかるようにした。また、自らの授業に客観性をもたせるために、自分の授業を学生の立場から評価する自己評価も行い、学生の反応と比較できるようにした。

授業アンケートの内容

各授業は、以下に分類し、解析した。

- ・ 授業形態：講義，演習
- ・ 科目区分：全学教育，専門教育
- ・ 必須，選択の別（平成12年度）
- ・ 受講登録学生数（クラスサイズ），アンケート提出率（授業出席率）

アンケートの設問は、前回と同様に以下のように設定された。

- A 「シラバスとその内容」
- B 「教師の授業法」
- C 「学生参加」

D「難易度」

E「学生の満足度・達成度」

F「出席・態度」

G「自由意見」

授業は、その目標にしたがって、事前に周到に設計され、そのシナリオにそって施行される必要がある(A)。授業は、教師がいかに行うかにかかっている(B)。授業は学生の参加をうながし、これに対応していく必要がある(C)。内容は、授業の受け手である学生が理解できないものでは意味がない(D)。授業の成果は、受け手である学生の満足度、達成度ではかることができる(E)。学生の出席の程度は、授業の質によっても変化し、また、学生の意欲によっても異なる(F)。個別の授業に対する設問以外の意見、および教育環境、授業環境に対する意見は、自由意見にあらわれる(F)。

各項目での設問は、以下のようにした。その意味は、結果の解析で述べる。

A「シラバスとその内容」

シラバスと授業

- ・シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を適切に示していた。
- ・授業は体系的に行われていた。

B「教師の授業法」

B1 教師と授業

- ・教官の熱意が伝わってきた。
- ・教官の話し方は聞き取りやすかった。
- ・授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすかった。

B2 メディア（教育媒体）

- ・黒板、スライド、OHP、ビデオ、教科書、プリント等の使われ方が理解の促進に効果的だった。

B3「負担」

作業量・負担

- ・授業の進行速度は適切であった。
- ・授業で要求される作業量（レポート、宿題、自習など）は適切であった。

C「学生参加」

学生との相互反応

- ・教官は効果的に学生の参加（発言、自主的学習、作業など）を促した。
- ・教官は学生の質問・発言等に適切に対応した。

D「難易度」

- ・授業内容の難易度は適切であった。

E「学生の満足度・達成度」

- ・授業により知的に刺激された。
- ・授業の履修目標を達成できた。
- ・授業内容と他の領域との関連について理解できた。
- ・授業により、新しい知識、考え方、技能を習得でき、さらに深く勉強したくなった。

F「出席・態度」

- ・この授業に対するあなたの出席率はどの程度でしたか。
- ・質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。

G「自由意見」

以上の設問に対する「授業アンケート」は別紙のようにし、各学部に依頼した。アンケートは、平成11年度前期授業の最後の授業でおこない、そのアンケート用紙は、直接に総務部総務課企画室へ送付するという方法で回収した。この授業アンケートは各教員が担当科目のうち適当な1科目を選択して実施した。

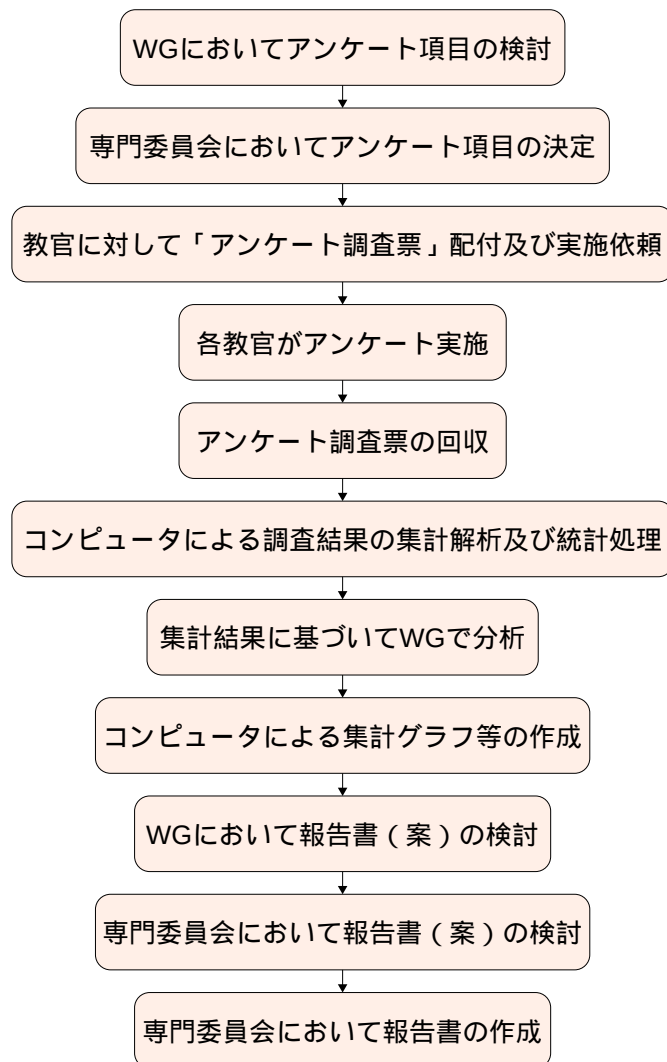
「学生による授業アンケートおよび教官自己評価アンケート調査」の実施から報告書の作成まで

このアンケートは、平成12年1月及び6月に平成11年度後期及び平成12年度前期授業を担当している教官（教授，助教授，講師）に関係資料を配付し，実施依頼をした。

アンケート回収は，平成12年3月末日及び7月末日までに各教官が直接，事務局の総務課企画室（点検・評価担当）へ学内便で返送することとした。

回収されたアンケート調査結果は，データ入力作業，分析資料及び統計グラフ等の作成をコンピュータ処理した後，結果の分析を行い，報告書のまとめ作業を行った。

処理の流れ図は次のとおりである。また，平成12年度前期のアンケート実施依頼書およびアンケート用紙等を次頁以降に示す。



アンケート実施依頼書

平成12年6月

教授・助教授・講師 殿

点検評価委員会教員業績評価専門委員会

委員長 福迫 尚一郎

学部学生による授業アンケート及び教官自己評価アンケート調査について（依頼）

本学では、平成4年度から行ってきました全学の点検評価において、平成11年度からは教官の総合的業績評価に資するために、各教官の教育に関わるデータの調査、及び学生による授業アンケート調査を実施することになりました。これらのアンケートは本学の教育の改善を目的としています。

学生による授業アンケートは、授業の受け手である学生の意見を授業改善にフィードバックするためのものです。ご協力方よろしくお願い申し上げます。

「授業アンケート実施方法」

- 1) 担当の授業（講義・演習）について、できるだけ最後の授業で実施してください。
- 2) 少なくとも1年間に一つの授業について調査願います。
今回は前期の授業について調査します。複数の授業を担当されている場合は、一つの授業について自分で選択してください。特に希望される場合には、講義と演習の二つの授業についても調査できます。
- 3) もし、アンケート用紙が不足する場合には、各部局の教務担当掛に申し出てください（両面コピーでも結構です。）
- 4) 教官は、「アンケート提出票（教官用）」にご記入ください。
- 5) 「学生が記入したアンケート用紙」は、その場で回収し、「授業アンケート（教官自己評価用）」、「アンケート提出票（教官用）」、「アンケート分析結果返信用封筒（所属部局・氏名を記入）」とともに「総務部総務課企画室（点検・評価担当）行」の封筒に密封し、7月末日までに学内便で総務課へお送りください。
- 6) 授業のアンケート分析結果は、後日、各教官にお知らせいたします。
全体的分析結果は、平成12年度点検評価委員会年次報告書にとりまとめる予定です。

付 記

- 1) このアンケートは、各教官にフィードバックされますので、趣旨に沿う授業を選んで調査願います。
- 2) 授業によっては、各回の授業に複数の教官が参加するチーム担当授業、あるいは複数の教官で担当する統合講義、総合講義形式の授業となっている場合があります。このような場合には、その教官が責任をもって行っている授業、その教官が中心となっている授業について、授業全体及びその教官について学生の意見を求めます。このような授業でアンケート調査をする場合には、学生にその旨説明してください。
- 3) 授業アンケートは、学生と教官の信頼関係で成り立ちますが、評価される教官が立ち会うことに問題があるとお考えの場合には、回収を学生に依頼することも結構です。

「教官自己評価」アンケートの実施について

学生による「授業アンケート」の大きな目的は、授業改善にあります。「授業アンケート」の分析に際し、各設問に係る学生と教官の認識を比較することも大きな意味があります。

つきましては、「授業アンケート」を実施する際に、各教官に対しても学生のアンケートと同内容の「教官自己評価用アンケート」も実施いたします。

- 1) このアンケートは、各教官が担当授業に対してどのような認識をしているかを問うものです。各教官の担当授業に対する意識を調査するものではなく、教官が学生の立場に立って自分自身の授業について認識を問うものです。
- 2) 学生による「授業アンケート」結果と、「教官自己評価用アンケート」結果を比較・分析することにより、「授業アンケート」の実施によって得られるものがより充実したものとなります。
- 3) 本アンケートは、学生の「授業アンケート」提出時に一緒に提出願います。

その他

不明の点等は下記に照会願います。

アンケート内容等 医学研究科

阿部 和厚 教授（内線5033）

事務担当

総務部総務課企画室

市山又は笹原（内線3600）

アンケート提出票（教官用）

北海道大学点検評価委員会

コード番号

所属学部（部局）

--	--

（部局名を記載し、下表のコード表によりコード番号を記載してください。）

職 名 1 教授, 2 助教授, 3 講師（該当する番号に○印を付してください。）

氏 名 (ふりがな)

授業の形態 1 講義, 2 演習（該当する番号に○印を付してください。）

科目区分 1 全学教育科目, 2 専門科目（該当する番号に○印を付してください。）

必修・選択 1 必修, 2 選択（該当する番号に○印を付してください。）

科目名

受講登録学生数 人（不明の場合は概数でも結構です。）

アンケート提出枚数 枚

部局コード番号

部 局 名	番号	部 局 名	番号
文学研究科・文学部	01	遺伝子病制御研究所	18
教育学研究科・教育学部	02	触媒化学研究センター	19
法学研究科・法学部	03	スラブ研究センター	20
経済学研究科・経済学部	04	大型計算機センター	21
理学研究科・理学部	05	アイソトープ総合センター	22
医学研究科・医学部	06	機器分析センター	23
歯学研究科・歯学部	07	実験生物センター	24
薬学研究科・薬学部	08	遺伝子実験施設	25
工学研究科・工学部	09	留学生センター	26
農学研究科・農学部	10	量子界面エレクトロニクス研究センター	27
獣医学研究科・獣医学部	11	エネルギー先端工学研究センター	28
水産科学研究科・水産学部	12	高等教育機能開発総合センター	29
言語文化部	13	先端科学技術共同研究センター	30
地球環境科学研究科	14	情報メディア教育研究総合センター	31
国際広報メディア研究科	15	総合博物館	32
低温科学研究所	16	保健管理センター	33
電子科学研究所	17	体育指導センター	34

研究科、学部の附属施設に所属する教官は、研究科・学部のコード番号を記載してください。

「授 業 ア ン ケ ー ト」

北海道大学点検評価委員会

このアンケートは、授業改善を目的として実施するものです。あなたの意見は今後の授業改善に生かされます。

アンケートの回答によりあなたが不利益を被ることはありませんので、率直な回答をお願いします。

設問は全てで17問あります。裏面には自由意見欄がありますので、この授業に対する自由な意見を述べてください。アンケート記入後は、授業担当教官に提出願います。

この授業（講義・演習）について、以下の各設問に対してどう考えますか。

それぞれについて、該当するものを1つ選んで番号又は記号に○を付けてください。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

 の評点は、「強くそう思う・そう思う・どちらともいえない・そうは思わない・強くそう思わない」の順とします。ただし、設問の12と16については、各設問に（ ）書きで付記している評点基準とします。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を適切に示していた。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 2 授業は体系的に行われていた。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 3 教官の熱意が伝わってきた。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 4 教官の話し方は聞き取りやすかった。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 5 授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすかった。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 6 授業により知的に刺激された。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 7 黒板、スライド、OHP、ビデオ、教科書、プリント等の使われ方が理解の促進に効果的であった。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 8 教官は効果的に学生の参加（発言、自主的学習、作業など）を促した。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 9 教官は学生の質問・発言等に適切に対応した。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 10 授業の進行速度は適切であった。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 11 授業で要求される作業量（レポート、宿題、自習など）は適切であった。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 12 授業内容の難易度は適切であった。
（「極めて難しい、難しい、適切、やさしい、極めてやさしい」の順） | <table border="1"><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr></table> | A | B | C | D | E |
| A | B | C | D | E | | |
| 13 授業の履修目標を達成できた。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 14 授業内容と他の領域との関連について理解できた。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 15 授業により、新しい知識、考え方、技能を習得でき、さらに深く勉強したくなった。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 16 この授業のあなたの出席率はどの程度でしたか。
（ほぼ「100、80、60、40、20%」の順） | <table border="1"><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr></table> | A | B | C | D | E |
| A | B | C | D | E | | |
| 17 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |

裏面に自由意見欄を設けていますので、この授業に対する意見がありましたら書いてください。
（裏面に続く）

ご協力ありがとうございました。

自由意見欄：この授業に対する意見がありましたら書いてください。

「授 業 ア ン ケ ー ト」

【教 官 自 己 評 価 用】

北海道大学点検評価委員会

このアンケートは、学生に対して実施しているものと同じ内容のものです。

アンケートを実施した授業クラスの学生側の視点から、あなたの授業について客観的に自己評価願います。

なお、設問16及び設問17は学生の状況を問います。

設問は全てで17問あります。裏面には自由意見欄がありますので、授業改善等に対する自由な意見を述べてください。アンケート記入後は、実施されました「学生アンケート」と一緒に提出願います。

あなたの授業（講義・演習）について、以下の各設問に対してどう考えますか。

それぞれについて、該当するものを1つ選んで番号又は記号に○を付けてください。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

 の評点は、「強くそう思う・そう思う・どちらともいえない・そうは思わない・強くそう思わない」の順とします。ただし、設問の12と16については、各設問に（ ）書きで付記している評点基準とします。

- | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|---|
| 1 シラバスでは、授業の目標、内容、評価方法を適切に示した。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 2 体系的に授業を行った。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 3 学生にあなたの熱意が伝わった。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 4 学生にとってあなたの話し方は聞き取りやすかった。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 5 授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすい授業を行った。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 6 知的に刺激される授業だった。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 7 黒板、スライド、OHP、ビデオ、教科書、プリント等を理解の促進に効果的に使用した。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 8 効果的に学生の参加（発言、自主的学習、作業など）を促した。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 9 学生の質問・発言等適切に対応した。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 10 授業の進行速度は適切であった。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 11 授業で要求した作業量（レポート、宿題、自習など）は適切であった。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 12 授業内容の難易度は適切であった。 | <table border="1"><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr></table> | A | B | C | D | E |
| A | B | C | D | E | | |
| （「極めて難しい、難しい、適切、やさしい、極めてやさしい」の順） | | | | | | |
| 13 授業の目標を達成できた。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 14 授業内容と他の領域との関連について理解させることができた。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 15 授業により、学生は、新しい知識、考え方、技能を習得し、さらに深く勉強したくなった。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 16 この授業の学生の出席率はどの程度でしたか。 | <table border="1"><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr></table> | A | B | C | D | E |
| A | B | C | D | E | | |
| （ほぼ「100、80、60、40、20%」の順） | | | | | | |
| 17 学生は、質問、発言、調査、自習などにより、この授業に積極的に参加した。 | <table border="1"><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |

裏面に自由意見欄を設けていますので、授業改善等に対する意見がありましたら書いてください。
（裏面に続く）

ご協力ありがとうございました。

自由意見欄：授業改善等に対する意見がありましたら書いてください。

調査対象の解析

アンケートに応じた授業は、全学で、平成11年後期で461科目、平成12年前期で558科目であった。合計1019科目となり、講師以上の教員の69.4%（平成11年5月教授，助教授，講師数1468名に対し）が対応したとみなされる。このうち全学教育科目は27.9%，専門科目は72.1%であった。講義は88.3%，演習は11.7%であった。

● 全学教育科目の比率

どの学部がどの程度の比率で全学教育を行っているかを、284科目からみると、つぎのようになった。

文22（7.7%），教4（1.4%），法4（1.4%），経10（3.5%），理66（23.2%），医2（0.7%），歯2（0.7%），薬2（0.7%），工12（4.2%），農5（1.8%），獣医1（0.4%），水産0（0%），言語73（25.7%）

全学教育科目担当の教員数を多くもつ責任部局である文学部，理学部，法学部，言語文化部などはかなりの比率の全学教育を担当している。とくに理学部が多い。

アンケート結果と解析

ここでは各設問の内容，解析結果，解釈について述べる。評点は，よい方から順に5，4，3，2，1，となり，3は普通である。解析結果では，評点4と5を合計した比率を中心に解釈を進める。また，4と5の合計がほぼ半数，1と2の合計が約10%以下を高い評価，あるいは良好な評価とみなす。

集計は，平成11年後期，平成12年前期とにわけて行った。この際，平成11年後期は同前期と同じ内容，平成12年前期は新たに必修と選択の別を加えて解析した。ここでは，前年度との比較の方法をさぐる目的もあるので，主として，平成12年度前期563科目について解析し，平成11年前期597科目と比較した。以下で矢印はこの2年間での変動を示す。

A「シラバスとその内容」

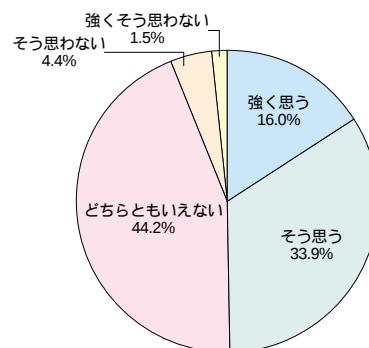
シラバスと授業

・シラバスは，授業の目標，内容，評価方法を適切に示していた。

シラバスは授業の総体を表現する。各科目は各部局での必要性により存在し，必要理由は，目標として表現され，その目標到達のための授業内容，評価方法ははじめから設計されていなければならない。そしてこのことが学生につたわり，学生はこれを活用して学習できなければならない。

	そう思う (評点の4と5の合計)	そうは思わない (評点の1と2の合計)
全 体	46.0% → 49.9%	7.8% → 5.96%
全 学 教 育	48.2% → 48.9%	3.0% → 8.21%
専 門	43.9% → 49.5%	4.2% → 4.69%
言 語	57.2% → 57.6%	6.6% → 4.86%

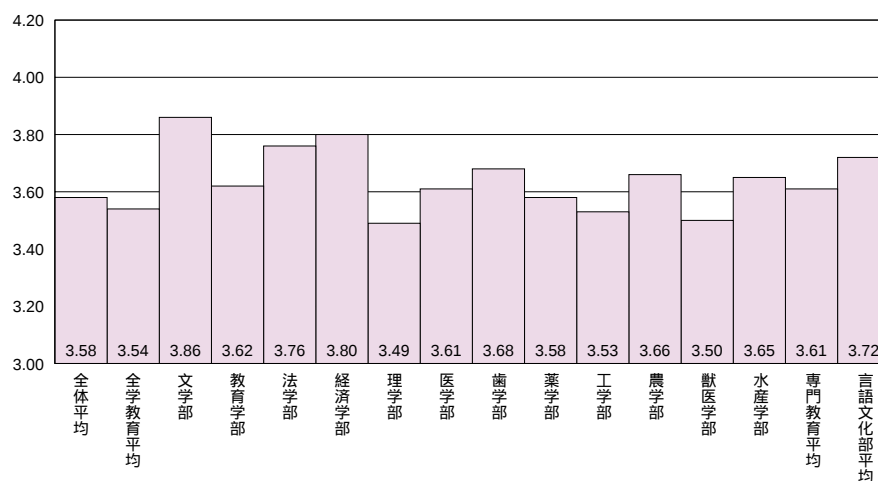
以下、表のそう思うは4と5の合計、そうは思わないは2と1の合計である。



学部別（評点の4と5との合計）

文系：文57.7% → 65.3%，教44.9% → 53.3%，法66.1% → 62.5%，経64.5% → 63.7%

理系：理37.8% → 51.7%，医46.3% → 61.0%，歯49.3% → 55.0%，薬45.3% → 47.7%，工38.8% → 44.8%，農35.6% → 53.6%，獣医27.4% → 40.9%，水産33.6% → 53.9%



全体的に評価は改善している。改善の内容には2種あるとみなされる。医学部と水産学部では、すべての科目が教科書的な形式となっている。医学部では以前からの形式であったが、改善している。これはシラバスに対する認識の改善、利用度の増加によるとみなされる。一方、水産学部では、シラバスを全面改定した結果とみなされる。

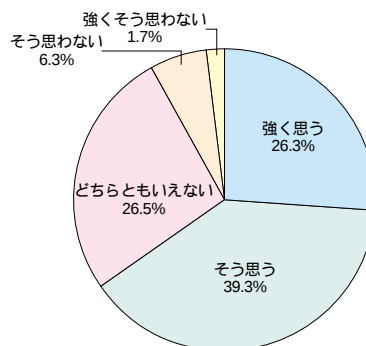
一般に、シラバスは授業評価の中心におかれている。本学ではまだ授業担当の基本、授業をうけることの基本であるシラバス観が、十分には確立されていないといえる。これは学業成績評価についてのアンケートでも同様であった（平成9年度点検評価報告書）。シラバスは授業の内容、進行等を明確に示すもので、授業で有効に活用すること、シラバスを片手に授業進行することで、シラバスが授業に有効に生き、授業改善があるとみなされる。

現在、北海道大学では、シラバスの整備、ホームページ上で宿題、意見交換ができるようにするのが、最も効果的であろう。

・授業は体系的に行われていた。

授業は整理された内容が必要である。

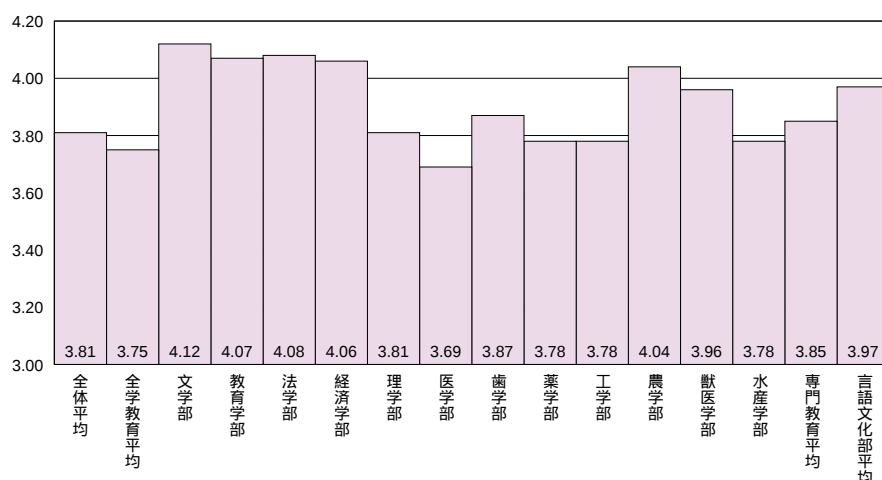
	そう思う (評点の4と5の合計)	そうは思わない (評点の1と2の合計)
全 体	63.0% → 65.4%	9.3% → 8.12%
全 学 教 育	61.6% → 62.3%	3.0% → 9.75%
専 門	62.2% → 67.2%	2.2% → 7.15%
言 語	70.1% → 72.6%	1.8% → 6.62%



学部別 (評点の4と5とを合計)

文系：文71.6% → 78.6%，教64.9% → 70.8%，法77.9% → 76.0%，経72.4% → 76.5%

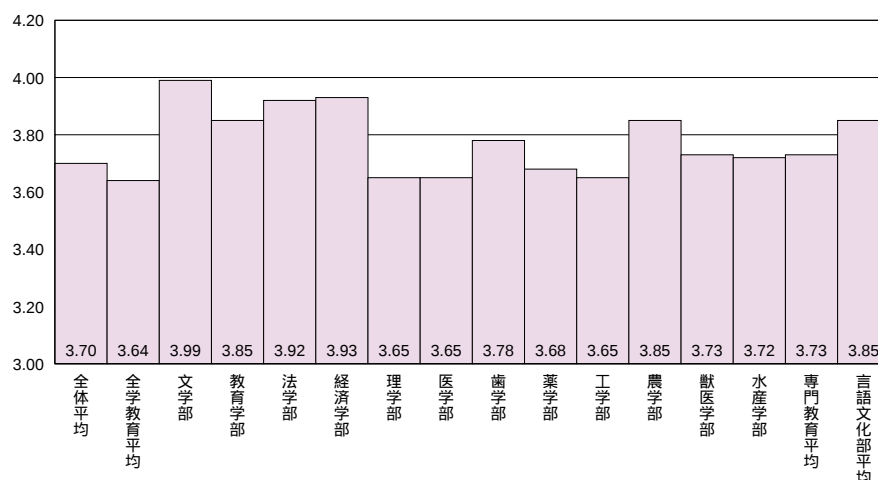
理系：理66.0% → 63.5%，医56.2% → 59.9%，歯58.3% → 66.7%，薬67.8% → 65.0%，工58.6% → 64.0%，農57.8% → 77.0%，獣医73.0% → 72.6%，水産55.1% → 63.0%



全学的によい評価である。本学の学生は、教員に対して好意的評価をしている。

また、全体的に改善がみられる。改善は文学部、経済学部、農学部で顕著である。

これらの総評でも、全体的に、評価は前回と同様に文系で高く、理系で低い傾向があるが、理系でもかなり高いものがあり、文系・理系の差は明瞭でなくなっている。



B 「教員の授業法」

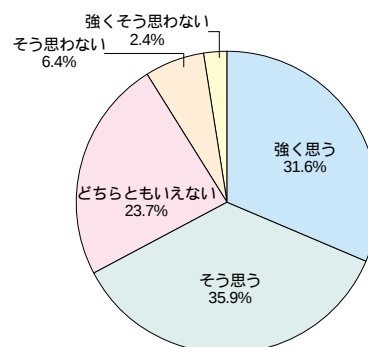
ここでは教員のパフォーマンスについて質問している。とくに教員と学生の関係で、学生が教員から知識伝授あるいは直接の影響を受ける授業では、目の前の教員のパフォーマンスは授業法として重要となる。

B1教員と授業

・教員の熱意が伝わってきた。

授業においては、教員の熱意がみえること、熱意が学生に伝わるのが最も重要な牽引力となる。

	そう思う (評点の4と5の合計)	そうは思わない (評点の1と2の合計)
全 体	64.2% → 67.3%	10.0% → 8.82%
全 学 教 育	63.0% → 65.2%	10.9% → 10.82%
専 門	64.8% → 68.5%	2.6% → 7.64%
言 語	76.2% → 73.4%	1.4% → 7.01%
講 義	63.3% → 66.4%	2.9% → 9.13%
演 習	75.9% → 77.8%	1.7% → 5.58%



学部別（評点の4と5との合計）

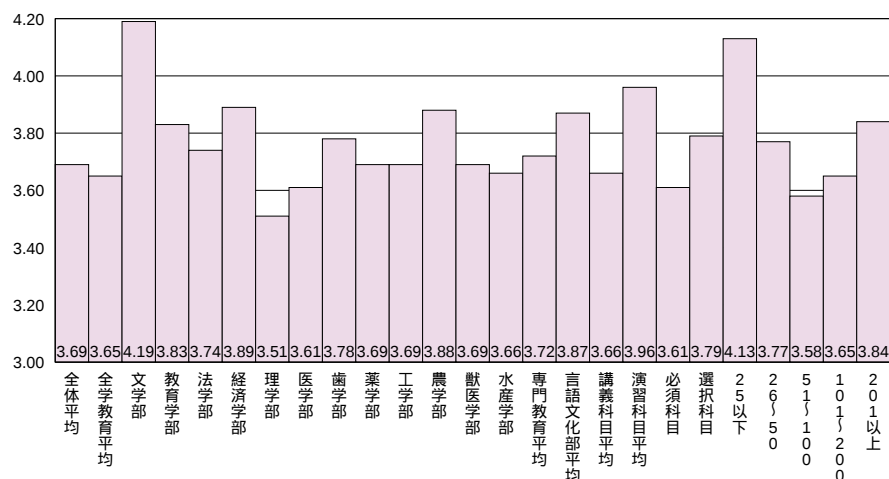
文系：文71.4%→85.6%，教73.7%→87.7%，法83.3%→77.9%，経77.5%→71.5%

理系：理66.7%→67.4%，医61.1%→56.6%，歯56.4%→67.9%，薬68.8%→66.9%，工59.5%→65.5%，農61.0%→75.9%，獣医66.5%→73.2%，水産59.8%→64.8%

学部別（評点の4と5との合計）

文系：文67.8%→80.4%，教62.2%→67.2%，法70.4%→62.8%，経71.9%→67.1%

理系：理55.7%→51.1%，医57.6%→54.1%，歯44.6%→63.4%，薬56.3%→58.4%，工54.3%→60.0%，農53.1%→68.1%，獣医47.3%→61.5%，水産52.5%→58.9%



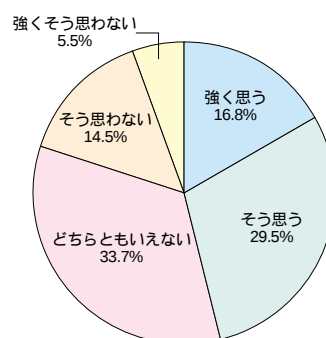
また，クラスサイズは小さいほどよい。しかし，200人以上でも前年度と同様に比較的よい。

ここでも一般に文系が理系よりもよい。学術文化や教育観の違いがありそうである。理系では，論理的に理解することを要求され，そこに聞き取りにくいという心理がはたらいっているのかもしれない。

・授業は，難解な概念，理論があっても，わかりやすかった。

わかりやすく伝えることは授業で最も重要なことである。

	そう思う (評点の4と5の合計)	そうは思わない (評点の1と2の合計)
全 体	41.4% → 46.2%	24.1% → 20.0%
全学教育	41.1% → 43.2%	26.6% → 23.7%
専 門	41.7% → 37.9%	22.5% → 13.7%
言 語	58.0% → 57.2%	12.7% → 12.1%
講 義	40.2% → 35.1%	24.8% → 20.7%
演 習	55.4% → 45.1%	16.5% → 13.1%
必 修	44.0%	21.3%
選 択	49.1%	18.2%

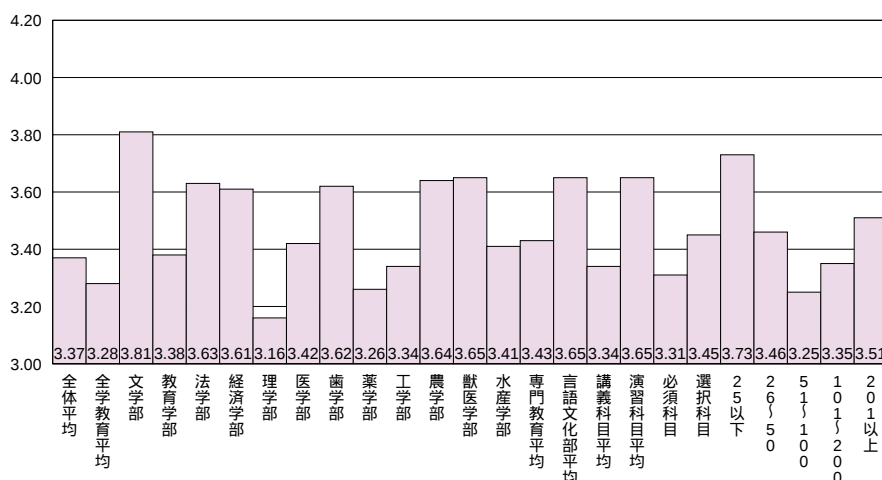


全体的にやや改善している。いくつかは，「そう思う」の数値が減少し，評価が低くなったものもあるが，「そうは思わない」で改善がみられる。

学部別（評点の4と5との合計）

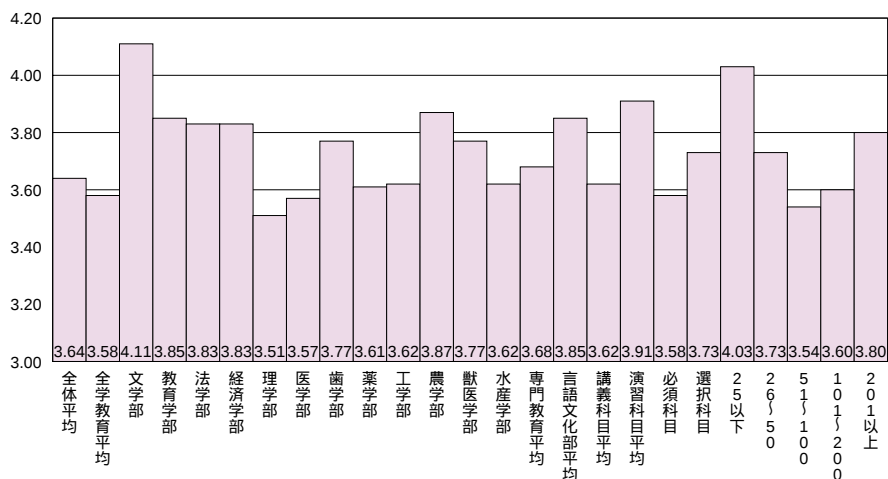
文系：文54.8%→63.0%，教43.3%→44.9%，法58.1%→58.9%，経58.1%→55.8%

理系：理40.7%→36.3%，医43.6%→44.2%，歯36.0%→56.1%，薬36.9%→41.0%，工32.5%→44.4%，農42.0%→57.5%，獣医39.7%→55.8%，水産39.4%→46.6%



一般に改善がみられた。文，理の差異は不明瞭であった。
全体的には評価はやや低い。

B1における問いに対する総計でみると，パフォーマンスの総評でも全体平均が3.53から3.64と改善がみられた。

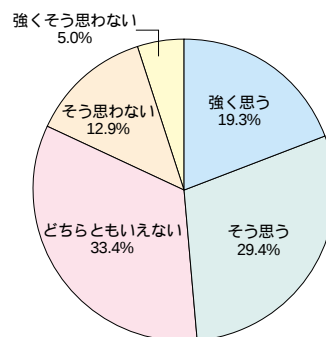


B2メディア（教育媒体）

・黒板，スライド，OHP，ビデオ，教科書，プリント等の使われ方が理解の促進に効果的だった。

授業は，教授者から学習者への情報伝達により成り立つ。広い意味では，話しことばも授業の媒体（メディア）である。ここでは，授業に用いられる話しことば以外のメディアについて質問した。一般に，メディアについては，とくに近代的情報テクノロジーによる機器，視聴覚機器について尋ねた。しかし，ともすればこれらを駆使することがよい授業であるような錯覚に陥っている傾向がある。ここでは，重要なことは効果であるという視点でとらえることにした。

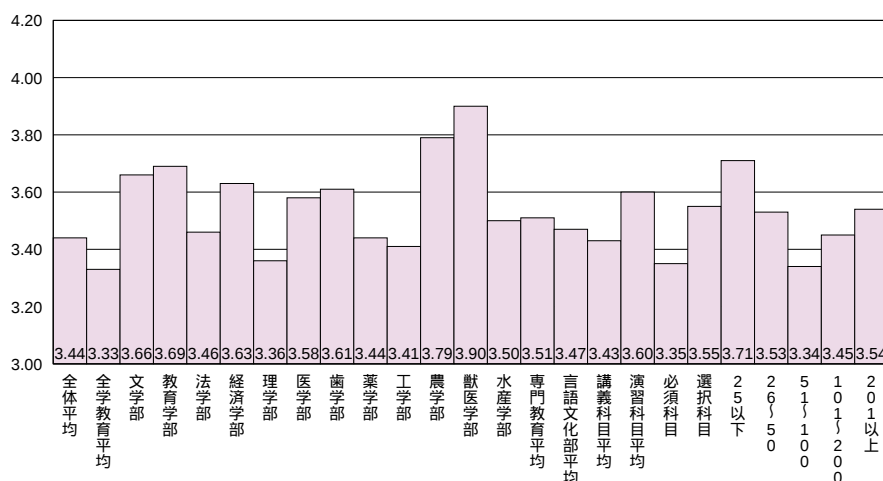
	そう思う (評点の4と5の合計)	そうは思わない (評点の1と2の合計)
全 体	44.2% → 48.5%	21.4% → 17.9%
全 学 教 育	42.7% → 44.7%	22.7% → 22.1%
専 門	45.1% → 50.7%	20.6% → 15.5%
言 語	49.0% → 49.9%	16.1% → 17.7%
講 義	43.8% → 47.9%	21.9% → 18.4%
演 習	49.8% → 53.9%	15.6% → 13.5%
必 修	44.5%	19.5%
選 択	53.4%	16.1%



学部別（評点の4と5とを合計）

文系：経55.2% → 57.3%，文50.0% → 59.1%，教46.4% → 59.0%，法44.8% → 49.8%

理系：理49.3% → 44.7%，医54.0% → 50.9%，歯35.4% → 54.8%，薬47.9% → 47.1%，工36.5% → 46.0%，農45.1% → 63.8%，獣医56.5% → 67.2%，水産49.1% → 41.6%



全体的には、それほどよい評価とはいえない。全体的には差は大きくない。講義演習では、演習がよい。必修、選択では、選択がよい。学部別では、文系、理系の差は明瞭でない。全体的には前年より改善していた。とくに農学部、獣医学部の改善が顕著であった。

B3「負担」

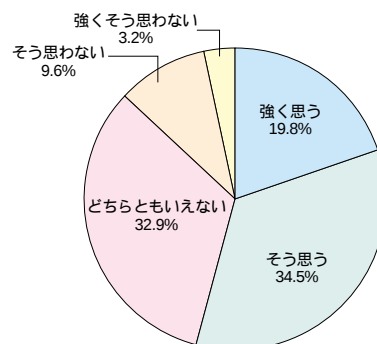
作業量・負担

・授業の進行速度は適切であった。

一方的知識伝授，教員中心授業は授業の進行が早くなる傾向がある。

意見欄でも、これに関して学生による多くの指摘があった。

	そう思う (評点の4と5の合計)	そうは思わない (評点の1と2の合計)
全 体	52.8% → 44.2%	14.4% → 12.8%
全 学 教 育	54.1% → 55.3%	14.0% → 13.7%
専 門	51.9% → 53.7%	14.7% → 12.2%
言 語	67.0% → 62.1%	10.4% → 13.8%
講 義	51.8% → 53.3%	14.7% → 13.0%
演 習	65.6% → 63.5%	10.1% → 10.5%
必 修	51.5%	14.0%
選 択	57.4%	11.3%

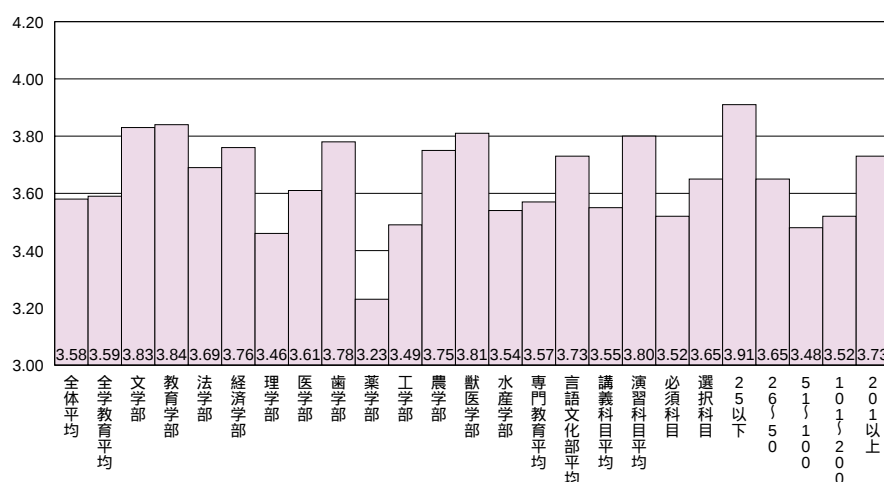


学部別（評点の4と5とを合計）

文系：文66.2%→65.5%，教62.6%→69.0%，経61.7%→63.9%，法56.5%→61.1%

理系：理51.3%→48.5%，医50.1%→52.8%，歯54.2%→61.7%，薬53.8%→40.2%，獣医52.5%→66.4%，

工45.6%→49.1%，農50.6%→61.4%，水産50.4%→52.1%

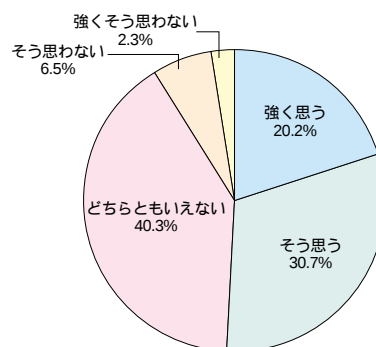


全体的には評価は，一部の学部をのぞいて改善がみられなかった。

・授業で要求される作業量（レポート，宿題，自習など）は適切であった。

科目における単位があらわす学習時間では，授業時間以外に相当量の予習，復習が要求されている。しかし，日本の学生の自習時間は一般に極端に少ない。ここでは，自習量の適切さよりは，自習を課せられることに対する学生の満足度と関連しているのかもしれない。

	そう思う (評点の4と5の合計)	そうは思わない (評点の1と2の合計)
全 体	47.6% → 50.8%	9.8% → 8.87%
全学教育	51.2% → 53.4%	8.9% → 9.4%
専 門	45.5% → 49.5%	10.3% → 8.52%
言 語	63.3% → 62.6%	7.9% → 8.58%
講 義	46.7% → 49.8%	9.6% → 8.58%
演 習	59.5% → 60.6%	11.5% → 8.72%
必 修	49.5%	9.16%
選 択	52.3%	8.52%

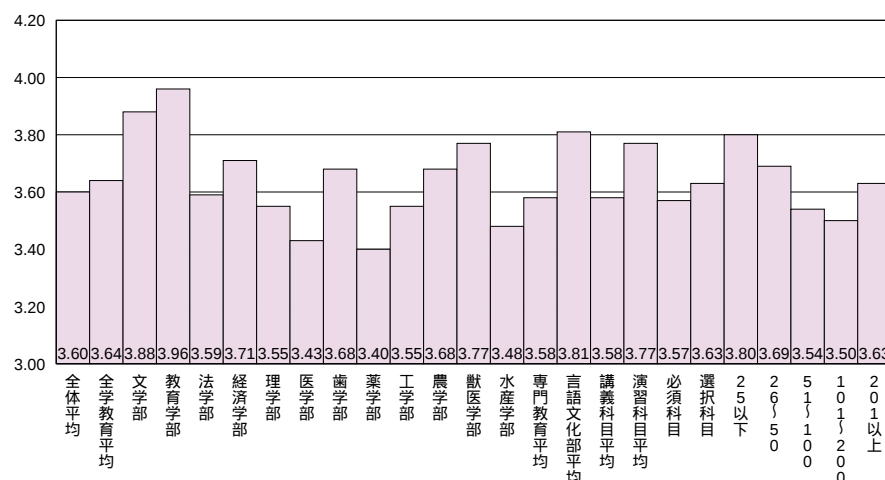


学部別（評点の4と5とを合計）

文系：文58.6%→63.3%，教53.9%→73.6%，経53.2%→57.2%，法47.2%→48.5%

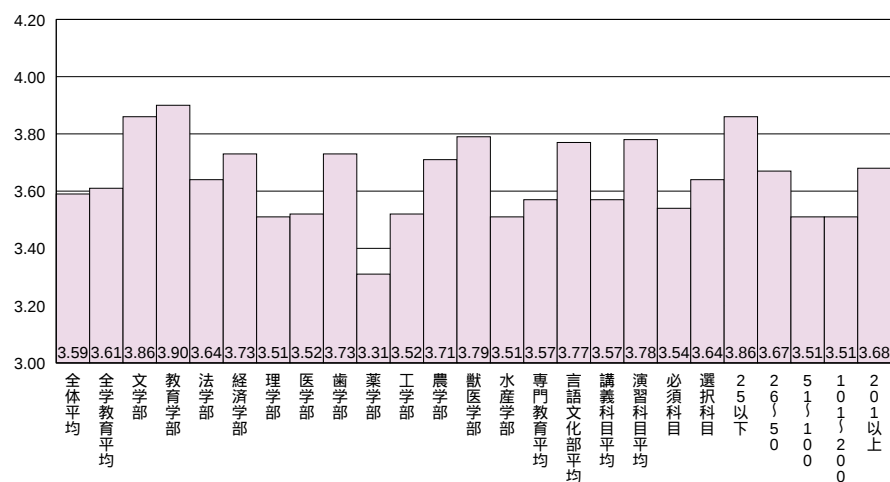
理系：理48.0%→49.5%，医36.7%→40.0%，歯41.1%→52.9%，薬44.0%→39.7%，農41.5%→52.8%，工

41.3%→50.3%，獣医52.3%→57.1%，水産52.6%→42.9%



全体的にはやや改善がみられた。学部別では、文系が一般にやや負担が少ない。教育学部が最も負担が少ない。理系ではとくに医学部と薬学部で授業負担が大きい。
クラスサイズの差は不明瞭であった。

以上のB3の総合評価では、全体平均で3.49が3.59と改善した。



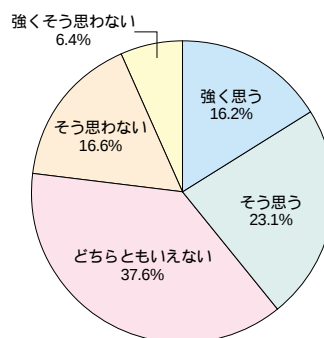
C 「学生参加」

学生との相互反応

課題探究能力の育成など，教員と学生との相互反応，学生同志の相互反応を重視し，学生を効果的に参加させる学生中心授業が奨励されている。ここでは授業が学生参加型になっているかを問う。

- ・教員は効果的に学生の参加（発言，自主的学習，作業など）を促した。

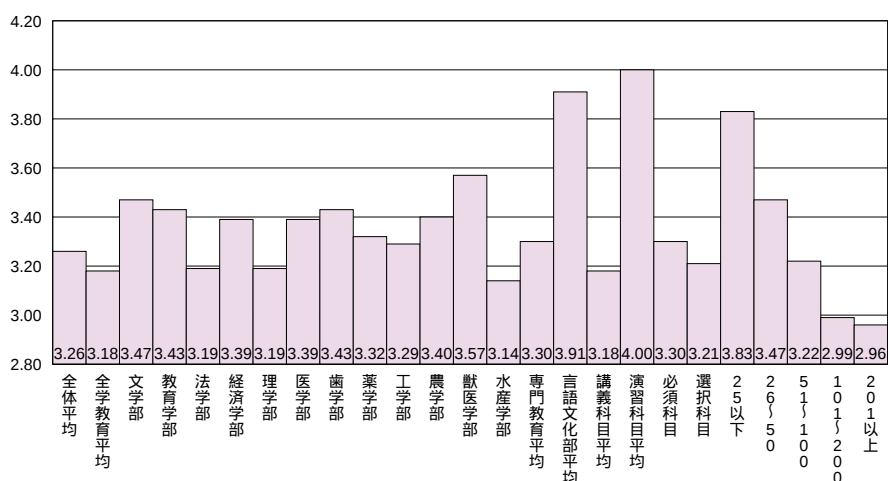
	そう思う (評点の4と5の合計)	そうは思わない (評点の1と2の合計)
全 体	32.8% → 39.2%	30.7% → 23.0%
全 学 教 育	34.5% → 38.4%	33.7% → 28.4%
専 門	31.8% → 39.6%	29.1% → 20.2%
言 語	67.5% → 67.1%	10.3% → 10.2%
講 義	29.9% → 36.3%	32.5% → 24.5%
演 習	68.5% → 70.2%	10.1% → 7.3%
必 修	40.8%	21.5%
選 択	37.2%	24.8%



学部別（評点の4と5とを合計）

文系：文34.7% → 48.0%，教38.2% → 47.5%，法29.5% → 37.8%，経47.9% → 43.8%

理系：理27.1% → 34.8%，医41.9% → 41.7%，歯31.8% → 44.4%，薬39.7% → 42.0%，工29.3% → 39.2%，農27.8% → 42.6%，獣医26.3% → 52.6%，水産22.9% → 32.0%



全体的には参加型は多くないが前年に比べ改善している。

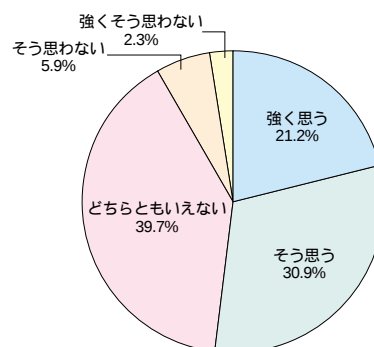
演習は講義より2倍も参加型となっている。本質的に双方向性で成立する言語文化部の授業は，双方向性となっている。必修，選択では差はない。学部別では，文系，理系であまり差はないが，学部間の差は大きい。

クラスサイズでは，サイズの小さいほど学生参加型となっていて，大人数クラスは参加型となっていない。

授業評価は、一般に文系がよかったが、これは積極的に学生参加としているというよりは、クラスサイズ、演習形式であることと関連することを示す。別の言い方をすると、クラスサイズが小さく、演習形式にするだけで、学生は参加意識が出てくるということであろう。

・教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。

	そう思う (評点の4と5の合計)	そうは思わない (評点の1と2の合計)
全 体	47.3% → 51.9%	10.4% → 8.2%
全 学 教 育	46.0% → 52.3%	12.5% → 10.2%
専 門	47.7% → 51.8%	9.2% → 7.2%
言 語	73.3% → 69.3%	3.6% → 5.2%
講 義	44.5% → 49.6%	11.0% → 8.6%
演 習	80.5% → 76.2%	3.0% → 3.7%
必 修	52.5%	8.1%
選 択	50.9%	8.5%



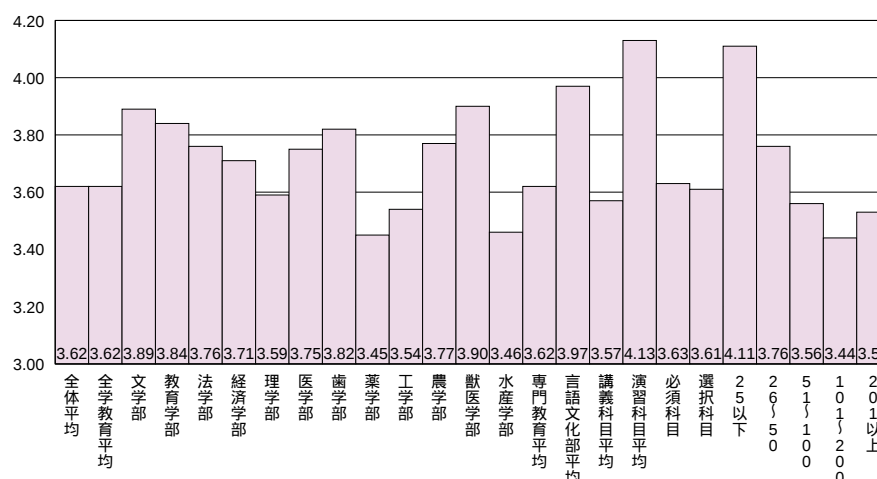
全体としては教員は適切な対応をしているといえ、さらに前年より改善している。

演習は講義にくらべ教員は学生の反応に適切に対応している。一方、必修選択では差はない。

学部別（評点の4と5とを合計した数値）

理系：文50.0% → 62.9%，教47.6% → 64.8%，法57.4% → 59.5%，経57.4% → 56.6%

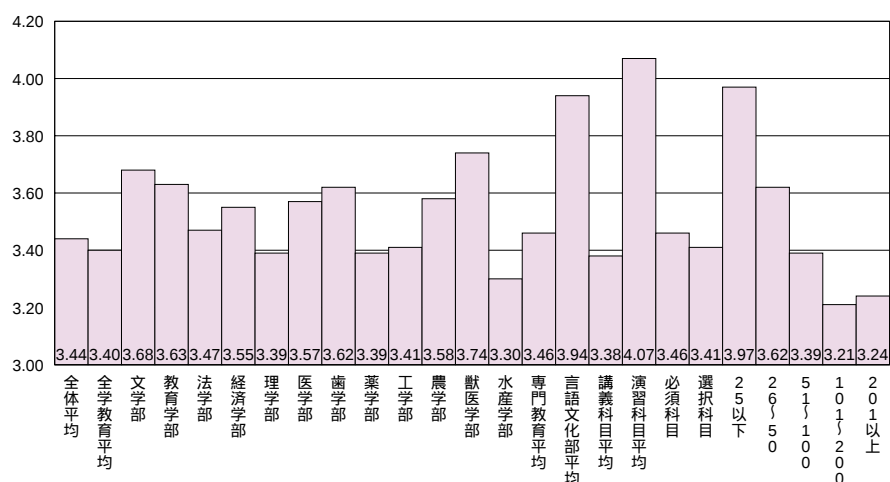
文系：理47.2% → 49.1%，医60.4% → 59.5%，薬52.6% → 44.0%，歯50.5% → 60.8%，工42.5% → 46.8%，農40.8% → 58.6%，獣医46.7% → 69.8%，水産42.3% → 44.0%



学部別では、文系、理系の差はあまりない。農学部、獣医学部での改善が明瞭である。

クラスサイズでは、小さいほどよく、大きいほどよくない。大人数講義は一方通行であることが明らかである。

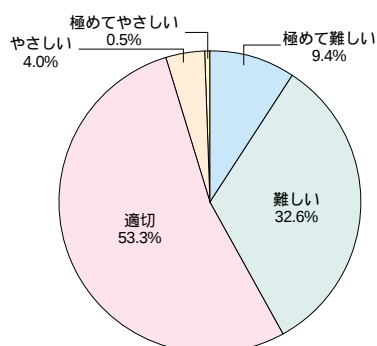
Cの総合評価では、全体平均が3.28が3.44となり改善が明瞭であった。また、演習、25人以下の小人数クラスは双方向性授業となっている。



D 難易度

- ・授業内容の難易度は適切であった。

授業の難易度は、学生が理解できない、ついていけないほど難しいのは問題があるが、適度に難しいのもよいとされている。

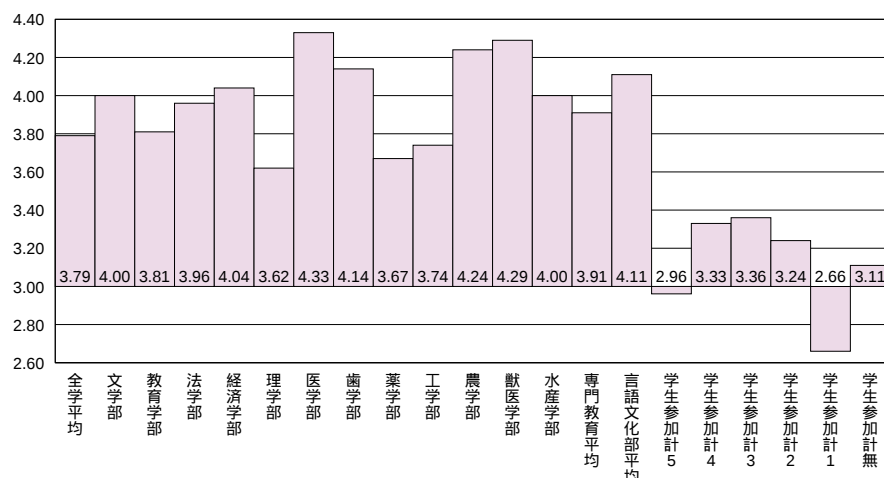


全体では、極めて難しいが6.6%→9.4%，難しいが26.6%→32.6%，適切が63.8%→53.5%であった。

学部別：極めて難しい，難しいを合計してみると，

文系：文30.3%→35.5%，教29.0%→53.4%，経29.0%→34.3%，法22.2%→40.1%，言語24.0%→29.6%

理系：理31.1%→52.9%，医26.5%→23.8%，歯32.4%→33.9%，薬34.0%→41.8%，工42.1%→49.0%，農24.6%→27.0%，獣医27.6%→27.7%，水産28.1%→36.3%



全体的には難易度は、適切といえる。一般に、文系、理系の差はないが、教育学部、理学部、薬学部、工学部では難しいとしている学生が多い。

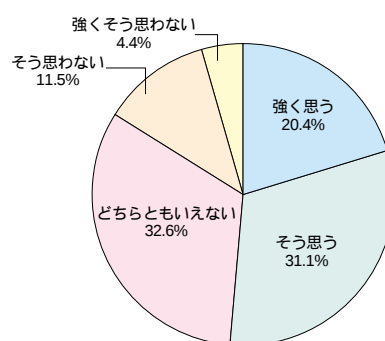
難易度と学生参加、教員との相互作用をみると、学生の参加・教員との相互作用がよいほど適切であると応える学生が多い。相互作用により授業内容の理解が得られることがわかる。

E 学生の満足度・達成度

学生の満足度は、それ自体が総体的授業評価をあらわす。ここでは、第三者が観察でき、客観的に評価が可能であるという原則にはあてはまらないが、学生の主観を質問している。

・授業により知的に刺激された。

	そう思う (評点の4と5の合計)	そうは思わない (評点の1と2の合計)
全 体	47.3% → 51.5%	19.0% → 15.9%
全 学 教 育	48.1% → 49.8%	19.3% → 19.1%
専 門	46.8% → 52.5%	18.8% → 13.9%
言 語	56.2% → 55.5%	13.6% → 15.7%
講 義	45.8% → 50.2%	19.8% → 16.4%
演 習	66.9% → 64.7%	9.4% → 9.8%
必 修	48.6%	17.2%
選 択	55.0%	14.1%

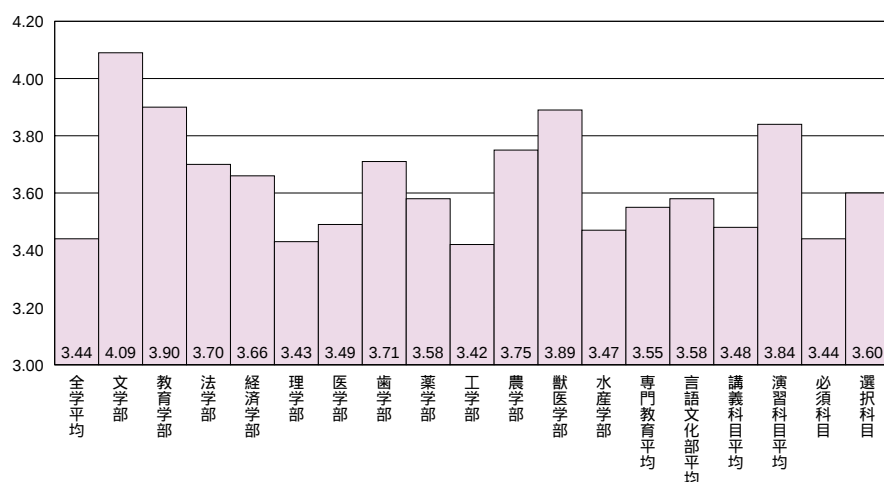


一般的に、知的に刺激されたと評価していて、全体的に改善がみられる。講義より演習が高い評価となっている。必修選択では、選択が高い。一方、言語は授業法では高い評価であったが、知的刺激という満足度は平均よりは高いが、演習よりは低い。言語教育はリテラシー科目であることが反映されているとみなされる。

学部別（評点の4と5とを合計した数値）

文系：文62.0%→73.6%，教59.0%→70.7%，法63.3%→61.3%，経60.8%→57.1%

理系：理39.2%→47.2%，医46.6%→47.2%，歯41.5%→58.2%，薬52.9%→55.3%，工35.9%→45.7%，農46.6%→62.5%，獣医50.7%→69.2%，水産41.9%→49.0%



学部別では、全体に改善がみられ、一般に文系が理系よりよい。一方、理系でも農学部、獣医学部での改善が顕著である。

授業法との関連

授業法がよいと答えた学生は、高く評価している。

学生参加との関連

学生参加を高く評価している学生は、高く評価している。

難易度との関連

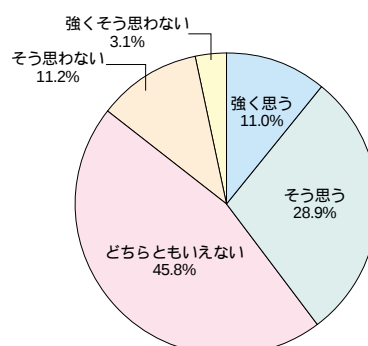
難易度が普通と答えた学生は、高く評価している。一方、極めて難しい・易しい・極めて易しいと答えた学生は低い評価を与えている。

クラスサイズとの関連

クラスサイズが小さいほどよいが、100人以上のクラスも悪くない。

・授業の履修目標を達成できた。

	そう思う (評点の4と5の合計)	そうは思わない (評点の1と2の合計)
全 体	34.9% → 39.9%	17.5% → 14.3%
全学教育	37.5% → 40.1%	17.1% → 15.6%
専 門	33.3% → 39.7%	17.7% → 13.5%
言 語	44.9% → 49.9%	13.7% → 11.7%
講 義	33.5% → 38.4%	18.0% → 14.7%
演 習	52.5% → 53.4%	11.4% → 10.5%
必 修	37.9%	15.3%
選 択	42.1%	13.1%

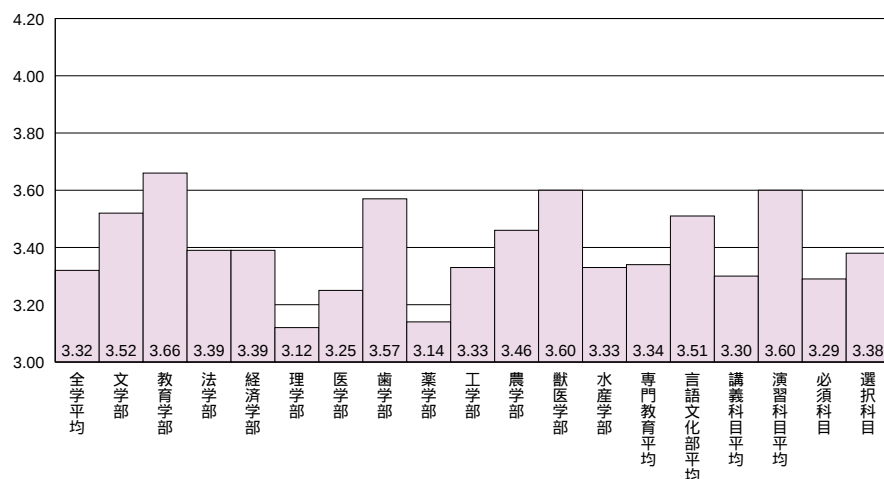


達成感は、全体的にはそう高くないが、全体的に改善している。このなかで、演習が効果的であることは理解できる。必修よりは選択がよい。達成感を問われたときの学生の心理を想像すると、よい評価とはならないことがうかがえる。

学部別（評点の4と5とを合計した数値）

文系：文42.9%→50.7%，教36.1%→55.2%，法45.7%→44.2%，経47.5%→42.8%

理系：理33.3%→29.4%，医28.4%→35.1%，歯37.9%→49.8%，薬23.3%→30.4%，工28.6%→38.0%，農46.6%→35.5%，獣医36.2%→52.7%，水産31.7%→39.0%



学部別では、達成度の改善は一般には改善しているが、低下しているものもあり、一定していない。

難易度との関連

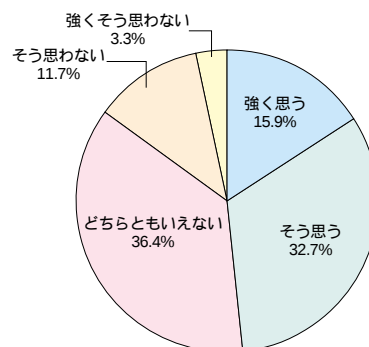
難易度が普通と答えた学生は、高く評価している。難しいと答えた学生も評価が高い。一方、極めて難しい・易しい・極めて易しいと答えた学生は低い評価を与えている。

クラスサイズとの関連

クラスサイズが小さいほどよいが、100人以上のクラスも悪くない。

・授業内容と他の領域との関連について理解できた。

	そう思う (評点の4と5の合計)	そうは思わない (評点の1と2の合計)
全 体	37.7% → 48.6%	21.4% → 15.0%
全 学 教 育	33.3% → 42.8%	23.6% → 19.7%
専 門	40.3% → 51.7%	20.0% → 12.3%
言 語	32.4% → 40.5%	21.7% → 18.8%
講 義	36.9% → 48.0%	21.9% → 15.3%
演 習	48.7% → 55.4%	14.6% → 11.6%
必 修	44.7%	15.7%
選 択	50.9%	13.8%



全体的にはよくないが、改善している。

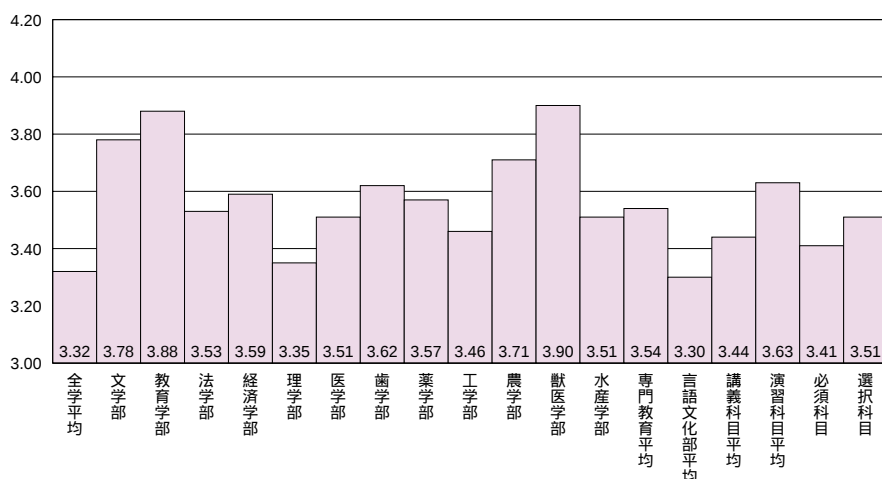
ここでも演習はよい。

学部別（評点の4と5とを合計した数値）

文系：文41.1%→62.5%，教48.0%→70.0%，法49.6%→52.0%，経48.1%→54.7%

理系：理38.8%→43.5%，医43.6%→50.2%，歯36.7%→54.3%，薬43.5%→54.0%，工33.9%→47.4%，農

41.0%→61.5%，**獣医**55.9%→68.7%，**水産**40.4%→52.1%



学部別でも改善は明瞭である。

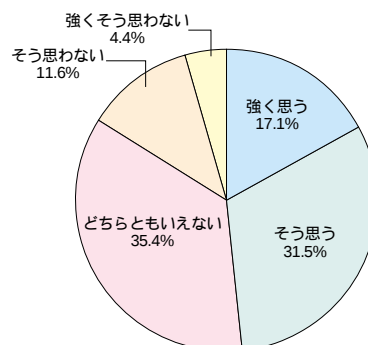
ここでも、理解度とその自ら内容を発展できる力がついたかを質問している。学生の心理からきてもよい評価とはなりにくい。

クラスサイズとの関連

25人以下のクラスで最も効果的である。

・授業により、新しい知識、考え方、技能を習得でき、さらに深く勉強したくなった。

	そう思う (評点の4と5の合計)	そうは思わない (評点の1と2の合計)
全 体	44.2% → 48.6%	9.4% → 16.0%
全 学 教 育	43.9% → 47.6%	20.5% → 19.3%
専 門	44.4% → 49.0%	18.7% → 14.2%
言 語	47.6% → 51.9%	17.4% → 16.0%
講 義	42.9% → 47.1%	20.0% → 16.6%
演 習	62.6% → 62.5%	10.8% → 11.5%
必 修	45.6%	17.2%
選 択	51.9%	14.5%

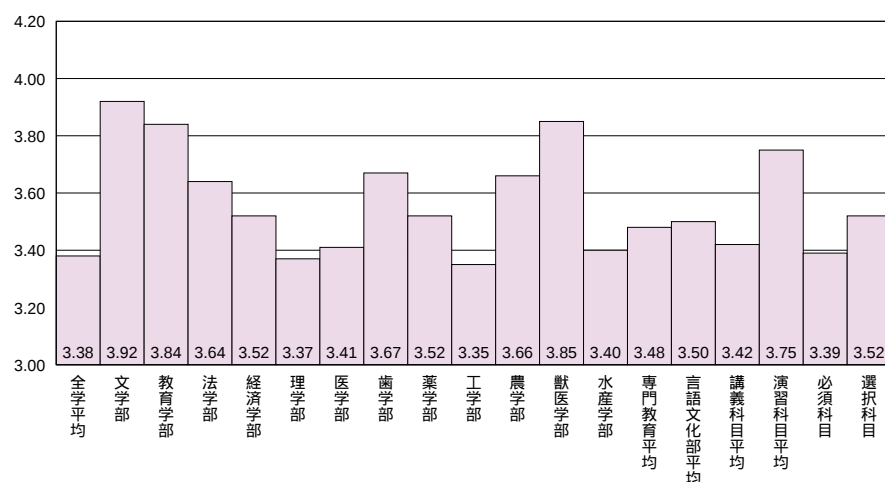


全体では比較的良好。また、改善も明瞭である。とくに演習がよい。

学部別（評点の4と5とを合計した数値）

文系：文55.7%→68.7%，教54.1%→66.5%，法55.7%→58.1%，経57.1%→52.1%

理系：理47.3%→44.5%，医44.3%→44.0%，歯40.1%→55.4%，薬47.5%→51.4%，工32.7%→42.0%，農46.7%→57.8%，**獣医**56.6%→68.0%，**水産**53.0%→46.7%



学部別でも改善が明瞭である。

難易度との関連

難しい，普通がよいとよめる。

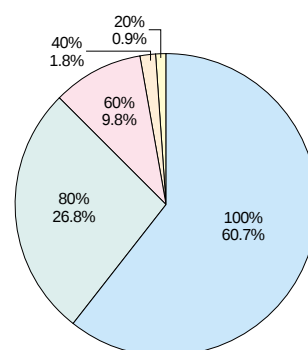
クラスサイズとの関連

クラスサイズが小さいほどよいが，100人以上のクラスもわるくない。

F出席・態度

・この授業に対するあなたの出席率は何の程度でしたか。

	60%以上	60%以下
全 体	86.0% → 87.5%	14.0% → 12.5%
全 学 教 育	89.6% → 90.4%	10.4% → 9.6%
専 門	83.6% → 85.6%	16.4% → 14.4%
言 語	93.7% → 94.4%	6.3% → 5.6%
講 義	85.4% → 86.8%	14.6% → 13.2%
演 習	91.3% → 93.2%	8.7% → 6.8%
必 修	87.9%	12.1%
選 択	86.7%	13.3%



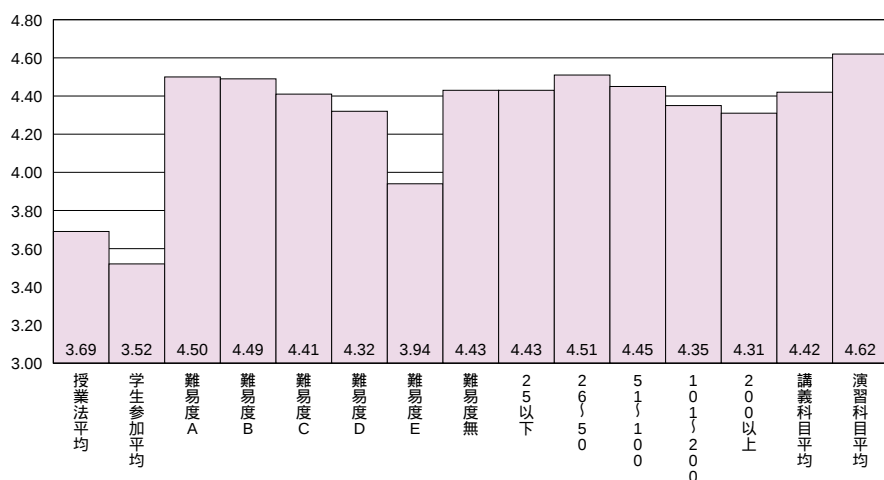
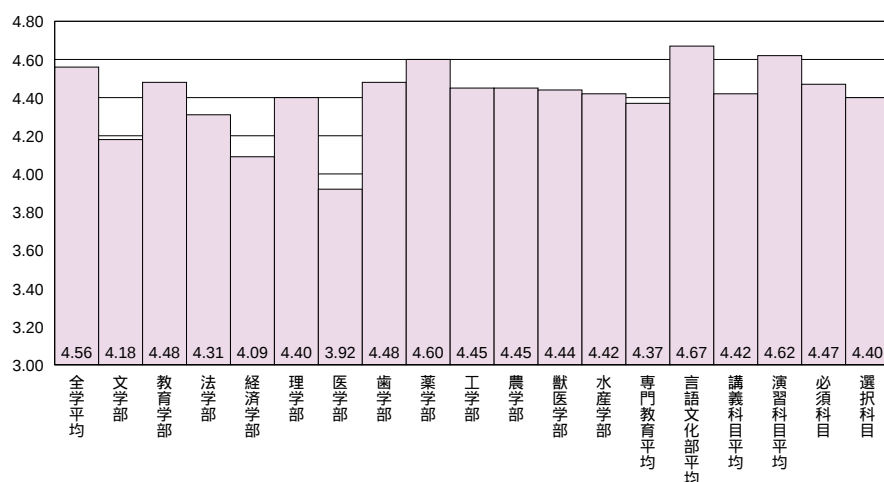
全体には，多くが6割以上出席したと答えている。講義より演習が出席がよい。語学の授業も出席がよい。

これは，学生は自分にあまく評価するということであろう。選択，必修に差はない。わずかの改善がうかがえる。

学部別（60% 以上）

文系：文78.4%→80.9%，教75.6%→94.0%，法77.3%→81.7%，経72.3%→76.3%

理系：理96.4%→86.3%，医76.9%→70.0%，歯91.4%→88.9%，薬93.4%→93.8%，工86.4%→87.9%，農85.5%→89.3%，獣医94.7%→90.2%，水産85.6%→86.7%



学部別では文系の出席は理系よりよくない。

難易度との関連

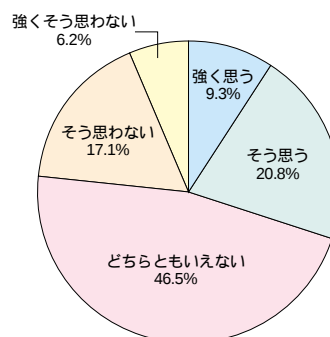
難しいとしているものほど，出席がよい。

クラスサイズとの関連

クラスサイズが小さいほど出席はよい。

・質問，発言，調査，自習などにより，自分はこの授業に積極的に参加した。

	そう思う (評点の4と5の合計)	そうは思わない (評点の1と2の合計)
全 体	23.9% → 30.1%	31.0% → 23.3%
全 学 教 育	26.7% → 31.1%	29.7% → 25.7%
専 門	22.1% → 29.4%	31.7% → 22.0%
言 語	41.0% → 45.2%	18.6% → 16.0%
講 義	21.8% → 27.8%	32.2% → 24.3%
演 習	49.0% → 51.7%	15.4% → 12.1%
必 修	30.7%	22.6%
選 択	29.1%	24.0%

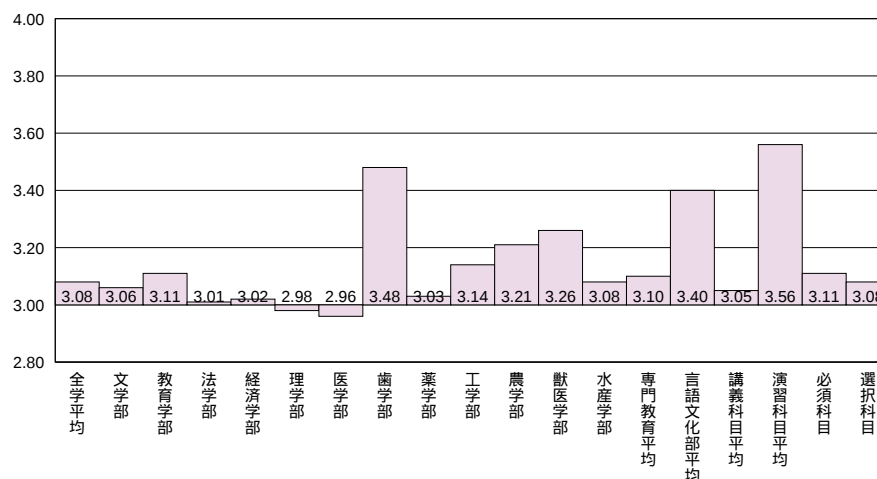


全体的に積極的に参加していないと自己批判している。前年に比べて改善している。必修，選択では差がない。

学部別（評点の4と5とを合計した数値）

文系：文24.0%→31.5%，教22.8%→30.3%，法25.2%→28.7%，経30.6%→28.2%

理系：理22.4%→25.7%，医23.5%→26.1%，歯22.5%→44.6%，薬25.5%→25.2%，工19.6%→29.4%，農18.9%→32.2%，獣医17.1%→36.1%，水産19.4%→27.3%



学部別でも共通して積極性に欠けていることは明瞭である。とくに理系では，積極的に参加したという学生は少ない。そのなかで，歯学部では積極的参加となっている。

難易度との関連

難しくても参加はしているので，難易度との関連は明瞭でない。

クラスサイズとの関連

クラスサイズが小さいものは積極的参加が多い。

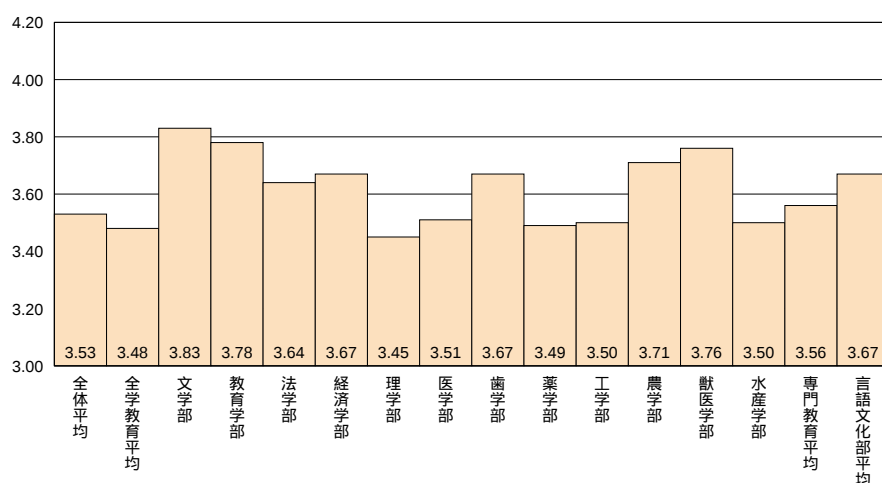
授業評価の総合評価

設問1から15までの総合評価を評価指数であらわした。

総合評価に関して、難易度については、極めて難しい・極めてやさしいを1，難しい・やさしいを3，適切を5として計算した。

その結果、総合点は、以下のようになった。

全 体	3.41→3.53
全 学 教 育	3.41→3.48
専 門	3.41→3.56
言 語	3.66→3.67



文系：文3.60→3.83，教3.49→3.78，法3.62→3.64，経3.67→3.87

理系：理3.40→3.45，医3.47→3.51，歯3.31→3.67，薬3.45→3.49，工3.27→3.50，農3.35→3.71，獣医3.45→3.76，水産3.35→3.50

以上の数値で明らかなように、すべての項目、学部で前年度より改善している。実際にはごくわずかの改善であり、有意かどうかは問題もあるが、少なくとも数値はいずれも増加している。

また、前年では、評価は、文系で理系より高かったが、本年は理系で低い学部もあるが、高い学部もあり、その差はあまり明瞭でなくなっていた。

授業評価では各評価項目の評点で授業の内容を表し、設問1から15までの総合評価を評価指数であらわすことは、あまり意味がないという意見があったが、全体を総合的に表現できる指数は有用である。今回でも総合的改善はこの数値の増加として端的に表現できた。

学生による評価と教員自己評価との比較

フィードバック用の集計表では、各教員は、自分の授業の各項目の学生による評点を各評価項目評点平均と総合評価指数で、全体平均、全学教育平均、専門教育平均、当該部局専門教育平均、講義科目平均、演習科目平均、必修科目平均、選択科目平均と比較することになる。また、自己評価の評点を学生による評点平均と比較する。

「授業アンケート」集計表（平成12年度 前期）

部局名：○○○○○ 氏 名：○○○○○		授業形態：講義		科目区分：専門科目		必須		科目名：○○○○○		提出枚数		登録学生数		提出率	
										73 /		96 (76%)			
設 問 内 容	5 (%)	4 (%)	3 (%)	2 (%)	1 (%)	無回答 (%)	平均	全体 平均	全学 教育 平均	専門 教育 平均	専門教育平 均 (当該部局)	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均
1 シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を適切に示していた。	9.59	31.51	53.42	4.11	1.37	0.00	3.44	3.58	3.54	3.61	3.53	3.56	3.74	3.53	3.65
2 授業は体系的に行われていた。	10.96	46.57	36.99	4.11	1.37	0.00	3.62	3.81	3.75	3.85	3.78	3.80	3.99	3.76	3.88
3 教官の熱意が伝わってきた。	19.18	42.46	28.77	8.22	1.37	0.00	3.70	3.87	3.82	3.90	3.83	3.85	4.11	3.81	3.95
4 教官の話し方は聞き取りやすかった。	12.33	47.94	24.66	10.96	4.11	0.00	3.53	3.69	3.65	3.72	3.69	3.66	3.96	3.61	3.79
5 授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすかった。	12.33	36.98	27.40	16.44	6.85	0.00	3.32	3.37	3.28	3.43	3.34	3.34	3.65	3.31	3.45
6 授業により知的に刺激された。	15.07	26.03	42.46	12.33	4.11	0.00	3.36	3.51	3.44	3.55	3.42	3.48	3.84	3.44	3.60
7 黒板、スライド、OHP、ビデオ、教科書、プリント等の使われ方が理解の促進に効果的であった。	2.74	24.66	52.05	17.81	2.74	0.00	3.07	3.44	3.33	3.51	3.41	3.43	3.60	3.35	3.55
8 教官は効果的に学生の参加（発言、自主的学習、作業など）を促した。	27.40	52.05	16.44	2.74	1.37	0.00	4.01	3.26	3.18	3.30	3.29	3.18	4.00	3.30	3.21
9 教官は学生の質問・発言等に適切に対応した。	16.44	42.46	34.25	4.11	2.74	0.00	3.66	3.62	3.62	3.62	3.54	3.57	4.13	3.63	3.61
10 授業の進行速度は適切であった。	16.44	23.29	45.20	10.96	4.11	0.00	3.37	3.58	3.59	3.57	3.49	3.55	3.80	3.52	3.65
11 授業で要求される作業量（レポート、宿題、自習など）は適切であった。	10.96	27.40	42.46	15.07	4.11	0.00	3.26	3.60	3.64	3.58	3.55	3.58	3.77	3.57	3.63
12 授業内容の難易度は適切であった。	16.44	38.36	43.83	1.37	0.00	0.00	3.55	3.86	3.79	3.91	3.74	3.86	3.94	3.84	3.90
13 授業の履修目標を達成できた。	5.48	27.40	56.16	6.85	4.11	0.00	3.23	3.33	3.32	3.34	3.33	3.30	3.60	3.29	3.38
14 授業内容と他の領域との関連について理解できた。	15.28	36.11	31.94	15.28	1.39	1.37	3.49	3.46	3.32	3.54	3.46	3.44	3.63	3.41	3.51
15 授業により、新しい知識、考え方、技能を習得でき、さらに深く勉強したくなった。	8.22	26.03	45.20	15.07	5.48	0.00	3.16	3.45	3.38	3.48	3.35	3.42	3.75	3.39	3.52
平 均 値	15.08	32.72	38.49	9.60	4.11	0.09	3.45	3.57	3.51	3.60	3.52	3.54	3.84	3.52	3.62
平成11年度（後期）平均値（科目名：○○○○○）	35.57	33.40	25.81	4.33	0.89	0.49	3.98	3.58	3.61	3.58	3.45	3.57	3.78	0.00	0.00
平成11年度（前期）平均値（科目名：○○○○○）	8.99	30.43	38.87	15.69	6.02	0.40	3.21	3.47	3.46	3.47	3.31	3.44	3.83	0.00	0.00
16 この授業のあなたの出席率はどの程度でしたか。	82.19	16.44	1.37	0.00	0.00	0.00	4.81	4.44	4.47	4.37	4.45	4.42	4.62	4.47	4.40
17 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。	9.59	19.18	46.57	21.92	2.74	0.00	3.11	3.09	3.11	3.10	3.14	3.05	3.56	3.11	3.08
平 均 値							3.96	3.77	3.79	3.74	3.80	3.74	4.09	3.79	3.75
平成11年度（後期）平均値（科目名：○○○○○）							3.82	3.67	3.64	3.64	3.64	3.65	4.04	0.00	0.00
平成11年度（前期）平均値（科目名：○○○○○）							3.55	3.65	3.62	3.59	3.60	3.61	4.02	0.00	0.00

教官自己評価

設 問 内 容	自己評価点	全体 平均	全学 教育 平均	専門 教育 平均	専門教育平 均 (当該部局)	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均
1 シラバスでは、授業の目標、内容、評価方法を適切に示した。	4	3.88	3.68	3.97	4.08	3.89	3.88	3.93	3.85
2 体系的に授業を行った。	4	4.07	3.93	4.13	4.21	4.11	3.83	4.08	4.05
3 学生にあなたの熱意が伝わった。	4	3.81	3.75	3.85	3.86	3.79	3.96	3.81	3.82
4 学生にとってあなたの話し方は聞き取りやすかった。	3	3.60	3.60	3.61	3.56	3.57	3.77	3.60	3.61
5 授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすい授業を行った。	5	3.79	3.65	3.85	3.90	3.78	3.81	3.87	3.71
6 知的に刺激される授業だった。	4	3.75	3.64	3.81	3.77	3.73	3.89	3.71	3.80
7 黒板、スライド、OHP、ビデオ、教科書、プリント等を理解の促進に効果的に使用した。	2	3.64	3.48	3.72	3.73	3.62	3.73	3.64	3.65
8 効果的に学生の参加（発言、自主的学習、作業など）を促した。	4	3.30	3.31	3.30	3.34	3.19	3.94	3.37	3.24
9 学生の質問・発言等に適切に対応した。	4	3.90	3.90	3.90	3.84	3.84	4.20	3.96	3.82
10 授業の進行速度は適切であった。	2	3.55	3.56	3.55	3.49	3.52	3.73	3.55	3.54
11 授業で要求した作業量（レポート、宿題、自習など）は適切であった。	3	3.57	3.50	3.61	3.69	3.52	3.86	3.58	3.57
12 授業内容の難易度は適切であった。	3	4.11	4.13	4.10	4.12	4.12	4.03	4.13	4.08
13 授業の目標を達成できた。	2	3.69	3.60	3.75	3.76	3.69	3.73	3.69	3.70
14 授業内容と他の領域との関連について理解させることができた。	3	3.61	3.31	3.75	3.71	3.63	3.54	3.61	3.62
15 授業により、学生は、新しい知識、考え方、技能を習得し、さらに深く勉強したくなった。	3	3.51	3.45	3.54	3.50	3.47	3.76	3.44	3.58
平 均 値	3.33	3.72	3.64	3.77	3.78	3.70	3.85	3.74	3.71
16 この授業の学生の出席率はどの程度でしたか。	5	3.93	3.88	3.86	3.87	3.85	4.38	4.04	3.82
17 学生は、質問、発言、調査、自習などにより、この授業に積極的に参加した。	2	3.10	2.96	3.07	2.98	2.99	3.69	3.11	3.09
平 均 値	3.50	3.52	3.43	3.47	3.43	3.42	4.04	3.58	3.46

評価については次のとおりとする。

設問1～11、13～15、17：「5・4・3・2・1」は、「強く思う・そう思う・どちらともいえない・そう思わない・強く思わない」を意味する。

設問12：「5・4・3・2・1」は、「A極めて難しい・B難しい・C適切・Dやさしい・E極めてやさしい」を意味する。

なお、各教官の設問1～15の平均値を算出するために「C-5・BとD-3・AとE-1」として計算した。

設問16：「5・4・3・2・1」は、ほぼ「100%・80%・60%・40%・20%」を意味する。

学生による評点平均と自己評価評点平均を全評価科目の全体平均で比較すると、「シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を適切に示した」「授業は体系的であった」「授業は難解な概念、理論があっても、わかりやすかった」「授業により知的に刺激された」「メディアの使われ方が理解の促進に効果的であった」「教官は効果的に学生の参加を促した」「教官は学生の質問・発言に適切に対応した」「授業内容の難易度は適切であった」など、一般に学生による評価が、0.1から0.2ほど低く評価していた。総合評価指数も、学生の方が0.2ほど低かった。また、全学教育平均、専門教育平均、当該部局専門教育平均、講義科目平均、必修科目平均、選択科目平均でも0.2ほ

ど学生によるものが低かった。

一方、全体平均の「教官の熱意が伝わってきた」「教官の話し方は聞き取りやすかった」「授業の進行速度は適切だった」「授業で要求される作業量は適切であった」は学生による評点の方がよかった。さらに、演習科目平均の総合評点は学生と教官のものとほぼ同様であった。

教員自己評価の評点は、学生によるものよりは低いと予想した。自分を客観視するときのことを自分中心よりは控えめの評価をすると考えたからである。しかしながら、一般には、学生の評価より高い自己評価となった。これは、客観視するとき、いわゆるまじめな学生の立場にたつためと思われる。しかし、クラスでの平均は、その他の学生の評点もはいるので、低くなる。一方、学生への授業パフォーマンス、負担は学生の方が評点が高い。これは教員の方がかなり控えめな評価をしているとともに、学生は教員が想像するよりは、授業進行を肯定的にとっている。演習が学生と教員との評点が同様であるのは、双方向性、相互理解の距離が近いためと思われる。

いずれにせよ学生による評価と教員自己評価との比較では、両者におおきなずれがなく、学生は授業をむしろ肯定的にとらえていることがわかる。

評定平均の度数分布

この学生による授業評価では、前年では、自らの総合評価指数を全体平均、全学教育平均、専門教育平均、当該部局専門教育平均、講義科目平均、演習科目平均、必修科目平均、選択科目平均と比較して位置づけを類推した。今回は、もっと直接的に位置づけを知るために、度数分布と順位を示した。

平成12年度（前期）授業アンケート評点平均の度数分布図

部局名 ○ ○ ○ ○ ○ 氏名 ○ ○ ○ ○ ○
授業の形態：講義 科目区分：専門科目 必須・選択 必須 科目名：○ ○ ○ ○ ○ 提出枚数／登録学生数（提出率）：73／96（76.04％）

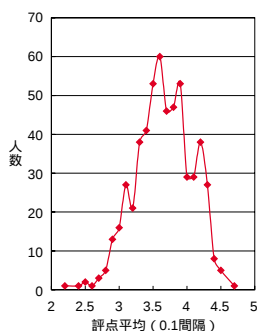
あなたの評点平均：3.45

評点平均の順位

(1) 全体での位置付け

565名中366位

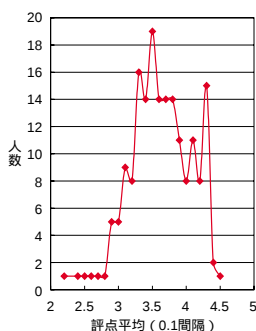
(最高値：4.6，最低値：2.15)



(2) 全学教育での位置付け

名中 位

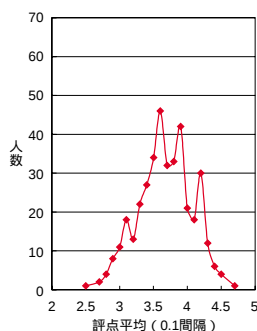
(最高値： ，最低値：)



(3) 専門教育での位置付け

385名中262位

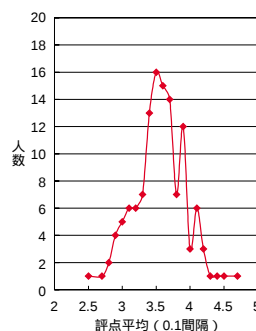
(最高値：4.6，最低値：2.49)



(4) 専門教育（当該部局）での位置付け

125名中72位

(最高値：4.6，最低値：2.49)

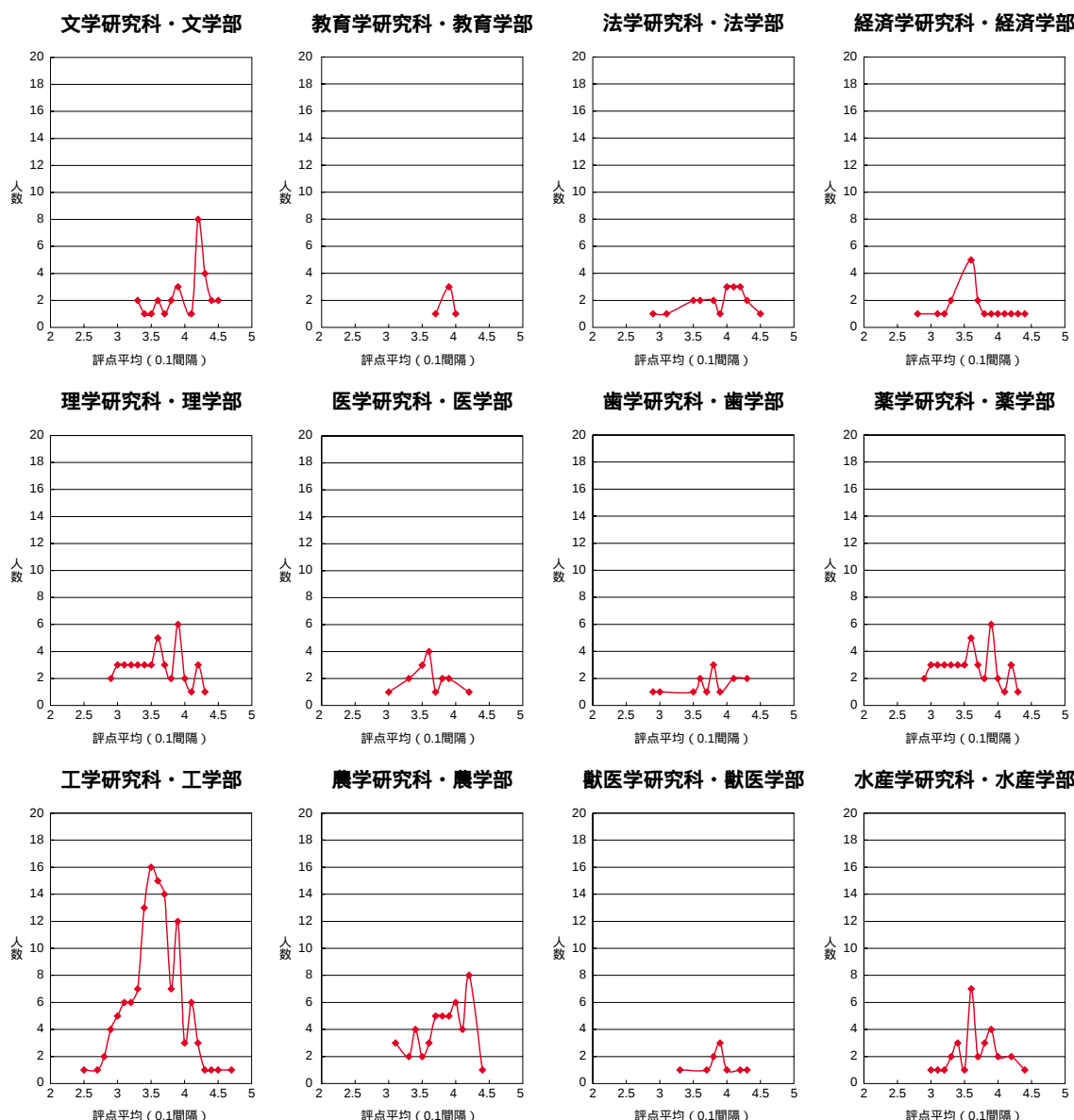


この度数分布では、評価を受けた科目全体、全学教育科目、専門科目、当該部局専門科目の総合評点度数分布、最高値と最低値、該当科目数のうちの順位、たとえば、評価を受けた科目全体の数 ○ ○ 中 ○ 位 として、位置づけを明確にし、各教員にフィードバックされた。これにより各教員は、自らの位置づけを明確に把握できた。

ここでは、度数分布を比較する。

度数の幅は評点平均 0.1 でグラフとした。幅の取り方と関連して、多少の凹凸があるが、全体的には正規分布のグラフとなっていた。各部局の専門科目のグラフは、ときに科目数が少なく、度数分布としては形が悪いが、それでも全体での位置づけを見るには十分であった。また、各部局の専門教育科目に対する評価も平均点のみによるよりは、多様な情報を読みとれた。全体的にみると評点が3.0～4.0に入るものが多く、4.0以上は勝れている、3.0以下は改善を要すると読むこともできる。

部局ごとの専門教育科目の度数分布図



自由意見の解析

今回は授業アンケートに述べられた学生の自由意見から、一般化できる点を抽出し、授業の改善法としてまとめた。その際、各意見は境なしに羅列されていたので、授業を特定できない形であった。ここでは同じ授業に対しては、同じような意見が羅列されるはずであるので、今回は授業別に意見を区分けして整理した。

自由意見は、教員に反発を生むような意見もあるけれども、教員にとって授業改善に最も参考になる。一方、第三者からみても、とくに、今回のように授業別に分けると、意見はその授業の性格を具体的にあらわすもので、授業の現場が具体的にイメージされ、評価の参考になることがわかった。これを各授業評価のデータとともに部局にわたすと、授業改善には大きく貢献すると思われる。

各授業別の意見をいくつかのキーセンテンスでまとめると、各授業の特徴を表現するのに有用であろう。米国の大学では、教育業績評価にポートフォリオ（ここでは教育への貢献を示す資料およびその説明文のファイル）が日常的に活用されている。学生の意見は、授業に対する学生の反応の具体的表現例としてポートフォリオに引用できると思われる。

アンケート結果の公表について

今日、日本の大学において200大学以上が学生による授業評価を行っている。しかし、その結果を公表している大学はきわめて少ない。公表の形には、教員名をふせ、授業名での公表と教官名をいれた全面公表がある。教官名を特定できる公表では、アンケート前に公表をしても差し支えない旨の意思を確認して実施している。

平成11年度からの北海道大学の「授業アンケート」は、教員の自己申請による教育業績評価と対になっている。教育業績評価は含む総合業績評価の一部とされ、平成11年にはデータの解析、平成12年には印刷物によって公表される。

これらの総合業績評価の基本的考えは、それぞれにかかわるデータの開示である。

一般に、研究業績評価は行われているが、教育業績評価は難しいといわれている。しかし、現在、研究業績評価といっても、大学全体では、いわゆる研究業績リストの提出である。異なる分野間で研究業績を容易に比較できないのは明かである。北海道大学は、平成6年にこのことを確認し、分野や機関によって異なる研究業績は一律には比較できないが、データは開示できるとして、研究業績データのデータベース化をすすめた。平成8年に提案され、平成11年から実施されている教育業績評価も同様の考えによる。

一方、学生による授業評価は、点検評価委員会が発足した平成4年から検討され、平成5年に試行した。修学態度の悪い学生は正しく評価できないのではないかという議論があり、このような学生と修学態度のよい学生との評価を比較することも行われた。しかし、実際には両群の学生による評価に有意の差がなく、平成6年に本実施となった。しかし、それでもまだ、授業評価の前にまず学生の受講態度についての自己評価をさせて、そして教員の授業を評価するというアンケ

ート構造となっていた。

平成11年度から毎年実施することになった「授業アンケート」は、学生を信頼することを基本にしている。アンケートの最後に学生の授業への出席と授業への積極的参加態度を質問しているが、授業評価の内容を解析する参考のためである。

学生による評価データの信頼性と授業改善への有効性

公表を論じるとき、常に現代の学生気質が問題とされる。アンケートに不真面目に答えている、授業態度が悪い、学修の目的意識が希薄である、学修意欲もない、楽して卒業することのみ考えている、そんな学生による授業評価には意味がないなどの意見が教員からでてくる。このような学生は少なからずいることは確かであり、学生による評価データの信頼性が問われる。しかし、このような学生の評価は、全体の集計結果にはあまり大きな影響がなく、これらの授業アンケートは授業改善に有用であるとの結論は、すでに以前の試行、本実施、教員のリスポンス調査で明確にできたことである。

また、評価を気にして、学生も教員も安きに流れるかもしれない、受験産業に利用されるかもしれない、教員が結果に反発して授業における信頼関係が崩れるかもしれないなどの意見もある。また、公表について全学的な意見を集約することも必要である、これには必ず反対の意見があるので、意見にもとづいては公表ということはいつまでたっても至らない、公表には大学としてどのような方向にもってくるべきかという考え方による、公表に同意した教員の授業から公表する、などの意見もあった。公表に際しては、これらの意見を慎重に考慮する必要がある。

今回のアンケートは、昨年から1年しかたっていないので、ほとんど変化がないと予想されていたが、いずれの項目も総体的には改善を示していた。このようなアンケートをすることは、授業改善に結び付くことがすでに証明されたといってもよい。データは改善をかなり鋭敏に反映するとみなされる。

授業アンケート公表の必要性

現在、大学の社会的責任、納税者への説明責任として、様々な情報が開示される方向となっている。各授業は、大学、学部の社会的責任のひとつである。授業は、担当教官個人に属しているのではなく、大学、学部に属する。どのような授業が行われているかは、社会に公表されることが望ましい。授業内容の公開の一つの方法は、シラバスの公開である。一方、学生による授業アンケートの結果は授業の質を反映し、授業改善のためになる。アンケート結果が公開されず、履修の参考にされないならば、学生はまじめに応えなくなる、授業アンケートに意味を見いだせなくなるという意見もある。全面公開は学生と教員との信頼関係と、授業改善への共同作業が前提となる。各評点を公表することは、その授業の一面を示すデータの公開であり、これにより教員相互、学生と教員による相互作用が生まれ、授業が改善されるのであれば、公表することが望ましい。

公表のメリット

授業アンケート公表にはつぎのようなメリットが考えられる。横並びの公表では、同時に多くの授業の内容も知ることになり、他と対比することで、授業改善の方向付けが明確になってくる。そのため各教員の意識が高まり、授業改善、教育の活性化が生まれる。教員が授業法や教室運営

法をより強く意識し、学生と教員とのあるべき関係に対してもより深くかかわるようになる。学生、教員ともに、より真剣に授業にかかわることになる。カリキュラムの改善に結び付く有用なデータとなる。

公表する場合の留意点、問題点

授業アンケートの数値（データ）は、そのみで授業の質、教員の授業力を直接的にあらわすものではない。授業評価の数値は、学問の内容、授業の種類、選択・必修の別、大人数クラスか、少人数クラスかの別、その他多くの要素で異なる。数値のみで異なる授業を比較することは正しくない。数値のみが一人歩きすることは避けなければならない。したがって、公表にあたっては、誤解のないような説明が必要となる。また、公表ということで、授業アンケートに参加しない教員がふえる可能性もある。依然として、上にのべたような恐れ危惧をいただく教員は少なくないであろう。

しかし、数値は、授業の質の改善でも変化する。同じ授業であれば、数値の変化は授業改善のよい指標となる。また、同じような授業であれば、数値の高い方が質の高い授業といっていよい。

公表の方法

授業アンケートの目的は、組織としての授業力の改善、教育改善にある。北海道大学としては、この調査結果を単に各教員の個人データとして埋もれさせることなく、組織として公開すべきであるという意見もある。公表に際しては、以下のことに留意する必要がある。

- 1) 数値の意味を明記する。数値は多様な要素で変動するものであり、総点が単純にランキングを示すものではないことも説明する。授業の種類、規模も示す。
- 2) 最初の段階としては、授業名でデータを公表する。
- 3) 学部によって授業形態が異なるので、学部別にする。
- 4) 各授業では、各設問に対する平均評点と総合評価指数を公表する。
- 5) 自由意見は、かなり問題の発言、誤解をまねく発言もあるので公表しない。
- 6) 公表にさいして、教員がその授業についての短い説明をくわえるのもわかりやすい。

今年度は、各授業のアンケートの結果を担当教官名入りで、各部局長および教務委員長にわたし、その活用は各部局に任せる。

授業アンケート結果のランキングについて

授業アンケートでは、その評点により、その年の最良教員を表彰しようということが検討されている。また、点数により、教育予算配分も検討しようという考えもある。では、評点のみで比較できるであろうか。そこで、今回は、平成11年後期と平成12年前期のベスト10とワースト10について調査し、その内容を解析した。ここでは、評点、学生人数と出席率、授業内容を示すキーワードで比較した。

平成11年後期 ベスト10

順位	評点	出席学生数/登録学生数	授業内容
1	4.63	12/12	文系専門演習
2	4.61	20/28	理系専門演習
3	4.60	2/2	全学理系演習
4	4.48	4/4	特殊語学
5	4.46	17/18	文系専門演習
6	4.44	3/5	専門語学
6	4.44	13/18	文系専門演習
8	4.41	15/15	文系専門
9	4.37	5/5	語学
10	4.36	7/10	文系専門

平成12年前期ベスト10

順位	評点	出席学生数/登録学生数	授業内容
1	4.60	42/45	理系専門
2	4.46	10/13	文系演習
3	4.45	16/18	文系演習
4	4.42	14/30	文系演習
5	4.41	13/15	全学演習
5	4.41	34/49	理系専門
7	4.40	13/20	全学演習
8	4.39	12/14	文系演習
8	4.39	46/50	理系専門
10	4.36	11/20	文系演習

平成11年後期ワースト10

順位	評点	出席学生数/登録学生数	授業内容
1	2.37	38/49	全学理科
1	2.37	33/55	全学理科
3	2.54	60/67	理系専門数学
4	2.60	31/27	全学語学
5	2.61	32/50	全学数学
6	2.66	50/85	理系専門理科
7	2.68	12/20	理系専門数学演習
8	2.73	33/60	全学理科
9	2.74	32/40	全学数学
10	2.75	57/100	理系専門数学

平成12年前期ワースト10

順位	評点	出席学生数/登録学生数	授業内容
1	2.15	38/50	全学理科
2	2.30	30/70	全学数学
3	2.42	46/55	全学理科
4	2.49	56/67	理系専門 理科
5	2.55	41/50	全学数学
6	2.65	46/72	全学数学
7	2.67	37/60	理系専門 理科
8	2.68	45/120	理系専門 理科
9	2.73	30/50	理系専門 理科
10	2.74	7/80	理系専門 理科

ベスト10では、理系の適当な人数の講義形式の授業もいくつかはみられ、これは適当な人数の一般的な授業としてある質を表しているとみなされる。しかし、多くは演習形式で、しかも文系の授業が多い。また、きわめて少人数の授業もある。一方、ワースト10では、ほとんどすべてが理系の物理、化学、数学の授業である。これらからみると単に数値のみのランキングでは問題が多いことが明らかである。数値のみではランキングを判断できず、その年の最良教員を判定するためには、内容についてかなり詳細な解析が必要である。これも数値のみでは授業の内容の比較ができないことを示す。現段階では、その年の最良教員を決めることはできない。ランキングを問題とすると、授業の規模（学生数）、詳細な内容、専門性も考慮しなければならない。

この授業アンケートは、いくつかの授業を担当している教員が、一般には、どれかひとつの授業をえらんで、アンケートを受ける。したがって、その授業の評価であって、その教員の総合的な質をあらわすものではない。教員個人の評価というのであれば、すべての授業のアンケートを受けて、総合的に評価されるべきとなる。このときには、実習等もアンケートの対照としなければならない。

一方、今回のように1科目をえらぶ方法で、最良授業という視点でランキングはできるであろう。しかし、これには、上記のように授業の種類、規模、専門的内容、学生数なども考慮しなければならない。分野別、授業の種類別、授業の規模別などに分けて順位付けすることも考慮しなければならない。

いづれにせよ、授業評価のランキングにより、予算配分が異なるというような実質をとまなう

ことも考慮して公正なランキングをするには、まだ多くの検討を必要とする。現実には、授業評価の内容も含む教育業績評価による評価が必要となろう。

この際も、単なる評点ではない総合的判定をすることになり、ここではその大学、機関の理念・目標（目的・目標）にそった貢献度が問題となろう。その大学、機関の向かうべき方向を踏まえてのリーダーシップによる評価を行うことが、組織的活性化に結びつくのでないか。

次回への分析の提案

今回の授業アンケートでは、前回の授業アンケートの結果と比較し、変化を解析した。しかし、1年分のデータでなく、平成11年前期と比較できる平成12年前期のデータを比較した。次年度には1年分のデータを比較できる。また、平成12年度には必修、選択を解析した。一方、学部別に講義・演習、必修・選択の比率を求め、これを比較して解析することも必要であろう。

今回と同様の分析にはつぎの点が改善される。

- 1) 次年度は、今回と同様の内容として、1年分を集計し、比較する。
- 2) 学部別に、講義・演習、必修・選択を区別し、集計する。また、それぞれの授業数、比率も比較する。
- 3) 授業法・授業形態も解析する。たとえば、全学教育についてのさらに細かい分類（教養科目の各分野、一般教育演習など、学生に発言を促す工夫、宿題およびその種類、視聴覚教材の利用とその種類、試験回数、評価方法などである。
- 4) 自由意見を授業ごとに区切り、各授業内容をいくつかのキーセンテンスでまとめる。
- 5) 公表についてさらに検討する。
- 6) 公表に際して、教員は授業の内容、目標、工夫、所見などを説明する。すなわち、難しくても仕方がない科目もあるので、教員側からの説明を可能にしておく。
- 7) ランキングについてさらに解析する。授業評価の結果を教員の教育業績にいれようという考えがあるので、公平な比較をどのように行うかが重要となる。教員個人評価となるとすると、担当のすべての科目の授業アンケートも必要であるし、教員がそれぞれの授業をアピールする説明資料（ポートフォリオ）も必要となろう。ポートフォリオは、米国の大学の教育業績評価では一般的となっている。北海道大学の教育業績評価では、授業についてのデータ、教育改善への積極的努力が申請されている。同時に教育についてのアピールを記載するポートフォリオを加える必要があろう。すなわち、ポートフォリオは授業アンケートでなく、教育業績評価資料の一環として扱うのが妥当かもしれない。また、授業アンケートの結果は、教育業績評価資料の一つに加えるとも可能である。

教育業績評価の資料としては、すでにA) 授業実績データ、B) 教育改善、資質開発への努力が公表されることになっている。これにC) 各教員の教育抱負や授業方向などの説明、授業への学生の評価や意見も加えて、教育業績評価をしていくことになる。ここでは各項目での評点化も検討しなければならない。

継続的点検評価には、各年度かぎりでの点検評価委員会では対応できないので、教育評価法の研究も行う「高等教育機能開発総合センター・高等教育開発研究部」と連携する必要がある。

関連文献

- ・平成4年度北海道大学年次報告書（1993）
- ・平成5年度北海道大学年次報告書（1994）
- ・平成6年度北海道大学年次報告書（1995）
- ・平成7年度北海道大学年次報告書（1996）
- ・平成8年度北海道大学年次報告書（1997）
- ・平成9年度北海道大学年次報告書（1998）
- ・平成10年度北海道大学年次報告書（1999）
- ・平成11年度北海道大学年次報告書（2000）
- ・北海道大学学生生活実態調査報告書（1998）
- ・平成7年度北海道大学年次報告書（1996）「学生による教育指導の調査の総括－教官からの評価」
p23 - 60
- ・阿部和厚（1996）「大学における教授法の研究」『高等教育ジャーナル』1:170 - 189
- ・阿部和厚（1997）「北海道大学における教育業績評価法の確立へ」平成8年度北海道大学年次報告書p15 - 31
- ・阿部和厚，小笠原正明，西森敏之，細川敏幸（1997）「北海道大学における教育業績の評価法」
高等教育ジャーナル 2:143 - 162
- ・平成9年度北海道大学年次報告書（1998）「学業成績評価について」p1 - 125
- ・阿部和厚（1998）「教育の生産性とその評価」高等教育ジャーナル3:138 - 142
- ・阿部和厚（1999）「北海道大学におけるFD－教育機関としての戦略」IDE 412:24 - 28
- ・阿部和厚，小笠原正明，西森敏之，細川敏幸，高橋伸行，高橋宣勝，大崎雄二，小林由子，山鋪直子，大滝純司，和田大輔，佐藤公治，佐々木市夫，寺沢浩一（1998）「大学における学生参加型授業の開発」高等教育ジャーナル 4:45 - 65
- ・阿部和厚，西森敏之，小笠原正明，細川敏幸，高橋伸幸，高橋宣勝，小林由子，山鋪直子，大滝純司，和田大輔，佐藤公治，佐々木市夫（1999）「大学における学生参加型授業の開発（2）」
高等教育ジャーナル 6:156 - 168
- ・阿部和厚，西森敏之，小笠原正明，細川敏幸，大滝純司（2000）「北海道大学FDマニュアル」
高等教育ジャーナル7:29 - 125

平成11年度（後期）

1 「シラバスとその内容」について

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言 語 文化 部 平 均
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産			
1 シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を適切に示していた。	5	14.38	18.85	23.40	14.88	21.34	21.70	10.25	10.20	11.01	10.24	10.42	14.78	6.68	15.38	13.16	21.11	
	4	34.08	36.06	38.66	41.00	47.36	43.07	29.62	32.65	34.22	33.94	29.48	33.61	21.62	35.77	33.66	38.41	
	3	46.04	38.77	31.56	40.99	27.46	32.08	54.56	45.38	49.46	52.00	54.20	48.40	64.67	44.72	48.08	34.60	
	2	4.09	3.93	4.61	2.87	3.24	2.52	4.74	8.63	4.13	3.36	4.41	2.72	5.45	3.44	4.05	3.48	
	1	1.41	2.39	1.77	0.26	0.60	0.63	0.83	3.14	1.18	0.46	1.49	0.49	1.58	0.69	1.05	2.40	
	無回答	1.84	0.81	2.42	1.79	2.11	1.55	3.04	3.19	0.97	3.25	1.67	1.84	2.40	1.83	2.13	0.90	
	平 均	3.55	3.65	3.77	3.67	3.85	3.82	3.43	3.38	3.49	3.50	3.42	3.59	3.26	3.61	3.53	3.72	
	5	24.51	27.10	37.85	21.34	39.18	33.28	23.68	15.73	14.72	18.40	21.50	29.35	17.15	22.47	23.81	30.76	
2 授業は体系的に行われていた。	4	41.11	40.26	38.54	48.58	41.87	42.77	42.05	35.87	39.38	47.62	39.34	41.06	43.74	42.64	41.47	40.54	
	3	26.87	24.80	19.44	26.22	14.24	17.73	25.81	32.52	36.74	27.60	32.13	23.76	28.64	28.37	27.43	20.97	
	2	6.09	5.71	4.17	3.86	4.24	5.44	7.60	12.06	7.31	6.23	5.76	5.05	8.58	5.51	6.19	4.52	
	1	1.42	2.13	0.00	0.00	0.47	0.78	0.86	3.82	1.85	0.15	1.27	0.78	1.89	1.01	1.10	3.21	
	無回答	0.25	0.19	0.35	0.26	0.23	0.46	0.29	0.46	0.10	0.30	0.44	0.15	0.00	0.19	0.26	0.25	
	平 均	3.81	3.84	4.10	3.87	4.15	4.02	3.80	3.47	3.57	3.77	3.74	3.93	3.65	3.80	3.80	3.91	
	5	19.48	22.99	30.70	18.13	30.34	27.52	17.06	13.00	12.87	14.38	15.99	22.13	11.98	18.96	18.53	25.95	
	4	37.63	38.17	38.59	44.82	44.61	42.93	35.92	34.29	36.81	40.89	34.44	37.36	32.81	39.23	37.60	39.48	
設問1, 2の合計	3	36.38	31.76	25.44	33.55	20.78	24.86	39.98	38.86	43.07	39.61	43.10	35.97	46.44	36.48	37.66	27.76	
	2	5.10	4.82	4.39	3.37	3.74	3.99	6.19	10.37	5.73	4.82	5.09	3.90	7.03	4.48	5.13	4.00	
	1	1.41	2.26	0.88	0.13	0.53	0.70	0.85	3.48	1.52	0.30	1.38	0.64	1.74	0.85	1.08	2.81	
	無回答	1.04	0.50	1.38	1.03	1.17	1.01	1.67	1.82	0.54	1.78	1.06	0.99	1.20	1.01	1.20	0.57	
	平 均	3.68	3.74	3.93	3.77	4.00	3.92	3.62	3.43	3.53	3.64	3.58	3.76	3.46	3.71	3.67	3.81	
	5	19.48	22.99	30.70	18.13	30.34	27.52	17.06	13.00	12.87	14.38	15.99	22.13	11.98	18.96	18.53	25.95	
	4	37.63	38.17	38.59	44.82	44.61	42.93	35.92	34.29	36.81	40.89	34.44	37.36	32.81	39.23	37.60	39.48	
	3	36.38	31.76	25.44	33.55	20.78	24.86	39.98	38.86	43.07	39.61	43.10	35.97	46.44	36.48	37.66	27.76	

2 「教官の授業法」について

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言 語 文化 部平 均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	クラスサイズ（人）					アンケート提出率（％）				
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	～25					26-50	51-100	101-200	201～	～20	21-40	41-60	61-80	81-100	
3 教官の熱意が伝わってきた。	5	29.79	32.41	45.49	38.05	40.96	36.12	27.60	28.40	19.20	26.67	25.99	29.19	26.42	28.33	28.84	40.18	29.10	42.12	42.92	29.33	28.09	30.42	31.64	46.82	34.18	29.85	25.25	32.54	
	4	37.37	35.20	37.15	42.93	36.38	38.77	38.30	38.93	35.96	40.58	35.29	39.58	39.79	41.03	38.28	36.32	37.60	32.57	35.71	38.74	36.28	37.91	37.75	30.06	37.62	36.68	38.09	37.41	
	3	25.02	23.18	12.50	16.45	17.49	19.53	25.30	26.41	36.26	25.93	28.15	25.21	26.76	24.66	25.58	17.01	25.40	18.62	16.59	24.23	26.73	25.31	24.59	14.45	22.56	24.52	27.88	23.37	
	2	6.00	6.57	4.17	2.57	4.11	4.34	6.90	5.34	6.92	5.63	7.97	5.00	5.83	4.58	5.80	4.93	6.09	4.49	4.00	6.12	6.54	4.64	5.50	6.36	4.63	6.49	6.75	5.30	
	1	1.82	2.64	0.69	0.00	1.06	1.24	1.90	0.92	1.66	1.19	2.60	1.02	1.20	1.40	1.50	1.56	1.81	2.20	0.78	1.58	2.36	1.72	0.52	2.31	1.01	2.46	2.03	1.38	
	無回答	0.13	0.14	0.35	0.26	0.00	0.15	0.11	0.46	0.10	0.15	0.17	0.10	0.00	0.05	0.12	0.16	0.12	0.10	0.10	0.10	0.16	0.16	0.09	0.57	0.00	0.12	0.18	0.12	
4 教官の話し方は聞き取りやすかった。	平均	3.87	3.88	4.22	4.16	4.12	4.04	3.82	3.88	3.64	3.85	3.74	3.90	3.84	3.90	3.87	4.08	3.86	4.07	4.16	3.88	3.81	3.90	3.94	4.12	3.99	3.85	3.77	3.94	
	5	26.71	30.02	42.25	29.05	34.04	36.79	25.33	25.19	17.82	14.07	23.11	28.81	19.55	26.30	25.56	36.51	26.13	37.73	38.78	26.66	24.87	27.86	27.34	30.46	28.03	29.27	22.06	29.22	
	4	34.12	34.62	32.04	38.57	29.81	34.63	31.53	35.72	30.77	35.26	30.90	36.93	36.54	37.51	34.03	36.34	34.05	33.05	33.01	35.92	32.24	34.33	37.49	32.19	35.52	31.78	34.40	34.97	
	3	25.40	22.71	18.66	22.62	19.25	17.86	27.34	31.15	34.27	28.89	28.71	22.55	26.76	26.25	26.36	16.49	25.74	20.02	20.67	24.86	26.52	25.00	25.45	24.71	22.90	23.28	28.50	24.32	
	2	10.50	8.70	5.99	9.25	10.21	9.63	12.41	6.72	14.90	18.67	12.67	9.28	12.86	8.25	11.05	6.23	10.86	4.79	6.27	9.47	12.56	9.22	7.91	8.62	11.45	11.12	11.71	9.06	
	1	3.27	3.95	1.06	0.51	6.69	1.09	3.39	1.22	2.24	3.11	4.61	2.43	4.29	1.69	3.00	4.43	3.22	4.41	1.27	3.09	3.81	3.59	1.81	4.02	2.10	4.55	3.33	2.43	
5 授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすかった。	無回答	0.12	0.07	1.73	0.26	0.00	0.31	0.00	0.46	0.00	0.15	0.00	0.15	0.00	0.05	0.12	0.00	0.10	0.38	0.49	0.06	0.11	0.16	0.09	0.00	0.00	0.12	0.16	0.10	
	平均	3.70	3.78	4.08	3.86	3.74	3.96	3.63	3.76	3.47	3.38	3.55	3.80	3.54	3.78	3.68	3.94	3.69	3.94	4.01	3.73	3.61	3.73	3.80	3.76	3.75	3.70	3.60	3.79	
	5	15.48	18.12	24.39	12.56	21.60	18.82	14.47	15.11	10.24	4.15	12.29	18.24	9.47	16.92	14.74	23.32	15.21	20.46	22.27	16.04	13.64	18.19	14.70	15.52	12.74	17.23	12.26	17.81	
	4	31.23	30.58	35.89	34.36	33.57	31.10	28.99	33.44	28.10	32.89	27.31	32.59	33.91	36.15	31.51	35.79	30.99	33.37	33.10	32.33	29.51	32.36	33.36	27.01	30.89	31.04	29.75	32.76	
	3	35.21	31.53	24.04	34.88	30.16	31.73	33.77	39.08	45.46	40.30	39.07	35.89	39.58	33.01	36.28	27.67	35.55	29.73	32.62	33.71	37.02	33.35	36.46	32.18	37.13	32.33	37.01	35.01	
	2	13.97	13.92	13.24	15.38	11.62	12.60	17.29	10.84	14.05	18.81	16.74	11.38	13.94	11.12	13.99	8.70	14.20	10.99	10.64	13.77	15.10	12.40	12.81	21.84	15.02	14.10	16.23	11.69	
設問3, 4, 5の合計	1	4.11	5.85	2.44	2.82	3.05	5.75	5.48	1.53	2.15	3.85	4.59	1.90	3.10	2.80	3.48	4.52	4.05	5.45	1.37	4.15	4.73	3.70	2.67	3.45	4.22	5.30	4.75	2.73	
	無回答	0.23	0.10	0.69	0.00	0.00	0.46	0.34	0.46	0.19	0.15	0.24	0.24	0.34	0.19	0.26	0.08	0.23	0.19	0.19	0.22	0.26	0.21	0.09	0.00	0.25	0.12	0.34	0.19	
	平均	3.40	3.41	3.66	3.38	3.59	3.44	3.29	3.49	3.30	3.14	3.26	3.53	3.32	3.53	3.40	3.64	3.39	3.52	3.64	3.42	3.32	3.48	3.44	3.29	3.32	3.40	3.28	3.51	
	5	24.00	26.85	37.37	26.54	32.20	30.59	22.47	22.90	15.76	14.96	20.47	25.42	18.49	23.85	23.05	33.33	23.48	33.44	34.66	24.01	22.20	25.49	24.56	30.91	24.99	25.45	19.86	26.52	
	4	34.24	33.46	35.04	38.61	33.25	34.84	32.94	36.04	31.61	36.25	31.17	36.37	36.75	38.24	34.61	36.16	34.21	32.99	33.94	35.67	32.68	34.87	36.21	29.75	34.69	33.17	34.08	35.06	
	3	28.54	25.81	18.39	24.66	22.30	23.03	28.80	32.21	38.66	31.70	31.97	27.88	31.02	27.97	29.40	20.39	28.90	22.79	23.29	27.60	30.09	27.89	28.83	23.80	27.52	26.71	31.13	27.56	
設問3, 4, 5の合計	2	10.15	9.73	7.80	9.08	8.65	8.85	12.20	7.63	11.96	14.37	12.46	8.55	10.88	7.98	10.28	6.62	10.38	6.76	6.97	9.78	11.40	8.75	8.74	12.28	10.36	10.57	11.56	8.68	
	1	3.07	4.15	1.40	1.11	3.60	2.69	3.59	1.22	2.01	2.72	3.93	1.78	2.86	1.96	2.66	3.50	3.03	4.02	1.14	2.94	3.63	3.00	1.66	3.26	2.44	4.01	3.37	2.88	
	無回答	0.16	0.10	0.92	0.17	0.00	0.31	0.15	0.46	0.10	0.15	0.14	0.16	0.11	0.10	0.17	0.08	0.15	0.22	0.26	0.13	0.18	0.17	0.09	0.19	0.08	0.12	0.22	0.14	
	平均	3.65	3.69	3.99	3.80	3.81	3.81	3.58	3.71	3.47	3.46	3.51	3.75	3.57	3.74	3.65	3.89	3.64	3.85	3.94	3.68	3.58	3.71	3.73	3.72	3.69	3.65	3.55	3.75	
	5	24.00	26.85	37.37	26.54	32.20	30.59	22.47	22.90	15.76	14.96	20.47	25.42	18.49	23.85	23.05	33.33	23.48	33.44	34.66	24.01	22.20	25.49	24.56	30.91	24.99	25.45	19.86	26.52	
	4	34.24	33.46	35.04	38.61	33.25	34.84	32.94	36.04	31.61	36.25	31.17	36.37	36.75	38.24	34.61	36.16	34.21	32.99	33.94	35.67	32.68	34.87	36.21	29.75	34.69	33.17	34.08	35.06	

4 「作業量・負担」について

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均																専門 教育 平均	言語 文化 部 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	クラスサイズ（人）					アンケート提出率（％）				
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	～25	26～50	51～100	101～200					201～	～20	21～40	41～60	61～80	81～100				
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	～25	26～50	51～100	101～200					201～	～20	21～40	41～60	61～80	81～100				
10 授業の進行速度は適切であった。	5	17.63	22.27	26.04	15.17	19.39	19.47	14.98	16.54	14.12	5.93	15.37	18.28	11.32	18.32	16.25	27.67	17.09	27.03	24.59	17.49	16.99	17.20	17.44	18.02	15.36	18.88	14.24	20.20				
	4	36.49	35.76	35.06	47.81	37.36	40.34	36.63	29.71	37.10	40.15	32.62	39.67	33.45	38.33	36.82	34.48	36.39	37.06	36.39	37.41	35.64	35.28	39.26	38.38	34.17	36.14	36.30	37.33				
	3	34.08	30.82	31.60	33.42	26.56	28.82	33.99	38.44	42.35	40.74	36.92	34.66	33.61	34.46	35.11	26.11	34.49	26.55	29.27	33.44	35.15	36.11	31.10	34.88	34.18	32.54	36.87	32.38				
	2	9.40	8.32	5.56	3.60	14.10	9.50	11.69	13.32	5.16	10.96	11.85	6.03	17.67	7.20	9.64	7.72	9.66	6.02	8.29	9.50	9.22	9.90	10.31	5.81	13.67	9.57	9.88	8.40				
	1	2.40	2.83	1.74	0.00	2.59	1.87	2.71	1.99	1.27	2.22	3.24	1.36	3.95	1.69	2.18	4.02	2.37	3.34	1.46	2.16	3.00	1.51	1.89	2.91	2.62	2.87	2.71	1.69				
	無回答	0.17	0.12	0.35	0.26	0.12	0.62	0.29	0.76	0.00	0.15	0.03	0.19	0.00	0.19	0.19	0.08	0.17	0.10	0.10	0.10	0.25	0.21	0.00	1.15	0.25	0.29	0.14	0.10				
	平均	3.57	3.66	3.78	3.74	3.56	3.66	3.49	3.45	3.57	3.36	3.45	3.67	3.30	3.64	3.55	3.74	3.56	3.78	3.74	3.58	3.54	3.56	3.60	3.62	3.46	3.58	3.49	3.66				
11 授業で要求される作業量（レポート、宿題、自習など）は適切であった。	5	17.35	24.44	24.91	13.92	18.44	17.45	14.82	11.02	11.59	8.16	15.71	15.85	12.71	16.64	15.28	27.65	16.65	29.00	24.26	18.07	16.26	15.13	18.36	13.37	14.47	16.91	15.77	19.35				
	4	31.27	32.72	35.09	35.31	32.15	29.44	33.62	22.83	31.16	31.01	32.28	29.94	31.79	28.34	30.97	36.05	31.03	33.49	32.61	32.70	30.28	26.52	36.64	29.65	31.66	30.06	31.26	31.92				
	3	42.81	34.87	35.44	40.46	43.50	40.65	41.93	55.92	47.51	54.59	41.85	48.40	45.53	47.69	45.16	27.00	43.71	29.09	35.57	41.36	44.21	49.33	37.16	50.59	44.34	44.70	43.61	40.96				
	2	6.51	5.61	3.16	8.25	4.61	8.57	7.27	9.29	7.50	5.79	7.48	4.49	8.42	6.02	6.68	5.35	6.61	5.07	5.99	5.81	6.95	7.70	5.86	4.65	7.49	6.06	7.12	6.13				
	1	2.06	2.36	1.40	2.06	1.30	3.89	2.36	0.94	2.24	0.45	2.68	1.32	1.55	1.31	1.91	3.95	2.00	3.35	1.57	2.06	2.30	1.32	1.98	1.74	2.04	2.27	2.24	1.64				
	無回答	0.58	0.48	1.38	0.51	0.70	0.62	0.40	3.50	0.00	0.30	0.48	0.49	0.17	0.58	0.61	0.33	0.60	0.29	0.78	0.43	0.52	1.35	0.34	1.15	1.09	0.81	0.53	0.42				
	平均	3.55	3.71	3.78	3.50	3.61	3.48	3.51	3.33	3.42	3.40	3.50	3.54	3.45	3.53	3.51	3.78	3.53	3.79	3.72	3.58	3.51	3.46	3.63	3.48	3.49	3.53	3.51	3.61				
設問10, 11の合計	5	17.49	23.35	25.48	14.54	18.92	18.46	14.90	13.82	12.85	7.04	15.54	17.06	12.02	17.48	15.76	27.66	16.87	28.01	24.42	17.78	16.63	16.17	17.90	15.70	14.92	17.90	15.01	19.77				
	4	33.89	34.25	35.08	41.57	34.77	34.89	35.13	26.32	34.13	35.58	32.45	34.81	32.62	33.34	33.90	35.26	33.71	35.28	34.51	35.05	32.96	30.92	37.95	34.01	32.92	33.11	33.78	34.63				
	3	38.43	32.85	33.51	36.94	35.00	34.74	37.95	47.04	44.94	47.67	39.38	41.53	39.56	41.07	40.12	26.55	39.10	27.82	32.40	37.40	39.67	42.68	34.12	42.73	39.24	38.60	40.23	36.68				
	2	7.96	6.96	4.36	5.92	9.37	9.03	9.48	11.34	6.33	8.38	9.67	5.26	13.05	6.61	8.17	6.54	8.14	5.54	7.15	7.66	8.09	8.81	8.09	5.23	10.59	7.82	8.51	7.26				
	1	2.23	2.59	1.57	1.03	1.94	2.88	2.54	1.48	1.75	1.33	2.96	1.34	2.75	1.50	2.05	3.99	2.18	3.35	1.52	2.11	2.65	1.42	1.94	2.33	2.33	2.57	2.47	1.66				
	無回答	0.37	0.30	0.87	0.38	0.41	0.62	0.34	2.13	0.00	0.22	0.26	0.34	0.09	0.39	0.40	0.21	0.38	0.19	0.44	0.27	0.38	0.78	0.17	1.15	0.67	0.55	0.34	0.26				
	平均	3.56	3.68	3.78	3.62	3.59	3.57	3.50	3.39	3.50	3.38	3.47	3.61	3.38	3.58	3.53	3.76	3.55	3.79	3.73	3.58	3.52	3.51	3.61	3.55	3.47	3.55	3.50	3.63				

「授業についての総体」

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均												専門 教育 平均	言語 文化 部 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	クラスサイズ（人）					アンケート提出率（％）								
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産					～25	26～50	51～100	101～200	201～	～20	21～40	41～60	61～80	81～100				
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産					～25	26～50	51～100	101～200	201～	～20	21～40	41～60	61～80	81～100				
設問3, 4, 5, 7, 10, 11の合計	5	20.74	24.25	31.59	21.21	25.43	24.15	18.61	18.57	15.13	11.36	17.76	21.87	16.23	21.17	19.68	29.07	20.25	29.51	29.63	20.87	19.27	21.12	21.75	21.46	20.27	21.32	17.76	23.04				
	4	33.54	32.94	35.02	38.82	33.28	32.98	32.89	32.88	32.52	35.59	30.79	35.70	36.17	36.06	33.86	34.67	33.48	33.09	33.94	34.74	32.26	33.34	35.67	30.41	33.51	32.51	33.43	34.34				
	3	32.89	29.55	24.96	30.42	28.00	29.39	33.38	37.59	40.50	38.48	35.53	32.98	33.49	33.06	33.88	24.77	33.30	26.32	27.71	32.11	34.27	33.60	31.11	33.60	32.45	32.10	34.62	31.91				
	2	9.86	9.42	6.92	8.14	9.88	10.21	11.68	9.37	9.97	12.40	12.07	7.71	11.25	7.82	9.95	7.71	10.05	7.08	7.25	9.48	10.72	9.34	9.23	10.97	11.01	10.33	10.90	8.57				
	1	2.97	3.84	1.51	1.41	3.41	3.27	3.44	1.59	1.88	2.17	3.85	1.74	2.86	1.89	2.63	3.78	2.92	4.00	1.47	2.80	3.48	2.60	2.24	3.56	2.76	3.74	3.29	2.14				
	無回答	0.25	0.20	0.87	0.26	0.23	0.44	0.25	1.09	0.05	0.17	0.19	0.20	0.11	0.21	0.26	0.15	0.25	0.25	0.32	0.19	0.27	0.42	0.11	0.48	0.27	0.31	0.27	0.20				
	平均	3.59	3.64	3.88	3.70	3.67	3.64	3.51	3.57	3.49	3.41	3.46	3.68	3.51	3.66	3.58	3.77	3.58	3.77	3.83	3.61	3.53	3.61	3.65	3.55	3.57	3.57	3.51	3.67				

5 「学生参加」について

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均																専門 教育 平均	言語 文化 部 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	クラスサイズ（人）					アンケート提出率（％）					
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	～25	26-50	51-100	101-200					201～	～20	21-40	41-60	61-80	81-100					
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	～25	26-50	51-100	101-200					201～	～20	21-40	41-60	61-80	81-100					
8 教官は効果的に学生の参加（発言、自主的学習、作業など）を促した。	5	14.05	16.96	29.16	16.71	14.99	17.70	13.45	12.39	9.36	15.41	10.83	12.42	10.12	13.38	12.94	30.05	12.83	35.22	29.46	15.31	12.10	12.60	9.22	9.20	10.71	14.36	10.72	17.25					
	4	23.27	23.12	12.85	23.39	21.49	23.29	25.17	28.90	24.46	32.89	22.35	19.65	29.16	23.18	23.43	34.89	22.69	32.25	24.59	24.55	22.54	22.19	21.62	20.69	23.69	20.62	21.40	25.90					
	3	38.61	34.02	27.43	36.25	33.54	37.43	34.94	43.12	46.50	33.92	41.80	44.94	40.31	41.23	42.04	27.26	39.49	23.09	27.61	37.72	39.89	41.15	40.39	41.38	39.38	37.64	39.58	38.06					
	2	18.15	17.94	20.43	21.59	22.31	16.15	19.73	13.20	17.54	14.22	19.24	17.56	18.52	16.51	18.19	6.08	18.85	6.39	13.85	16.90	18.97	18.85	22.14	17.24	20.40	19.61	21.64	18.40					
	1	5.92	7.96	10.07	2.06	7.67	5.43	6.67	2.39	21.14	3.56	5.78	5.43	1.89	5.70	5.20	7.12	6.14	3.05	4.49	5.52	6.50	5.21	6.63	11.49	5.82	7.77	6.66	4.39					
9 教官は学生の質問・発言等に適切に対応した。	無回答	0.16	0.19	0.35	0.26	0.59	0.31	0.06	0.61	0.10	0.15	0.10	0.10	0.15	0.08	0.16	0.00	0.10	0.03	0.26	0.16	0.26	0.00	0.17	0.29	0.14	0.12							
	平均	3.21	3.23	3.20	3.31	3.31	3.31	3.19	3.35	3.21	3.42	3.13	3.16	3.27	3.22	3.20	3.85	3.17	3.90	3.60	3.27	3.14	3.18	3.04	2.98	3.13	3.14	3.07	3.37					
	5	18.21	22.44	32.06	16.75	20.83	24.14	19.35	22.73	17.34	15.85	12.74	15.45	18.18	16.94	16.87	32.15	16.91	40.30	35.45	19.27	16.82	16.30	9.16	13.95	15.30	18.22	14.36	21.95					
	4	30.61	28.08	20.21	26.03	23.35	31.35	34.97	27.71	35.19	33.04	28.49	28.90	41.31	29.48	31.52	34.62	30.40	32.95	30.47	32.17	29.49	30.77	29.30	30.81	33.47	27.19	28.62	33.99					
	3	42.96	40.04	39.37	48.97	38.11	38.71	39.63	29.49	42.69	41.63	48.57	49.95	33.28	45.06	43.84	26.81	44.28	21.59	30.47	41.43	44.16	44.67	51.78	45.36	44.13	45.56	46.93	38.45					
設問8、9の合計	2	6.22	6.80	3.83	6.96	5.92	3.92	5.07	2.76	7.41	7.85	7.67	4.24	5.32	6.63	6.06	4.28	6.43	2.58	5.23	7.22	6.48	7.69	5.81	5.83	6.35	7.84	4.87						
	1	2.00	2.64	4.53	1.29	1.89	1.88	0.98	0.31	0.97	1.63	2.53	1.46	1.89	1.89	1.71	2.14	1.98	2.58	1.04	1.80	2.31	1.78	2.07	1.27	2.68	2.25	1.34						
	無回答	0.39	0.34	0.69	0.51	0.82	1.24	0.29	1.06	0.10	0.15	0.31	0.44	0.00	0.34	0.41	0.25	0.41	0.10	0.19	0.30	0.43	0.47	0.60	1.15	0.42	0.67	0.42	0.22					
	平均	3.56	3.60	3.71	3.50	3.65	3.71	3.66	3.86	3.53	3.53	3.41	3.52	3.68	3.53	3.55	3.90	3.53	4.05	3.96	3.62	3.51	3.53	3.54	3.44	3.55	3.51	3.45	3.69					
	2	16.13	19.70	30.61	16.73	17.91	20.30	16.40	17.58	11.55	15.63	11.79	13.93	14.15	15.16	14.90	31.10	14.87	37.75	32.45	17.34	14.45	14.45	9.19	11.56	13.00	16.29	12.54	19.60					
	4	26.93	25.60	16.52	24.71	27.36	27.30	30.60	36.78	29.82	32.96	25.42	24.26	35.25	26.32	27.47	34.76	34.62	32.60	27.45	28.36	26.41	26.47	25.45	25.72	28.58	25.90	25.01	29.64					
	3	40.79	37.03	33.40	42.60	35.81	38.07	37.28	36.32	44.59	37.78	45.17	47.44	36.79	43.14	42.04	27.03	41.88	22.34	29.04	39.56	42.03	42.90	46.07	43.36	41.74	41.59	43.24	38.25					
	2	12.19	12.37	12.17	14.29	14.13	10.06	12.43	8.05	12.48	11.04	13.46	10.92	11.92	11.58	12.13	5.18	12.65	4.49	8.20	11.08	13.10	12.68	14.93	11.56	13.13	12.99	14.75	9.94					
	1	3.96	5.30	7.30	1.67	4.79	3.67	3.83	1.30	1.56	2.59	4.16	3.45	1.89	3.80	3.46	1.93	4.06	2.82	2.78	3.66	4.41	3.50	4.36	3.70	3.88	3.55	3.23	4.46	2.87				
	無回答	0.27	0.26	0.52	0.38	0.70	0.77	0.17	0.14	0.10	0.15	0.20	0.22	0.00	0.22	0.28	0.16	0.29	0.05	0.15	0.16	0.34	0.31	0.43	0.57	0.29	0.48	0.28	0.17					
平均	3.39	3.42	3.51	3.40	3.39	3.51	3.42	3.61	3.37	3.48	3.27	3.34	3.47	3.37	3.38	3.87	3.35	3.98	3.78	3.44	3.33	3.35	3.20	3.21	3.24	3.33	3.26	3.53						

7 - 1 「学生満足度・達成度」について

		全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言 語 文化 部 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産					
6 授業により知的に刺激された。	5	21.40	38.20	17.69	25.65	23.45	16.76	19.72	12.77	13.76	13.13	20.98	18.01	20.05	18.36	19.84	18.57	28.18	
	4	33.31	31.94	41.54	36.70	33.22	32.72	35.63	32.07	37.86	27.56	35.06	43.22	36.28	33.86	35.80	33.47	35.81	
	3	29.89	20.83	29.49	28.24	27.33	33.65	33.49	41.03	35.21	40.70	32.69	27.27	31.79	33.92	30.45	33.55	22.92	
	2	10.46	7.64	10.00	7.06	11.34	13.13	8.10	11.99	11.54	14.16	9.91	9.61	9.32	11.03	8.81	11.12	7.74	
	1	4.94	1.39	1.28	2.35	4.66	3.74	3.06	2.14	1.63	4.45	1.36	1.89	2.56	2.83	5.10	3.29	5.35	
	無回答	0.19	0.35	0.00	0.23	0.31	0.29	0.61	0.10	0.00	0.17	0.10	0.00	0.14	0.18	0.33	0.18	0.10	
	平均	3.55	3.97	3.64	3.76	3.59	3.45	3.60	3.41	3.50	3.30	3.64	3.65	3.61	3.53	3.56	3.52	3.73	
13 授業の履修目標を達成できた。	5	13.31	15.38	5.94	12.78	10.47	8.60	6.41	7.11	3.26	7.83	11.50	8.23	9.47	8.99	14.13	9.59	17.21	
	4	30.33	36.36	32.04	33.61	26.56	27.58	17.40	30.38	20.74	25.21	31.97	31.73	32.90	28.83	32.46	28.81	33.37	
	3	42.48	40.22	47.55	41.19	44.54	45.30	49.32	52.38	53.63	49.82	44.40	47.34	45.12	46.90	38.78	46.34	37.18	
	2	10.79	6.99	13.18	9.70	16.09	14.71	22.75	8.57	18.96	13.86	10.28	12.01	9.90	12.64	11.18	12.47	8.80	
	1	3.09	1.05	1.29	2.72	2.34	3.81	4.12	1.56	3.41	3.28	1.85	0.69	2.61	2.64	3.45	2.79	3.44	
	無回答	0.14	1.04	0.77	0.82	0.93	0.46	0.46	0.00	0.15	0.20	0.44	0.00	0.14	0.35	0.16	0.33	0.19	
	平均	3.40	3.58	3.28	3.44	3.26	3.22	2.99	3.32	3.01	3.20	3.41	3.34	3.36	3.28	3.42	3.29	3.52	
14 授業の内容と他領域との関連について理解できた。	5	13.62	21.60	16.71	18.45	16.61	9.49	10.41	11.39	9.04	12.35	17.52	17.32	16.88	14.45	11.84	13.90	20.08	
	4	29.69	37.63	44.22	34.54	34.32	34.62	30.02	37.49	39.99	33.61	39.42	46.31	37.21	36.47	26.89	35.01	32.03	
	3	39.49	26.48	29.31	33.61	34.94	37.37	41.81	41.67	37.04	39.26	32.21	29.16	34.69	35.81	43.50	36.85	33.07	
	2	13.24	11.85	9.25	11.40	11.18	15.99	15.77	7.50	12.15	11.84	9.10	6.52	9.14	11.07	13.08	11.69	10.52	
	1	3.96	2.44	0.51	2.00	2.95	2.53	1.99	1.95	1.78	2.94	1.75	0.69	2.08	2.20	4.69	2.55	4.30	
	無回答	0.34	0.69	0.26	0.12	0.31	0.11	0.76	0.00	0.15	0.24	0.29	0.00	0.29	0.23	0.25	0.25	0.19	
	平均	3.35	3.64	3.67	3.56	3.50	3.32	3.31	3.48	3.42	3.40	3.61	3.73	3.57	3.49	3.28	3.46	3.53	
15 授業により、新しい知識、考え方、技能を習得でき、さらに深く勉強したくなった。	5	16.49	27.18	19.02	25.50	17.26	13.08	13.21	13.15	10.81	10.92	18.12	18.76	17.17	15.77	14.63	15.60	21.80	
	4	33.05	38.33	41.13	35.60	32.04	33.99	35.18	34.18	36.44	27.72	35.67	45.61	35.03	33.91	32.46	33.57	34.61	
	3	33.47	21.25	27.51	27.97	33.90	35.13	40.39	42.55	38.23	43.36	35.47	26.68	34.40	36.25	35.90	35.90	30.02	
	2	12.07	9.41	10.03	7.99	11.98	12.96	9.22	7.30	11.11	13.69	8.89	7.06	10.55	10.78	12.33	11.24	8.89	
	1	4.92	3.83	2.31	2.94	4.82	4.84	2.00	2.82	3.41	4.31	1.85	1.89	2.85	3.29	4.68	3.69	4.68	
	無回答	0.24	0.69	0.26	0.12	0.46	0.29	1.06	0.00	0.15	0.24	0.15	0.34	0.29	0.27	0.16	0.27	0.19	
	平均	3.44	3.75	3.64	3.72	3.44	3.37	3.48	3.47	3.40	3.27	3.59	3.72	3.53	3.48	3.40	3.46	3.59	
設問6, 13, 14, 15の合計		5	16.20	25.61	14.86	20.61	16.96	11.98	12.44	11.10	9.22	11.06	17.04	15.58	15.89	14.39	15.11	14.42	21.82
		4	31.60	36.06	39.74	35.12	31.54	32.23	29.54	33.53	33.77	28.53	35.53	41.71	35.35	33.27	31.90	32.72	33.96
		3	36.33	27.18	33.44	32.73	35.16	37.86	41.26	44.41	41.02	43.27	36.18	32.62	36.50	38.22	37.16	38.15	30.80
		2	11.64	8.97	10.61	9.04	12.64	14.20	13.97	8.84	13.44	13.39	9.55	8.80	9.73	11.38	11.35	11.63	8.98
		1	4.23	2.18	1.35	2.50	3.70	3.73	2.79	2.12	2.55	3.75	1.70	1.29	2.53	2.74	4.48	3.08	4.44
		無回答	0.23	0.69	0.32	0.32	0.50	0.29	0.72	0.02	0.11	0.21	0.24	0.09	0.22	0.26	0.23	0.26	0.17
		平均	3.43	3.74	3.56	3.62	3.45	3.34	3.34	3.42	3.33	3.29	3.56	3.61	3.52	3.45	3.41	3.43	3.59

7 - 2 「学生満足度・達成度」について

		授業法 平均	学生 参加 平均	難 易 度						クラスサイズ（人）						アンケート提出率（％）					
				A	B	C	D	E	無回答	～25	26～50	51～100	101～200	201～	～20	21～40	41～60	61～80	81～100		
6 授業により知的に刺激された。	5	63.24	43.15	28.18	12.04	21.01	14.10	7.94	16.33	32.52	18.29	17.65	20.07	20.03	24.71	19.36	19.18	17.26	20.37		
	4	25.94	24.00	16.84	32.28	36.22	24.51	12.70	24.49	32.71	34.76	32.38	34.52	36.46	39.66	32.74	33.29	33.23	34.53		
	3	8.28	25.19	21.12	35.80	33.00	34.71	20.63	26.53	25.29	32.48	34.65	32.12	31.56	26.44	33.84	31.87	34.03	32.65		
	2	1.82	5.31	17.36	15.67	8.08	23.21	23.81	14.29	8.30	11.35	11.26	9.91	9.72	7.47	10.69	11.16	11.74	10.13		
	1	0.73	2.35	16.49	4.21	1.68	3.47	34.92	18.37	1.17	3.12	4.05	3.39	2.24	1.72	3.37	4.49	3.74	2.32		
	無回答	0.11	0.28	0.09	0.09	0.11	0.00	1.56	22.22	0.19	0.13	0.21	0.26	0.09	0.00	0.00	0.20	0.27	0.13		
	平均	68.59	51.52	24.41	4.76	10.60	7.39	15.63	6.38	15.26	9.75	9.30	9.39	12.22	10.34	8.88	9.97	8.63	11.16		
13 授業の履修目標を達成できた。	4	19.63	19.86	14.26	25.89	31.96	25.43	9.38	10.64	31.21	30.18	28.29	25.46	33.48	32.18	26.63	27.10	28.03	31.43		
	3	8.46	20.28	28.78	48.31	46.63	45.87	25.00	48.94	40.02	45.41	47.13	47.99	41.22	41.38	45.73	47.02	47.09	44.54		
	2	1.97	5.30	16.71	17.76	9.52	18.26	20.31	25.53	11.55	12.01	12.26	14.03	10.67	10.34	15.38	12.94	13.27	10.63		
	1	1.35	3.04	15.84	3.29	1.28	3.04	29.69	8.51	1.96	2.65	3.02	3.13	2.41	5.75	3.38	2.97	2.98	2.24		
	無回答	0.14	0.16	0.35	0.33	0.20	0.22	0.00	25.40	0.39	0.24	0.41	0.31	0.17	0.00	0.42	0.55	0.30	0.23		
	平均	58.99	43.32	26.16	9.39	15.12	8.30	14.29	8.33	23.90	13.34	13.86	13.69	14.27	12.72	14.06	13.65	13.59	15.13		
	設問6, 13, 14, 15の合計	4	25.56	23.32	20.23	33.69	36.93	30.57	11.11	16.67	34.24	35.53	34.72	34.12	33.62	33.53	33.75	31.60	34.80	36.73	
14 授業内容と他領域との関連について理解できた。	3	11.21	24.74	24.06	38.46	37.13	39.52	22.22	31.25	29.76	36.60	37.12	38.40	36.80	37.57	35.02	38.60	36.98	35.81		
	2	3.11	5.77	16.04	15.22	9.62	18.78	17.46	25.00	10.93	11.52	11.65	11.49	12.98	12.72	14.14	12.78	12.15	10.22		
	1	1.13	2.86	13.51	3.24	1.20	2.84	34.92	18.75	1.17	3.00	2.64	2.30	2.32	3.47	3.03	3.37	2.48	2.12		
	無回答	0.09	0.22	0.00	0.20	0.15	0.65	1.56	23.81	0.10	0.19	0.28	0.47	0.09	0.57	0.00	0.43	0.21	0.23		
	平均	59.08	42.37	27.05	9.61	17.24	15.47	9.52	12.24	25.69	15.26	14.81	16.68	17.78	18.97	16.29	15.23	14.90	17.00		
	4	27.09	24.08	15.97	32.79	35.81	30.50	17.46	12.24	36.37	34.20	32.89	33.19	33.76	37.93	33.84	32.25	32.35	35.36		
	3	10.17	24.85	23.56	37.05	36.50	30.94	12.70	32.65	28.14	35.35	36.84	36.32	34.21	39.31	33.50	35.56	36.87	35.24		
15 授業により、新しい知識、考え方、 技能を習得でき、さらに深く勉強し くなった。	2	2.82	6.11	15.27	15.67	8.68	19.61	22.22	22.45	8.04	11.43	11.32	10.04	12.11	9.77	12.15	12.62	11.82	9.55		
	1	0.84	2.60	18.15	4.88	1.77	3.49	38.10	20.41	1.76	3.76	4.13	3.35	2.92	4.02	4.22	4.35	4.06	2.85		
	無回答	0.13	0.25	0.09	0.22	0.17	0.43	1.56	22.22	0.58	0.18	0.26	0.52	0.00	0.00	0.25	0.29	0.27	0.24		
	平均	62.00	44.39	26.45	8.95	15.99	11.32	11.86	10.88	24.35	14.16	13.91	14.96	16.08	16.69	14.65	14.51	13.60	15.92		
	4	25.09	23.16	16.83	31.16	35.23	27.75	12.65	16.06	33.63	33.67	32.07	31.82	34.33	35.83	31.75	31.06	32.10	34.51		
	3	9.52	24.16	24.38	39.90	38.31	37.76	20.16	34.72	30.80	37.46	38.93	38.81	35.75	33.67	37.02	38.26	38.74	37.06		
	2	2.42	5.63	16.35	16.08	8.98	19.97	20.95	21.76	9.70	11.58	11.62	11.37	11.37	10.07	13.09	12.37	12.24	10.13		
設問6, 13, 14, 15の合計	1	0.96	2.66	16.00	3.91	1.48	3.21	34.39	16.58	1.52	3.13	3.46	3.04	2.47	3.74	3.50	3.80	3.32	2.38		
	無回答	0.12	0.24	0.13	0.21	0.16	0.33	1.17	23.41	0.32	0.19	0.29	0.39	0.09	0.14	0.17	0.37	0.26	0.21		

8-1 「学生の出席・態度」について

		全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言 語 文化 部 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産					
16 この授業のあなたの出席率は何の程度でしたか。	100～80%	58.17	41.32	34.45	46.94	34.47	57.33	52.22	44.74	69.38	52.16	49.13	37.74	54.64	50.33	65.11	51.17	68.23	
	80～60%	27.75	40.63	39.33	32.28	38.82	27.43	33.13	41.52	22.04	33.07	35.23	43.74	29.66	33.39	27.34	32.55	24.52	
	60～40%	9.33	12.15	20.82	15.73	17.39	9.95	12.06	11.70	6.95	12.72	12.34	15.09	11.21	12.55	6.24	12.20	5.15	
	40～20%	2.83	3.82	3.86	3.17	5.75	3.74	1.98	1.85	1.48	1.57	2.62	2.92	2.75	2.65	1.15	2.75	1.72	
	20～0%	1.92	2.08	1.54	1.88	3.57	1.55	0.61	0.19	0.15	0.48	0.68	0.51	1.74	1.08	0.16	1.33	0.38	
	無回答	0.17	0.35	0.26	0.00	0.31	0.11	0.46	0.10	0.00	0.17	0.15	0.00	0.14	0.15	0.08	0.16	0.00	
平均値		4.37	4.15	4.01	4.19	3.94	4.35	4.34	4.28	4.59	4.34	4.29	4.15	4.32	4.59	4.56	4.29	4.58	
17 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。	5	10.80	9.72	3.60	6.70	5.45	6.91	5.95	7.01	4.29	5.92	7.59	7.03	7.48	6.63	14.29	7.09	15.85	
	4	22.58	20.83	19.79	19.04	21.50	20.45	13.13	23.37	18.34	15.85	20.00	24.87	21.25	19.37	29.23	19.23	33.43	
	3	43.13	32.64	49.62	41.24	39.87	44.12	49.16	51.11	55.04	50.06	45.94	45.98	48.63	47.19	40.88	46.73	37.73	
	2	16.89	26.39	22.62	23.97	23.68	21.49	22.75	15.00	19.67	21.60	19.46	19.38	16.56	20.28	12.97	20.11	10.12	
	1	6.60	10.42	4.37	9.05	9.50	7.03	9.01	3.51	2.66	6.57	7.01	2.74	6.08	6.53	2.63	6.84	2.87	
	無回答	0.22	0.35	0.26	0.12	0.62	0.29	0.46	0.00	0.00	0.27	0.29	0.00	0.10	0.22	0.08	0.24	0.10	
平均		3.14	2.93	2.95	2.90	2.89	2.98	2.84	3.15	3.01	2.92	3.01	3.14	3.07	2.99	3.39	2.99	3.49	

8-2 「学生の出席・態度」について

		授業法 平均	学生 参加 平均	難 易 度							クラスサイズ (人)					アンケート提出率 (%)					講義 科目 平均	演習 科目 平均
				A	B	C	D	E	無回答	～25	26～50	51～100	101～200	201～	～20	21～40	41～60	61～80	81～100			
16 この授業のあなたの出席率は何の程度でしたか	100～80%	26.80	19.24	55.85	49.69	52.85	50.00	46.87	44.00	48.78	51.50	55.99	46.19	42.13	45.41	44.02	49.89	51.79	54.61	51.17	68.23	
	80～60%	35.81	49.13	14.48	14.85	14.23	15.87	12.51	28.00	15.42	13.76	12.90	19.40	20.38	16.09	20.96	15.38	15.57	12.24	14.95	6.87	
	無回答	0.10	0.15	0.09	0.11	0.07	0.22	0.00	20.63	0.10	0.12	0.17	0.26	0.09	0.00	0.00	0.17	0.18	0.15	0.16	0.00	

8-3 「学生の出席・態度」について

	授業法 平均	学生 参加 平均	難 易 度						クラスサイズ（人）					アンケート提出率（％）					講義 科目 平均	演習 科目 平均	
			A	B	C	D	E	無回答	～25	26～50	51～100	101～200	201～	～20	21～40	41～60	61～80	81～100			
17 質問、発言、調査、 自習などにより、自分 はこの授業に積極的に 参加した。	5	61.12	56.87	19.14	4.89	7.46	8.26	6.25	5.88	12.98	7.98	6.98	6.51	6.28	4.02	5.48	6.44	7.11	8.84	7.09	15.85
	4	22.78	20.34	14.34	21.02	20.34	20.00	10.94	13.73	23.71	21.87	19.52	14.80	19.28	14.37	15.42	17.47	18.27	23.52	19.23	33.43
	3	11.07	17.18	32.52	42.80	49.07	40.43	32.81	25.49	40.09	45.58	47.68	46.70	44.66	44.83	44.73	45.91	47.18	45.96	46.73	37.73
	2	3.56	4.10	18.88	23.89	17.68	26.09	23.44	41.17	17.46	18.85	19.25	22.77	21.69	21.84	23.84	22.17	20.40	16.95	20.11	10.12
	1	1.47	1.51	15.12	7.40	5.45	5.22	26.56	13.73	5.76	5.72	6.57	9.22	8.09	14.94	10.53	8.01	7.04	4.83	6.84	2.87
	無回答	0.21	0.07	0.26	0.33	0.09	0.22	0.00	19.05	0.10	0.18	0.30	0.21	0.17	0.00	0.08	0.35	0.29	0.15	0.24	0.10

分析のための全体集計1

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言 語 文化 部 平均
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産			
設問1～15の平均値		平均値	3.51	3.54	3.76	3.60	3.62	3.57	3.45	3.47	3.45	3.42	3.39	3.58	3.51	3.57	3.51	3.65

分析のための全体集計2

		職（人）			授業の形態（人）		科目区分（人）		必須・選択（人）		受講登録 学 生 数 （人）	アンケート 提出枚数 （枚）	アンケート 提出率 （％）
		教授	助教授	講師	講義	演習	全学教育科目	専門科目	必須	選択			
全 体		260	189	14	418	44	102	359	0	0	25698	17111	66.58
全 学 教 育		45	55	1	84	17	102	0	0	0	5812	3956	68.06
専 門 教 育		212	132	13	329	27	0	359	0	0	19332	12905	66.75
各 学 部	文	12	15	0	20	8	13	15	0	0	1526	716	46.92
	教 育	11	1	0	12	0	1	11	0	0	654	420	64.22
	法	15	4	2	18	3	1	19	0	0	2037	798	39.17
	経 済	12	7	0	15	4	4	15	0	0	1898	850	44.78
	理	37	33	6	67	9	23	53	0	0	3239	2271	70.11
	医	6	4	2	11	1	1	11	0	0	1132	536	47.34
	歯	16	1	1	18	0	1	17	0	0	1140	854	74.91
	薬	5	6	1	12	1	1	12	0	0	866	586	67.66
	工	34	30	0	62	2	0	63	0	0	3622	2646	73.05
	農	35	28	0	60	3	0	63	0	0	2284	1868	81.78
	獣 医	15	3	0	16	1	0	17	0	0	737	577	78.29
水 産		26	23	0	49	0	0	49	0	0	2686	2018	75.13
言 語 文 化 部		14	20	0	26	7	34	0	0	0	1207	1091	90.38

平成12年度（前期）

1 「シラバスとその内容」について

				各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言 語 文化 部 平均	
				全体 平均	全学 教育 平均	文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産		
1 シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を適切に示 していた。	5	16.04	15.50	27.98	19.02	21.28	22.35	13.74	17.31	19.50	13.32	13.19	16.57	14.08	18.97	16.40	20.94		
	4	33.84	33.48	37.42	34.36	41.32	41.44	28.03	33.76	35.57	34.48	31.77	37.17	26.98	35.05	34.10	36.78		
	3	44.16	42.81	29.14	38.03	31.58	31.84	52.89	43.16	40.25	49.38	50.77	43.47	54.83	40.71	44.81	37.42		
	2	4.46	6.11	4.14	7.36	4.01	3.50	4.16	4.17	3.28	2.51	3.36	2.20	3.23	3.49	3.53	3.92		
	1	1.50	2.10	1.32	1.23	1.81	0.87	1.18	1.60	1.40	0.31	0.91	0.59	0.88	1.78	1.16	0.94		
	無回答	1.13	0.73	1.63	4.68	1.04	0.99	2.90	1.27	1.08	2.30	0.99	2.01	3.13	0.07	1.35	0.93		
	平 均	3.58	3.54	3.86	3.62	3.76	3.80	3.49	3.61	3.68	3.58	3.53	3.66	3.50	3.65	3.61	3.72		
2 授業は体系的に行われていた。	5	26.23	24.80	39.09	28.14	41.40	35.15	27.40	21.78	29.17	23.66	22.17	32.23	29.26	24.95	27.04	32.68		
	4	39.22	37.53	39.58	52.70	34.69	41.46	36.12	38.26	37.65	41.48	41.97	44.84	43.47	38.19	40.22	40.00		
	3	26.43	27.92	15.80	17.96	16.73	18.81	28.81	30.13	26.08	25.19	29.04	18.46	22.16	29.49	25.59	20.70		
	2	6.38	7.53	5.37	0.60	5.10	3.47	6.17	7.72	5.71	9.06	5.55	4.11	4.83	5.20	5.72	5.14		
	1	1.74	2.22	0.16	0.60	2.08	1.11	1.50	2.11	1.39	0.61	1.27	0.36	0.28	2.17	1.43	1.48		
	無回答	0.18	0.17	0.00	2.34	0.09	0.12	0.35	0.21	0.00	0.31	0.14	0.36	0.00	0.00	0.19	0.16		
	平 均	3.81	3.75	4.12	4.07	4.08	4.06	3.81	3.69	3.87	3.78	3.78	4.04	3.96	3.78	3.85	3.97		
設問1, 2の合計	5	21.16	20.16	33.58	23.64	31.39	28.78	20.66	19.55	24.36	18.54	17.70	24.46	21.79	21.96	21.75	26.84		
	4	36.55	35.52	38.51	43.63	37.98	41.45	32.13	36.03	36.61	38.01	36.89	41.05	35.35	36.61	37.18	38.40		
	3	35.25	35.34	22.41	27.88	24.12	25.30	40.69	36.61	33.13	37.16	39.86	30.86	38.24	35.10	35.14	29.02		
	2	5.42	6.82	4.76	3.94	4.56	3.48	5.18	5.95	4.50	5.82	4.46	3.16	4.04	4.35	4.63	4.53		
	1	1.62	2.16	0.74	0.91	1.95	0.99	1.34	1.86	1.40	0.47	1.09	0.47	0.58	1.98	1.30	1.21		
	無回答	0.66	0.45	0.81	3.51	0.57	0.56	1.62	0.74	0.54	1.30	0.56	1.19	1.56	0.03	0.77	0.54		
	平 均	3.70	3.64	3.99	3.85	3.92	3.93	3.65	3.65	3.78	3.68	3.65	3.85	3.73	3.72	3.73	3.85		

2 「教官の授業法」について

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言語 文化 部 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必須 科目	選択 科目	クラスサイズ（人）					アンケート提出率（％）				
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	～25							26-50	51-100	101-200	201～	～20	21-40	41-60	61-80	81-100	
3 教官の熱意が伝わってきた。	5	31.57	31.31	51.47	49.12	42.97	40.17	29.31	21.69	31.48	31.13	28.57	38.39	29.55	26.00	31.78	39.33	30.74	40.51	29.33	34.54	44.47	33.36	27.87	29.32	40.86	26.02	28.73	34.26	28.23	34.41	
	4	35.82	33.93	34.15	38.60	35.03	31.40	38.12	36.09	36.57	36.82	37.09	37.67	43.74	38.84	36.88	34.19	35.71	37.35	35.65	35.96	38.60	37.52	35.21	35.26	33.65	30.08	37.20	36.38	34.97	36.10	
	3	23.79	23.94	11.60	10.53	15.39	19.53	24.47	33.86	24.85	23.16	25.80	19.12	21.88	27.06	23.70	19.47	24.42	16.56	25.31	21.90	13.77	21.99	26.53	25.07	19.01	30.08	24.21	22.58	26.20	21.81	
	2	6.40	7.72	2.29	1.17	4.06	5.56	6.69	6.46	5.71	7.36	6.32	3.81	3.69	5.60	5.65	5.37	6.61	4.29	6.94	5.69	2.88	5.13	7.56	7.53	4.41	8.13	7.28	5.00	7.43	5.82	
	1	2.42	3.10	0.49	0.58	2.55	3.34	1.41	1.90	1.39	1.53	2.22	1.01	1.14	2.50	1.99	1.64	2.52	1.29	2.77	1.91	0.28	2.00	2.83	2.82	2.07	5.69	2.58	1.78	3.17	1.86	
	無回答	0.16	0.19	0.33	0.00	0.00	0.00	0.26	0.32	0.00	0.15	0.18	0.07	0.00	0.00	0.14	0.23	0.16	0.16	0.15	0.17	0.19	0.16	0.19	0.03	0.18	0.00	0.08	0.29	0.14	0.13	
	平均	3.87	3.82	4.33	4.34	4.11	3.99	3.87	3.69	3.91	3.88	3.83	4.08	3.96	3.80	3.90	4.04	3.85	4.11	3.81	3.95	4.24	3.95	3.77	3.80	4.06	3.62	3.82	3.96	3.77	3.95	
4 教官の話し方は聞き取りやすかった。	5	27.95	28.15	46.74	25.73	33.75	37.09	24.19	20.11	31.68	25.61	25.84	32.88	27.92	24.13	27.95	37.21	27.00	37.86	25.58	30.95	41.43	31.05	23.98	26.06	34.25	17.89	27.45	27.99	25.11	31.33	
	4	32.32	31.08	33.71	41.52	29.11	30.16	27.00	34.07	31.84	32.82	34.21	35.33	33.62	34.87	33.05	29.84	32.26	32.44	31.58	33.17	36.50	32.02	31.87	32.52	32.72	27.24	33.54	34.99	30.94	32.09	
	3	24.83	23.45	13.36	23.39	19.66	21.01	29.82	35.03	23.34	28.53	26.48	21.65	23.08	27.49	25.56	19.35	25.28	20.32	25.95	23.43	16.95	23.34	27.35	26.12	19.20	35.35	24.14	24.51	26.47	23.22	
	2	11.13	12.81	4.72	9.36	13.23	8.65	13.98	8.89	9.12	11.20	10.14	7.91	11.11	9.95	10.15	10.26	11.50	7.45	12.52	9.42	4.28	10.42	12.42	10.93	10.68	12.20	11.52	9.93	12.62	9.98	
	1	3.77	4.51	1.47	0.00	4.25	3.09	5.01	1.90	4.02	1.84	3.33	2.23	4.27	3.56	3.29	3.34	3.96	1.93	4.37	3.03	0.84	3.17	4.38	4.37	3.15	7.32	3.35	2.58	4.86	3.38	
	無回答	0.15	0.19	0.00	0.00	0.09	0.00	0.18	0.32	0.15	0.15	0.12	0.14	0.28	0.13	0.13	0.00	0.15	0.21	0.12	0.18	0.28	0.17	0.13	0.09	0.22	0.00	0.17	0.24	0.16	0.09	
	平均	3.69	3.65	4.19	3.83	3.74	3.89	3.51	3.61	3.78	3.69	3.69	3.88	3.69	3.66	3.72	3.87	3.66	3.96	3.61	3.79	4.13	3.77	3.58	3.65	3.84	3.36	3.70	3.75	3.58	3.78	
5 授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすかった。	5	16.83	15.90	31.60	12.28	25.71	23.86	13.10	13.95	21.30	12.10	14.95	21.09	21.88	14.62	17.38	23.33	16.10	24.09	15.10	18.96	24.65	19.29	14.08	16.03	20.35	7.32	16.26	16.26	14.87	19.58	
	4	29.44	27.39	31.43	32.75	33.27	32.00	23.22	30.34	34.88	28.94	29.52	36.50	34.09	32.08	30.65	33.98	29.06	33.46	28.91	30.24	36.09	30.35	27.58	29.08	32.87	21.95	30.20	30.35	26.91	31.45	
	3	33.67	32.97	26.38	39.18	24.29	29.67	36.42	42.08	32.25	36.60	35.50	30.53	32.95	37.69	34.10	30.56	34.06	29.28	34.63	32.47	28.56	32.67	35.34	34.73	29.49	35.36	35.08	34.77	34.50	31.69	
	2	14.54	16.31	7.82	12.87	12.19	10.51	21.37	10.99	8.33	17.61	15.16	9.36	9.94	11.20	13.49	9.10	15.01	10.17	15.31	13.46	9.21	13.06	16.16	15.12	12.79	23.17	13.34	14.48	16.92	12.31	
	1	5.52	7.43	2.77	2.92	4.54	3.96	5.89	2.64	3.29	4.75	4.87	2.52	1.14	4.41	4.38	3.03	5.77	3.00	6.05	4.87	1.49	4.63	6.84	5.04	4.50	12.20	5.12	4.14	6.80	4.97	
	無回答	0.11	0.15	0.00	0.00	0.09	0.00	0.18	0.21	0.00	0.00	0.04	0.22	0.00	0.07	0.08	0.08	0.11	0.05	0.12	0.09	0.19	0.10	0.11	0.06	0.13	0.00	0.17	0.18	0.12	0.04	
	平均	3.37	3.28	3.81	3.38	3.63	3.61	3.16	3.42	3.62	3.26	3.34	3.64	3.65	3.41	3.43	3.65	3.34	3.65	3.31	3.45	3.73	3.46	3.25	3.35	3.51	2.89	3.39	3.40	3.26	3.48	
設問3, 4, 5の合計	5	25.45	25.12	43.25	29.04	34.14	33.71	22.20	18.58	28.15	22.94	23.12	30.79	26.45	21.59	25.70	33.29	24.62	34.15	23.33	28.15	36.85	27.90	21.97	23.80	31.82	17.07	24.15	26.17	22.74	28.44	
	4	32.53	30.81	33.10	37.62	32.47	31.19	29.44	33.50	34.44	32.86	33.61	36.50	37.15	35.26	33.53	32.67	32.34	34.42	32.05	33.12	37.06	33.29	31.56	32.29	33.08	26.42	33.65	33.90	30.94	33.22	
	3	27.43	26.78	17.12	24.37	19.78	23.40	30.23	36.99	26.81	29.43	29.26	23.76	25.97	30.74	27.79	23.13	27.92	22.06	28.63	25.94	19.76	26.00	29.74	28.64	22.57	33.61	27.81	27.29	29.06	25.57	
	2	10.69	12.28	4.95	7.80	9.83	8.24	14.02	8.78	7.12	12.06	10.54	7.03	8.25	9.92	9.76	8.24	11.04	7.07	11.30	11.59	9.52	5.46	9.54	12.05	11.19	9.29	14.50	10.71	9.81	12.32	9.37
	1	3.90	5.01	1.58	1.17	3.78	3.46	4.41	2.15	2.88	2.71	3.47	1.92	1.18	3.49	3.22	6.28	4.08	2.40	3.27	0.87	3.27	4.68	4.08	3.24	8.40	3.68	2.83	4.93	3.40		
	無回答	0.14	0.18	0.11	0.00	0.06	0.00	0.20	0.28	0.05	0.10	0.12	0.14	0.09	0.07	0.12	0.10	0.14	0.14	0.13	0.14	0.22	0.14	0.14	0.06	0.18	0.00	0.14	0.23	0.14	0.09	
	平均	3.64	3.58	4.11	3.85	3.83	3.83	3.51	3.57	3.77	3.61	3.62	3.87	3.77	3.62	3.68	3.85	3.62	3.91	3.58	3.73	4.03	3.73	3.54	3.60	3.80	3.29	3.63	3.70	3.54	3.37	

4 「作業量・負担」について

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均																専門 教育 平均	言 文 部 平均	語 文 部 平均	講 義 科目 平均	演 習 科目 平均	必須 科目	選択 科目	クラスサイズ（人）					アンケート提出率（％）				
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	～25	26～50	51～100	101～200								201～	～20	21～40	41～60	61～80	81～100				
10 授業の 進行速度は 適切であっ た。	5	19.81	21.29	29.69	22.81	23.80	24.63	16.78	18.43	26.43	10.87	16.43	22.65	23.30	17.65	19.09	28.17	18.92	29.01	18.13	21.76	30.91	22.32	17.17	18.69	21.61	9.76	17.36	18.66	18.21	23.13					
	4	34.46	34.19	36.05	46.20	37.39	39.36	31.89	34.43	35.39	29.40	32.78	38.82	43.18	34.58	34.71	34.09	34.45	34.59	33.44	35.71	36.87	35.08	33.20	32.36	40.51	29.27	37.77	35.89	32.63	34.48					
	3	32.85	30.77	23.82	23.39	26.53	25.74	36.04	38.35	30.14	37.52	37.50	30.48	26.42	36.11	33.90	23.81	33.53	25.79	34.34	31.14	25.79	30.57	34.82	35.37	29.54	45.12	31.88	34.05	34.95	30.09					
	2	9.68	10.04	8.97	7.60	9.16	8.04	11.93	7.52	6.34	16.39	10.12	6.97	5.68	8.04	9.46	10.89	9.78	8.63	10.62	8.51	5.96	9.30	10.93	10.18	6.04	10.16	9.51	8.96	10.66	9.19					
	1	3.20	3.71	1.47	0.00	3.12	2.23	3.36	1.27	1.70	5.82	3.17	1.08	1.42	3.62	2.84	3.04	3.32	1.98	3.47	2.88	0.47	2.73	3.88	3.40	2.30	5.69	3.48	2.44	3.55	3.11					
	無回答	0.19	0.23	0.16	0.00	0.12	0.61	0.42	0.15	0.00	0.14	0.07	0.00	0.07	0.17	0.16	0.19	0.21	0.19	0.28	0.21	0.16	0.15	0.31	0.00	0.38	0.26	0.18	0.12	0.12						
	平均	3.58	3.59	3.83	3.84	3.69	3.76	3.46	3.61	3.78	3.23	3.49	3.75	3.81	3.54	3.57	3.73	3.55	3.80	3.52	3.65	3.91	3.65	3.48	3.52	3.73	3.27	3.56	3.59	3.51	3.65					
11 授業で 要求される 作業量（レ ポート、宿 題、自習な ど）は適切 であった。	5	20.28	23.15	31.37	26.90	18.92	22.61	18.85	15.53	23.61	11.57	17.40	22.30	24.71	16.45	18.88	28.94	19.58	27.30	19.21	21.57	27.57	23.19	18.36	18.28	20.92	16.73	17.56	17.70	19.60	23.34					
	4	30.61	30.39	32.03	46.79	29.68	34.66	30.71	24.57	29.32	28.24	32.93	30.58	32.47	26.53	30.76	33.70	30.35	33.39	30.39	30.86	33.46	32.07	30.45	27.66	30.56	24.08	31.68	31.06	30.32	30.51					
	3	40.24	37.06	31.54	22.81	44.87	35.65	40.71	49.80	40.13	50.93	39.37	41.72	39.95	48.86	41.84	28.78	41.22	30.59	41.24	39.05	32.80	37.35	41.21	43.79	41.89	47.76	42.94	43.26	40.18	37.63					
	2	6.52	6.43	3.92	2.92	4.51	5.71	6.99	8.19	5.40	7.25	8.22	4.39	1.72	5.24	6.54	6.63	6.46	6.89	6.82	6.16	4.67	5.51	7.46	7.13	4.70	8.98	5.89	6.07	7.01	6.35					
	1	2.35	2.97	1.14	0.58	2.02	1.37	2.74	1.91	1.54	2.01	2.08	1.01	1.15	2.92	1.98	1.95	2.39	1.83	2.34	2.36	1.50	1.88	2.52	3.14	1.93	2.45	1.93	1.91	2.89	2.17					
	無回答	1.30	2.73	0.33	0.00	1.70	0.49	0.79	0.84	0.00	0.77	0.29	0.14	1.14	0.72	0.54	0.39	1.36	0.64	0.44	2.35	0.65	0.43	0.44	0.39	0.08	0.41	8.03	0.83	0.37	0.45					
	平均	3.60	3.64	3.88	3.96	3.59	3.71	3.55	3.43	3.68	3.40	3.55	3.68	3.77	3.48	3.58	3.81	3.58	3.77	3.57	3.63	3.80	3.69	3.54	3.50	3.68	3.43	3.57	3.56	3.56	3.66					
設問10、11 の合計	5	20.04	22.20	30.53	24.85	21.38	23.62	17.82	16.99	25.02	11.22	16.92	22.47	24.00	17.05	18.99	28.55	19.25	28.16	18.67	21.67	29.24	22.75	17.76	18.48	21.28	13.24	17.46	18.18	18.90	23.23					
	4	32.55	32.32	34.04	46.50	33.57	37.01	31.30	29.51	32.36	28.82	32.85	34.70	37.86	30.57	32.74	33.89	32.41	33.99	31.92	33.32	35.17	33.58	31.83	30.01	35.77	26.68	34.85	33.48	31.47	32.50					
	3	36.53	33.89	27.67	23.10	35.62	30.69	38.37	44.05	35.13	44.20	38.44	36.11	33.14	42.47	37.86	26.30	37.35	28.18	37.78	35.04	29.29	33.95	38.01	39.58	35.43	46.44	37.18	38.64	37.57	33.85					
	2	8.11	8.25	6.45	5.26	6.86	6.88	9.46	7.86	5.87	11.84	9.17	5.68	3.71	6.64	8.00	8.77	8.13	7.76	8.73	7.35	5.32	7.41	9.20	8.66	5.40	9.57	7.77	7.52	8.84	7.77					
	1	2.77	3.34	1.31	0.29	2.57	1.80	3.05	1.59	1.62	3.92	2.62	1.04	1.29	3.27	2.41	2.49	2.86	1.91	2.90	2.62	0.98	2.31	3.20	3.27	2.12	4.07	2.74	2.18	3.22	2.65					
	無回答	0.74	1.48	0.24	0.00	0.85	0.31	0.70	0.63	0.08	0.38	0.22	0.11	0.57	0.39	0.36	0.27	0.78	0.43	0.32	1.27	0.46	0.32	0.30	0.27	0.70	0.20	4.21	0.55	0.27	0.28					
	平均	3.59	3.61	3.86	3.90	3.64	3.73	3.51	3.52	3.73	3.31	3.52	3.71	3.79	3.51	3.57	3.77	3.57	3.78	3.54	3.64	3.86	3.67	3.51	3.51	3.68	3.35	3.56	3.58	3.54	3.68					

「授業についての総体」

	設問	3, 4, 5, 7, 10, 11の合 計	全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均																専門 教育 平均	言 文 部 平均	語 文 部 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必須 科目	選択 科目	クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)				
					文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	～25	26-50	51-100	101-200								201- ～	～20	21-40	41-60	61-80	81-100				
	5	22.62	22.96	36.58	26.41	28.24	28.57	19.87	18.41	26.31	17.94	19.93	27.42	26.54	19.49	22.50	29.67	21.85	30.46	20.65	25.05	32.37	25.15	19.62	21.15	27.17	15.59	21.05	22.29	20.52	25.62						
	4	31.01	30.64	32.64	40.55	31.72	33.65	29.79	31.63	33.25	31.01	32.71	35.93	37.08	33.43	32.82	32.46	31.85	33.54	31.34	32.83	35.82	32.96	31.00	31.29	33.28	27.93	33.51	32.92	30.53	32.60						
	3	31.44	30.17	22.29	24.85	26.57	26.76	33.63	39.46	30.60	35.82	33.59	28.27	28.16	35.11	32.11	25.69	31.98	25.83	32.88	29.69	24.91	29.53	33.57	33.02	27.59	37.09	31.71	32.36	32.88	29.26						
	2	10.21	11.48	6.61	7.41	9.60	8.09	12.91	8.56	7.16	12.08	10.41	6.73	6.51	8.41	9.48	9.11	10.45	7.90	10.99	9.22	5.78	9.28	11.42	10.57	8.75	12.95	10.15	9.57	11.44	9.24						
	1	3.72	4.78	1.88	0.78	3.87	2.93	3.80	1.94	2.68	3.15	3.36	1.65	1.71	3.56	3.09	3.07	3.87	2.27	4.14	3.21	1.12	3.08	4.39	3.97	3.21	6.44	3.58	2.86	4.63	3.28						
	無回答	0.36	0.65	0.14	0.00	0.36	0.14	0.38	0.40	0.08	0.26	0.16	0.12	0.28	0.16	0.21	0.18	0.36	0.38	0.20	0.55	0.37	0.22	0.22	0.14	1.72	0.07	1.52	0.37	0.20	0.17						
	平均	3.59	3.55	3.95	3.84	3.70	3.76	3.49	3.56	3.73	3.48	3.55	3.80	3.80	3.56	3.62	3.76	3.57	3.82	3.53	3.67	3.92	3.67	3.50	3.55	3.72	3.33	3.58	3.62	3.50	3.68						

5 「学生参加」について

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均																専門 教育 平均	言 文 部 平均	語 文 部 平均	講 義 科目 平均	演 習 科目 平均	必須 科目	選択 科目	クラスサイズ（人）					アンケート提出率（％）				
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	～25	26-50	51-100	101-200								201- 250	～20	21-40	41-60	61-80	81-100				
8 教官は効果的に学生の参加（発言、自主的学習、作業など）を促した。	5	16.28	17.46	26.59	15.88	16.56	20.20	13.68	17.48	15.43	15.05	14.86	19.06	15.38	10.87	15.69	36.60	14.02	39.34	16.69	15.89	36.30	21.28	14.45	10.12	10.48	6.91	8.68	14.42	13.87	22.08					
	4	23.05	21.04	21.53	31.76	21.38	23.67	21.27	24.36	29.01	27.04	24.48	23.60	37.32	21.28	24.03	30.53	22.33	30.92	24.24	21.48	25.53	26.52	23.47	17.60	18.60	17.07	17.51	21.57	23.85	24.67					
	3	37.57	33.06	31.32	35.30	34.53	36.55	41.84	41.64	41.67	38.09	40.42	38.85	37.90	46.05	39.94	22.59	39.04	22.33	37.49	37.73	26.56	35.05	38.55	42.38	38.03	38.22	40.23	40.74	37.92	34.28					
	2	16.69	19.22	13.87	14.12	19.58	14.25	17.56	13.45	11.11	15.21	15.62	15.47	8.55	15.28	15.39	7.94	17.74	5.85	10.51	10.88	8.64	12.75	17.21	21.21	28.05	27.46	23.05	17.45	17.31	13.73					
	1	6.41	9.22	6.69	2.94	7.95	3.23	5.65	3.07	2.78	4.61	4.62	3.02	0.85	6.52	4.95	2.34	6.87	1.56	6.07	6.82	4.97	4.40	6.32	8.81	10.44	15.04	8.73	5.82	7.05	5.24					
	無回答 平均	1.07	2.72	0.16	0.58	0.19	0.25	0.53	0.42	0.00	0.31	0.10	0.14	0.28	0.07	1.19	0.23	1.14	0.32	0.16	2.17	0.00	0.16	0.22	0.18	0.98	0.00	0.46	0.40	0.15	0.13					
9 教官は学生の質問、発言等に適切に対応した。	5	21.17	22.96	33.49	26.32	28.06	25.09	19.96	21.27	30.76	13.27	16.71	24.77	24.72	14.06	20.30	34.76	19.55	41.11	20.99	21.36	41.74	25.85	18.85	15.69	20.46	11.84	17.40	15.88	16.00	26.82					
	4	20.82	29.43	29.58	38.59	31.56	31.68	28.98	38.21	30.14	30.86	30.15	33.91	45.16	30.31	31.50	34.66	35.55	34.19	31.69	32.62	32.81	34.07	30.48	26.90	28.62	24.08	25.94	30.28	32.09	31.44					
	3	39.68	37.32	31.21	30.41	31.94	35.03	45.14	35.87	32.76	46.46	45.60	36.13	26.99	46.93	40.94	25.43	41.53	19.94	39.16	40.41	21.84	35.62	41.78	46.87	38.56	46.53	47.06	43.98	40.03	34.65					
	2	5.97	7.36	3.92	2.34	5.50	2.94	5.12	3.39	3.71	6.94	5.50	4.25	2.56	6.01	5.20	4.20	2.48	2.63	5.63	6.42	2.79	4.06	6.37	7.52	8.55	11.43	8.51	5.46	6.14	5.18					
	1	2.36	2.93	1.80	2.34	2.94	2.94	1.52	1.16	2.63	2.47	2.04	0.94	0.57	2.97	2.06	1.01	6.28	1.13	2.53	2.19	0.84	1.50	2.52	3.02	3.81	6.12	3.79	1.70	2.68	1.91					
	無回答 平均	1.16	2.67	0.33	0.00	0.38	0.49	0.61	0.32	0.15	0.77	0.37	0.22	0.00	0.26	0.36	0.08	1.26	0.16	0.22	3.31	0.09	0.26	0.31	0.39	0.94	0.01	0.41	0.54	0.55	0.20	0.23				
設問8、9の合計	5	18.72	20.21	30.04	21.11	22.30	22.64	16.47	31.38	23.09	14.16	15.79	21.91	20.06	12.46	17.99	35.68	16.59	40.73	18.84	18.62	39.02	30.02	16.65	12.90	15.48	9.37	11.69	16.50	16.46	24.45					
	4	26.93	25.24	25.55	35.20	26.47	27.67	25.12	31.34	28.59	28.95	27.31	28.75	41.25	25.65	27.17	32.57	26.44	32.56	27.97	25.59	29.17	32.09	26.68	22.94	23.61	20.57	21.72	25.92	27.97	28.05					
	3	38.63	35.19	31.27	32.64	33.23	35.80	43.48	38.74	37.22	42.26	43.00	37.50	32.43	46.49	40.44	24.01	40.27	21.13	38.32	39.08	24.20	35.33	40.16	44.62	38.29	42.36	44.55	42.36	38.97	34.46					
	2	11.33	13.29	8.90	8.21	12.55	10.11	11.35	8.42	7.41	11.09	10.57	9.86	5.55	10.65	10.30	6.07	12.02	4.24	10.57	12.25	5.71	8.41	11.79	14.32	15.50	17.11	15.78	11.46	11.73	9.47					
	1	4.39	6.07	4.24	2.64	4.55	3.78	3.58	2.12	2.70	3.54	3.33	1.98	0.71	4.75	3.50	1.67	4.68	1.34	4.30	4.50	1.90	2.95	4.42	5.92	7.12	10.59	6.26	3.76	4.87	3.57					
	無回答 平均	1.12	2.69	0.24	0.29	0.28	0.37	0.57	0.37	0.08	0.54	0.24	0.18	0.16	0.28	0.16	0.20	0.24	0.19	0.24	0.05	0.21	0.26	0.29	0.06	0.20	0.50	0.47	0.47	0.18	0.18					

7 - 1 「学生満足度・達成度」について

		全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言 語 文化部 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必須 科目	選択 科目
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産							
6 授業により知的に刺激された。	5	19.91	43.39	25.15	26.84	28.04	17.90	19.60	24.07	18.56	16.10	24.50	27.64	18.19	20.84	23.17	19.38	32.30	18.02	23.48	
	4	29.96	30.34	45.61	34.51	29.16	29.37	27.54	34.27	36.81	29.68	38.07	41.60	30.92	31.73	32.42	30.91	32.45	30.62	31.60	
	3	30.92	19.74	25.15	25.33	28.78	34.56	38.67	33.02	31.44	38.26	27.66	24.50	35.66	33.40	28.62	33.19	25.38	34.08	30.77	
	2	13.33	5.06	2.92	9.26	9.43	14.64	11.44	6.17	10.74	12.19	7.61	4.84	10.48	10.49	11.51	11.93	7.35	12.37	10.40	
	1	5.88	1.47	1.17	4.06	4.59	3.53	2.75	2.47	2.45	3.77	2.16	1.42	4.75	3.54	4.28	4.59	2.52	4.91	3.75	
	無回答	0.21	0.16	0.00	0.09	0.37	0.44	0.42	0.00	0.15	0.25	0.00	0.28	0.13	0.22	0.08	0.21	0.27	0.17	0.26	
	平 均	3.44	4.09	3.90	3.70	3.66	3.43	3.49	3.71	3.58	3.42	3.75	3.89	3.47	3.55	3.58	3.48	3.84	3.44	3.60	
	無回答	0.32	0.49	0.58	0.28	0.25	0.26	0.32	0.46	1.38	0.33	0.50	0.00	0.13	0.38	0.39	0.36	0.37	0.35	0.37	
	平 均	3.32	3.52	3.66	3.39	3.39	3.12	3.25	3.57	3.14	3.33	3.46	3.60	3.33	3.34	3.51	3.30	3.60	3.29	3.38	
	無回答	0.31	0.33	0.00	0.19	0.49	0.44	0.32	0.62	0.46	0.18	0.22	0.57	0.26	0.29	0.39	0.28	0.48	0.27	0.32	
13 授業の履修目標を達成できた。	5	11.42	17.02	15.29	13.54	9.91	7.57	11.53	16.59	6.21	10.09	12.35	14.77	10.35	10.90	15.37	10.25	19.33	10.36	11.86	
	4	28.74	33.72	40.00	30.78	32.96	21.92	23.60	33.33	24.22	28.04	33.29	38.07	28.74	28.89	34.63	28.29	34.10	27.67	30.35	
	3	44.18	35.84	40.59	40.72	45.85	49.29	46.99	42.17	50.93	49.40	44.39	41.47	47.73	46.61	38.23	46.68	35.89	46.64	44.56	
	2	11.74	11.13	4.12	11.27	9.05	17.43	14.60	6.36	14.91	10.12	8.74	4.55	10.02	10.92	9.20	11.53	8.59	11.71	10.65	
	1	3.92	2.29	0.00	3.69	2.23	3.79	3.28	1.55	3.73	2.35	1.23	1.14	3.16	2.68	2.57	3.25	2.09	3.62	2.58	
	無回答	0.32	0.49	0.58	0.28	0.25	0.26	0.32	0.46	1.38	0.33	0.50	0.00	0.13	0.38	0.39	0.36	0.37	0.35	0.37	
	平 均	3.32	3.52	3.66	3.39	3.39	3.12	3.25	3.57	3.14	3.33	3.46	3.60	3.33	3.34	3.51	3.30	3.60	3.29	3.38	
	無回答	0.31	0.33	0.00	0.19	0.49	0.44	0.32	0.62	0.46	0.18	0.22	0.57	0.26	0.29	0.39	0.28	0.48	0.27	0.32	
	平 均	3.32	3.78	3.88	3.53	3.59	3.35	3.51	3.62	3.57	3.46	3.71	3.90	3.51	3.54	3.30	3.44	3.63	3.41	3.51	
	無回答	0.37	0.65	0.00	0.09	0.00	0.35	0.42	0.15	0.31	0.21	0.36	0.28	0.20	0.24	0.23	0.28	0.32	0.27	0.31	
14 授業の内容と他領域との関連について理解できた。	5	14.28	29.08	23.39	18.26	20.75	11.82	15.98	19.10	17.38	14.30	20.23	26.57	15.91	16.96	13.57	15.42	22.26	14.73	17.43	
	4	28.61	33.50	46.78	33.87	34.03	31.75	34.39	35.25	36.77	33.12	41.32	42.28	36.24	34.84	27.07	32.62	33.22	32.01	33.56	
	3	37.39	26.31	25.15	33.87	32.05	39.14	37.14	36.49	34.00	39.83	29.45	26.57	35.58	35.78	40.48	36.55	32.90	37.44	35.10	
	2	14.72	9.31	4.68	11.45	10.56	14.64	10.37	7.45	10.00	10.57	7.78	4.29	8.18	10.06	14.43	12.05	8.82	12.09	11.18	
	1	5.00	1.80	0.00	2.55	2.61	2.65	2.12	1.71	1.85	2.18	1.22	0.29	4.09	2.36	4.45	3.36	2.80	3.73	2.73	
	無回答	0.31	0.33	0.00	0.19	0.49	0.44	0.32	0.62	0.46	0.18	0.22	0.57	0.26	0.29	0.39	0.28	0.48	0.27	0.32	
	平 均	3.32	3.78	3.88	3.53	3.59	3.35	3.51	3.62	3.57	3.46	3.71	3.90	3.51	3.54	3.30	3.44	3.63	3.41	3.51	
	無回答	0.37	0.65	0.00	0.09	0.00	0.35	0.42	0.15	0.31	0.21	0.36	0.28	0.20	0.24	0.23	0.28	0.32	0.27	0.31	
	平 均	3.38	3.92	3.84	3.64	3.52	3.37	3.41	3.67	3.52	3.35	3.66	3.85	3.40	3.48	3.50	3.42	3.75	3.39	3.52	
	無回答	0.30	0.41	0.15	0.17	0.28	0.37	0.37	0.31	0.57	0.24	0.27	0.28	0.18	0.28	0.27	0.28	0.36	0.27	0.31	
15 授業により、新しい知識、考 え方、技能を習得でき、さらに 深く勉強したくなった。	5	16.82	35.09	23.98	22.12	21.26	13.39	15.78	23.03	16.13	12.90	20.91	24.79	15.30	17.15	18.77	16.14	26.41	15.47	18.91	
	4	30.89	33.77	42.69	36.01	30.90	31.28	28.39	32.46	35.33	29.18	36.98	43.31	31.40	31.96	33.26	31.05	36.12	30.24	33.03	
	3	32.89	21.80	28.07	29.58	32.02	38.06	40.69	35.70	35.64	42.28	31.80	25.07	36.61	36.69	31.85	36.15	26.89	37.06	33.48	
	2	13.18	7.54	4.68	8.41	11.00	13.57	11.86	6.80	11.06	12.20	8.22	5.98	11.48	10.80	11.99	12.06	8.11	12.42	10.70	
	1	6.22	1.80	0.58	3.88	4.82	3.70	3.28	2.01	1.84	3.44	2.09	0.85	5.21	3.40	4.13	4.60	2.47	4.81	3.88	
	無回答	0.37	0.65	0.00	0.09	0.00	0.35	0.42	0.15	0.31	0.21	0.36	0.28	0.20	0.24	0.23	0.28	0.32	0.27	0.31	
	平 均	3.38	3.92	3.84	3.64	3.52	3.37	3.41	3.67	3.52	3.35	3.66	3.85	3.40	3.48	3.50	3.42	3.75	3.39	3.52	
	無回答	0.30	0.41	0.15	0.17	0.28	0.37	0.37	0.31	0.57	0.24	0.27	0.28	0.18	0.28	0.27	0.28	0.36	0.27	0.31	
	平 均	3.37	3.83	3.82	3.57	3.54	3.32	3.42	3.64	3.45	3.39	3.65	3.81	3.43	3.48	3.47	3.41	3.71	3.38	3.50	
	設問6, 13, 14, 15の合計	5	15.61	31.15	21.96	20.19	19.99	12.67	15.72	20.70	14.59	13.35	19.50	23.43	14.94	16.47	17.72	15.30	25.08	14.65	17.92
4		29.55	32.83	43.78	33.79	31.76	28.57	28.48	38.82	33.31	30.01	37.42	41.31	31.82	31.85	31.85	30.72	33.97	34.10	32.14	
3		36.35	25.92	29.72	32.37	34.68	40.28	40.87	36.85	37.97	42.44	33.32	29.42	38.90	38.11	34.79	38.14	30.26	38.79	35.97	
2		13.24	8.26	4.10	10.10	10.01	15.07	12.07	6.70	11.67	11.27	8.09	4.91	10.04	10.57	11.78	11.89	8.22	12.15	10.73	
1		5.25	1.84	0.44	3.55	3.56	3.41	2.86	1.93	2.46	2.93	1.67	0.93	4.30	3.00	3.86	3.95	2.47	4.27	3.24	
無回答		0.30	0.41	0.15	0.17	0.28	0.37	0.37	0.31	0.57	0.24	0.27	0.28	0.18	0.28	0.27	0.28	0.36	0.27	0.31	
平 均		3.37	3.83	3.82	3.57	3.54	3.32	3.42	3.64	3.45	3.39	3.65	3.81	3.43	3.48	3.47	3.41	3.71	3.38	3.50	
無回答		0.30	0.41	0.15	0.17	0.28	0.37	0.37	0.31	0.57	0.24	0.27	0.28	0.18	0.28	0.27	0.28	0.36	0.27	0.31	
平 均		3.37	3.83	3.82	3.57	3.54	3.32	3.42	3.64	3.45	3.39	3.65	3.81	3.43	3.48	3.47	3.41	3.71	3.38	3.50	
無回答		0.30	0.41	0.15	0.17	0.28	0.37	0.37	0.31	0.57	0.24	0.27	0.28	0.18	0.28	0.27	0.28	0.36	0.27	0.31	

7 - 2 「学生満足度・達成度」について

				授業法 平均	学生 参加 平均	難 易 度						クラスサイズ（人）						アンケート提出率（％）					
						A	B	C	D	E	無回答	～25	26～50	51～100	101～200	201～	～20	21～40	41～60	61～80	81～100		
6 授業により知的に刺激された。	5	65.18	48.28	21.23	15.52	23.50	19.78	17.65	13.33	37.92	22.51	17.45	18.64	23.31	20.41	18.15	19.95	18.88	23.13				
	4	24.30	24.24	14.09	31.86	33.93	28.60	16.81	21.67	34.67	32.75	29.86	29.01	33.29	30.61	28.20	32.52	29.36	32.73				
	3	8.01	21.19	25.20	34.77	32.91	29.05	17.65	30.00	20.91	30.56	35.15	34.05	29.22	31.02	35.75	33.60	33.52	30.02				
	2	1.97	4.37	22.03	13.93	7.68	17.21	16.81	15.00	5.67	10.23	12.68	12.80	10.52	10.61	13.23	10.60	12.93	10.16				
	1	0.55	1.93	17.45	3.92	1.97	5.36	31.09	20.00	0.84	3.95	4.85	5.50	3.66	7.35	4.66	3.33	5.31	3.96				
	無回答	0.09	1.03	0.14	0.12	0.18	0.22	0.00	16.67	0.09	0.28	0.14	0.21	0.45	0.41	0.30	0.35	0.14	0.18				
	平均	68.53	57.24	15.30	6.85	12.66	12.40	21.01	5.56	16.25	12.21	10.22	9.90	10.91	10.61	9.09	9.79	9.77	13.65				
13 授業の履修目標を達成できた。	4	19.51	19.21	13.12	27.95	32.37	28.60	9.24	22.22	36.13	31.22	26.52	28.18	30.39	21.22	28.20	29.22	26.35	31.43				
	3	8.62	17.65	34.77	49.41	45.93	40.78	29.41	55.56	37.54	42.80	47.69	48.39	44.54	48.98	48.24	47.36	47.53	42.26				
	2	2.30	3.85	20.61	13.56	7.92	14.97	11.76	9.26	8.31	10.93	11.98	10.63	11.18	13.47	11.68	11.24	12.55	9.72				
	1	1.04	2.05	16.20	2.23	1.12	3.24	28.57	7.41	1.77	2.84	3.60	2.89	2.98	5.71	2.80	2.39	3.80	2.94				
	無回答	0.09	1.09	0.33	0.18	0.34	0.22	0.00	25.00	0.56	0.38	0.33	0.42	0.27	0.41	0.42	0.55	0.29	0.31				
	平均	61.70	48.87	18.56	13.31	18.93	18.21	15.13	14.04	29.92	19.02	14.86	14.98	18.31	18.29	14.44	15.16	15.87	19.99				
	無回答	0.07	1.30	0.33	0.19	0.22	0.33	0.00	22.22	0.65	0.33	0.21	0.33	0.36	0.41	0.42	0.31	0.29	0.26				
14 授業内容と他領域との関連について理解できた。	5	61.70	48.87	18.56	13.31	18.93	18.21	15.13	14.04	29.92	19.02	14.86	14.98	18.31	18.29	14.44	15.16	15.87	19.99				
	4	24.31	23.42	14.96	32.50	34.00	30.95	19.33	24.56	37.37	33.40	29.58	30.13	34.37	26.02	29.89	33.64	29.89	32.45				
	3	10.52	21.17	27.13	35.96	37.12	29.83	21.07	26.32	24.70	32.86	38.05	37.00	32.66	36.99	37.42	36.52	36.55	32.92				
	2	2.68	4.59	20.93	14.50	7.98	15.87	11.76	22.81	6.99	10.81	12.63	12.64	10.60	12.60	12.87	11.43	12.65	10.50				
	1	0.79	1.94	18.42	3.73	1.97	5.14	33.61	12.28	1.03	3.91	4.88	5.26	4.06	6.10	5.10	3.35	5.04	4.13				
	無回答	0.11	1.25	0.28	0.22	0.21	0.22	0.00	20.83	0.37	0.35	0.29	0.12	0.31	0.00	0.42	0.29	0.26	0.28				
	平均	63.87	50.05	18.27	12.09	18.19	16.62	16.60	11.45	27.32	17.69	14.18	15.14	16.94	16.31	14.19	15.00	14.87	18.65				
設問6，13，14，15の合計	4	23.34	22.77	14.72	31.55	33.86	29.51	14.29	23.35	35.90	32.81	29.38	29.86	32.94	27.93	29.70	32.24	29.11	32.64				
	3	9.37	20.61	29.64	39.31	38.24	33.50	23.53	34.36	28.32	35.22	39.74	38.91	35.54	37.61	39.64	38.81	38.75	34.84				
	2	2.58	4.55	20.85	13.91	8.09	15.87	14.92	17.18	7.25	10.80	12.45	11.80	11.19	12.03	12.51	11.09	12.80	10.26				
	1	0.85	2.03	16.51	3.14	1.63	4.50	30.67	13.66	1.21	3.46	4.25	4.28	3.38	6.12	3.96	2.86	4.47	3.61				
	無回答	0.09	1.17	0.27	0.18	0.24	0.25	0.00	21.18	0.42	0.33	0.24	0.27	0.35	0.30	0.39	0.37	0.24	0.26				
	平均	63.87	50.05	18.27	12.09	18.19	16.62	16.60	11.45	27.32	17.69	14.18	15.14	16.94	16.31	14.19	15.00	14.87	18.65				
	無回答	0.09	1.17	0.27	0.18	0.24	0.25	0.00	21.18	0.42	0.33	0.24	0.27	0.35	0.30	0.39	0.37	0.24	0.26				

8-1 「学生の出席・態度」について

		全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均												専門 教育 平均	言 語 文化 部 平 均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必須 科目 平均	選択 科目 平均	
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産							
16	この授業のあなたの出席率はどの程度でしたか。	100～80%	68.56	44.14	55.87	55.83	42.03	60.68	36.50	62.47	68.87	59.52	58.14	54.57	59.17	56.36	73.18	59.70	70.66	63.04	57.77
		80～60%	21.90	36.81	38.24	25.97	34.73	25.77	33.54	26.51	25.00	28.44	31.29	35.71	27.64	29.37	21.38	27.15	22.68	24.90	29.00
		60～40%	7.38	13.84	4.71	13.84	16.56	8.62	19.94	9.15	3.99	10.56	8.56	9.43	11.08	11.13	4.98	10.21	5.53	9.45	10.24
		40～20%	1.41	3.42	1.18	2.65	4.33	3.17	6.43	1.09	1.53	1.13	1.51	0.29	1.12	2.09	0.23	1.95	0.75	1.65	2.09
		20～0%	0.75	1.79	0.00	1.71	2.35	1.76	3.59	0.78	0.61	0.35	0.50	0.00	0.99	1.05	0.23	0.99	0.38	0.96	0.90
		無回答	0.15	0.00	0.58	0.38	0.00	0.18	0.00	0.46	0.15	0.23	0.14	0.57	0.20	0.20	0.08	0.17	0.43	0.19	0.19
		平均値	4.56	4.18	4.48	4.31	4.09	4.40	3.92	4.48	4.60	4.45	4.45	4.44	4.42	4.37	4.67	4.42	4.62	4.47	4.40
17	質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。	5	9.88	10.42	2.34	8.61	6.94	7.56	8.23	16.12	5.55	9.47	10.51	9.69	8.77	8.98	14.85	8.28	19.68	9.57	8.99
		4	21.36	21.17	28.07	20.15	21.31	18.28	17.93	28.53	19.72	20.07	21.89	26.50	18.66	20.53	30.40	19.67	32.12	21.21	20.24
		3	43.06	40.56	49.13	43.71	45.35	46.66	44.19	45.42	51.62	50.50	50.03	47.57	51.74	48.41	38.66	47.62	35.92	46.52	46.75
		2	18.30	20.52	19.88	19.30	20.20	20.47	21.84	7.91	18.49	15.37	13.61	12.82	13.71	16.48	12.36	17.87	9.49	16.39	18.01
		1	7.40	7.33	0.58	8.23	6.20	7.03	7.81	2.02	4.62	4.59	3.96	3.42	7.12	5.60	3.73	6.56	2.79	6.31	6.01
		無回答	2.81	0.00	0.00	0.19	0.25	0.09	0.00	0.46	0.61	0.23	0.22	0.28	0.13	0.21	0.08	1.18	0.21	0.21	2.19
		平 均	3.08	3.06	3.11	3.01	3.02	2.98	2.96	3.48	3.03	3.14	3.21	3.26	3.08	3.10	3.40	3.05	3.56	3.11	3.08

8-2 「学生の出席・態度」について

		授業法 平均	学生 参加 平均	難 易 度					クラスサイズ (人)					アンケート提出率 (%)					講義 科目 平均	演習 科目 平均	必須 科目 平均	選択 科目 平均	
				A	B	C	D	E	無回答	～25	26～50	51～100	101～200	201～	～20	21～40	41～60	61～80					81～100
16 この授業のあなたの出席率はどの程度でしたか。	100～80%	27.89	21.96	66.49	62.26	59.25	55.33	46.22	67.25	58.66	64.14	61.94	56.32	53.72	54.69	52.63	56.38	60.19	66.26	59.70	70.66	63.04	57.77
	80～60%	35.78	46.43	9.58	9.51	13.16	13.43	15.13	6.89	10.89	8.88	11.39	15.24	14.93	16.74	15.96	13.57	11.66	9.09	12.16	6.28	11.10	12.33
	無回答	0.12	0.87	0.00	0.11	0.13	0.45	0.00	19.44	0.28	0.21	0.18	0.06	0.31	0.41	0.13	0.29	0.11	0.22	0.17	0.43	0.19	0.19

8-3 「学生の出席・態度」について

		授業法 平均	学生 参加 平均	難 易 度					クラスサイズ（人）					アンケート提出率（％）					講義 科目 平均	演習 科目 平均	必須 科目 平均	選択 科目 平均	
				A	B	C	D	E	無回答	～25	26～50	51～100	101～200	201～	～20	21～40	41～60	61～80					81～100
17 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。	5	60.22	60.12	14.75	7.01	9.68	9.63	9.32	12.28	15.60	11.23	8.70	7.70	5.99	7.35	6.15	7.17	8.71	12.00	8.28	19.68	9.57	8.99
	4	22.91	20.73	12.94	21.65	21.80	20.87	15.25	8.77	28.13	23.33	20.58	17.61	16.04	13.47	16.97	19.02	19.97	23.86	19.67	32.12	21.21	20.24
	3	11.39	14.55	36.37	45.94	49.63	37.28	29.66	45.62	40.39	45.60	47.36	48.38	45.69	44.48	47.93	49.40	46.55	44.72	47.62	35.92	46.52	46.75
	2	3.50	2.90	20.53	19.68	14.45	23.85	15.25	17.54	12.91	14.55	17.23	18.92	23.12	25.31	21.04	18.47	17.64	14.46	17.87	9.49	16.39	18.01
	1	1.98	1.70	15.41	5.72	4.44	8.37	30.52	15.79	2.97	5.29	6.13	7.39	9.16	9.39	7.91	5.94	7.13	4.96	6.56	2.79	6.31	6.01
	無回答	0.16	0.32	0.42	0.55	1.32	2.79	0.84	20.83	0.00	0.21	0.23	0.27	9.17	0.41	8.54	0.46	0.18	0.14	1.18	0.21	0.21	2.19

分析のための全体集計1

			全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均														専門 教育 平均	言 語 文化 部 平 均
					文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産				
設問1～15の平均値			平均値	3.53	3.48	3.83	3.78	3.64	3.67	3.45	3.51	3.67	3.49	3.50	3.71	3.76	3.50	3.56	3.67	

分析のための全体集計2

		職（人）			授業の形態（人）		科目区分（人）		必須・選択（人）		受講登録 学 生 数 （人）	アンケート 提出枚数 （枚）	アンケート 提出率 （％）
		教授	助教授	講師	講義	演習	全学教育科目	専門科目	必須	選択			
全 体		294	252	19	481	82	180	383	289	269	37506	22419	59.77
全 学 教 育		85	89	6	146	32	180	0	84	92	13020	7710	59.21
専 門 教 育		208	162	13	333	49	0	383	204	176	24326	14595	59.99
各 学 部	文	20	27	1	38	10	19	29	6	40	4076	1890	46.36
	教 育	5	3	0	5	3	3	5	5	3	352	283	80.39
	法	11	11	1	14	9	2	21	1	22	2740	1118	40.80
	経 済	13	10	2	21	4	6	19	5	20	2933	1128	38.45
	理	45	44	6	88	7	52	43	37	56	5268	3313	62.88
	医	13	2	2	14	3	1	16	16	1	1495	976	65.28
	歯	8	4	3	13	1	1	14	14	1	975	688	70.56
	薬	9	6	0	14	1	1	14	6	9	1156	674	58.30
	工	68	68	0	123	14	12	123	90	45	8865	5520	62.26
	農	33	21	0	48	6	5	48	24	30	2118	1577	74.45
	獣 医	5	3	3	6	5	1	10	10	1	455	371	81.53
水 産		14	16	0	30	0	0	30	22	8	2114	1514	71.61
言 語 文 化 部		19	19	1	28	10	39	0	36	3	1452	1285	88.49

第 部

大学院教育について

第Ⅱ部

大学院教育について

はじめに

平成11年度に、本学の点検評価課題の一つとして「大学院教育について」がとりあげられた時点では、本学には大学院重点化が完了した研究科、重点化が進行中の研究科、また重点化を計画中の部局があった。完了あるいは進行中の研究科に、その教育理念・方針と教育の実態が必ずしも十分には調和していないと推察される要素もあった。その後、平成12年4月には大学院重点化を計画していた全部局が重点化され、さらに学内第2の独立研究科として新たに国際広報メディア研究科が設置され、本学全体の研究主導型大学化が完了した。本学の学生委員会がまとめた「学生生活実態調査報告書」（1998年版）によると、大学院学生からは「教育指導の在り方」などについて多くの意見が出されている。「大学院教育の改善」あるいは「研究科の在り方の見直し」は、大学院における教育を大学を中心に据えようとする研究主導型大学としての本学にとって、重要な課題である。

このような観点から、以下の事項について、さらに項目を絞り込むなどして点検・評価を行うこととされた。

- (1) 大学院重点化に伴い、大学院教育がどのように改善されたかの検証
- (2) 教育理念と実際の教育についての教員及び学生の双方からの検証
- (3) 大学院学生の増加に伴う教育、研究指導、教育研究環境の整備状況の点検
- (4) 学位取得に係る指導体制の在り方と方策
- (5) 留学生に対する指導体制の在り方と方策
- (6) 社会人の受入れ、産学協同等の社会との関係の点検
- (7) 大学院生への経済的支援体制の把握

課題の提言を受けて、さらに項目を整理する必要の有無、各研究科の状況を把握するため、平成11年度には教育学研究科、医学研究科、農学研究科及び地球環境科学研究科の状況について、また、平成12年度には文学研究科、理学研究科、薬学研究科、工学研究科及び獣医学研究科の状況についてヒアリングを実施した。

平成13年度には残りのすべての研究科、すなわち、法学研究科、経済学研究科、歯学研究科、水産科学研究科及び国際広報メディア研究科のヒアリングを実施するとともに、大学院学生に対して広範な大学院教育についてのアンケートを実施する予定である。

以上の結果を踏まえて大学院重点化による問題点等を整理し、大学院教育の改善策を提言することとしている。

『大学院教育に係るアンケート』(案)の作成と実施について

大学院教育専門委員会は、平成13年度の実施事業として、大学院生を対象とした『大学院教育に係るアンケート』を予定している。

ここに調査の概要とアンケート(案)を紹介し、ご意見があればお寄せいただきたくお願いします。

1 調査実施時期：平成13年7月

2 調査対象者：大学院学生全員(留学生、社会人学生を含む)

3 調査の趣旨

大学院学生がおかれている教育・研究に関する環境・条件や自らの研究活動について、学生の自己意識を調査し、問題の所在や課題を明らかにし、今後の大学院教育の充実の参考としたい。調査の分析にあたっては、院生の属性(一般学生、社会人、留学生、性差、年齢差、学年など)による違いや、所属研究科別の違いなどにも留意し、利用しやすいものにしたいと考えている。なお大まかな調査内容については以下の4で紹介する。

4 調査内容

- (1) 大学院進学に関する諸事項について
- (2) 大学院教育に関する諸事項について
- (3) 学位取得について
- (4) 研究活動や研究成果の発表について
- (5) 国内・国外の教育研究機関との交流について
- (6) TA, RA, 特別研究員などの制度と運用について
- (7) 経済状態について
- (8) 将来の進路について

5 アンケートについては以下にその案文を紹介する。

大学院教育に係るアンケート（案）

1. あなたは次のどの学生に属しますか。

イ. 一般学生 ロ. 留学生 ハ. 社会人学生（現職をもつか、6年以上在職経験のある者）

2. あなたは現在どの研究科ですか。

イ. 文学 ロ. 教育学 ハ. 法学 ニ. 経済学 ホ. 理学 ヘ. 医学
ト. 歯学 チ. 薬学 リ. 工学 ヌ. 農学 ル. 獣医学 ワ. 水産科学
ヰ. 地球環境科学 カ. 国際広報メディア

3. あなたの学年は（医系大学院生—医学・歯学・獣医学研究科の学生—は設問4へ）。

イ. 修士課程1年 ロ. 修士課程2年
ハ. 博士後期課程1年 ニ. 博士後期課程2年 ホ. 博士後期課程3年

4. あなたの学年は（医系大学院生の場合）。

イ. 博士課程1年 ロ. 博士課程2年 ハ. 博士課程3年
ニ. 博士課程4年

5. 性別

イ. 女性 ロ. 男性 ハ. こたえたくない

6. 年齢

イ. 24歳以下 ロ. 25 - 29歳 ハ. 30 - 34歳
ニ. 35 - 39歳 ホ. 40 - 44歳 ヘ. 45 - 49歳
ト. 50 - 54歳 チ. 55 - 59歳 リ. 60歳以上

7. あなたは結婚していますか。

イ. 結婚している ロ. 結婚していない ハ. こたえたくない

8.（修士課程および医系博士課程の学生への質問）

あなたの出身大学・学部はどちらですか。

イ. 北海道大学，いまの研究科と同じ学部
ロ. 北海道大学，いまの研究科と違う学部（学部名）
ハ. 他大学，いまの研究科と同系列の学部
ニ. 他大学，いまの研究科と異系列の学部（学部名）
ホ. 外国の大学，いまの研究科と同系列の学部（国名）
ヘ. 外国の大学，いまの研究科と異系列の学部（国・学部名）
ト. 学位授与機構（学士の種類）
チ. その他（）

9. (博士後期課程の学生への質問)

あなたの出身大学・研究科はどちらですか。

- イ. 北海道大学, いまの研究科と同じ研究科
- ロ. 北海道大学, いまの研究科と違う研究科 (研究科名)
- ハ. 他大学, いまの研究科と同系列の研究科
- ニ. 他大学, いまの研究科と異系列の研究科 (研究科名)
- ホ. 外国の大学, いまの研究科と同系列の研究科 (国名)
- ヘ. 外国の大学, いまの研究科と異系列の研究科 (国・研究科名)

10. あなたは大学卒業後, 職業についたことはありますか (医学系の場合は研修医を含む)。

- イ. ある (2年以内)
- ロ. ある (3 - 5年)
- ハ. ある (6年以上)
- ニ. ない

11. あなたは現在職業についていますか。

- イ. 職業についている
- ロ. 職業についていない

12. あなたが北海道大学に来る前の住所はどちらですか。

- イ. 札幌市および近郊
- ロ. 北海道内
- ハ. 北海道外 (国内)
- ニ. 外国 (国名)

[I] 大学院進学に関する事項についてお聞きします (設問13 - 21)。

13. (修士課程学生への設問)

修士課程進学の原因は何ですか (複数選択可)。

- イ. 研究者になりたいから
- ロ. 博士の学位を取得したいから
- ハ. 学部の教育だけでは十分な知識, 技術が身につかなかったから
- ニ. 先生や先輩に進学を勧められたから
- ホ. 希望する就職ができなかったから
- ヘ. 就職したくなかったから
- ト. 就職に有利だから
- チ. さらに研究を続けたかったから
- リ. 高度専門職業人としての知識・技術を身に付けたいから
- ヌ. 職業人として継続職業教育を受けたいから

ル．職業以外の幅広い知識・教養を身につけたいから

ヲ．転職したいから

ワ．国際的な研究をしたかったから

カ．その他（具体的に：

）

14.（修士課程学生への設問）

修士課程進学を決めた時期はいつですか。

イ．大学入学前 ロ．学部1年 ハ．学部2年 ニ．学部3年

ホ．学部4年 ヘ．学部卒業後 ト．就職後

15.（修士課程の学生への設問）

所属する研究科を志望した理由はなんですか（複数選択可）。

イ．出身大学だから

ロ．先生や先輩に勧められたから

ハ．就職に有利だから

ニ．教育研究設備が充実しているから

ホ．自分の興味ある研究が行われているから

ヘ．指導を受けたい先生がいるから

ト．職場で勧められたから

チ．特定の資格を取れるから

リ．先端的な研究をできるから

ヌ．他大学にない特色があるから

ル．昼夜開講制など通学条件にあうから

ヲ．転職に都合がいいから

ワ．大学院ガイドブックなどの大学院紹介をみてよいと思ったから

カ．ほかの大学院と比べて入学するのにやさしいから

ヨ．日本の文部省や自国の文部省や大使館の推薦があったから

タ．その他（具体的に：

）

16.（修士課程の学生への設問）

あなたが受けた入学試験は次のどれですか。

イ．一般入試（博士前期課程入試：推薦入学を含む）

ロ．一般入試（修士課程専修コース入試）

ハ．社会人特別選抜入試

ニ．外国人留学生特別選抜入試

17.（博士後期課程および医系博士課程の学生への設問）

博士課程進学の動機はなんですか（複数選択可）。

イ．研究者になりたいから

ロ．博士の学位をとりたから

- ．社会人特別選抜入試
- ハ．外国人留学生特別選抜入試

21．あなたは本学の大学院へ進学してよかったと思いますか。

- イ．よかった
- ．まあよかった
- ハ．どちらともいえない
- ニ．よいことはなかった

[Ⅱ] あなたが所属する研究科の教育についてお聞きます（設問22 - 41）。

22．（修士課程の学生への設問）

修士課程の研究テーマはどのようにして決めましたか（複数選択可）。

- イ．テーマは自分で決めた
- ．テーマは指導教官の指示によるものである
- ハ．テーマはまだ決めていない
- ニ．テーマは職場の要請で決めた
- ホ．テーマは職場の仕事と関係あるが自分で決めた

23．（修士課程の学生への設問）

あなたの研究テーマについてどう思いますか（複数選択可）。

- イ．テーマに興味があり，研究のやり甲斐がある
- ．テーマに興味を持てず，仕方なく研究している
- ハ．テーマについてまだ十分理解できない
- ニ．テーマを変えようと思う

24．（博士後期課程および医系博士課程の学生への設問）

博士課程の研究テーマはどのように決めましたか（複数選択可）。

- イ．テーマは自分が決めた
- ．テーマは指導教官の指示によるものである
- ハ．テーマはまだ決めていない
- ニ．テーマは職場の要請で決めた
- ホ．テーマは職場の仕事と関係あるが自分で決めた

25．（博士後期課程および医系博士課程の学生への設問）

あなたの研究テーマについてどう思いますか（複数選択可）。

- イ．テーマに興味があり，研究のやり甲斐がある
- ．テーマに興味を持てず，仕方なく研究している
- ハ．テーマについてまだ十分理解できない

二．テーマを変えようと思う

26．あなたの大学院指導教官についてどうお考えですか。

イ．指導教官は十分な研究指導能力があり，安心して指導を受けている

ロ．別の先生の指導を受けたい→設問27へ

ハ．実質的な指導は指導教官以外の先生から受けている→設問28へ

ニ．指導教官はまだみつからない

27．(設問26でロと答えた方へ)

その理由はなんですか(複数選択可)

イ．指導教官の研究指導能力に疑問を感じる

ロ．指導教官が忙しくて十分な指導をしてくれない

ハ．指導教官の研究が自分の予想とは違っていた

ニ．自分の研究テーマや対象が変わったので

ホ．その他(具体的に：)

28．(設問26でハと答えた方へ)

その理由はなんですか。

イ．指導教官の研究分野がちがう

ロ．指導教官が忙しくて指導時間をとれない

ハ．研究室の方針でそのように決まった

ニ．その先生のテーマが自分のテーマに近い

ホ．その先生が指導熱心で自然にそうなった

ヘ．その他(具体的に：)

29．あなたは指導教官をどのようにして決めましたか。

イ．最初から自分で希望した

ロ．入学後にガイダンスを受けたあと自分で希望した

ハ．研究室から指定された

ニ．入学以前から指導を受けておりほとんど決まっていた

ホ．その他(具体的に：)

30．大学院のカリキュラムについて，該当する項目に○をつけてください(複数選択可)。

イ．講義はいまのままでよい

ロ．講義に不満がある(どんなことですか：)

ハ．演習はいまのままでよい

ニ．演習に不満がある(どんなことですか：)

ホ．実験はいまのままでよい

ヘ．実験に不満がある(どんなことですか：)

ト．実習はいまのままでよい

- チ．実習に不満がある（どんなことですか： ）
- リ．教官の個人指導は今のままでよい
- ヌ．教官の個人指導に不満がある（どんなことですか： ）

31．大学院の講義にどの程度出席しましたか。

- イ．80%以上出席している ロ．出席率は60 - 80%である
- ハ．出席率は40 - 60%である ニ．出席率は40%以下である
- ホ．ほとんど出席していない

32．大学院の講義についてどう思いますか（複数選択可）

- イ．自分の専攻分野の知識を得るために必要である
- ロ．専攻分野にかかわらず幅広く先端的な知識を得るために必要である
- ハ．学部で講義が不十分なので大学院の講義は必要である
- ニ．講義と演習の区別が不明確で、講義は講義としてやってほしい
- ホ．大学院の講義は不要である→設問33へ
- ヘ．大学院の講義をほとんど受けたことがない→設問34へ
- ト．非常勤講師の講義は意味がある

33．（設問32でホと答えた方へ）

その理由はなんですか。

- イ．大学院は研究が中心であるべきだ
- ロ．講義のために実験や実習や調査の時間が制約される
- ハ．研究室のゼミや自分で勉強することで十分である
- ニ．講義内容が学部とほとんど同じで意味がない
- ホ．その他（具体的に： ）

34．（設問32でヘと答えた方へ）

その理由はなんですか。

- イ．興味がない
- ロ．開講されていない
- ハ．実験・実習・調査が忙しい
- ニ．学部と同じ先生で、内容が予想される
- ホ．その他（具体的に： ）

35．あなたの所属する研究室の教育スタッフについてどう思いますか（複数選択可）

- イ．現行のままでよい
- ロ．助手などの若手の教官層が少ない
- ハ．技官や事務官など教育支援職員が少ない
- ニ．社会人など学外者の研究者ともっと接触があったほうがよい
- ホ．非常勤講師をもっと積極的に利用したほうがよい

へ．ほかの研究室の教官の指導を受けるようにしている

ト．その他（具体的に： ）

36．他の研究科や大学との単位互換についてどう思いますか（複数選択可）。

イ．北大内の他研究科との単位互換を希望する

ロ．他大学との単位互換を希望する

ハ．外部の研究機関との単位互換を希望する

ニ．外国の大学との単位互換を希望する

ホ．希望しない

へ．その他（具体的に： ）

37．現在行われている大学院全学共通講義についてどう思いますか。

イ．受講しており意味がある

ロ．受講しているがあまり意味がない

ハ．あることは知っているが受講していない

ニ．あることを知らない

ホ．今後ふやしてほしい（たとえば： ）

へ．その他（具体的に： ）

38．あなたの研究に関連する企業，施設，諸機関での職場実習や，共同研究などの機会（インターンシップ）があれば，参加したいですか。

イ．参加する

ロ．検討したい

ハ．参加しない

39．あなたの研究はうまくいっていますか。

イ．うまくいっている

ロ．だいたい計画どおりいっている

ハ．予定どおりいっていない

ニ．研究計画を変える必要がある

ホ．その他

40．（修士課程の学生への設問）

あなたは修士課程修了後，博士後期課程への進学を希望しますか。

イ．進学する

ロ．進学しない→設問41へ

41．（設問40でロと答えた方へ）

その理由はなんですか（複数選択可）。

イ．経済的に無理だから

- ロ．研究に興味が無くなったから
- ハ．はやく社会に出て習得したことを実践したいから
- ニ．必要と思うことは習得したから
- ホ．もともと修士課程後は就職するつもりだったから
- ヘ．時間的に進学する余裕がないから
- ト．就職のためには修士課程修了が一番有利だから
- チ．必要な専門技術や知識を習得したから
- リ．その他（具体的に： _____）

〔Ⅲ〕学位取得についてお聞きします（設問42 - 48）

42．学位取得の見通しについてどうお考えですか。

- イ．正規の就学年数以内（修士2年，博士後期3年，医系博士4年）にとれる
- ロ．正規の就学年数プラス1年でとれる
- ハ．正規の就学年数プラス2年でとれる
- ニ．それ以上かかる

43．（博士後期課程および医系博士課程の学生への設問）

あなたは博士の学位取得の条件を知っていますか。

- イ．知っている
- ロ．すこしは知っているが，不明なところもある
- ハ．知らない

44．（修士課程の学生への設問）

修士課程の修了には2年以上の在学を必要としますが，優れた業績をあげた者は1年で修了できます。あなたはこの制度を利用したいと思いますか。

- イ．思う
- ロ．思うけれども実際には難しい→設問45へ
- ハ．思わない→設問45へ

45．（設問44でロ及びハと答えた方への設問）

その理由はなんですか。

- イ．研究テーマからいって少なくとも2年は必要
- ロ．自分の研究能力では1年間で優れた成果を得ることは困難
- ハ．指導教官の指導方針からいって1年では困難
- ニ．博士課程に進学するつもりがない
- ホ．その他（具体的に： _____）

46. (博士後期課程および医系博士課程の学生への設問)

博士課程(前期・後期)の修了には5年の在学(医学系の場合は4年)を必要としますが、優れた研究業績をあげた者は3年で修了できます。あなたはこの制度を利用したいと思いますか。

イ. 思う

ロ. 思うけれども実際には難しい→設問47へ

ハ. 思わない→設問47へ

47. (設問46でロ及びハと答えた方へ)

その理由はなんですか。

イ. 研究テーマからいって少なくとも4年以上は必要

ロ. 自分の研究能力では3年間で博士号取得にふさわしい成果を得ることは困難

ハ. 指導教官の方針からいって3年間での博士号取得は困難

ニ. その他(具体的に:)

48. (医学・歯学研究科の臨床系学生への設問)

博士号取得と専門医取得のいずれを重視していますか。

イ. 博士号取得を重視 ロ. 専門医取得を重視 ハ. 同程度に重視している

ニ. 特に考えたことはない ホ. 専門領域に専門医制度はない

ヘ. その他(具体的に:)

[Ⅳ] 研究活動や研究成果についてお聞きします(設問49 - 55)。

49. あなたは国内あるいは国際学会の会員ですか。

イ. 国内学会の会員である

ロ. 国際学会の会員である

ハ. 両方の学会の会員である

ニ. 学会の会員ではない

50. (学会の会員になっている方への設問)

会費は誰が負担していますか。

イ. 自己負担

ロ. 自己負担ではない

ハ. 自己負担のある場合とない場合がある

51. あなたは国内あるいは国外の学会に出席したことがありますか。

イ. ある→設問52, 53へ

ロ. ない

52. (設問51でイと答えた方への設問)

学会への参加の形式は次のいずれですか(複数選択可)。

- イ. 口頭研究発表(個人発表)
- ロ. 口頭研究発表(共同発表)
- ハ. シンポジスト, パネリストなど
- ニ. ポスター発表
- ホ. 参加したが発表はしなかった

53. (設問51でイと答えた方への設問)

そのときの交通費, 宿泊費はどうしましたか。

- イ. 全額自己負担
- ロ. 自己負担はなし
- ハ. 自己負担のある場合とない場合がある
- ニ. その他(具体的に:)

54. これまでに行った論文発表について該当するものに○をして下さい(複数選択可)。

- イ. 学内の研究科の研究紀要その他の研究誌に発表
- ロ. 筆頭著者の論文をレフェリー制度のある国内の学術誌に発表
- ハ. 筆頭著者ではない論文をレフェリー制度のある国内の学術誌に発表
- ニ. 筆頭著者の論文をレフェリー制度のある外国の学術誌に発表
- ホ. 筆頭著者ではない論文をレフェリー制度のある外国の学術誌に発表
- ヘ. 現在, 投稿中の論文がある
- ト. まだ論文を書いたことがない

55. 筆頭著者の論文を発表した方へ

- イ. 論文はほとんど自分で書いた
- ロ. 論文は自分で書いたが, 先生に直して貰った
- ハ. 論文の一部は自分で書いたが, 他は先生が書いた
- ニ. 実験などは自分でしたが, 論文は先生が書いた

[V] 国内・国外の教育研究機関との交流についてお聞きします(設問56 - 63)。

56. あなたは大学院在学中に外国の大学へ留学した経験がありますか。

- イ. ある(単位取得)
- ロ. ある(単位取得なし)
- ハ. ない

57. 国内の他大学・研究機関で実験・実習・調査を行ったことがありますか。

イ. ある

ロ. ない

58. 外国の大学及び研究機関で実験・実習・調査を行ったことがありますか。

イ. ある

ロ. ない

59. 本学以外の大学・研究機関で研究できる機会があればどうしますか（複数選択可）。

イ. 国内の大学・研究機関へ行きたい

ロ. 外国の大学・研究機関へ行きたい

ハ. 国外に行きたいが、語学上の制約があって行けない

ニ. 行く必要を感じない

60. 海外の研究者の講演・講義・演習に出席したことがありますか。

イ. ある→設問61へ

ロ. ない

61.（設問60でイと答えた方へ）

該当する項目に○をつけて下さい（複数選択可）。

イ. 自分の意志で出席した

ロ. 先生にいわれて出席した

ハ. 出席したが内容をよく理解できなかった

ニ. 内容はおおいに参考になった

ホ. これからも積極的に参加する

62. 外国人研究者が研究室に滞在することについてどう思いますか（複数選択可）。

イ. 日本以外の文化や学術研究について学べるから歓迎する

ロ. 英語など外国語が上達するから歓迎する

ハ. 著名な研究者なら歓迎する

ニ. 歓迎するが意志疎通について不安がある

ホ. あまり意味がない

63. あなたは欧文論文を書いたことがありますか。

イ. 複数書いた

ロ. 1編だけ書いた

ハ. 書いたことはない

【Ⅵ】ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）及びその他の制度についてお聞きます（設問64 - 73）。

64．あなたはTAに任用されたことがありますか。

イ．ある

ロ．ない

65．あなたはTAに任用されることを希望しますか。

イ．希望する→設問66へ

ロ．希望しない→設問67へ

66．（設問65でイと答えた方へ）

その最大の理由を一つ上げて下さい。

イ．経済的に助かる

ロ．教育活動のトレーニングとして役に立つ

ハ．自分の専門を教育に生かせる

ニ．将来大学の教員になるために必要

ホ．その他（具体的に： _____ ）

67．（設問65でロと答えた方へ）

その最大の理由を一つ上げて下さい。

イ．給与が少ない

ロ．研究（実験）の支障になる

ハ．TAの職務内容が不明確

ニ．生徒の成績について評価権がない

ホ．その他（具体的に： _____ ）

68．あなたはRAに任用されたことがありますか。

イ．ある

ロ．ない

69．あなたはRAに任用されることを希望しますか。

イ．希望する

ロ．希望しない

70．あなたは日本学術振興会の特別研究員に応募したことがありますか。

イ．複数回ある

ロ．1回ある

ハ．ない

71. あなたは日本学術振興会の特別研究員に採用されたことがありますか。

イ. ある

ロ. ない

72. あなたは特別研究員に採用されることを希望しますか。

イ. 希望する

ロ. 希望するが無理だと思う→設問73へ

ハ. 希望しない→設問73へ

73. (設問72でロ及びハと答えた方へ)

その理由はなんですか。

イ. 採用枠が少ない

ロ. 自分の研究テーマでは採用される見込みがない

ハ. 自分の研究能力が不足している

ニ. 指導教官が積極的にサポートしてくれない

ホ. その他(具体的に:)

[Ⅶ] あなたの経済状況についてお聞きます(設問74 - 76)

74. あなたの収入はつぎのどれですか(複数選択可)。

イ. 親(親族も含む)の仕送り

ロ. アルバイト

ハ. 日本育英会の奨学金

ニ. 日本育英会以外の奨学金

ホ. 配偶者からの支援

ヘ. 自分の給料

ト. TA

チ. RA

リ. その他

75. あなたの現在の経済状況は、今後の在学を可能にしていますか。

イ. 可能である

ロ. まあなんとか可能である

ハ. 1 - 2年は可能であるがそれ以上は無理である

ニ. いまのままだとこれ以上の在学は無理である

ホ. 経済状態以外の理由でこれ以上の在学は無理である

第 部

本学における学術研究の潮流 工 学 分 野

第Ⅲ部

本学における学術研究の潮流

本学部は、大正13年（1924年）に、土木工学、鉱山工学、機械工学、および電気工学の4学科で発足した。爾来76年の間に、教育・研究体制を充実・整備して、現在は12学科（学部）、10専攻（大学院）、13学内共同利用施設を擁する我が国屈指の工学部に成長し、工学のあらゆる研究分野において幾多の輝かしい業績を上げてきた。また、この76年の間に3万8千名に及ぶ学士、修士、および博士の優れた人材が本学部から巣立ち、産業界、官界、学会、その他各分野において活躍している。

第二次世界大戦においては、幾多の先輩が戦陣に倒れ、また在学生も勤労動員に馳せ参じた。さらに、戦後の廃墟からの復興と産業の隆盛に尽力した多くの卒業生に思いを致さずにはおれない。戦後20年を経て経済高度成長期を迎え、その後大学は学園紛争に揺さぶられた。最近の25年間においても、環境問題や石油ショックによる若者の工学部離れ、バブル経済の崩壊、そして今戦後最大の経済危機という、工学にとっては受難の期を迎えている。

一方、コンピュータを始め、マイクロエレクトロニクス、情報関連技術、新素材、バイオテクノロジー、その他広範な工学分野における、基礎ならびに応用面の急速な進歩と展開に対して、本工学部が果たした役割は計り知れないものがある。さらに近年の、国際的な視野から見た政治、産業・経済、社会の容態、個々人の生活まで、われわれを取り巻く環境の大きな変化が、大学における工学教育・研究に対する社会的要請を変化させてきた。特に、従来の学問体系の再編および複合化など、学際性および総合性を重視することが求められるようになった。そのような中で、本学部は、大学院の重点化、学部一貫教育の実施、国際交流の拡大、新点検評価システムの導入など、さまざまな改革を進めてきた。

本学部は、来るべき21世紀に於いて一層の基礎研究や先端的研究を推進し、今後に予測される地球規模の困難な課題の解決に、安全性、省資源、環境保全をキーワードにしつつ貢献して行かねばならない。その際、本学部は「社会の要請に添えて」だけでなく、来るべき社会や時代を予測し、そこで要求される科学・技術の進展と人材の育成におけるパイロットとして、その役割を果たさねばならない。ここに、本学部の発展の礎を築いた数多くの先達の中から、12名の方々の業績を紹介する。

吉町太郎一は、1898年（明治31年）7月東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業、ただちに東京帝国大学助教授に任命され、広井勇教授の教えを受けている。

1902年（明治35年）2月文部省在外研究員として橋梁学研究のため、ドイツおよびアメリカへ3年間留学し、1905年（明治38年）6月帰朝した。帰国とともに新設の名古屋高等工業学校教授に任命された。

1910年（明治43年）には固定アーチの理論に関する業績により工学会賞を授与された。1911年（明治44年）7月、九州帝国大学工科大学専任教授となり、11月には工学博士の学位を授与された。1921年（大正10年）7月には九州帝国



大学工学部長となった。この間、鍛冶橋、八っ山橋等に関連して、大正初期、黎明期の日本の不静定橋梁について啓蒙的示唆に富む論評をしている。

1921年（大正10年）8月北海道帝国大学工学部創立委員となり、1923年（大正12年）5月北海道帝国大学の兼任教授となり、同年12月欧米各国へ出張、1924年（大正13年）7月帰朝し、同年9月北海道帝国大学の専任教授として、土木工学科橋梁学講座を担当した。

1924年（大正13年）9月北海道帝国大学初代工学部長となり、1925年（大正14年）4月には第一期生が進入してくるので、工学部本館等の整備、学則の制定などを意欲的に行き、1931年（昭和6年）6月末まで7年間工学部長職を務め、同学部の今日ある基礎を確立した。

1936年（昭和11年）3月停年退官し、9月に名誉教授の称号を授与された。また、1932年（昭和7年）からは学術研究会議会員としても活躍された。この間、吉町の橋梁学はいよいよ円熟の域に達し、橋梁学の講義は総論に始まり、木橋、プレートガーダー橋、トラス橋、連続桁橋、アーチ橋、吊橋、吊橋の撓度理論から可動橋に及び広範囲のもので、膨大なプリントを伴い、実務にただちに役立つものであった。毎年講義の草稿を改められるのを常とされていた。1939年（昭和14年）3月「任意の数の集中荷重を担う可撓性索条に就いて」（昭和13年7月「土木学会誌」第24巻第7号）によって土木学会賞を授与された。

1939年（昭和14年）5月室蘭高等工業学校（室蘭工業大学の前身）の初代校長となり、1943年（昭和18年）10月まで在任した。実際の橋梁計画に関与または指導された橋梁は数多いが、1927年（昭和2年）から1928年に至る2ケ年にわたり北海道庁の委託を受けて橋梁形式を決定された旭川市の旭橋をあげることができる。旭橋はプレストリブ・キャンチレバー・タイドアーチ橋で、その均整のとれた美しさは今も名橋とうたわれている。

1952年（昭和27年）2月、北海道大学工学部土木工学科の卒業生による「吉町博士著書刊行委員会」から、吉町の在職中の橋梁学の講義録を一冊の著書にまとめた『吉町太郎一著・鋼橋の理論と計算』（B5版・700頁）が刊行された。また、1960年（昭和35年）春には、同窓生を中心として、吉町の工学部創立の功績を記念して、工学部の前庭に「初代工学部長吉町太郎一先生」の胸像が建立された。同時に、工学部の全学科の首席卒業生を対象に「吉町先生記念賞」が設定され、1961年（昭和36年）3月に第一回目の受賞者を出し今日に至っている。

以上のように、吉町は橋梁学の第一級の学者であったばかりでなく、教育行政上の輝かしい業績は不朽のものとして評価されている。

大坪喜久太郎は、1922年（大正11年）九州帝国大学工学部土木工学科卒業、東洋アルミナ株式会社（後の日本電力株式会社）に入社、1923年から2年間ベルリン大学に留学して経済学を修めた。1925年（大正14年）北海道帝国大学に工学部が新設されるに伴って講師に嘱託され、土木工学科の一期生に「道路及び街路」等を講じ、同年助教授に任ぜられた。

1929年（昭和4年）から2年間は水工学研究のためオーストリアへ留学、1940年（昭和15年）には「底面激変個所に於ける流体運動」により土木学会賞を受賞している。

1942年（昭和17年）北海道帝国大学教授に昇任、混凝土工学講座を担当した。この頃から第二次世界大戦が熾烈となって、大学にも戦争遂行のための諸施策が強く要請され、学業は必ずしも



充分には行われなかった。戦後は教育の民主化政策に基づき学制をはじめ諸般の改革が図られ、幾多の改変が行われた。この混乱の中、1946年（昭和21年）から1952年（昭和27年）までの6年間および1956年（昭和31年）から1960年（昭和35年）までの4年間、工学部長として極めて困難な学部運営に当たった。この間、法文学部創設準備委員、工学部建築学科開設準備委員長、教育学部創設委員等を歴任し、1949年（昭和24年）からは水工学第二講座を担当した。

学外にあっては、日本学術会議会員、北海道建設審議会会長、北海道総合開発調査委員会ほか数多くの委員会に参画、土木学会北海道支部長、旭川および函館工業高等専門学校設置準備委員等を歴任し、わが国および北海道の工学教育、学会の振興、総合開発計画の推進に著しい功績を残した。

また、1960年（昭和35年）から4年間は室蘭工業大学学長を務めた。記念論文集の初めの数編は水工学に関するものであるが、「私は、渦を液体のみならず気体から社会現象にまで押し進めたい」と述べているように、1958年（昭和33年）に発表した「北海道総合開発のありかた」は現在でも評価される卓見である。土木工学に関するこれらの幅広い視野は、青年期のベルリン大学における経済学の専攻と無縁ではない。

大賀恵二は、東京帝国大学工科大学機械工学科を1918年（大正7年）に卒業後、株式会社浅野造船所を経、北海道帝国大学工学部の創設にあたり、1922年（大正11年）より文部省在外研究員として欧米諸国に留学、帰朝後1925年（大正14年）5月北海道帝国大学教授に任ぜられた。爾来31年間にわたり、北海道帝国大学工学部原動機第一講座の初代教授を担当し、一時は燃料学講座および原動機学第二講座を兼担した。その間1936年（昭和11年）より1938年（同13年）までと、1948年（同23年）より1950年（同25年）まで合計4年間評議員、また1952年（昭和27年）から1956年（同31年）までの4年間は工学部長、更に1953年（同28年）から1956年（同31年）まで同大学大学院工学研究科長に補せられ、大学における教育行政上多大の貢献をした。大賀の学問、研究における功績は、熱力学、熱機関サイクル、伝熱学、蒸気タービン、ガスタービンに関するわが国の草分け的な著書を次々に著わして、学生の教育と産業界の発展に大きく貢献したことにある。これらは、熱機関の基礎理論としての熱力学を体系づけたわが国初めての専門書「熱力学と熱機関サイクル」、わが国の伝熱工学の幕開けの役割をはたす著書「伝熱諸論と其適用」、当時発達期にあった蒸気タービンの理論を806頁の大著に集大成した「蒸気及び瓦スタービン」等、10冊にのぼっている。1956年（昭和31年）に退官後は、北大名誉教授の称号を授与されるとともに、室蘭工業大学学長に就任、機械工学科増設の実施等、同学の発展に寄与した。また1961年（昭和36年）より逝去までの3年間、玉川大学教授として同大工学部創設に携わり、工学部長に就任した。逝去後勲一等（瑞宝章）を受賞した。学外にあっては日本機械学会評議員、日本工業教育総会理事、北海道工業教育協会会長、日本学術会議会員、北海道開発審議会特別委員、北海道総合開発委員会委員、同工業部長、同エネルギー分科会長、北海道工業振興委員会委員、同各地工業地帯調査会委員長、北海道電力対策協議会参与、火力発電技術協会理事、日本冷凍協会評議員、衛生工業協会評議委員、発明協会北海道支部顧問、北海道温熱管理協会顧問など、北海道の開発、工業振興のみならず、わが国学会の各分野に多いに貢献した。



有江幹男は、1945年（昭和20年）北海道帝国大学工学部を卒業後、1960年（昭和35年）から1981年（昭和56年）まで工学部機械工学科応用力学第三講座および流体工学第一講座の教授をつとめた。この間、1953年（昭和28年）から1955年（同30年）までフルブライト留学生としてアメリカ合衆国アイオワ大学大学院に留学して、流体工学・水理学の権威であったHunter Rouse教授の指導の下にMaster of Scienceの学位を取得している。有江はアイオワ大学が最も誇りとする卒業生の一人であり、1985年（昭和60年）には同大学からDistinguished



Achievement Awardを授与されている。博士論文は「Characteristics of a Two - dimensional Flow behind a Normal Plate in Contact with a Boundary on Half Plane」と題して九州大学に提出されたが、この基礎となった論文「Experiments on Two - dimensional Flow over a Normal Wall」は流体力学の最も権威ある学術誌Journal of Fluid Mechanicsの第1巻（1956年）に日本からの最初の論文として掲載され、せん断乱流の古典として数多く引用された。

有江の研究は、流体工学および流体機械の広い分野にわたっている。流体工学の分野においては、流体抵抗の生成機構とその予測・制御を目的とする物体後流の乱流構造に関する研究、せん断乱流中の物体に作用する流体力および物体周辺の流動機構に関する研究、流動現象の全体的把握を目的とする流れの可視化法の研究などの先駆的な諸研究により、複雑乱流に関する研究の指導的役割をになった。この他にも管内流の発達過程、気液および固液2相流に関する研究などを行い、数多くの重要な成果をあげている。

また、流体機械の分野においては、遠心型ターボポンプの軸推力測定法に新しい道を拓き、キャピタション性能とその空気混入による制御、低揚程気泡ポンプの性能向上、人口心臓弁の流体力学的性能評価など、広い分野にわたる先駆的、実用的な研究を推進した。さらに、夕張市夕張川二股ダムの自動門扉に関する模型実験、様似町幌満川第二発電所水車の出力増加計画などの技術指導を行い、また、冬期オリンピック札幌大会の開催に際しては、大倉山シャンツエの気流に関する風洞実験を行って、改修指針を与えるとともに、真駒内公園屋外競技場の気流分布、地下鉄スノーシェルターの風圧分布に関する風洞実験を実施するなど、地域社会の科学技術の発展にも多大の貢献をした。

門下生に、北大熱エネルギー工学講座の福迫尚一郎（伝熱制御工学分野、教授、工学研究科長）、流体物理工学講座の飯田誠一（流れ情報工学分野、教授）および木谷 勝（流れ制御工学分野、教授）、固体工学講座の山田元（機械力学分野、教授）、坂本弘志（北見工業大学教授）、三谷将之（北海道教育大学教授）など、研究・教育で活躍する人材を数多く輩出した。

学会では、日本機械学会を中心として活躍し、副会長・理事・評議員・北海道支部長を歴任し、国際水理学会編集委員会委員をつとめた。1977年（昭和52年）より2期4年間にわたって北海道大学工学部長、1981年（昭和56年）第12代北海道大学学長に就任し、国際交流基金の設立、学術交流会館の建設などを行い、国際的な学術交流の推進に尽力した。

浅見義弘は、1922年（大正11年）3月東京帝国大学工学部電気工学科を卒業し、通信省電気試験所研究員を経て、工学部発足の翌年の1925年に電気工学科電気磁気学講座に初代の教授として就任した。1942年（昭和17年）には電気工学科通信工学講座の初代教授となり、1946年（昭和21年）から14年半の間応用電気研究所長を勤めた。1960年（昭和35年）4月電子工学科電子管工学講座の初代の教授に就任すると同時に工学部長に選任された。1962年（昭和37年）に停年退官となり、本学名誉教授となった。その後、成蹊大学工学部教授となり、1969年（昭和44年）から2年間は同工学部長を勤め、さらに停年と同時に成蹊大学名誉教授の称号も授与された。



浅見は、教育・研究で多大の業績をあげるとともに、本工学部、超短波研究所（後の応用電気研究所、現在の電子科学研究所）、電子工学科の創設、ならびに成蹊大学工学部の創設に尽力した。

浅見の研究テーマは高周波放電に関するもの、プラズマに関するもの、電磁遮蔽とスロットアンテナに関するもの、雪と電波およびアンテナ着氷雪に関するもの、高周波電磁波の生物における応用に関するものなど、多岐にわたっている。特に高周波放電に関する研究は浅見の学位論文（1936年（昭和11年）工学博士（東京大学））となった。

教育面では、北海道大学で37年間、成蹊大学で9年間という教授歴からもわかるように極めて多数の有能な人材を育てた。

浅見は本工学部創設時には留学体験を、戦後の復興期には米国著名大学の工業教育を、さらに成蹊大学工学部の創設時には欧州の諸大学の工業教育を紹介するとともにそれらの経験を活用し、応用電気研究所長、工学部長として教育・研究の舵取り役も担った。

松本 正は、1938年（昭和13年）北海道帝国大学工学部第4部類（電気工学科）を卒業、通信省を経て1941年（昭和16年）通信工学第二講座助教授に就任した。1952年（昭和27年）には教授に昇任、1961年（昭和36年）より1979年（昭和54年）まで電子工学科電波伝送工学講座教授を務めた。この間、細隙空中線、立体回路、電磁遮蔽など電磁波工学の分野に多大な業績を残した。



現在ではスロットアンテナと呼ばれている細隙空中線は導体板上の細い隙間がアンテナとして動作するもので、松本は卓越した研究によりその設計法を確立した。その成果により、諸外国にも例を見ない多素子スロットアレイアンテナが開発されるに至った。

また、立体回路に関しては、導波管内の「絞り」や「ポスト」などの不連続や各種の分岐回路、結合回路等を伝送回路的に扱い、表現の定式化を発展させた。これにより、それまでの煩雑な解析プロセスを電気技術者にとって扱い易い手法に展開することに成功した。さらに、その解析手法を一層複雑な異方性媒質や圧縮プラズマを含む導波管にも発展させ、それらの実用化に著しく貢献した。これらの特徴ある独創的研究手法は後継者に引き継がれ北海道大学の伝統研究になった。

また、戦後、数年を経て我が国の産業や医療施設等における高周波電波の利用が進み、電波利

用施設相互間の電波妨害を防止する電磁遮蔽の問題が緊急重要な課題となった。そのため金網による遮蔽が用いられたが、その効果は数多くの要素によって影響を受け、理論的評価は極めて困難であった。松本は電磁波理論に基づく、諸外国の文献にも類例のない独創的かつ画期的な理論体系を構築した。電気学会論文集に掲載された「金網による電磁遮蔽の理論」には電気学会学術振興賞26年度論文賞が授与された。

このように半世紀に亘る電磁波工学への多大な研究業績に対し、1982年（昭和57年）には電子通信学会（現電子情報通信学会）より功績賞が授与され、1983年（昭和58年）には同学会名誉員に選出された。さらに、1992年（平成4年）には勲二等瑞宝章受賞の栄に浴した。

大塚 博は、1933年（昭和8年）東京帝国大学工学部を卒業後、商工省燃料研究所技師として入所し、同研究所に初めて石油専攻研究室の基礎をつくった。

1938年（昭和13年）北海道帝国大学工学部に燃料工学科が設立されるにあたり招かれて同大学助教授に任ぜられ、燃料工学科創設委員の一人として大島義清博士を助けて新設学科の基礎確立に尽力し、1942年（昭和17年）に教授に昇任、その後、終戦後の大学の再建並びに旧制大学より新制大学への転換期における困難な大学管理運営に参画さ



れて、同大学評議員、学生部長、工学部長、工業教員養成所長等を歴任し、本学の発展に対して多くの功績を残した。例えば、学生部長時代には当時の杉野目学長を助けて国立大学としては最初の学生会館（クラーク会館）の設立に尽力するとともに、米国の大学を歴訪して学生会館の管理、運営方法を調査し、これに基づいて我国の大学に適した簡明な管理運営方針を設定した。本学の学生会館が完成後直ちに教職員、学生に開放され、この管理方針に基づいて今日まで何等の支障なく円滑に運営されていることは同人の努力に負う所が多い。また、工学部長時代には工学部管理運営の中核として幾多の業績を挙げた。特に応用物理学科、原子工学科の新設、また、多年の懸案となっていた工学部改築の着工等に対しては大きな推進力となっている。

一方、1946年（昭和21年）燃料工学科は応用化学科に改組され、石油工学、石油化学、触媒化学を内容とする同学科第三講座を1973年（昭和48年）に停年退官するまで担当し、同学科の最先任教授として多年にわたり学生の教育に尽瘁し、専門分野の研究の推進と指導に献身的に努力し、また、退官後も直ちに苫小牧工業高等専門学校長に就任、1981年（昭和56年）に同校を退くまで多くの人材の教育、育成に努め、世に輩出した。同人の高邁な人柄は教えを受けた全ての者の心の支えとなっており、逝去に伴って出された追悼集「博道」を座右の書としている教え子は数知れない。この間、四十年にわたる研究生活で、石油化学における酸性触媒の開発やその作用機構に関する研究を中心に行い、その成果は、例えば、戦時中における航空燃料の新規製造法の開発、戦後においては有用な工業中間体であるアルキルベンゼン合成触媒の開発、金属酸化物の触媒作用機構を触媒上の酸点、塩基点に着目した解明などの学術的研究に止まらず、研究成果の工業化など産業界に対しても大きな寄与をし、この分野における世界的権威者として高く評価されている。このため、学会における活動も活発であり、日本化学会副会長、同北海道支部長、石油学会理事および評議委員、燃料協会常議員、澱粉学会北海道支部長などを歴任した。

さらに、地域社会の発展に対しても大きく貢献し、北海道第二期、第三期総合開発委員会委員として参画し、多年工業エネルギー部会長を務め、また、大規模工業基地開発委員会委員、北海

道開発推進協議会委員を歴任し、1958年（昭和33年）末には、苫東地区に石油備蓄基地設立に関する北海道防災技術委員会委員長、苫小牧市の工業立地審議会委員長等を務めた。

岡本 剛は、1928年（昭和3年）東京帝国大学理学部化学科を卒業、東京工業試験所に勤務後、1930年（昭和5年）北海道帝国大学理学部化学科助手、助教授を経て、1942年（昭和17年）から工学部教授として理学第二講座を担当した。

戦中戦後の困難な時期において、工業触媒ならびに反応工学に関する研究に着手し、さらに金属腐食科学、防食工学、水処理科学などの新しい諸分野において開拓的な研究を進めるとともに、それぞれの分野で後進の研究指導に情熱を傾注した。その研究業績は多数の論文に発表されて各界の注目を集め、1944年（昭和19年）には「エチレンの直接酸化におけるエチレンオキシドの合成」によって技術院賞を、1957年（昭和32年）には、「腐食に関する電気化学的研究」によって電気化学協会棚橋論文賞を、1961年（昭和36年）には、「金属の腐食防食に関する研究」によって日本化学会賞をそれぞれ受賞し、またこれらの研究上の功績にたいして、1966年度（昭和41年）北海道新聞文化賞ならびに1963年度（昭和38年）東洋レーヨン科学技術賞が授与された。



学会関係では、国内において日本化学会副会長、電気化学協会副会長などを歴任し、海外において国際金属腐食会議名誉副会長を務め、1972年（昭和47年）東京における第5回国際腐食会議を開催するなど学術の振興に尽くした。

学内にあっては、1952年（昭和27年）から2年間北海道大学評議員として本学運営の枢機に参画し、1964年（昭和39年）には教養部長の重責につき本学教養部の運営と発展のために精魂を傾けた。また、早くから北海道地域社会へ目を向け、終戦直後の困難な時期に化学工業の復興をはかるため道内の化学工場の実態調査を企画、推進した他、河川の清浄化、水質汚染防止など今世紀の重要課題に先見の明を持って取り組んだ。

その真摯にして慎重・温かな人格は後輩の等しく敬慕するところであり、学生および後進の自主性を重んじ、活発な討論を行う自由な雰囲気から反応工学、水処理科学、腐食科学の分野で我が国および世界をリードする人材を輩出した。この伝統は、次世代へと受け継がれ本学において現在も脈々と続いている。

幸田成康は、1932年（昭和7年）東京帝国大学理学部物理学科卒業、古河電気工業（株）理科試験所を経て、1942年（昭和17年）北海道帝国大学工学部に生産冶金工学科が設立されるに当たり、冶金学第四講座教授として着任、1958年（昭和33年）東北大学金属材料研究所に転出するまで、同学科の基礎の確立、教育指導と発展のために多大の貢献をした。



冶金学は鉱石から化学的製錬工程を経て精製された金属を、合金、鑄造、加工して用途に適する素材を製造する目的で発達してきた技術であるが、物理学的手法の導入によって物理冶金への進展を促した。現在は金属の原子配列から電子状態の視点にまで立って金属・合金を研究する金属物理学の学問体制が確立された。

研究はX線回折，電子顕微鏡など新しい研究技法を用いた金属物性の解明にある。金属中の原子配列の乱れによって生ずる転位など格子欠陥の研究，アルミニウム合金の熱処理過程で生ずる時効硬化，析出硬化および復元現象の研究，合金中の微細析出粒子と移動する転位との相互作用による硬化機構の解明などがある。これらの功績により日本金属学会賞他多くの賞を受賞した。日本の金属物理学の進歩発展に貢献した一人である。

多くの著書があり，「百万人の金属学」シリーズの監修者兼著者である。北海道大学教授として在職中の講義資料などに基づいて刊行された「金属物理学序論」(1964)は難解な内容を平易な言葉で表現した名著であり，現在なお金属学専攻の学生は勿論関連研究者にとって座右の書として親しまれている。

研究者として科学に対する態度は真摯であり，第一に自然の事実を忠実に学んで確実に積み上げていく「漸進的」姿勢，第二は「謙虚」な心を持ち客観的な態度を失わないこと，第三に一生をかけて行う仕事であり「熱情」の大切さをあげている。学生の信頼を一身に集め，戦中戦後の厳しい環境の中で努力し，学科発展の基礎を築いた。

星 光一は，北海道帝国大学工学部機械工学科第6期生として1933年（昭和8年）に卒業後，1933年（昭和8年）基隆炭鉱(株)，1934年（昭和9年）(株)栗本鉄工所，1936年（昭和11年）(株)新潟鐵工所工作技術研究所所長，1947年（昭和22年）(株)小野鉄工所取締役工場長，1951年（昭和26年）新潟機械技術研究所所長，1952年（昭和27年）不二越網材工業株式会社富山製造所副所長，1955年（昭和30年）石川島芝浦タービン(株)囑託，1956年（昭和31年）タンガロイ工業株式会社囑託，1956年（昭和31年）(株)牧野立豎フライス製作所顧問，1957年（昭和32年）東洋電機株式会社顧問として奉職の後，1958年（昭和33年）北海道大学工学部精密工学科創設に伴い，精密加工学講座の教授として着任した。その間，金属切削の瞬間停止装置を開発することにより工具刃先に被削物が堆積し，それが実際の切削を行っていることを発見し，「構成刃先 (Build Up Edge)」と命名した。この功績により，1959年（昭和34年）東京大学より工学博士の学位を取得している。1964年（昭和38年）から1966年（昭和40年）まで北海道大学学生部長を併任し，1970年（昭和45年）に旭川工業高等専門学校長として転出するまで12年間の短い期間に，「ロータミラーの開発」「プラズマジェット加工法」などの新加工法の研究開発を通して，切削工学の第一人者として産業界に多大な貢献をした。星の信条「開物成務（人のまだ知らないことを開発し，事業を完成させる）」は今も卒業生により引き継がれている。これらの功績により1979年（昭和54年）北海道科学技術賞を受賞した。



大野和男は、東京帝国大学工学部を1932年（昭和7年）に卒業、同大学院を1939年（昭和14年）に修了した後、中島飛行機㈱に入社し、航空機体課長・試作工場長等を経て、1948年（昭和23年）終戦に伴う会社の解散再編により富士産業㈱矢島分工場長・総務部長を歴任した。この間、いずれも航空機史を飾る名機となった双発夜間戦闘機「月光」、長距離偵察機「彩雲」、我が国初のジェット戦闘機「橘花」などの開発研究と設計・生産に従事した。



戦後は、北海道大学工学部建築工学科創設時の教授として就任し、1953年（昭和28年）に東京大学から工学博士の学位を授与された「モルタルおよびコンクリートの乾燥収縮と亀裂防止に関する研究」は、亀裂防止に関する理論を完成させたもので、国際的水準を抜くものとして、翌年に日本建築学会賞が贈られた。また、「大野式加力法」として名高い剪断破壊試験法を用いて鉄筋コンクリート造部材の剪断破壊耐力式を提示し、これに基づき1971年（昭和46年）に日本建築学会の設計規準が改定され、わが国の建築物の耐震性能の向上に大きく貢献した。更に、鉄筋コンクリート造建物の温度応力実用計算法や木造建物に関する基準法の改正提案等々、建築構造設計への提言に枚挙がない。

大野は、学内においては工学部長・評議員・将来計画専門委員長・その他の全学運営の用務を担当し、学外では第7期日本学術会議会員、諸学会の理事・支部長、北海道および全国建築審査会協議会会長等を歴任し、国外では日本学術会議日本代表として諸外国との研究交流を行った。

定年後は北海道建築指導センター理事長として北海道の建築技術の向上に貢献し、1973年（昭和48年）に北海道科学技術賞、1976年（昭和51年）に北海道新聞文化賞が贈られ、更に1981年（昭和56年）に同人の多年に亘る業績に対して勲二等瑞宝章が授与された。

丹保憲仁は、1955年（昭和30年）北海道大学土木工学科を卒業、新制大学院三期生として工学部土木工学専攻修士課程に入学する。我が国最初の衛生工学科を北海道大学に創設するための新学科要員たるべく、専攻内に特設された衛生工学専修課程の唯一の学生として、工学部で流体工学・水文学・水質化学等を、医学部で衛生学・環境衛生学・細菌学等を学び、学際的な教育を受けた最初の大学院生となった。その間、日本で最初の衛生工学科を創るために必要な事項の調査・資料収集、教育課程試案作り等に従事し、その成果をもって修士課程修了時の1957年に新設された北海道大学工学部衛生工学科第一講座の講師に任用された。1958年同助教授、1969年に教授となり、水環境工学・都市水工学の揺籃期から発展・成熟の過程に至るまでの半世紀にわたり、日本の環境科学・技術・行政・産業界に多くの指導的人材を送り出した。その功績により、1990年に厚生大臣特別表彰を受けている。



その研究は多岐にわたるが、都市における上下水道の先駆的研究者として、環境容量・都市水代謝システムという新しい概念を提案することによって都市の持続的な発展における方向性を示し、さらに、都市水環境の制御のための工学的手段としての各種水処理プロセスを、水質マトリックスに基づいて機能評価する画期的研究を行った。これらの学術的業績によって土木学会賞（著作賞）、日本水環境学会学術賞ほか多くの学・協会賞を受賞した。

国際的な活動にも意欲的であり、途上国への技術移転のパイオニアとしてアジアの国々で功績

を挙げ、多くの留学生をも育ててきた。その功績により1975年インドネシア国公共事業大臣から特別表彰を受けたほか、黄河流域、揚子江中下流部の水処理技術の顧問活動に当たったことにより1992年に西安建築科技大学から名誉教授の称号を受けた。

一方、水環境学・都市水工学の学会トップリーダーの一人として国際水道協会等の国際学会の要職に就き、学術研究の世界的な発展に努めた。1999年、72カ国の機関と4500人の個人会員を持つ国際水研究組織International Water Associationの設立に尽力し、1999年より初代の副会長を務めている。これらの活動に関連して、1995年スロヴァキア工科大学と2000年マサチューセッツ大学から名誉工学博士の称号を、同じく2000年にオスロに事務局を置く国際水アカデミーから会員への推挙を受けている。2001年には米国環境工学アカデミーの名誉国際会員に迎えられた。

本学においては、1991年から1993年まで北海道大学学生部長、1993年から1995年まで工学部長、1995年から2001年4月30日まで北海道大学第15代総長を歴任した。また学外においても学術会議会員、土木学会会長等に就任し、日本の大学の改革と21世紀への新展開について多くの新機軸を提案実現してきた。

第 部

第三者評価(外部評価)の実施状況

第Ⅳ部

第三者評価（外部評価）の実施状況

本学においては、平成5年度から第三者評価（外部評価）が積極的に実施されており、平成12年度の各部局における第三者評価（外部評価）の実施状況については、以下のとおりである。

また、平成13年度にも文学研究科・文学部、法学研究科・法学部、薬学研究科・薬学部、農学研究科・農学部、獣医学研究科・獣医学部、医学部附属病院、保健管理センターにおいて、実施が計画されている。

なお、これまでの実施状況については、巻末の点検評価関係資料の中に「北海道大学における第三者評価（外部評価）実施状況一覧」として、とりまとめている。

【平成12年度の実施状況】

1 教育学研究科・教育学部

1 実施時期

平成12年12月1日（金）

2 目 的

教育・研究活動・管理運営について現状分析と将来に向けての提言を得る。

3 実施対象（専攻、部門、分野等）

教育学研究科・教育学部全体

4 実施方法等

評価のための資料を事前に配布して予め検討願い、その後、教育学研究科・教育学部において評価を受け、意見交換を行う。

5 外部評価委員

国籍	所 属	職 名	氏 名	担 当 分 野	備 考
日本	北海道教育大学	学 長	村山 紀昭	評価項目全般について、専門的立場から評価検討を行う。	
日本	北星学園大学	学 長	大友 浩		代理（教授）：土橋信男
日本	札幌学院大学	学 長	狩野 陽		
日本	天使病院小児科	部 長	太田八千雄		
日本	北海道高等学校長協会	会 長	武内 光一		
日本	北海道私立幼稚園協会	会 長	澤田 豊		
日本	北海道教育委員会	教 育 長	鎌田 昌市		欠 席
日本	札幌市教育委員会	教 育 長	山 恒雄		欠 席
日本	北海道体育協会	専務理事	小林 孝雄		
日本	北海道新聞社	相 談 役	北川日出夫		
日本	北海道中小企業家同友会	代表専務	大久保尚孝		

6 外部評価委員の選考方針

専門分野に造詣の深い学識経験者で、大学関係者、高等学校関係者、教育庁関係者、企業関係者、その他の幅広い範囲から選考した。

7 外部評価項目

教育・研究、管理運営

8 外部評価資料

- 1) 北海道大学教育学部・北海道大学大学院教育学研究科便覧
- 2) 北海道大学教育学部紹介・We Like Humans（2000年）
- 3) 北海道大学大学院教育学研究科・教育学部概要
- 4) 平成13年度北海道大学大学院教育学研究科修士課程案内
- 5) 研究と教育の報告 - 1995年～1997年 -
- 6) 教育学研究科・教育学部有識者懇談会資料（研究科専攻・講座の概要、研究科・学部改革の組織関連図）
- 7) 研究科教官移行表、研究科・学部の研究内容の移行、学生の入学・卒業状況、学生の進路状況、外国人留学生、研究成果を現場・社会に還元するシステム、社会的要請への具体的対応）

9 外部評価の結果

取りまとめ中である。

10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月（予定）

- 1) 北海道大学大学院教育学研究科・教育学部有識者懇談会報告書 - 第三者点検評価報告書 -
- 2) 刊行予定年月：平成13年3月

11 実施経費の内容

校費（報告書作成経費等）

12 外部評価結果の活用状況

外部評価で得た結果については、今後、教育学研究科・教育学部における教育・研究・管理運営等に活用していく予定である。

13 外部評価の感想，反省点，改善点及び今後の予定等

評価については、現在取りまとめ中であり、まとめ次第、反省点、改善点について検討し、今後の教育・研究に反映させる。

2 農学研究科・農学部

1 実施時期

平成13年2月中旬～3月上旬

2 目 的

大学院重点化による最初の専攻（生物資源生産学専攻）の設置後3年を経過したのを機に、改革の理念・目的及びその達成度について自己点検評価を実施するとともに、学外有識者による検証（外部評価）を実施する。

3 実施対象（専攻，部門，分野等）

生物資源生産学専攻

4 実施方法等

- 1）点検評価委員会において、大学院重点化が実施された順（生物資源生産学専攻，環境資源学専攻，応用生命科学専攻）に実施することとした。
- 2）外部評価実施要項を制定し，外部評価実施方法等について決定した。
- 3）大学院改革の全体計画と生物資源生産学専攻について，改革の理念・目的及びその達成度について自己点検評価を実施。
- 4）各外部評価委員に事前に自己点検評価報告書及び関係資料を送付し，当該専攻等の状況を把握願い，外部評価実施日に評価項目ごとの説明・質疑応答等を行い，また，施設・設備等の調査により実施。

5 外部評価委員

国籍	所 属	職 名	氏 名
日本	(株)北海道自然学研究所	取締役会長	石 黒 直 文
日本	農林水産省北海道農業試験場	場 長	稲 葉 忠 興
日本	東京農工大学	学 長	梶 井 功
日本	農林水産省農業生物資源研究所	所 長	桂 直 樹
日本	新潟大学大学院自然科学研究科	研 究 科 長	小 島 誠
日本	帯広畜産大学	学 長	佐々木 康 之
日本	東京大学大学院農学生命科学研究科	研 究 科 長	林 良 博
日本	北海道新聞旭川支社	支 社 長	渡 辺 藤 男

6 外部評価委員の選考方針

点検評価委員会において、人格識見が高く、かつ、本研究科等の振興発展に関心と理解のある学外者で、大学、研究所及び民間企業等の幅広い範囲の中から選考した。

7 外部評価項目

- 1) 大学院重点化に係る改革の理念と目的、組織・機構、専攻と学部との関係、組織・運営体制、教官人事
- 2) 専攻の研究体制
- 3) 教育体制
- 4) 教育・研究環境等について評価と提言を受ける予定。

8 外部評価資料

自己点検評価報告書の他、大学院農学研究科・農学部概要、学生便覧、大学院農学研究科学位生募集要項等。

9 外部評価の結果

現在取りまとめ中

10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月（予定）

評価報告書の具体の名称は未定、平成13年4月頃を目途に報告書として刊行の予定

11 実施経費の内容

奨学寄附金、校費（報告書作成経費等）

12 外部評価結果の活用状況

外部評価で得た結果については、今後、本研究科・専攻における教育・研究・管理運営面等に活用していくとともに、必要に応じ本研究科の関連する委員会に対し改善事項の検討を付託する予定である。

13 外部評価の感想，反省点，改善点及び今後の予定等

実施経費について，今年度，措置されなかったため，研究科内で措置せざるを得ない。

3 低温科学研究所

1 実施時期

平成12年10月2日（月曜日）・3日（火曜日）（外国人委員のみ）

平成12年12月14日（木曜日）（国内委員のみ）

2 目 的

全国共同利用型の研究所に転換し，5年を経過したので，研究所全体の活動及び将来展望等についての評価を受ける。

3 実施対象（専攻，部門，分野等）

低温科学研究所全体

4 実施方法等

1）平成12年6月16日（金）

低温科学研究所点検評価委員会において外部委員による点検評価を行うことを決定。

2）平成12年7月6日（木）

低温科学研究所点検評価委員会において外部評価の時期，評価期間，評価資料，委員候補者，評価内容（案）等について決定。

3）平成12年11月6日（月）

低温科学研究所点検評価委員会において外部評価資料の点検及び外部評価委員会の進行の確認。

5 外部評価委員

国籍	所 属	職 名	氏 名	専門分野	担当分野
日本	東京大学	海洋研究所長	平 啓介	海 洋 学	全 般
日本	名古屋大学	大気水圏科学研究所長	福嶌 義宏	陸 水 学	全 般
日本	国立極地研究所	所長	渡邊 興亞	雪 氷 学	全般(主査)
日本	海洋科学技術センター	地球フロンティア研究システム長	松野 太郎	気 象 学	全 般
日本	宇宙科学研究所	惑星研究系主幹	水谷 仁	惑星科学	全 般
日本	岡崎国立共同研究機構	基礎生物科学研究所長	毛利 秀雄	生 理 学	全 般
日本	京都大学	生態学研究センター長	中西 正己	生 態 学	全 般
ロシア	ロシア科学アカデミー	地理学研究所長	Kotlyakov, V M	雪 氷 学	全 般

6 外部評価委員の選考方針

低温科学研究所の研究分野と関連する研究を行っている代表的な研究者

7 外部評価項目

1) 研究所全体の評価

理念，組織及び管理・運営

教官人事

研究活動（COEプロジェクトを含む。）

大学院教育及び社会活動

研究支援体制

予算・施設・設備

国際交流

将来展望

研究所への提言

2) 各研究部門・附属施設の評価

研究課題と成果

研究業績

総合所見，提言など

8 外部評価資料

1) 北海道大学低温科学研究所外部評価資料

2) 北海道大学低温科学研究所概要

3) 北海道大学低温科学研究所年報1995

4) 北海道大学低温科学研究所年報1996

5) 北海道大学低温科学研究所年報1997

6) 北海道大学低温科学研究所年報1998

7) 北海道大学低温科学研究所年報1999

8) 北海道大学低温科学研究所外部点検評価報告書（1998年発行）

9) 北海道大学低温科学研究所附属流水研究施設外部評価報告書（1999年発行）

10) 雪崩事業費による研究の経緯と成果外部点検評価報告書（1999年発行）

11) COEプロジェクト「オホーツク海と周辺陸域における大気 - 海洋 - 雪氷圏相互作用」外部評価報告書Ⅰ（1997年発行）

12) COEプロジェクト「オホーツク海と周辺陸域における大気 - 海洋 - 雪氷圏相互作用」外部評価報告書Ⅱ（1998年発行）

9 外部評価の結果

取りまとめ中

10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月（予定）

北海道大学低温科学研究所外部評価報告書（2000）（仮称）

平成13年3月（予定）

11 実施経費の内容

旅費（外国人招へいを含む） 1,549,000円，謝金 250,000円
印刷費（予定） 503,000円，郵送料（予定） 50,000円

12 外部評価結果の活用状況

外部評価で得られた結果は，今後本研究所の研究・管理運営等に活用していく予定である。

13 外部評価の感想，反省点，改善点，及び今後の予定等

今回の外部評価は，研究活動の評価に重点を置いたので，関連研究機関の代表者及びそれに準ずる方に評価委員を依頼したが，今後は，民間の研究機関及び研究者以外の方に評価委員を依頼することも検討したい。

今後の予定は，COE研究プロジェクトに対する外部評価を平成13年度に実施予定。

4 遺伝子実験施設

1 実施時期

平成13年3月

2 目 的

- 1) 共同利用施設としての運営の改善。
- 2) 施設における研究の紹介を通して研究交流を促進し，遺伝子研究を推進する。

3 実施対象（専攻，部門，分野等）

遺伝子実験施設の運営，教育活動及び職員ならびに利用者の研究活動。

4 実施方法等

独立部局ではあるが，職員3名の共同利用施設なので，概要及び活動・利用報告書を作成し，利用者・運営委員・関係部局・各大学の遺伝子実験施設等に配布し，意見を得る。

5 外部評価委員

評価委員は選考しない。

6 外部評価項目

施設運営，講習会等の教育活動，研究活動

7 外部評価資料

施設概要

北海道大学遺伝子実験施設活動・利用報告書（平成11年度）

8 実施経費の内容

報告書等印刷費・郵送費

9 外部評価結果の活用状況

意見を今後の運営に取り入れるとともに、研究交流の促進に役立てる。

5 エネルギー先端工学研究センター（１）

1 実施時期

平成12年10月5日（木）

2 目 的

エネルギー先端工学研究センターの共同利用研究施設である特殊設備マルチビーム超高压電子顕微鏡の研究展開への活用と成果について、同設備の基礎・応用研究分野と関連が強い有識者に評価を依頼し、今後の研究の更なる展開と進展に対する一層の寄与を図る。

3 実施対象（専攻，部門，分野等）

エネルギー先端工学研究センター超高压電子顕微鏡研究室（マルチビーム超高压電子顕微鏡施設）

4 実施方法

- 1）12. 7. 24 本センター点検評価委員会において、外部評価の実施について了承
- 2）12. 8. 29 本センター教官会議において、外部評価委員候補者の選出，実施時期，実施要領の最終確認。
- 3）12. 9. 4 センター長より6名の評価委員候補者に、エネルギー先端工学研究センター外部評価委員の委嘱を依頼。
- 4）12. 10. 5 外部評価委員会を開催。施設概要，活動状況・成果等を説明し質疑応答後，マルチビーム超高压電子顕微鏡，新世代先端材料研究実験棟及び関連研究施設を視察・調査した。

なお，各外部評価委員からは，後日，アンケート形式による評価結果の報告を受け，報告書としてまとめ公表する。

5 外部評価委員

国籍	所 属	職 名	氏 名	専門分野	担 当 分 野
日本	産業技術短期大学	学 長	及川 洪	材料科学	評価総括委員長
日本	三菱ガス化学(株) 総合研究所	主管研究員	堀内 繁雄	電子顕微鏡学	評価項目全般に関して専門 的立場から評価検討
日本	東北大学 金属材料研究所	所 長 (教授)	井上 明久	先進材料科学	〃
日本	日本原子力研究所 那珂研究所	所 長	松田慎三郎	核融合 エネルギー工学	〃
日本	北海道大学 大学院医学研究科	教 授	阿部 和厚	基礎医学	評価項目に関して専門的並び に学内的立場からの評価検討
日本	北海道大学 大学院工学研究科	教 授	佐伯 浩	海洋工学	〃

6 外部評価委員の選考方針

センター並びに超高压電子顕微鏡研究室専門委員から推薦を基にセンター教官会議にて選出した。

7 外部評価項目

- 1) 研究目標・成果
- 2) 研究成果の公表状況
- 3) 社会との連携
- 4) 研究組織
- 5) 教育活動
- 6) 研究施設・設備状況
- 7) 研究費
- 8) 総合評価

8 外部評価資料

- 1) エネルギー先端工学研究センターマルチビーム超高压電子顕微鏡実験施設外部評価資料
- 2) マルチビーム超高压電子顕微鏡要覧
- 3) マルチビームHVEM・関連設備による先端材料研究年報，1998年版，1999年版
- 4) 先進電子顕微鏡とその材料科学への応用国際シンポジウム論文集〔1997年〕

9 外部評価の結果

現在とりまとめ中

10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月（予定）

マルチビーム超高压電子顕微鏡実験施設外部評価報告書（平成13年1月末日）

11 実施経費の内容

講師等旅費，委任経理金及び校費（報告書作成経費等）

12 外部評価結果の活用状況

本センターのみならず，全学共同利用研究・実験利用施設として，尚一層の実験研究の進展と展開を図るための活用と将来のセンター構想策定の基本資料とする。

13 外部評価の感想，反省点，改善点及び今後の予定等

マルチビーム超高圧電子顕微鏡施設は，世界的に極めてユニークな施設であり，その活用により，学内外ばかりでなく国際的にも共同研究等により非常に優れた成果・実績を挙げているとの評価を得た。一方，研究と同時に共同利用施設としての維持管理・運用において，配置人員が非常に少ない状況下で献身的努力に依るところが大きいが，この状態では将来その運用に支障を来す可能性が強いとの懸念が指摘された。また，本施設は本センター各分野のエネルギー関連研究に対して必ずしも十分でなく，当該施設の機能から見て，エネルギー研究以外の物質・材料研究への積極的な活用転換が望ましい。その一方策として，既設の新世代先端材料研究実験施設を生かした，ナノテクノロジー的研究のための研究拠点などの新しい構想を策定するのが北海道大学にとっても好ましいとの意見が述べられた。こうした評価委員のご指摘を考慮し，今後，本センターの研究への反映はもとより，共同利用研究施設として，本学の特徴ある優れた研究基盤の構築に貢献可能な組織・運用体制の確立を検討したい。

6 エネルギー先端工学研究センター（２）

1 実施時期

平成12年10月6日（金）

2 目 的

エネルギー先端工学研究センターが進めてきた研究・教育活動について，関連の深い研究分野の識者に評価を依頼し，更なる研究・教育の進展と活性化を図る。

3 実施対象（専攻，部門，分野等）

エネルギー先端工学研究センター炭素系資源転換反応分野，炭素系資源評価分野，エネルギー転換制御分野，極限材料科学分野

4 実施方法等

- 1) 12. 7. 24 本センター点検評価委員会において，外部評価の実施について了承。
- 2) 12. 8. 29 本センター教官会議において，外部評価委員候補者の選出，実施時期，実施要領の最終確認。
- 3) 12. 9. 4 センター長より4名の評価委員候補者に，エネルギー先端工学研究センター外部

評価委員の委嘱を依頼。

4) 12. 9. 14 外部評価委員あて、センターで用意した「外部評価資料」等を送付し事前の検討を依頼。

5) 12. 10. 6 外部評価委員会を開催。評価項目等に関する説明、質疑・討論及び施設調査等を行った。

なお、各外部評価委員からは、後日、アンケート形式による評価結果の報告を受け、報告書としてまとめ公表する。

5 外部評価委員

氏 名	所 属・職 名	専 門 分 野	担当分野
及川 洪	産業技術短期大学 学長（委員長）	金属工学，材料科学	全体評価
椛島 成治	長崎大学教育学部 教授	物理学，エネルギー工学	全体評価
架谷 昌信	名古屋大学理工科学総合研究センター センター長	化学工学，エネルギー工学	全体評価
持田 勲	九州大学機能物質科学研究所 所長	合成化学，エネルギー化学	全体評価

6 外部評価委員の選考方針

センター各分野から候補者を推薦し教官会議で選出。

7 外部評価項目

1) 研究目標・成果について

- (a)研究課題(1)：重質炭素系資源の転換反応の研究
- (b)研究課題(2)：炭素系資源のキャラクタリゼーションと触媒関連の研究
- (c)研究課題(3)：燃焼プラズマ，MHD発電関連研究
- (d)研究課題(4)：先進エネルギー材料の高機能化と創製に関する基礎研究

2) 研究成果の公表状況について

3) 社会との連携について

4) 研究組織について

5) 教育活動について

6) 研究施設・設備状況について

7) 研究費について

8) 総合評価

8 外部評価資料

1) 北海道大学エネルギー先端工学研究センター外部評価資料

2) 分野の歩み，各1部

3) エネルギー先端工学研究センター要覧

4) エネルギー先端工学研究センター年報第6号

5) エネルギー先端工学シンポジウム論文集，第1～6巻

-
- 9 外部評価の結果
- 現在取りまとめ中
- 10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月（予定）
- 北海道大学エネルギー先端工学研究センター「外部評価報告書」
平成13年1月末
- 11 実施経費の内容
- 講師等旅費，委任経理金及び校費（報告書作成経費等）
- 12 外部評価結果の活用状況
- センターを構成する4分野間の一層の有機的連携を指向すると共に時限後に向けた将来構想策定のための基本資料とする。
- 13 外部評価の感想，反省点，改善点及び今後の予定等
- 各分野は人的，予算的制約の中で総じて優れた成果を挙げているとの評価を得た。同時にセンターに統合されたために得られた成果が少なく相互の連携に問題がある，との指摘を受けた。設立後6年を経過した現時点で連携が十分でないことは反省点の一つであり，今後時限到来までの期間の努力目標にすると共に，特に将来構想の策定に当たってセンターの統一目標に向けた有機的連携が最重点の検討課題であると考えている。

7 医療技術短期大学部

- 1 実施時期
- 平成12年12月12日（火）
- 2 目 的
- 学外有識者による客観的な評価を受け，本医短の教育研究の改善を図る。
- 3 実施対象（専攻，部門，分野等）
- 医療技術短期大学部全般
- 4 実施方法等
- 1）平成12. 8. 下旬
- 本医短点検評価委員会で学外有識者による評価を受けることを決定，5名の有識者を選出すると共に評価項目を決定。
- 2）平成12. 10. 中旬
- 各学科評価委員に事前に資料を送付した。また，学外評価を受けるための内部点検評価を

行う3つのWGを設置した。

3) 平成12. 12. 12 (火)

学外評価委員会を開催。医短の沿革，概要等の説明及び3つのWGの座長から内部評価の結果を資料に基づきそれぞれ説明し，併せて施設設備の視察を行った。

5 外部評価委員

国籍	所 属	職 名	氏 名
日本	大阪大学医学部	教 授	稲 邑 清也
日本	天使大学	学 長	近 藤 潤子
日本	東北大学医療技術短期大学部	部 長	高 林 俊文
日本	日本赤十字北海道看護大学	学 長	松 木 光子
日本	北海道保健福祉部	部 長	毛 利 義臣

6 外部評価委員の選考方針

人格識見が高く，本医短に関心と理解のある学外の大学等の学識経験者

7 外部評価項目

- 1) 教育課程について
- 2) 教員組織について
- 3) 研究活動について

8 外部評価資料

- 1) 北海道大学概要
- 2) 北海道大学案内
- 3) 北海道大学医療技術短期大学部概要
- 4) 北海道大学医療技術短期大学部案内
- 5) 北海道大学研究者総覧（医短分）
- 6) 北海道大学研究活動一覧（医短分）
- 7) 学生便覧
- 8) 授業概要
- 9) 北海道大学医療技術短期大学部学外評価資料
- 10) 上記7の評価項目ごとの資料（3種類）

9 外部評価の結果

現在，各委員が評価中

10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月（予定）

北海道大学医療技術短期大学部外部評価報告書（仮称）
平成13年3月末刊行

11 実施経費の内容

外部評価実践支援経費

12 外部評価結果の活用状況

外部評価で得た結果については、今後、本医短の教育研究及び管理運営面に活用していく予定である。

13 外部評価の感想，反省点，改善点及び今後の予定等

取りまとめ中である。

第 部

点検・評価結果に基づく改善事項

第Ⅴ部

点検・評価結果に基づく改善事項

経緯

本学では、平成4年度から点検・評価を実施し、その結果を毎年「年次報告書」として刊行してきた。平成4年度から平成6年度までは、「北海道大学点検項目指針」（平成4年3月決定）により大学全般について点検・評価を行い、その過程で、研究活動評価資料の一つとして、平成4年度からは毎年「研究活動一覧」を、平成5年度からは3年ごとに「北海道大学研究者総覧」を刊行することとした。また、平成7年度には、これらの結果を踏まえて具体的な改善に向けての提言が行われた。

さらに本学では、平成9年度から点検・評価の在り方を「これまでのような総花的なものではなく、本学がその時々直面する全学的な課題等に絞って機能的に点検・評価を行い、改善すべき方策を提言することまでを視野に置き検討する新しいシステムとし、それらの提言を受けて総長がリ・ダ・シップを発揮し、改善のための具体的な行動に結び付け、本学の教育研究を活性化させることを目的としたもの」とし、より具体的な提言が可能となるシステムに変更した。

ここでは、点検評価委員会からこれまで提言のあった事項のうち「具体的な改善に結び付いた事項」の概要を紹介する。

点検・評価結果に基づく改善事項一覧

提言年度	提 言 事 項	改善年度	改 善 事 項
7年度	1 第三者評価（外部評価）の推進	8年度	・ 第三者評価（外部評価）実施部局の増加 ・ 第三者評価（外部評価）の実施概要を年次報告書に掲載
	2 研究業績デ・タベ・スの構築	10年度 11年度	・ 北海道大学研究者総覧のデ・タベ・ス化及びホ・ムペ・ジでの公開 ・ 研究活動一覧のデ・タベ・ス化及びホームページでの公開
8年度	3 全学における点検評価システム	9年度	・ 点検評価規程の改正 ・ 新システムによる点検評価の実施
	4 各種委員会の見直し	10年度 11年度	・ 部局長会議の設置 ・ 委員会の見直し（23の学内委員会を10に再編）
9年度	5 ファカルティ・ディベロップメントの推進	10年度	・ ファカルティ・ディベロップメントに基づく教員研修の実施
10年度	6 教員の総合的業績調査	12年度	・ 教育，管理運営，社会貢献活動一覧の刊行

1 第三者評価（外部評価）の推進

平成7年度の点検評価委員会から「従来の本学における自己点検評価資料を基礎に積極的に国内外の最先端の外部有識者による外部評価を受けることによって外部評価委員の評価と提言を本学の活性化に生かしていくことが望まれる。本学においても全学的に推進すべく、積極的に取り組むべきであろう。」との提言があった。

本学では平成5年度に1部局が第三者評価（外部評価）を実施してから、平成6年度2部局、平成7年度5部局であったものが、提言後の平成8年度には6部局、平成9年度9部局、平成10年度13部局と実施部局が着実に増加した。

特に大学院重点化された研究科では、重点後の教育研究活動等の状況について、積極的に第三者評価（外部評価）を受け、その充実に努めている。

また、第三者評価（外部評価）の実施結果は、それぞれの実施部局で報告書を作成し公表しているが、平成5年度から平成8年度までに実施されたものは平成8年度年次報告書に、平成9年度から平成12年度に実施されたものはそれぞれ当該年度の年次報告書に概要を掲載した。

2 研究業績デ・タベ・スの構築

本学では、平成4年度から「研究活動一覧」を、平成5年度から「北海道大学研究者総覧」を刊行している。これを踏まえて平成7年度の点検評価委員会から「本学における教育研究を支援するために重要であるのみならず、本学が国内外における学術情報の主要な発信基地となるべく、全教官の研究活動に関するデ・タベ・スを構築整備することが急務である。」との提言があった。

その後、学術情報委員会においてデ・タベ・ス化の検討を行い、「北海道大学研究者総覧」については、平成10年8月から本学のホ・ムペ・ジで「研究業績デ・タベ・ス」として公開を開始した。

また、「研究活動一覧」については、平成10年度にデ・タベ・ス化を行い、平成11年度から本学ホームページの「研究業績データベース」のなかで公開を開始した。

3 全学における点検評価システム

本学では、平成4年3月に「北海道大学点検項目指針」を定めて、点検・評価を実施してきたが、平成8年度の点検評価委員会では、「広範な資料収集や点検評価作業に過大な労力を投じたが、必ずしも改善に結び付いていなかったように思われる。」との反省がなされた。これを踏まえて同委員会から「今後の点検評価は、これまでのような総花的なものではなく、その時々直面する全学的な課題等に絞って機能的に点検・評価を行い、改善すべき方策を提言することまでを視野に置き検討するような新しいシステムとする。それらの提言を受けて総長がリ・ダ・シップを発

揮し、改善のための具体的な行動に結び付け、本学の教育研究を活性化させることを目的としたものとする。」との提言があった。

これを踏まえて平成9年度からは、特定の課題について点検・評価を実施することとし、平成11年度には、

教員の総合的業績評価について

大学院教育について

の2課題について点検・評価が実施された。

これらの結果は取りまとめて、それぞれ年次報告書として刊行した。

4 各種委員会の見直し

平成8年度の点検評価委員会から「点検評価を5年間行ってきた種々の数多くの問題点、改善すべき点があげられてきた。しかし、これらは必ずしも問題解決、改善に結びついていない。ここには実行組織であるべき諸委員会が機能的に構築されていないことがその要因の一つと考えられる。したがって、各種委員会を実践型の機能中心に再構築する必要がある。また、大学の活性化が叫ばれている今日、教官ができるだけ教育研究に専念できるような管理運営体制の構築が急がれる。」との提言があった。

これをうけて、評議会の下に「委員会見直しに係るワ・キンググル・ブ」を設置し、平成9年4月から検討を開始した。その際、総長からは検討課題として、部局長連絡会議の性格及び学内委員会のグル・ブ化の2点が提案された。

同ワ・キンググル・ブでは、より円滑な大学の意思決定を図るための手続きの明確化・簡素化及び横断的な審議を行うための委員会のグル・ブ化を進める必要があるとの基本的な考え方に立って検討がなされた。

同ワ・キンググル・ブからは、平成10年1月に第一次答申が、平成10年7月に第二次答申がなされ、それらに基づき次のとおり改善された。

1) 部局長会議の設置

平成10年4月に、より円滑な大学の意思決定を図るための手続きの明確化・簡素化を図るため、部局長連絡会議を改編し、連絡調整機能のほかに、一定事項についての審議機能を付与する部局長会議を設置した。

部局長会議に付与された審議機能は、次のとおりである。

規程の改正に関すること（別に定めるものに限る。）。

名誉学位に係る功績の審査に関すること。

北海道大学国際交流事業基金の管理の基本方針に関すること。

北海道大学共同利用施設等管理規程第2条に規定する共同利用施設等の整備及び管理・運営の基本事項に関すること。

百年記念会館、学術交流会館の管理・運営に関すること。

緊急な事態が発生した場合の対応に関すること。

その他評議会から委託のあった事項

2) 委員会の見直し

横断的な審議を行うための委員会のグル－プ化を検討し、統合・廃止等により23の学内委員会を10に再編した。また、委員長を総長、副学長及び附属図書館長が分担することとし、各委員会の連携を強化した。

再編後の委員会	摘 要	再編前の委員会
教務委員会 (総長)	← (統合)	教務委員会 大学院委員会 教職課程委員会
学生委員会 (副学長)	← (統合)	学生委員会 学生相談委員会
入学者選抜委員会 (総長)	← (継続)	入学者選抜委員会
学術情報委員会 (図書館長)	← (統合)	学術情報委員会 スペース・コラボレーション・システム事業委員会 情報ネットワークシステム運営委員会
点検評価委員会 (総長)	← (継続)	点検評価委員会
施設・環境委員会 (副学長)	← (統合)	施設計画委員会 構内交通委員会
安全・防災委員会 (総長)	← (統合)	安全委員会 組換えDNA実験安全委員会 放射性同位元素等管理委員会
国際交流委員会 (副学長)	← (統合)	国際交流委員会 留学生委員会 文部省在外研究員候補者選考委員会
研究推進委員会 (副学長)	新規設置	
広報委員会 (副学長)	新規設置	

注. () 内は、委員長

なお、新規設置の研究推進委員会及び広報委員会は平成10年10月に、統合後の教務委員会、学術情報委員会、施設・環境委員会、安全・防災委員会及び国際交流委員会は平成11年4月に発足した。

5 ファカルティ・ディベロップメントの推進

平成9年度点検評価委員会から「大学の教育の基本概念，授業方法，学業成績評価方法等について，ファカルティ・ディベロップメントに基づく教員の教育研修を行う必要がある。ただし，これを各学部で推進していくためには，経験を有する核となる教員が存在しなければならない。そうした教員を養成する全学的な場の設定が急務である。」との提言があった。

これを受けて，平成10年度から，ファカルティ・ディベロップメントに基づく教員研修が実施され，平成12年度には，11月17日，18日の両日にわたり，第3回ワークショップ「インタラクティブな授業の開発」が実施された。

なお，平成12年度の実施概要は次のとおり。

「実施概要」

参加者	本学の教員	41名
	他大学等の教員	12名
	計	53名
プロデュ - サ -	総 長	
ディレクタ -	高等教育機能開発総合センター高等教育開発研究部長	小笠原 正明
タスクフォ - ス	高等教育機能開発総合センター高等教育開発研究部の教官等	5名
研修内容	1 高等教育機関における教育の基本	
	2 カリキュラム設計，シラバス表現の基本	
	3 インタラクティブな授業の設計	
	4 目標設定と成績評価基準の再検討	
	5 インタラクティブな授業の体得	

6 教員の総合的業績評価

平成10年度点検評価委員会から「個々の教員は，これまで研究業績により評価されてきたが，大学の総合機能の社会の要請に即した改善のためには，研究，教育，管理運営，社会貢献の業績を総合的に評価する必要がある。」との提言があった。

そのため，平成11年度から「教育，管理運営，社会貢献業績」の調査を実施すること，及び「調査用フォーマット」についても併せて提言があった。

これを受けて，点検評価委員会では，平成11年度も継続して「教員の総合的業績評価」について，教員業績評価専門委員会を設置して検討することとし，その検討結果を踏まえて，平成12年8月から9月の間に「教育，管理運営，社会貢献業績」の調査を実施し，「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」として刊行・公表した。

調査は，平成11年4月から平成12年3月までの業績について，平成12年9月1日に在籍し，調査対象となる教員2,136名を対象に実施し，1,865名から回答があり，その回収率は約87.3%であった。

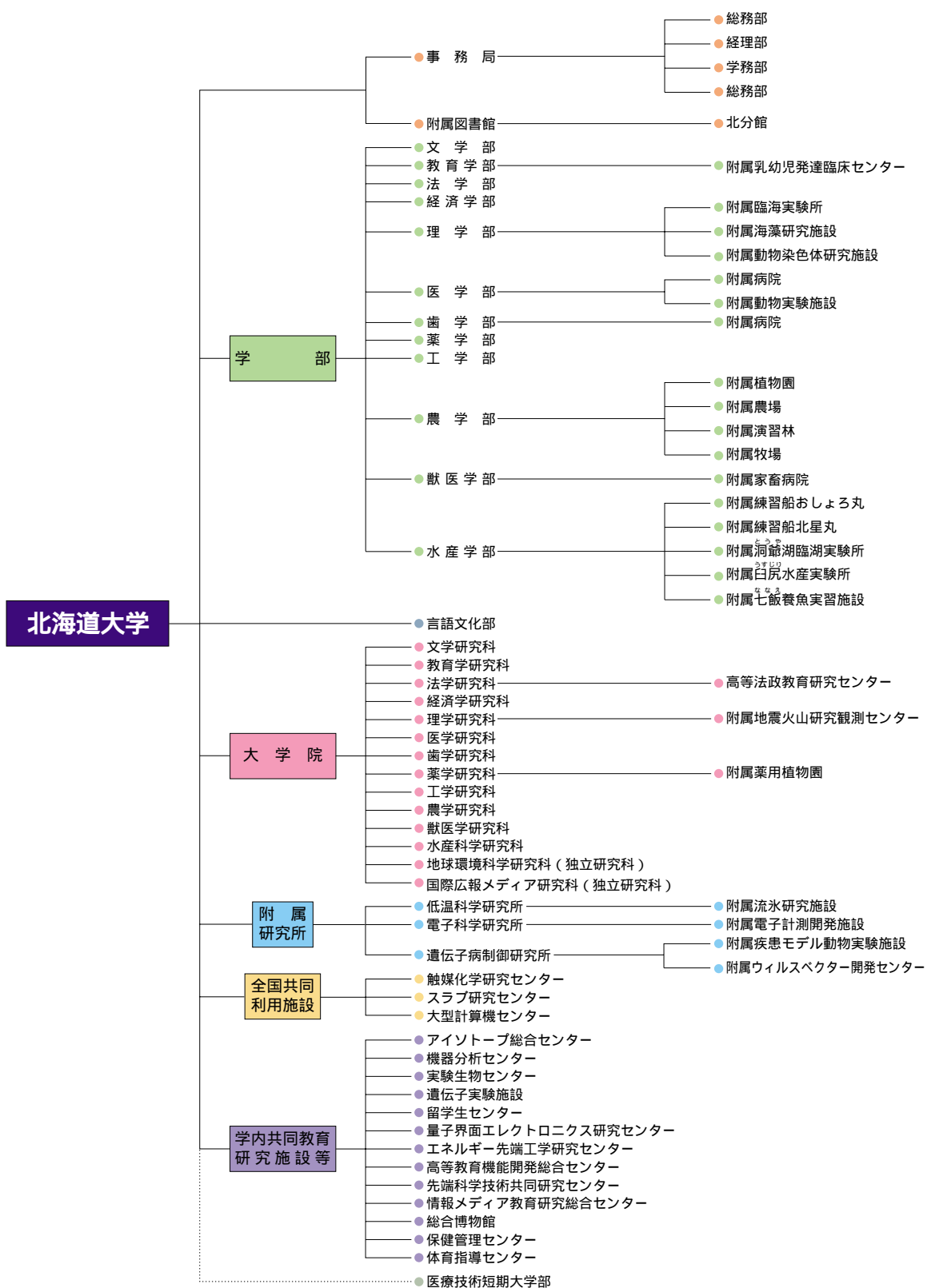
統 計 資 料

1	組織	139
(1)	北海道大学組織図	139
(2)	学部・学科・課程・学科目数等	140
(3)	大学院研究科・専攻数等	140
(4)	附属病院診療科・病床数	141
2	部局別職員数	142
3	在籍学生数	143
(1)	学部	143
(2)	特設専攻科	143
(3)	日本語・日本文化研修生等	143
(4)	医療技術短期大学部	143
(5)	大学院	144
(6)	研究所等	144
4	学位授与者数	145
(1)	学士	145
(2)	修士	145
(3)	博士	145
5	入学者	146
(1)	平成12年度入学者の都道府県別分布	146
(2)	平成12年度入学志願者数及び合格者数等調書（前期日程）	147
(3)	平成12年度入学志願者数及び合格者数等調書（後期日程）	148
(4)	平成12年度入学者の道内・道外別調	149
(5)	平成12年度入学者の卒業年度別調	149
6	就職	150
(1)	就職状況	150
(2)	産業別求人・就職状況	151
(3)	地域別求人・就職状況	152
7	平成11年度日本育英会奨学生採用者数	153
(1)	学部等	153
(2)	大学院	153
8	図書蔵書数	154
9	平成11年度科学研究費補助金・外部資金受入状況	154
(1)	科学研究費補助金	154
(2)	外部資金受入状況	154
10	国際交流	155
(1)	国際交流協定締結状況（大学間協定・部局間協定）	155
(2)	平成11年度国際交流状況	156
11	外国人留学生数	157
(1)	平成12年度外国人留学生数（部局別）	157
(2)	平成12年度外国人留学生数（国・地域別）	158
(3)	北海道大学における外国人留学生の推移	159
12	平成11年度決算額（歳入・歳出）	160
13	土地・建物・船舶数	161

1 組 織

(1) 北海道大学組織図

(平成12年4月1日現在)



(2) 学部・学科・課程・学科目数等

(平成12年4月1日現在)

〔 〕内は学科目数

学部名	学科及び課程名	学科数	学科目数
文 学 部	人文科学科〔4〕	1	4
教育学部	教育学科〔4〕	1	4
法 学 部	法学課程〔6〕	1課程	6
経済学部	経済学科〔3〕 経済学科〔2〕	2	5
理 学 部	数学科〔1〕 物理学科〔1〕 化学科〔1〕 生物科学科〔2〕 地球科学科〔2〕	5	7
医 学 部	医学科〔20〕	1	20
歯 学 部	歯学科〔9〕	1	9
薬 学 部	総合薬学科〔1〕	1	1
工 学 部	材料工学科〔2〕 応用化学科〔5〕 情報工学科〔3〕 電子工学科〔3〕 システム工学科〔3〕 応用物理学科〔4〕 原子工学科〔3〕 機械工学科〔5〕 土木工学科〔4〕 建築都市学科〔3〕 環境工学科〔3〕 資源開発工学科〔2〕	12	40
農 学 部	生物資源科学科〔1〕 応用生命科学科〔1〕 生物機能化学科〔1〕 森林科学科〔1〕 畜産科学科〔1〕 農業工学科〔1〕 農業経済学科〔1〕	7	7
獣医学部	獣医学部〔4〕	1	4
水産学部	水産海洋科学科〔1〕 海洋生産システム学科〔1〕 海洋生物生産科学科〔1〕 海洋生物資源化学科〔1〕 〔水産教員養成課程〕 〔特設専攻科〕	4 (1課程) (1専攻科)	4

計 12学部・36学科・2課程・1専攻科・111学科目

(3) 大学院研究科・専攻数等

(平成12年4月1日現在)

()内は講座数

研 究 科	専 攻	専攻数
文 学 研 究 科	思想文化学 ⁽³⁾ 歴史地域文化学 ⁽⁷⁾ 言語文学 ⁽³⁾ 人間システム科学 ⁽⁴⁾	4
教育学研究科	教育学 ⁽³⁾	1
法 学 研 究 科	法学政治学 ⁽⁵⁾	1
経済学研究科	経済システム ⁽²⁾ 現代経済経営 ⁽³⁾ 経営情報 ⁽²⁾	3
理 学 研 究 科	数学 ⁽³⁾ 物理学 ⁽⁴⁾ 化学 ⁽⁵⁾ 生物科学 ⁽⁶⁾ 地球惑星科学 ⁽⁴⁾	5
医 学 研 究 科	生態機能学 ⁽⁴⁾ 病態制御学 ⁽⁴⁾ 高次診断治療学 ⁽⁵⁾ 癌医学 ⁽¹⁾ 脳科学 ⁽²⁾ 社会医学 ⁽²⁾	6
歯 学 研 究 科	口腔医学 ⁽³⁾	1
薬 学 研 究 科	生体分子薬学 ⁽²⁾ 創薬化学 ⁽²⁾ 、医療薬学 ⁽¹⁾	3
工 学 研 究 科	物質工学 ⁽³⁾ 、分子化学 ⁽⁴⁾ システム情報工学 ⁽⁵⁾ 電子情報工学 ⁽⁵⁾ 量子物理工学 ⁽⁴⁾ 量子エネルギー工学 ⁽³⁾ 機械科学 ⁽⁵⁾ 社会基盤工学 ⁽⁴⁾ 都市環境工学 ⁽⁵⁾ 環境資源工学 ⁽⁴⁾	10
農 学 研 究 科	生物資源生産学 ⁽⁶⁾ 環境資源学 ⁽⁵⁾ 応用生命科学 ⁽⁵⁾	3
獣医学研究科	獣医学 ⁽⁴⁾	1
水産科学研究科	環境生物資源科学 ⁽⁶⁾ 生命資源科学 ⁽⁵⁾	2
地球環境科学 研 究 科	地圏環境科学 ⁽²⁾ 生態環境科学 ⁽⁵⁾ 物質環境科学 ⁽³⁾ 大気海洋圏環境科学 ⁽³⁾	4
国 際 広 報 メディア研究科	国際広報メディア ⁽²⁾	1

計 14研究科 45専攻 168講座

(4) 附属病院診療科・病床数

(平成12年4月1日現在)

1) 医学部附属病院

診療科				病床数
第 一	内	科		60
第 二	内	科		60
第 三	内	科		60
循 環	器	内	科	40
神 經		内	科	20
第 一	外	科		60
第 二	外	科		35
循 環	器	外	科	25
整 形		外	科	60
産 科	婦	人	科	76
眼			科	40
小	児		科	45
耳 鼻	咽	喉	科	40
皮 膚			科	28
泌 尿		器	科	40
精 神	科	神 經	科	72
放 射		線	科	30
麻 醉			科	10
脳 神 經		外	科	40
形 成		外	科	32
総 合	診 療	科		-
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	科			40
計 2 2 科				913
集 中	治 療	部		5
無 菌	治 療	部		5
計				10
合 計				923

2) 歯学部附属病院

診療科				病床数
保 存	系	歯	科	} 40
咬 合	系	歯	科	
口 腔	系	歯	科	
特 殊	歯	科	治 療 部	
計 3 科				40

2 部局別職員数

(平成12年10月1日現在)

部局		職種	総 長	教 授	助教授	講 師	助 手	小 計	事務局	技 官	合 計
総	長		1					1			1
事務局	局 長							0	1		1
	総 務 部							0	69		69
	経 理 部							0	133	7	140
	学 務 部							0	71	2	73
	施 設 部							0	9	30	39
附 属 図 書 館								0	40		40
大学院文学研究科・文学部				52	45	1	21	119	20	2	141
大学院教育学研究科・教育学部				15	17	1	8	41	9		50
大学院法学研究科・法学部				38	20	3	19	80	18		98
大学院経済学研究科・経済学部				23	16	4	9	52	12		64
大学院理学研究科・理学部				86	76	14	60	236	52	29	317
大学院医学研究科・医学部				46	31	16	57	150	36	22	208
医学部附属病院				2	7	37	62	108	91	627	826
大学院歯学研究科・歯学部				18	16	4	64	102	35	10	147
歯学部附属病院					1	22	27	50		67	117
大学院薬学研究科・薬学部				14	19	3	21	57	10	3	70
大学院工学研究科・工学部				137	131	2	161	431	96	71	598
大学院農学研究科・農学部				51	49	3	44	147	55	34	236
農学部附属農場				1	2		4	7	6	27	40
農学部附属演習林				5	6		10	21	18	38	77
大学院獣医学研究科・獣医学部				17	15	4	13	49	15	5	69
大学院水産科学研究科・水産学部				37	38	1	30	106	40	54	200
言語文化部				26	29	2		57			57
大学院地球環境科学研究科				26	24		12	62	13		75
大学院国際広報メディア研究科				3	3			6	7	1	14
低温科学研究所				15	13	1	21	50	13	12	75
電子科学研究所				16	13	2	23	54	9	12	75
遺伝子病制御研究所				11	11	1	11	34	7	6	47
触媒化学研究センター				7	4		10	21	7	8	36
スラブ研究センター				10	1	1	3	15			15
大型計算機センター				1	1		1	3	9	12	24
アイソトープ総合センター				1			1	2		2	4
機器分析センター					1			1		2	3
実験生物センター							1	1		2	3
遺伝子実験施設					1		1	2		1	3
留学生センター				3	7			10			10
量子界面エレクトロニクス研究センター				2	2			4		1	5
エネルギー先端工学研究センター				4	2		2	8			8
高等教育機能開発総合センター				5	3			8			8
先端科学技術共同研究センター					1		1	2			2
情報メディア教育研究総合センター				4	3		4	11		2	13
総合博物館				2	3		2	7			7
保健管理センター				1		1		2		8	10
体育指導センター					1			1			1
小 計			1	679	612	123	703	2,118	901	1,097	4,116
医療技術短期大学部				21	18	5	17	61	12		73
合 計			1	700	630	128	720	2,179	913	1,097	4,189

3 在籍学生数

(平成12年10月1日現在)

(1) 学 部

学部名	定 員	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計	研究生	聴講生	科目等履修生	特別聴講学生
文 学 部	185 [10]	205 (105)	186 (85)	216 (87)	255 (89)	-	-	862 (366)	13 (9)	10 (6)	13 (7)	9 (3)
教育学部	50 [10]	53 (29)	56 (32)	66 (43)	69 (37)	-	-	244 (141)	12 (7)		20 (9)	4 (4)
法 学 部	220 [10]	223 (66)	249 (72)	238 (66)	344 (84)	-	-	1,054 (288)		4 (2)	2 (1)	3 (2)
経済学部	190	207 (58)	230 (61)	189 (48)	260 (54)	-	-	886 (221)	15 (6)		3	10 (2)
理 学 部	300	332 (82)	297 (73)	300 (78)	357 (70)	-	-	1,286 (303)	1	1	3 (1)	
医 学 部	95	95 (19)	103 (26)	116 (21)	93 (20)	112 (28)	84 (28)	603 (142)				
歯 学 部	60	60 (20)	65 (16)	68 (27)	61 (22)	62 (19)	44 (15)	360 (119)	61 (15)			
薬 学 部	80	83 (36)	87 (30)	86 (28)	84 (34)	-	-	340 (128)	5 (1)			
工 学 部	670 [10]	683 (86)	720 (80)	708 (74)	853 (60)	-	-	2,964 (300)	5		1	2
農 学 部	215	234 (77)	218 (67)	237 (84)	255 (85)	-	-	944 (313)	16 (6)	3 (1)		2 (1)
獣医学部	40	43 (13)	42 (16)	45 (11)	48 (16)	39 (14)	34 (21)	251 (91)			1 (1)	
水産学部	215	228 (85)	244 (79)	202 (80)	237 (84)	-	-	911 (328)	6		2 (1)	
計	2,320 [40]	2,446 (676)	2,497 (637)	2,471 (647)	2,916 (655)	213 (61)	162 (64)	10,705 (2,740)	134 (44)	18 (9)	45 (20)	30 (12)

[] 内は3年次編入学定員で外数(工学部は高専卒業生受入れ)

(2) 特設専攻科

水産学部特設専攻科	8 (2)
-----------	-------

(3) 日本語・日本文化研修生等

留学生センター	日本語・日本文化研修生	11 (4)
	日 本 語 研 修 生	12 (3)

(4) 医療技術短期大学部

学科・専攻科名	定 員	1年次	2年次	3年次	計
看 護 学 科	80	82 (78)	78 (76)	82 (78)	242 (232)
理 学 療 法 学 科	20	23 (12)	19 (8)	23 (12)	65 (32)
作 業 療 法 学 科	20	20 (13)	21 (17)	21 (16)	62 (46)
衛 生 技 術 学 科	40	40 (29)	39 (29)	42 (33)	121 (91)
診療放射線技術学科	40	40 (13)	50 (12)	42 (13)	132 (38)
計	200	205 (145)	207 (142)	210 (152)	622 (439)
専攻科助産学特別専攻	20	20 (20)			

1. 定員は平成12年度入学定員

2. () 内は女子で内数

(5) 大 学 院

研究科名	修士課程（博士前期）				博士課程（修士後期及び博士一貫）						合 計
	定員	1年次	2年次	小計	定員	1年次	2年次	3年次	4年次	小計	
文 学 研 究 科	118	110 (46)	73 (35)	183 (81)	59	50 (17)	20 (8)	67 (23)	-	137 (48)	320 (129)
教育学研究科	45	47 (27)	27 (15)	74 (42)	21	16 (8)	20 (11)	31 (13)	-	67 (32)	141 (74)
法 学 研 究 科	58	60 (26)	49 (13)	109 (39)	29	9 (2)	8 (1)	23 (6)	-	40 (9)	149 (48)
経済学研究科	52	71 (19)	35 (12)	106 (31)	26	7 (1)	15 (4)	17 (6)	-	39 (11)	145 (42)
理 学 研 究 科	215	217 (46)	236 (37)	453 (83)	103	82 (13)	79 (9)	131 (14)	-	292 (36)	745 (119)
医 学 研 究 科	-	-	-	-	110	113 (27)	102 (22)	79 (14)	144 (26)	438 (89)	438 (89)
歯 学 研 究 科	-	-	-	-	42	40 (15)	37 (11)	32 (10)	25 (6)	134 (42)	134 (42)
薬 学 研 究 科	43	54 (14)	54 (18)	108 (32)	20	24 (3)	21 (4)	13 (2)	-	58 (9)	166 (41)
工 学 研 究 科	340	576 (54)	571 (55)	1,147 (109)	162	137 (8)	97 (10)	133 (7)	-	367 (25)	1,514 (134)
農 学 研 究 科	143	162 (50)	161 (58)	323 (108)	68	81 (25)	56 (5)	73 (16)	-	210 (46)	533 (154)
獣医学研究科	-	-	-	-	19	19 (5)	15 (3)	26 (10)	23 (4)	83 (22)	83 (22)
水産科学研究科	82	108 (19)	84 (22)	192 (41)	40	40 (5)	25 (6)	40 (3)	-	105 (14)	297 (55)
地球環境科学研究科	126	145 (46)	126 (34)	271 (80)	56	50 (1)	37 (5)	119 (21)	-	206 (37)	477 (117)
国際広報メディア研究科	27	34 (20)	-	34 (20)	-	-	-	-	-	-	34 (20)
計	1,249	1,584 (367)	1,416 (299)	3,000 (666)	755	688 (140)	532 (99)	784 (145)	192 (36)	2,176 (420)	5,176 (1,086)

(6) 研究所等

研究所等名	研究生
言 語 文 化 部	3 (3)
低 温 科 学 研 究 所	4 (2)
電 子 科 学 研 究 所	7 (1)
遺伝子病制御研究所	9 (2)
触媒化学研究センター	1
留 学 生 セ ン タ ー	1 (1)
高等教育機能開発総合センター	1 (1)
総 合 博 物 館	1 (1)
計	27 (11)

1. 定員は平成12年度入学定員
2. () 内は女子で内数

研究科名	研究生	聴講生	科目等履修生	特別聴講学生	特別研究学生
文 学 研 究 科	10 (4)	6 (4)	8 (4)		
教育学研究科	8 (4)		10 (1)		
法 学 研 究 科	8 (4)		4 (1)	2	
経 済 学 研 究 科	1			1	
理 学 研 究 科	35 (7)	1 (1)			
医 学 研 究 科	216 (45)				1 (1)
歯 学 研 究 科	5 (1)				
薬 学 研 究 科	4 (1)				
工 学 研 究 科	39 (8)				2
農 学 研 究 科	22 (5)				
獣 医 学 研 究 科	10 (5)				
水 産 学 研 究 科	11 (3)				
地球環境科学研究科	25 (4)	1	1		5 (2)
国際広報メディア研究科					
計	394 (91)	8 (5)	23 (6)	3	8 (3)

4 学位授与者数

(平成12年5月1日現在)

(1) 学 士

学士の種類	旧 制	新 制	学士の専攻分野の名称	新 制	
				平 成 11年度	累 計
文 学 士	255	4,265	学士(文学)	211 ^人	1,356 ^人
教育学士	-	1,365	学士(行動科学)	4	411
法 学 士	275	5,484	学士(教育学)	66	548
経済学士	325	4,730	学士(法学)	265	2,193
			学士(経済学)	102	790
			学士(経営学)	108	981
理 学 士	1,401	7,142	学士(理学)	295	2,578
医学士	2,328	3,820	学士(医学)	100	976
歯学士	-	1,046	学士(歯学)	60	580
薬学士	-	2,247	学士(薬学)	78	724
工学士	2,918	17,696	学士(工学)	687	6,193
農学士	4,078	7,766	学士(農学)	234	2,086
林学士	574	-			
獣医学士	-	1,238	学士(獣医学)	45	367
水産学士	-	6,585	学士(水産学)	241	1,921
計	12,154	63,384	計	2,496	21,704

水産学部 特設専攻科 修了者	平成11年度	累 計
	9	641

(2) 修 士

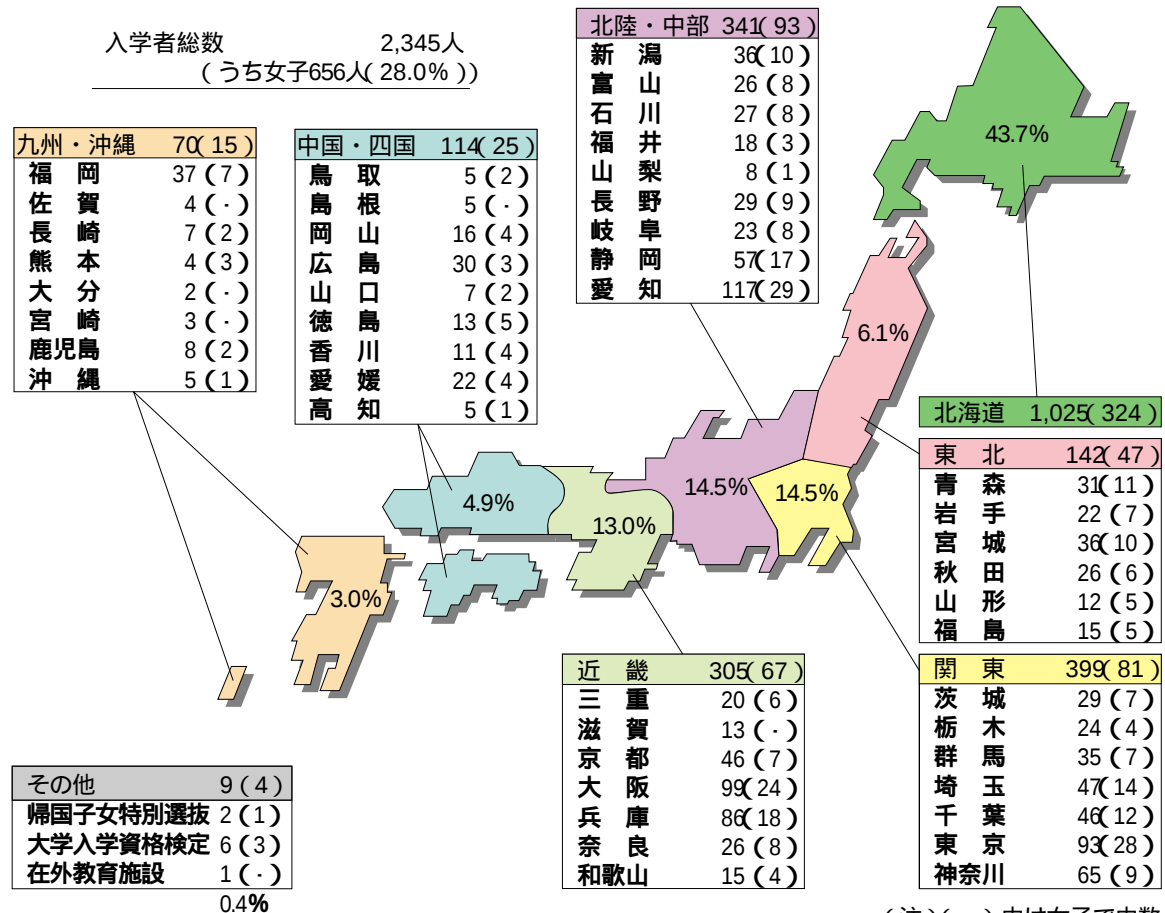
修士の種類	新制	修士の専攻分野の名称	新 制	
			平 成 11年度	累 計
文 学 修 士	765	修士(文学)	40 ^人	268 ^人
		修士(行動科学)	19	102
教育学修士	172	修士(教育学)	22	137
法 学 修 士	160	修士(法学)	27	223
経済学修士	143	修士(経済学)	5	48
		修士(経営学)	7	48
理 学 修 士	2,733	修士(理学)	206	1,607
薬学修士	682	修士(薬学)	48	434
工学修士	5,787	修士(工学)	532	4,250
農学修士	1,371	修士(農学)	158	970
獣医学修士	541			
水産学修士	592	修士(水産学)	74	589
		修士(地球環境学)	130	766
学 術 修 士	355	修士(環境科学)	-	135
計	13,301	計	1,268	9,577

(3) 博 士

博士の種類	旧 制	新 制		博士の専攻 分野の名称	新 制			
					課 程		論 文	
		課 程	論 文		平 成 11年度	累 計	平 成 11年度	累 計
文 学 博 士	6	5	2	博士（文学）	4 ^人	24 ^人	2 ^人	15 ^人
教育学博士	-	7	4	博士（行動科学）	2	17	1	5
法 学 博 士	7	22	25	博士（教育学）	3	16	5	17
経 済 学 博 士	25	3	40	博士（法学）	4	20	3	26
				博士（経済学）	1	7	0	11
				博士（経営学）	4	11	2	5
理 学 博 士	631	766	636	博士（理学）	70	436	8	149
医 学 博 士	3,081	658	964	博士（医学）	51	338	54	453
歯 学 博 士	-	130	70	博士（歯学）	16	125	7	46
薬 学 博 士	-	181	210	博士（薬学）	15	110	4	72
工 学 博 士	198	550	791	博士（工学）	82	546	34	423
農 学 博 士	491	329	758	博士（農学）	28	235	32	273
林 学 博 士	46	-	-					
獣医学博士	96	82	235	博士（獣医学）	13	99	3	114
水産学博士	-	186	187	博士（水産学）	17	132	6	76
学 術 博 士	-	41	20	博士（地球環境学）	26	123	1	13
				博士（環境科学）	1	39	-	8
計	4,581	2,960	3,942	計	337	2,278	162	1,706

5 入 学 者

(1) 平成12年度入学者の都道府県別分布（出身高校等所在地による）



(2)平成12年度入学者数及び合格者数等調査（前期日程）

(一般選抜)

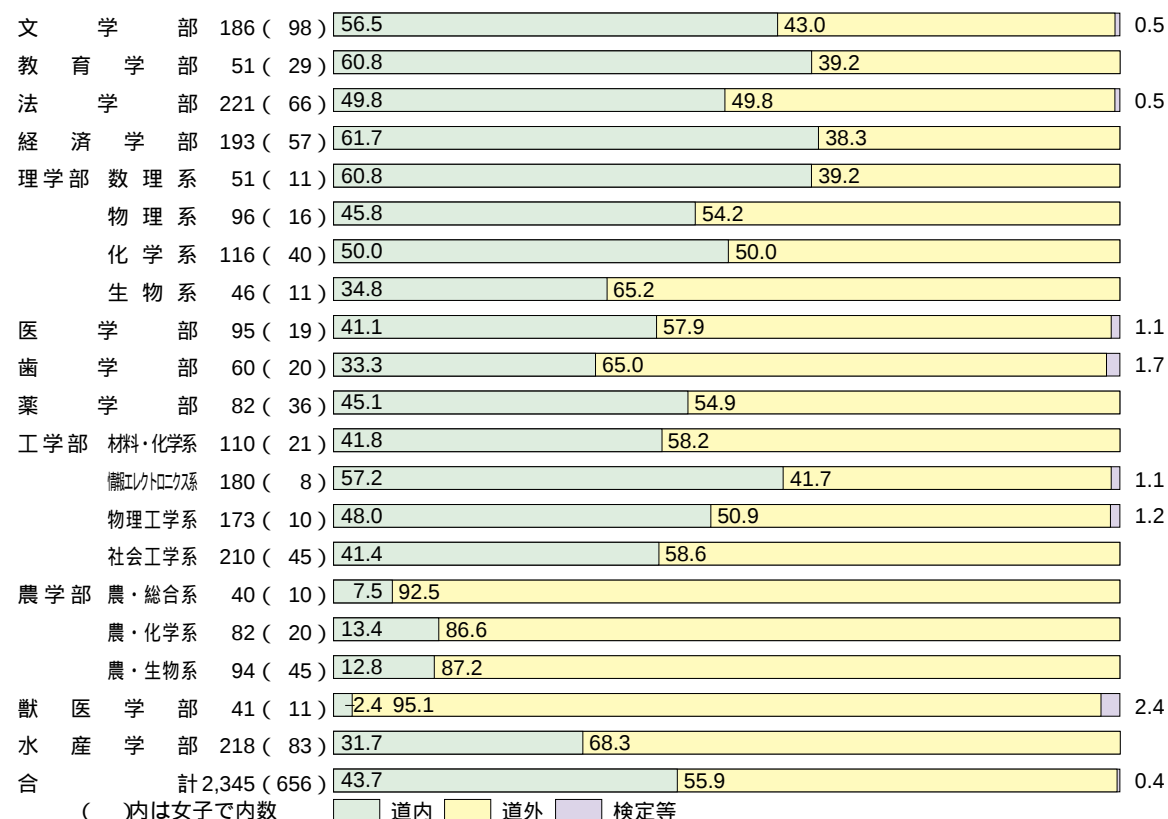
学部・系	募集人員 第1段階 選考倍率	志願者		倍率	失格者	第1段階選抜		第2次入学試験				当初合格者				当初入学手続者				複數志願調整		修学 退学 辞退	追加合格者		入学者		欠員		
		全体	女子	倍率	不合格者	合格者		欠席者		受験者		倍率	当初合格者		当初入学手続者		入学辞退者		全体	女子	全体	女子	全体	女子	全体	女子			
						全体	女子	全体	女子	全体	女子		全体	女子	全体	女子	全体	女子										全体	女子
文学部	148	40	1 452	222	3.1	1	1 451	222	0	6	2	1 445	220	3.0	153	83	149	82	4	1	-	1			149	82	1		
教育学部	43	40	137	72	3.2	1	136	71	0	2	2	134	69	3.1	44	23	41	22	3	1	-	2	2	2	43	22			
法学部	176	40	484	136	2.8	0	484	136	0	16	2	488	134	2.7	190	59	177	55	13	4	-	1			177	55	1		
経済学部	165	40	1 553	1 149	3.4	0	1 553	1 149	0	10	1	1 543	1 148	3.3	175	51	168	50	7	1	-	3			168	50	3		
医学部	85	50	3 400	1 106	4.7	0	3 400	1 106	0	1	13	2	2 387	104	4.6	85	16	85	16	0	0	-				85	16		
歯学部	35	60	202	55	5.8	0	202	55	0	12	5	190	50	5.4	35	5	35	5	0	0	-				35	5			
工学部	554	40	3 153	1 106	2.8	0	3 153	1 106	0	35	4	3 1518	1 192	2.7	1 593	75	1 557	72	26	3	-	2	4	3	2	1 1 557	72	4	1
材料・化学系	90		259	53	2.9	0	259	53	0	7	1	252	52	2.8	95	20	91	18	4	2	-	1				90	18		
機械工学科	149		1 406	27	2.7	0	1 406	27	0	10	0	1 396	27	2.7	1 158	6	1 147	6	11	0	-		2	2	2	1 1 149	7		
物理工学系	141		420	20	3.0	0	420	20	0	9	1	411	19	2.9	148	8	145	8	3	0	-	4			145	8	4		
社会工学系	174		2 468	1 96	2.7	0	2 468	1 96	0	9	2	2 459	1 94	2.6	192	41	174	40	8	1	-	1			173	39	1		
獣医学部	28	60	2 205	2 89	7.3	0	2 205	2 89	0	1	4	2	1 201	1 87	7.2	1 29	1	8	0	0	-	1			1	29	1	8	1
水産学部	180	40	452	177	2.5	0	452	177	0	15	8	437	169	2.4	190	70	184	70	6	0	-	1	3			183	69	3	
(複數志願)	452	40	1 1295	422	2.9	0	1 1295	422	0	22	4	1 1273	418	2.8	468	146	455	141	13	5		6	3	3	1	458	142	6	
理学部	227	40	1 511	113	2.3	0	1 511	113	0	10	2	1 501	111	2.2	235	64	227	59	8	5		3	3	3	1	230	60	3	
数理学系	37		71	14	1.9	0	71	14	0	2	0	69	14	1.9	38	11	34	8	4	3		3		3	1	37	9		
物理学系	74		1 151	21	2.0	0	1 151	21	0	3	0	1 148	21	2.0	78	12	76	12	2	0		2			76	12	2		
化学系	80		166	45	2.1	0	166	45	0	3	2	163	43	2.0	82	31	81	30	1	1		1			81	30	1		
生物系	36		123	33	3.4	0	123	33	0	2	0	121	33	3.4	37	10	36	9	1	1					36	9			
薬学部	55	40	272	131	4.9	0	272	131	0	5	1	267	130	4.9	56	23	56	23				1				56	23	1	
農学部	170	40	512	178	3.0	0	512	178	0	7	1	505	177	3.0	177	59	172	59	5			2				172	59	2	
農・総合系	32		71	18	2.2	0	71	18	0	1	0	70	18	2.2	34	8	33	8	1	0	1					32	8		
農・化学系	65		229	69	3.5	0	229	69	0	1	0	228	69	3.5	68	17	64	17	4	0	1					66	17		
農・生物系	73		212	91	2.9	0	212	91	0	5	1	207	90	2.8	75	34	75	34	0	0		2				75	34	2	
合計	1,666		11 573	5,624	3.1	2	11 573	5 1623	0	2 135	2	32 9 5596	3 1591	3.0	2 1,952	1 536	2 1,880	1 521	72	15	-	3	19	8	7	2 21,884	1 521	19	1

注1. 内の数字は帰国子女で内数である。
2. 理学部、薬学部及び農学部の数値は、第一志望により算定した。

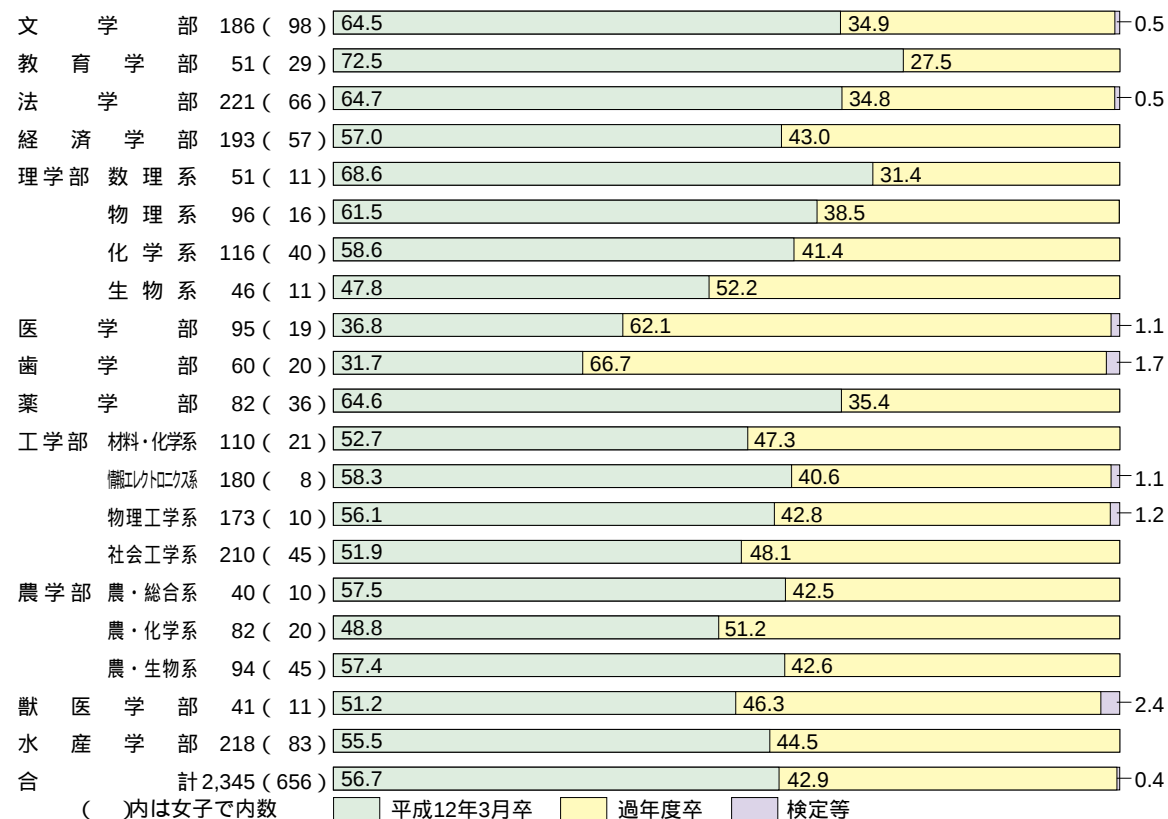
(専門高校卒業生選抜)

[illegible]

(4) 平成12年度入学者の道内・道外別調



(5) 平成12年度入学者の卒業年度別調



(注) 検定等とは、大学入試資格検定試験合格者及び帰国子女特別選抜合格者である。

6 就 職

(医・歯学部を除いた学部学生)
(平成12年5月1日現在)

(1) 就職状況

項目 \ 学部	文 学 部	教育学部	法 学 部	経済学部	理 学 部	薬 学 部	工 学 部	農 学 部	獣医学部	水産学部	合 計
(A) 最終学年 在籍者数	(127) 296	(45) 76	(96) 360	(49) 266	(83) 365	(31) 79	(69) 849	(82) 253	(22) 47	(65) 252	(669) 2,843
(B) 卒業者数	(102) 215	(38) 66	(81) 265	(47) 210	(78) 295	(31) 78	(64) 687	(74) 234	(20) 45	(61) 239	(596) 2,334
(C) 就職希望者数	(65) 125	(21) 40	(38) 159	(34) 180	(22) 83	(20) 30	(17) 125	(30) 73	(14) 30	(30) 110	(291) 955
(D) 就職者数	(49) 94	(15) 29	(32) 137	(27) 143	(21) 80	(19) 29	(15) 120	(29) 72	(14) 30	(23) 90	(244) 824
(E) 就職決定率	(75.4) 75.2	(71.4) 72.5	(84.2) 86.2	(79.4) 79.4	(95.5) 96.4	(95.0) 96.7	(88.2) 96.0	(96.7) 98.6	(100) 100	(76.7) 81.8	(83.8) 86.3
(F) 進学者数	(10) 35	(11) 15	(20) 41	(13) 30	(56) 207	(11) 48	(43) 519	(33) 135	(5) 12	(27) 116	(22.9) 1,158
(G) その他	(27) 55	(6) 11	(23) 65	(0) 0	(0) 5	(0) 0	(4) 43	(11) 26	(1) 3	(4) 13	(76) 221

() は女子で内数 (B) = (C) + (F) + (G)
(E) = (D) ÷ (C) × 100

(2) 産業別求人・就職状況

		文 学 部		教育学部		法 学 部		経済学部		理 学 部		薬 学 部		工 学 部		農 学 部		獣医学部		水産学部		合 計		
		求人 企業数	就職 者数	求人 企業数	就職 者数	求人 企業数	就職 者数	求人 企業数	就職 者数	求人 企業数	就職 者数	求人 企業数	就職 者数	求人 企業数	就職 者数	求人 企業数	就職 者数	求人 企業数	就職 者数	求人 企業数	就職 者数	求人 企業数	就職 者数	
農 業								2 (1)								15	1		1				16	3 (1)
林業・狩猟業																2							2	
漁業・水産業				1				1								2	1				5	6 (2)	9	7 (2)
鉱 業		1		1										5	3						1		8	3
建 設 業		30		22		17		16	2	21	1				89	22 (3)	15	3	2		9		221	28 (3)
製 造 業	食料品・たばこ	14	2 (1)	5		13	2	12	7	11	4 (2)	18	1 (1)	12		28	18(11)	5	3 (1)	26	33 (9)	144	70(25)	
	繊維工業	4	1 (1)	3		1		1	2	3				6						1		19	3 (1)	
	衣類・その他の繊維	5		4						1				7	1			1		4		22	1	
	出版・印刷等	18	10 (4)	18	1	15	3 (1)	18	6 (2)	11	1	3		8		12	1	2		16	2 (2)	121	24 (9)	
	化学工業	13	1	5		8	2	12	4	26	1	63	3 (1)	25	5 (1)	30	4 (3)	10	2	20	1 (1)	212	23 (6)	
	石油・石炭製品	5		1		1		1						3		2		1			1	14	1	
	鉄鋼業	4	2			1		1	1					10								16	3	
	非鉄金属	4					1	3						21								28	1	
	金属製品	6		1		4		1						19	1	5	1 (1)			1		37	2 (1)	
	一般機械器具	7		1		13	1	6		12		8		33	2	6	2	3		6		95	5	
	電気機械器具	8	1	5		14	4	6	6 (1)	16	2 (1)	11		41	13 (1)	2		2		7	2	112	28 (3)	
	輸送用機械器具	1		2		6	4 (1)	3	5 (1)	1		7		12	6	5				3		40	15 (2)	
	精密機械器具	9		12		9		11	1 (1)	2		8		8	2	3	1			9		71	4 (1)	
	その他	13	2 (1)	9		17	1 (1)	20		7	1 (1)	7		49	4 (2)	5		4		14	2	145	10 (5)	
卸 売 業		22	4 (3)	17	1 (1)	12	1 (1)	12	3 (1)	41	2 (1)	5		10		10	3 (1)			27	4 (1)	156	18 (9)	
小 売 業		71	11 (9)	61	4 (2)	17	3	33	7 (3)	8	1 (1)	18		4		11				68	6 (1)	291	32(16)	
金 融 保 険 業	銀行・信託業	7	1 (1)	8		4	18 (1)	6	16 (1)	7	3 (1)	2		8		5	3 (1)			4	1	51	42 (5)	
	証券・商品取引	1		6		5	2	5	3 (1)	2				6	2	3	1 (1)	5		2	1	35	9 (2)	
	保 険	3		2	1 (1)	4	10	5	7 (1)	4	2 (1)	2		9	1	1				1		31	21 (3)	
	その他	12	2	5		9	3 (1)	8	7 (1)	1	2 (1)			5		1				6	3	46	18 (3)	
不 動 産 業		5	1 (1)	6		5	4	1						12				2		8		39	5 (1)	
運 輸		11	4 (3)	6		13	2	11	5 (1)	12		3		15	3	4				10	2 (1)	85	16 (5)	
通 信			4 (3)	1	1	1	2 (1)	1	5 (1)	2	3			16	3	2	1	11		1	4	35	23 (5)	
電気・ガス・水道		1	1			1	2 (1)	2	3					12	4 (1)	1						17	10 (2)	
サ ー ビ ス 業	医療・保険			3		1		1				146	23(15)			1		31				183	23(15)	
	法 務		1 (1)	2		1	2 (1)							4								7	3 (2)	
	教 育	11	7 (4)	21	9 (5)	6		7	1	77	4 (1)	2	1 (1)	3		4	1 (1)	4		1	3 (1)	136	26(13)	
	宗 教																							
	非営利の団体	5		4	2 (1)	4		2		22	2 (2)	25	1 (1)	12		15	5 (1)					89	10 (5)	
その他	112	21 (7)	150	1 (1)	91	14 (6)	94	27 (7)	244	17 (5)	4		197	27 (3)	72	9 (4)	39	20 (9)	78	5 (1)	1081	141(43)		
公 務 員	国家事務	8	(5)	1	1	7	21(10)	11	(3)	2				15	3 (2)	5	1	7	2 (2)		4 (1)	35	53(23)	
	地方事務	10	(5)	24	8 (4)	33	31 (6)	11	(1)	3				32	15 (2)	15	15 (5)	13	3 (2)		7 (2)	117	103(27)	
上記以外・不明				4		4 (1)		1		29 (4)				22	3			7		23	3 (1)	56	40 (6)	
合 計			(49)		(15)		(32)		(27)		(21)		(19)		(15)		(29)		(14)		(23)		(244)	
		403	94	411	29	333	137	300	143	531	80	332	29	730	120	281	72	150	30	351	90	3,822	824	

() は女子で内数

(3) 地域別求人・就職状況

企業 の 所在地	学 部		文 学 部		教育学部		法 学 部		経済学部		理 学 部		薬 学 部		工 学 部		農 学 部		獣医学部		水産学部		合 計	
	求 人 企 業 数	就 職 者 数	求 人 企 業 数	就 職 者 数	求 人 企 業 数	就 職 者 数	求 人 企 業 数	就 職 者 数	求 人 企 業 数	就 職 者 数	求 人 企 業 数	就 職 者 数	求 人 企 業 数	就 職 者 数	求 人 企 業 数	就 職 者 数	求 人 企 業 数	就 職 者 数	求 人 企 業 数	就 職 者 数	求 人 企 業 数	就 職 者 数	求 人 企 業 数	就 職 者 数
北海道	札幌市	13	31(16)	19	21(13)	16	52(18)	19	32(7)	18	23(3)	38	12(6)	43	21(3)	15	7(2)	11	4(1)	14	13(5)	206	216(74)	
	札幌市以外	4	9(6)	11	3(1)	5	18(3)	5	9(4)	5	3	23	6(5)	21	3	5	9(2)	9	3(2)	12	10(5)	100	73(28)	
東 北	青森県		2(2)	1		1	2(2)	1	1	2		3		5	1	4	3(1)	1		1	2	19	11(5)	
	岩手県		1	1		2			1			1		4	1			1				9	3	
北 関	宮城県	1	1			3		2	2	4	4(2)	1		5	1	1		1			2	18	10(2)	
	秋田県	1						2		4		2		3	1	2	1	1				15	2	
東 北	山形県	4		5		2		2		6		2		3		2		2		5	1	33	1	
	福島県	1		2		1	1	1			1	2		3				3			1(1)	13	3(1)	
関 東	茨城県	1		1		1		1		16		5		10	1			1	1(1)			36	2(1)	
	栃木県			1						1		2		4				2				10		
東 北	群馬県	8	1(1)	8				1		10	1	3		2		2		2		7		43	2(1)	
	埼玉県	10		10		3	1	2		7	2	5	1(1)	6		2	1(1)	3		6		54	5(2)	
東 北	千葉県	2	1	3		4	1	4		7		5	1(1)	13	1(1)	3	3(2)	2		2	3(1)	45	10(5)	
	東京都	150	33(14)	144	3	180	40(4)	185	82(14)	192	26(10)	103	6(4)	458	79(7)	170	31(14)	68	10(6)	114	37(7)	1764	347(80)	
北 関	神奈川県	4	5(4)	11	1	12	1	9	1	16	3(2)	7	1(1)	17	4(1)	10	4(1)	5	3(1)	3	1	94	24(10)	
	新潟県	1		1		5		1		1	1	1		2		1		2		1		15	1	
陸 部	富山県	3		3		4		2	1	3		5		2	1			1		3		26	2	
	石川県	1				3		1		3	1			2	1	1	1	1	1		1(1)	12	5(1)	
中 部	福井県			2		1	1	1			1	1		2		1	1					8	3	
	山梨県			1								1		2						1		4	1	
近 畿	長野県	8		7		3	1(1)	1		9		3		5		2	1	1		8		47	2(1)	
	岐阜県	10		9		1	2			10	3(1)	5		2						10	1	48	5(1)	
畿 部	静岡県	7	1	7		6	2	5	2	5	1	12		3		2	1	1		6	1	54	8	
	愛知県	18	6(4)	17		28	6(2)	20	5(1)	22	2	8		16	2(1)	5	2(1)	2	1(1)	12	2(1)	148	26(11)	
近 畿	三重県	8		10		2	1	2		12		2		2		1		1		8	2	48	3	
	滋賀県	1		2	1(1)	1				1	1	1		8		1		1		1		17	2(1)	
畿 部	京都府	15		15		5	2	3	2(1)	13		8		11		4		4	1	10		88	5(1)	
	大阪府	16	2(1)	14		27	1	19	4	25		18	1(1)	25	2(1)	25	2(1)	4		14	7(1)	187	19(5)	
畿 部	兵庫県	2		3		4	1	3		9	1	8	1	11	1(1)	8		7	3(1)	5	2	60	9(2)	
	奈良県			3		2								5				1				11		
中 国	和歌山県	24		24						24				2				1	1(1)	23		98	1(1)	
	鳥取県							1		1		18		2								21	1	
国 家	島根県									1		1		2		2	1			1		6	2	
	岡山県	42		42		1	1			42		8		2		1		1		43		182	1	
四 国	広島県	1		1		3	1(1)	3		1	1(1)	9		3		2		2		1		25	3(2)	
	山口県							1			1(1)	1		2				1				5	1(1)	
国 家	徳島県									3				2								5		
	香川県	7		8		1	1(1)			9	1(1)			2		1	1(1)	2		7		37	3(3)	
九 州	愛媛県	8	1(1)	6		2	1			8				2		2	1(1)			6		34	3(2)	
	高知県							1			1			2								3	1	
州 家	福岡県	2		2		2				7	1	6		4		5	2(2)	4	2	1		33	5(2)	
	佐賀県			1		1				1		2		2								7		
沖 縄	長崎県			1						1	1	2		2		1		1				8	1	
	熊本県			1		2						1		2								6		
州 家	大分県	29		12						33		3		2						29		108		
	宮崎県			1		1						4		2								7	1	
沖 縄	鹿児島県			1		1						2										4		
	沖縄県	1																				1		
その他・不明																				1(1)		1(1)		
合 計		403	94	411	29	333	137	300	143	531	80	332	29	730	120	281	72	150	30	351	90	3,822	824	

() は女子で内数

7 平成11年度日本育英会奨学生採用者数

(平成12年1月4日現在)

(1) 学部等

	学 生 数	奨学生採用者数			奨学生総数			
		第一種	きぼう	合 計	第一種	第二種	きぼう	合 計
文 学 部	902	34	43	77	139	28	36	203
教 育 学 部	253	14	14	28	47	10	9	66
法 学 部	1,098	51	46	97	168	39	35	242
経 済 学 部	903	50	29	79	134	28	16	178
理 学 部	1,294	77	46	126	244	48	27	319
医 学 部	611	19	36	55	72	26	23	121
歯 学 部	364	11	25	36	48	12	20	80
薬 学 部	337	23	14	37	59	13	6	78
工 学 部	3,020	155	144	299	483	101	113	697
農 学 部	969	64	52	116	168	39	32	239
獣 医 学 部	253	10	11	21	45	7	8	60
水 産 学 部	954	48	46	94	145	42	36	223
合 計	10,958	556	509	1,065	1,752	393	361	2,506
水産学部特設専攻科	9	0	0	0	3	0	0	3

(2) 大学院

	学生数	修 士 課 程							博 士 課 程		
		奨学生採用者数			奨学生総数				学生数	奨学生採用者数	奨学生総数
		第一種	きぼう	合 計	第一種	第二種	きぼう	合 計			
文学研究科	136	21	20	41	41	2	18	61	105	16	41
教育学研究科	51	6	5	11	13	1	4	18	61	10	24
法学研究科	79	12	12	24	20	1	11	32	38	7	18
経済学研究科	50	7	9	16	10	0	7	17	43	12	21
理学研究科	461	90	87	177	156	11	68	235	306	68	168
医学研究科									395	11	30
歯学研究科									112	30	82
薬学研究科	108	18	17	35	31	2	13	46	53	13	30
工学研究科	1,128	174	161	335	290	21	137	448	337	57	137
農学研究科	336	49	35	84	101	8	33	142	177	33	82
獣医学研究科									85	11	39
水産科学研究科	164	29	23	52	53	5	21	79	86	15	40
地球環境科学研究科	268	47	47	94	84	7	42	133	201	27	107
合 計	2,781	453	416	869	799	58	354	1211	1999	310	819

* 博士過程については、第一種のみ。

8 図書蔵書数

(注)()内は附属図書館または北分館所蔵分で内数。
(平成12年3月31日現在)

部 局	区 分	和 書	洋 書	計	雑 誌	備 考
附 属 図 書 館	教育学研究科・教育学部	665,815冊	537,988冊	1,203,803冊	27,725冊	
	法学研究科・法学部	(86,002)	(153,073)	(239,475)	1,159	
	経済学研究科・経済学部	(103,946)	(68,466)	(172,412)	(0)	
	経済学研究科・経済学部	(49,801)	(24,297)	(74,098)	(0)	
北 分 館	言語文化部	162,501	97,148	259,649	2,022	
	言語文化部	(29,538)	(71,949)	(101,487)	(314)	
	高等教育機能開発総合センター	(1,602)	(680)	(2,282)	(356)	
小 計		828,316	635,136	1,463,452	29,747	
(参考)	文学研究科・文学部	140,868	178,353	319,221	4,427	
	教育学研究科・教育学部	47,341	11,127	58,468	2,887	
	経済学研究科・経済学部	4,690	2,867	7,557	1,592	
	理学研究科・理学部	42,652	161,296	203,948	4,248	実験生物センター、遺伝子実験施設、総合博物館を含む。
	医学研究科・医学部	70,508	105,131	175,639	5,381	附属病院、アイソトープ総合センターを含む。
	歯学研究科・歯学部	22,111	20,599	42,710	1,091	附属病院を含む。
	薬学研究科・薬学部	5,064	15,508	20,572	384	機器分析センターを含む。
	工学研究科・工学部	188,905	158,661	347,566	4,874	量子界面エレクトロニクス研究センター、エネルギー先端工学研究センター、情報メディア教育総合センターを含む。
	農学研究科・農学部	201,756	119,582	321,338	6,729	附属農場、附属演習林を含む。
	獣医学研究科・獣医学部	12,281	24,539	36,820	1,255	
	水産科学研究科・水産学部	80,519	54,472	134,991	4,222	
	地球環境科学研究科	8,801	6,973	15,774	509	
	低温科学研究所	8,855	21,030	29,885	1,271	
	電子科学研究所	6,008	19,113	25,121	825	
	免疫科学研究所	766	6,345	7,111	104	
	触媒化学研究センター	3,466	13,165	16,631	272	
	スラブ研究センター	2,181	65,644	67,825	1,048	
	大型計算機センター	927	1,161	2,088	55	
	先端科学技術共同研究センター	79	1	80	5	
	事務局	4,776	1,113	5,889	0	留学生センター、保健管理センターを含む。
	医療技術短期大学部	30,153	3,929	34,082	730	
小 計		882,707	990,609	1,873,316	41,909	
合 計		1,711,023	1,625,745	3,336,768	71,656	

9 平成11年度科学研究費補助金・外部資金受入状況

(1) 科学研究費補助金

研究種目	採択件数	交付金額
特別推進研究(2)	3 件	107,000 千円
特定領域研究(A)(1)	18	451,600
特定領域研究(A)(2)	78	284,920
特定領域研究(B)(1)	2	4,100
特定領域研究(B)(2)	23	345,800
地域連携推進研究費(2)	5	107,600
基盤研究(A)(1)	19	193,900
基盤研究(A)(2)	87	674,800
基盤研究(B)(1)	38	146,700
基盤研究(B)(2)	302	1259,440
基盤研究(C)(1)	13	33,600
基盤研究(C)(2)	272	367,770
萌芽的研究	104	96,071
奨励研究(A)	201	208,878
特別研究員奨励費	225	213,986
合 計	1,390	4496,165

(2) 外部資金受入状況

区 分	件 数	受入金額	(注) その他の内訳
産学連携等研究経費	96 件	265,736 千円	医薬品等受託研究(治験)病理組織検査、受託研究員、公・私立学校研修員、外国人受託研修員、受託実習生、研修登録医薬剤師実務受託研修生、中国医学研修生
受 託 研 究	293	1,616,089	
そ の 他 (注)	-	233,587	
奨 学 寄 附 金	1,725	1,623,284	
計		3,738,696	

10 国際交流

(平成12年6月5日現在)

(1) 国際交流協定締結状況

1) 大学間交流協定(6カ国・12大学)

国名	協定大学名(所在地)	締結年月日
韓国	ソウル大学校(ソウル・京城)	1997.10.1
中国	全北大学校(チョンジュ・全州)	2000.2.9
ドイツ	北京科技大学(ベキン・北京)	1986.12.26
アイスランド	ミュンヘン大学(ミュンヘン)	1983.1.31
アメリカ	ポートランド州立大学(ポートランド)	1972.12.19
	マサチューセッツ大学(ボストン)	1976.9.14
	コーネル大学(イサカ)	1982.6.16
	アラスカ大学(フェアバンクス)	1986.12.20
	ウィスコンシン大学マディソン校(マディソン)	1987.4.21
	オハイオ州立大学(コロンバス)	1998.9.1
カナダ	アルバータ大学(エドモントン)	1997.8.13
連合王国	ウォリック大学(コヴェントリー)	2000.1.5

2) 部局間交流協定(18カ国・1地域・64大学等)

国・地域名	協定大学等名(所在地)	大学の締結部局	締結年月日
インドネシア	パランカラヤ大学(パランカラジャ)	地球環境科学研究科	1995.3.16
タイ	カセサート大学(バンコク)	林学部 農学部	1998.11.16
	マヒドン大学理学部(バンコク)	農学部	2000.1.21
	釜慶大学水産科学大学(プサン・釜山)	水産学部	1987.10.1
	延世大学校(ソウル・京城)	法科大学・法務学院 商経大 工学大	2000.1.31 1990.9.3 1990.11.9
	忠南大学校(チュンチョン・大田)	農科大	1997.11.18
	忠北大学農科大学(チョンジュ・清州)	農学部	1991.8.8
	江原大学校(チュンチョン・春川)	農学部	1998.10.14
	嶺南大学校(キョンサン・慶山)	農学部 工学研究科 理学研究科	1999.4.23 1999.9.27 2000.3.27
	ハルビン医科大学(ハルビン)	医学部	1985.2.26
	ハルビン医科大学口腔医学院(ハルビン)	歯学研究科	2000.6.5
	瀋陽工業大学(シンヨウ・瀋陽)	工学部	1985.6.24
	東北農学院(ハルビン)	農学部	1986.6.2
	瀋陽農薬大学(シンヨウ・瀋陽)	農学部	1986.11.5
	東北林業大学(ハルビン)	農学部	1986.12.31
	復旦大学国際文化交流学院(シャンハイ・上海)	言語文化部	1988.10.1
	浙江大学工学系(ハンチュウ・杭州)	工学研究科	2000.4.1
	上海交通大学工学院(シャンハイ・上海)	工学研究科	1992.11.23
	協和医科大学(ベキン・北京)	医学部	1994.7.14
	中国社会科学院東欧・ロシア・中央アジア研究所(ベキン・北京)	スラブ研究センター	1994.9.13
	北京化学分子工程学院(ベキン・北京)	理学研究科・理学部	1995.5.23
	蘭州大学資源環境学院(ランチュウ・蘭州)	地球環境科学研究科	1997.11.17
	吉林大学法学院(チャンチュン・長春)	法学研究科・法学部	1998.11.10
台湾	国立台湾大学社会科学学院(タイペイ・台北)	法学部	2000.1.28
ネパール	トリブバン大学科学技術研究科(カトマンズ)	地球環境科学研究科	1997.10.17
マレーシア	マレーシア農科大学水産・海洋学部(セルダナ)	水産学部	1990.5.29
	サバ大学科学技術研究所(コタ・キナバル)	地球環境科学研究科	1998.1.16
ザンビア	ザンビア大学獣医学部(ルサカ)	獣医学研究科・獣医学部	1991.12.5
イギリス	ノッティンガム大学(ノッティンガム)	地球科学研究科	1996.2.9
	アルスター大学社会・健康科学・教育学部(ロンドンデリー)	教育学部	1996.2.26
イタリア	ミラノ大学法学院(ミラノ)	法学部	1997.9.22
オランダ	ライデン大学東欧法律・ロシア研究所(ライデン)	スラブ研究センター	1994.1.17
スウェーデン	イエーテボリ大学経済学・商法学高等研究院(イエーテボリ)	経済学部	1996.10.28
ハンガリー	ブダペスト工科大学(ブダペスト)	工学部	1992.9.17
	ブダペスト工科大学化学工学部(ブダペスト)	理学研究科	1998.6.19
フランス	フランス国立東洋言語文化研究所ロシア・ユーラシア研究センター(パリ)	スラブ研究センター	1983.9.25
	ボワチエ大学法学部(ボワチエ)	法学部	1993.10.15
ポーランド	ワルシャワ経済大学(ワルシャワ)	経済学部	1989.3.14
	ウジエ工科大学繊維学部(ウジエ)	理学部	1992.3.19
	サハリン大学(ユジノサハリンスク)	教育学部	1999.10.17
	ロシア科学アカデミー極東支隊極東民族歴史・考古・民族学研究所(ウラジオストク)	スラブ研究センター	1990.5.9
	ロシア科学アカデミーシベリア支隊経済・工業生産組織研究所(ノボシビスク)	経済学部	1990.7.30
	ロシア科学アカデミーアメリカ・カナダ研究所(モスクワ)	スラブ研究センター	1991.9.26
	ロシア科学アカデミーシベリア支隊地質学・地球物理学研究所・鉱物学連合研究所(ノボシビスク)	理学部	1992.3.10
	ロシア科学アカデミー極東支隊海洋生物研究所(ウラジオストク)	水産学部	1992.8.3
	ノボシビスク国立大学(ノボシビスク)	理学部	1993.6.18
	ロシア国立大学モスクワ教育学部(モスクワ)	教育学部	1995.8.3
カナダ	プリティッシュ・コロンビア大学(バンクーバー)	法学部 水産学部	1983.4.24 1990.7.19
	オレゴン・ヘルスサイエンス大学歯学部(ポートランド)	歯学部	1974.1.1
	アラスカ大学フェアバンクス校水産・海洋学部(フェアバンクス)	水産学部	1986.9.12
	ワシントン大学海洋・水産学部(シアトル)	水産学部	1988.6.24
	メリーランド大学バイオテクノロジー研究所マリノバイオテクノロジーセンター(ボルチモア)	水産学部	1989.12.23
	ハーバード大学ロシア研究センター(ケンブリッジ)	スラブ研究センター	1992.11.4
	イリノイ大学大学院シカゴ校(シカゴ)	地球環境科学研究科	1993.7.14
	ウィスコンシン大学ロー・スクール(マディソン)	法学部	1999.5.25
ブラジル	サンパウロ大学ルイス・デ・ケイロス農科大学(サンパウロ)	農学部	1976.9.15

(2) 平成11年度国際交流状況

事 項	区 分 (経費負担別)	平成11年度実績	
Ⅰ 教官の海外渡航者数	1. 文部省事業によるもの	693 人	(76) 人
	① 在外研究員制度	48	(44)
	② 国際研究会派遣研究員制度	14	(0)
	③ 科学研究費補助金 (国際学術研究)	176	(12)
	④ 科学研究費補助金 (その他)	430	(9)
	⑤ 知的創造プロジェクト推進経費	0	(0)
	⑥ その他 (その他)	25	(11)
	2. 日本学術振興会の事業によるもの	126	(11)
	3. 文部省以外の政府関係の事業によるもの	82	(18)
	① 外務省	3	(0)
	② 科学技術庁	7	(0)
	③ その他の省庁	7	(0)
	④ 日本学術会議	1	(0)
	⑤ 国際協力事業団 (JICA)	13	(4)
	⑥ 国際交流基金	4	(2)
	⑦ その他	47	(12)
	4. その他の国内資金	634	(20)
	① 委任経理金等	552	(15)
	② 委任経理金等以外	82	(5)
	5. 外国政府・研究機関等	91	(21)
	6. 私費 (教官自身の負担によるもの)	459	(59)
	合 計	2085 人	(205) 人
Ⅱ 外国人研究者の受入れ者数	1. 文部省事業によるもの	354 人	(113) 人
	① 外国人教師・講師	12	(11)
	② 外国人任用法に基づく外国人教員	37 内助手 20	(37 内助手 20)
	③ 外国人研究員制度	38	(36)
	④ 中国政府派遣研究員	7	(7)
	⑤ 国際シンポジウムへの参加者	65	(1)
	⑥ 科学研究費補助金 (国際学術研究)	79	(3)
	⑦ 科学研究費補助金 (その他)	56	(2)
	⑧ 知的創造プログラム推進経費	8	(7)
	⑨ その他	52	(9)
	2. 日本学術振興会の事業によるもの	123	(56)
	3. 文部省以外の政府関係の事業によるもの	54	(27)
	① 外務省	0	(0)
	② 科学技術庁	9	(3)
	③ その他の省庁	6	(1)
	④ 日本学術会議	11	(6)
	⑤ 国際協力事業団 (JICA)	22	(13)
	⑥ 国際交流基金	1	(1)
	⑦ その他	5	(3)
	4. その他の国内資金	162	(98)
	① 委任経理金等	120	(76)
	② 委任経理金等以外	42	(22)
	5. 外国政府・研究機関等	65	(19)
	6. 私費 (外国人研究者自身又は本学教官の負担によるもの)	275	(224)
	合 計	1033 人	(537) 人
Ⅲ 研修生の受入れ数	1. 中国医学研修生	2 人	(2) 人
	2. 国際獣医師研修生	3	(3)
	3. 韓国政府派遣専門大学研修生	0	(0)
	合 計	5 人	(5) 人
ⅡとⅢの合計		1038 人	(542) 人
Ⅳ 外国人来訪者数	1. 表敬訪問	305 人	
	2. 大学施設等の視察	205	
	3. その他	330	
	合 計	840 人	
Ⅴ 外国の研究機関との間で実施した共同研究の件数	1. 文部省事業によるもの	88 件	
	2. 日本学術振興会の事業によるもの	67	
	3. その他 (国際機関の事業を含む)	123	
	合 計	278 件	

(注) 平成11年度実績の()内は、1ヶ月(30日)以上の派遣・受入者数である。

11 外国人留学生数

(1) 平成12年度外国人留学生数(部局別)

(平成12年11月1日現在)

1) 学部等別

部 局 等 名	国 費		外 国 政 府 派 遣		私 費		合 計
	学部留学生	研 究 生	学部留学生	研 究 生	学部留学生	研 究 生 等	
文 学 部	1	4 (2)				13 (5)	18 (7)
教 育 学 部		2 (1)			1	11 (10)	14 (11)
法 学 部	3				2 (2)	3 (2)	8 (4)
経 済 学 部	2	6 (1)			5 (2)	13 (6)	26 (9)
理 学 部							
医 学 部					5 (2)		5 (2)
歯 学 部					2	1 (1)	3 (1)
薬 学 部						1	1
工 学 部	7 (1)		5 (2)		10 (2)	3	25 (5)
農 学 部		1				5 (1)	6 (1)
獣 医 学 部					6 (4)		6 (4)
水 産 学 部		1					1
言 語 文 化 部						3 (3)	3 (3)
電 子 科 学 研 究 所						1	1
遺 伝 子 病 制 御 研 究 所		1 (1)					1 (1)
触 媒 化 学 研 究 セ ン タ ー		2 (1)					2 (1)
ス ラ ブ 研 究 セ ン タ ー		1					1
留 学 生 セ ン タ ー						1 (1)	1 (1)
医 療 技 術 短 期 大 学 部					1		1
合 計	13 (1)	18 (6)	5 (2)		32 (12)	55 (29)	123 (50)

2) 大 学 院

部 局 等 名	国 費			外 国 政 府 派 遣			私 費			合 計
	修士課程	博士課程	研 究 生	修士課程	博士課程	研 究 生	修士課程	博士課程	研 究 生	
文 学 研 究 科	7 (4)	4 (3)	2 (1)				10 (4)	12 (5)	1 (1)	36 (18)
教 育 学 研 究 科		2	1				3 (2)	9 (6)	1 (1)	16 (9)
法 学 研 究 科	2 (2)	1	1				5 (2)	1	9 (5)	19 (9)
経 済 学 研 究 科		2					11 (6)	3	1	17 (6)
理 学 研 究 科	3 (2)	13 (1)	6 (2)				2 (1)	7 (1)		31 (7)
医 学 研 究 科		10 (7)	3					32 (10)	5 (3)	50 (20)
歯 学 研 究 科		5 (2)						6 (3)	1	12 (5)
薬 学 研 究 科		1 (1)						6 (2)		7 (3)
工 学 研 究 科	13 (1)	36 (3)	6 (1)	2	2		25 (7)	38 (6)	14 (5)	136 (23)
農 学 研 究 科	21 (11)	33 (13)	2				6 (3)	17 (4)	5 (2)	84 (33)
獣 医 学 研 究 科		14 (2)	4 (2)		2 (1)			10	1	31 (5)
水 産 学 研 究 科	3	12 (2)	2				3 (1)	3	3 (1)	26 (4)
地 球 環 境 科 学 研 究 科	4	15 (5)	4 (1)	1		1 (1)	5 (2)	13 (4)	1	44 (13)
国 際 広 報 メ デ ィ ア 研 究 科							3 (2)			3 (2)
合 計	53 (20)	148 (39)	31 (7)	3	4 (1)	1 (1)	73 (30)	157 (41)	42 (18)	512 (157)

3) 留学生センター

留 学 生 セ ン タ ー	日 本 語 研 修 生	日 本 語 ・ 日 本 文 化 研 修 生	合 計
	国 費	国 費	
	12 (3)	11 (4)	23 (7)

4) 外国人留学生総数

学部留学生	大 学 院 留 学 生		研究生等	日 本 語 研 修 生 日 本 語 ・ 日 本 文 化 研 修 生	留学生総数
	修士課程	博士課程			
50 (15)	129 (50)	309 (81)	147 (61)	23 (7)	658 (214)

()内は女子を内数で示す。

修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期日程を含む。

研究生等には特別聴講学生、科目等履修生を含む。

(2) 平成12年度外国人留学生数(国・地域別)

(平成12年11月1日現在)

(平成12年11月1日現在)

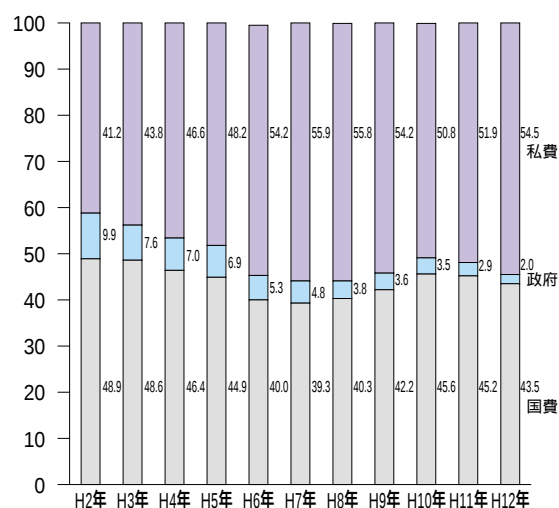
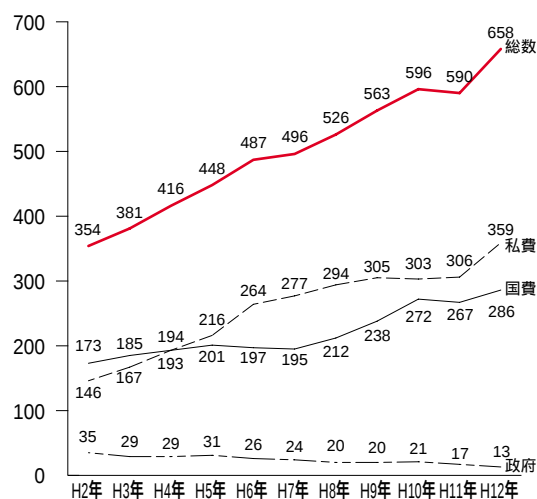
地域名		国名（地域）	国 費					政 府 派 遣（私費）				私 費							計		
			学 部	日 研 生	修 士	博 士	研究生	日本語	学 部	修 士	博 士	研究生	学 部	特別聴講学生	科目等履修生	修 士	博 士	研究生			
アジア州	1	中 国			4（3）	20（4）	5（0）						14（5）	2（2）	1（1）	36（16）	78（29）	42（24）	202（84）		
	2	韓 国											8（4）	6（2）		16（4）	37（3）	8（2）	98（19）		
	3	台 湾		3（1）	3（0）	11（3）	1（0）	5（0）					4（0）	1（0）		6（3）	3（1）	5（3）	19（7）		
	4	香港（マカオ）	1（0）																1（0）		
	5	インドネシア			6（3）	12（1）	3（1）		3（0）	3（1）	1（1）	1（1）				2（0）	6（0）		37（8）		
	6	シンガポール	2（0）																2（0）		
	7	タ イ		1（1）	4（1）	12（5）	3（1）			1（0）						2（2）	1（0）	2（0）	26（10）		
	8	フィリピン			3（2）	10（4）	1（0）												14（6）		
	9	マレーシア	2（0）		1（0）	3（0）		1（0）	5（2）			4（2）					2（1）		18（5）		
	10	ミャンマー				5（4）		3（3）											11（8）		
	11	アフガニスタン															2（1）	1（0）	1（0）		
	12	イ ラ ン	1（1）		1（1）	1（1）												1（0）	1（0）		
	13	イ ン ド				4（2）	2（0）										1（0）	1（1）	8（3）		
	14	オ マ ー ン			1（0）														1（0）		
	15	シ リ ア				1（0）													1（0）		
	16	スリランカ				2（1）												1（0）	3（1）		
	17	トルコ			1（0）														2（0）		
	18	ネ パ ー ル			1（0）	8（1）	2（0）					1（0）					1（1）		13（2）		
	19	パキスタン				4（0）											1（0）		5（0）		
	20	バングラデシュ			3（1）	14（4）	4（0）										2（1）	8（4）	31（10）		
	21	ブ ー タ ン																1（0）	1（0）		
	22	モンゴル	1（0）		2（0）	2（0）	3（3）	1（0）											10（3）		
大洋州	23	オーストラリア				1（0）													1（0）		
	24	ニュージーランド				1（0）												1（0）			
	25	パプアニューギニア			1（0）													1（0）			
アフリカ州	26	アルジェリア				1（0）												1（0）			
	27	エジプト			1（0）	1（0）	1（0）										6（0）	2（0）	11（0）		
	28	エチオピア			1（0）	1（0）												2（0）			
	29	ガ ー ナ				1（0）												1（0）			
	30	ケ ニ ア			1（0）	1（0）												2（0）			
	31	コートジボワール					1（0）											1（0）			
	32	ザ ン ビ ア				3（0）											1（0）	4（0）			
	33	ス ー ダ ン				1（0）												1（0）			
	34	タンザニア					1（0）											1（0）			
	35	チュニジア			1（0）	1（1）												2（1）			
ヨーロッパ州	36	イ ギ リ ス					1（0）						1（1）		1（1）			3（2）			
	37	イ タ リ ア														1（0）		1（0）			
	38	ス イ ス			1（1）													1（1）			
	39	スウェーデン											1（0）					1（0）			
	40	ス ペ イ ン					1（0）	1（0）										2（0）			
	41	チ ェ コ				1（0）												1（0）			
	42	ド イ ツ		1（0）														2（0）			
	43	ノルウェー															1（0）	1（0）			
	44	ハンガリー			1（0）	1（0）	1（0）										1（0）				
	45	フィンランド		1（1）														3（0）			
NIS	46	フ ラ ン ス											1（0）					1（1）			
	47	ブルガリア	3（0）	2（1）	1（1）	1（0）												7（2）			
	48	ベルギー				1（1）												1（1）			
	49	ボ ー ラ ンド			1（1）	2（0）	2（2）											5（3）			
	50	ルーマニア	1（0）		1（0）	2（1）	1（1）											5（2）			
	51	アゼルバイジャン			1（1）													1（1）			
	52	ウクライナ				1（0）	1（1）										1（1）	2（1）			
	53	ウズベキスタン					3（1）											3（1）			
	54	カザフスタン		1（0）	1（1）		1（1）										1（0）	4（2）			
	55	ベラルーシ																1（1）			
北アメリカ州	56	ロ シ ア	1（0）	5（0）	3（2）	5（1）							2（2）		2（1）	1（0）	1（1）	20（7）			
	57	アメリカ合衆国	1（0）	1（1）		1（0）						9（3）			1（0）	3（1）		16（5）			
	58	カナダ			1（1）	1（0）	2（1）					2（1）			1（0）	1（0）	1（1）	9（4）			
中・南アメリカ州	59	アルゼンチン				2（1）												2（1）			
	60	ウルグアイ				1（1）												1（1）			
	61	キューバ			1（0）													1（0）			
	62	グアテマラ				1（0）												1（0）			
	63	コロンビア				1（0）												1（0）			
	64	チ リ				1（0）	1（0）										1（1）	3（1）			
	65	パラグアイ					1（0）									1（1）		4（2）			
	66	ブラジル	2（0）		1（1）	5（2）											2（1）	10（4）			
	67	ペ ル ー			1（1）	1（0）	1（0）											3（1）			
	68	ボリビア				1（0）											1（0）	2（0）			
	69	ホンデュラス						1（0）										1（0）			
	70	メキシコ			1（0）	1（0）												2（0）			
小 計		13（1）	11（4）	53（20）	148（39）	49（13）	12（3）	5（2）	3（0）	4（1）	1（1）	32（12）	25（11）	1（1）	73（30）	157（41）	71（35）	658（214）			
合 計		286（80）					372（134）												359（130）		658（214）

() 内は女子を内数で示す。国費の研究生に教員研修生1名を含む。私費の特別聴講学生にHUSTEP22名を含む。私費の研究生に道費5名を含む。

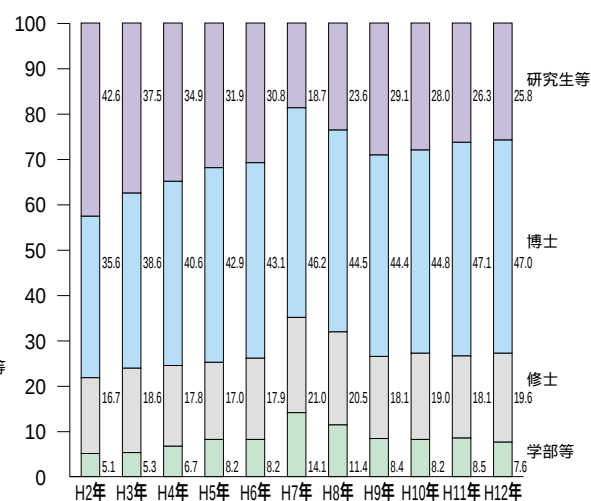
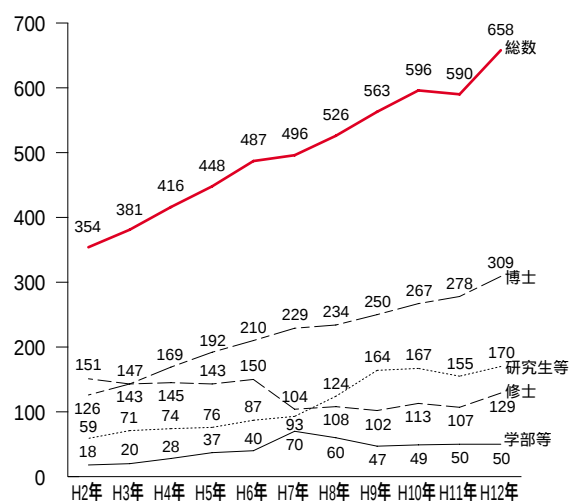
(3) 北海道大学における外国人留学生の推移

(各年度11月1日現在)

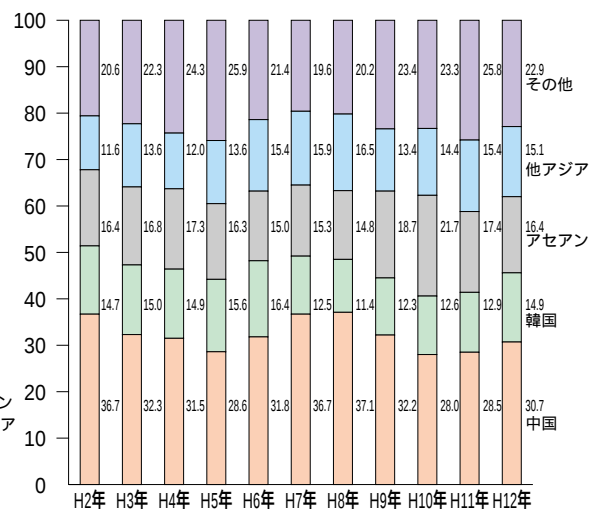
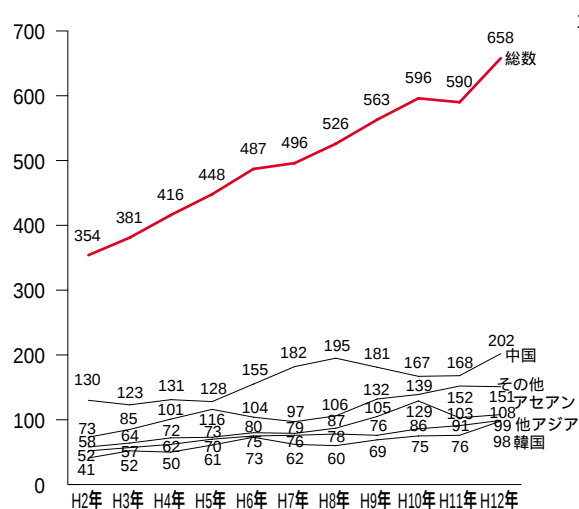
〔国費・政府派遣・私費別〕



〔学部・修士・博士・研究生別〕

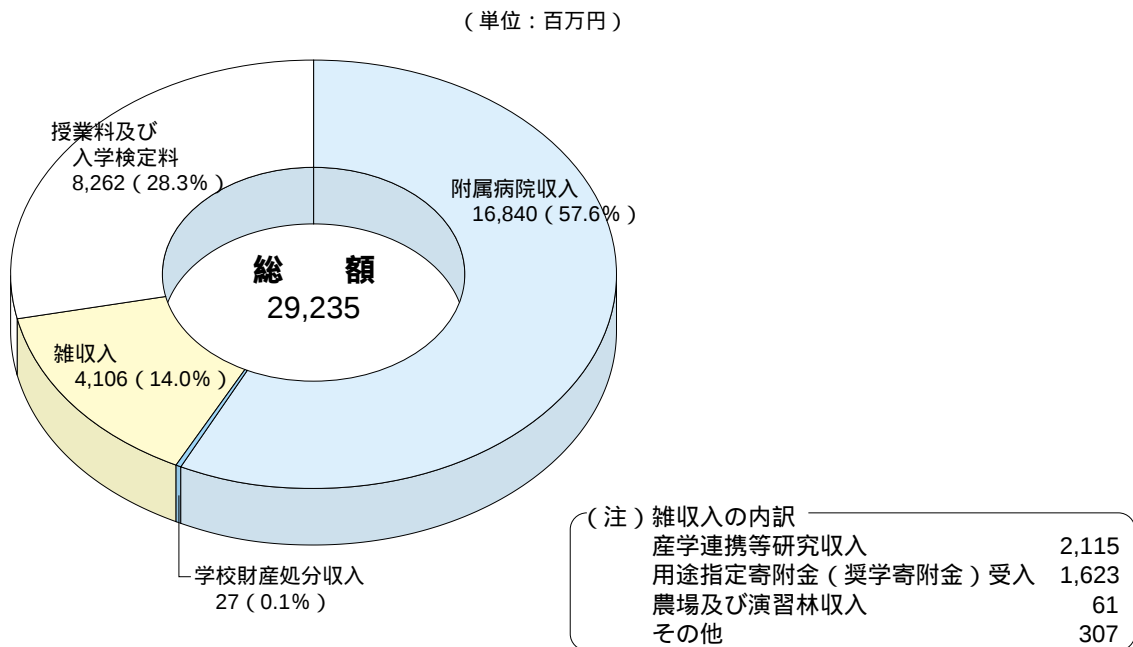


〔地域別〕

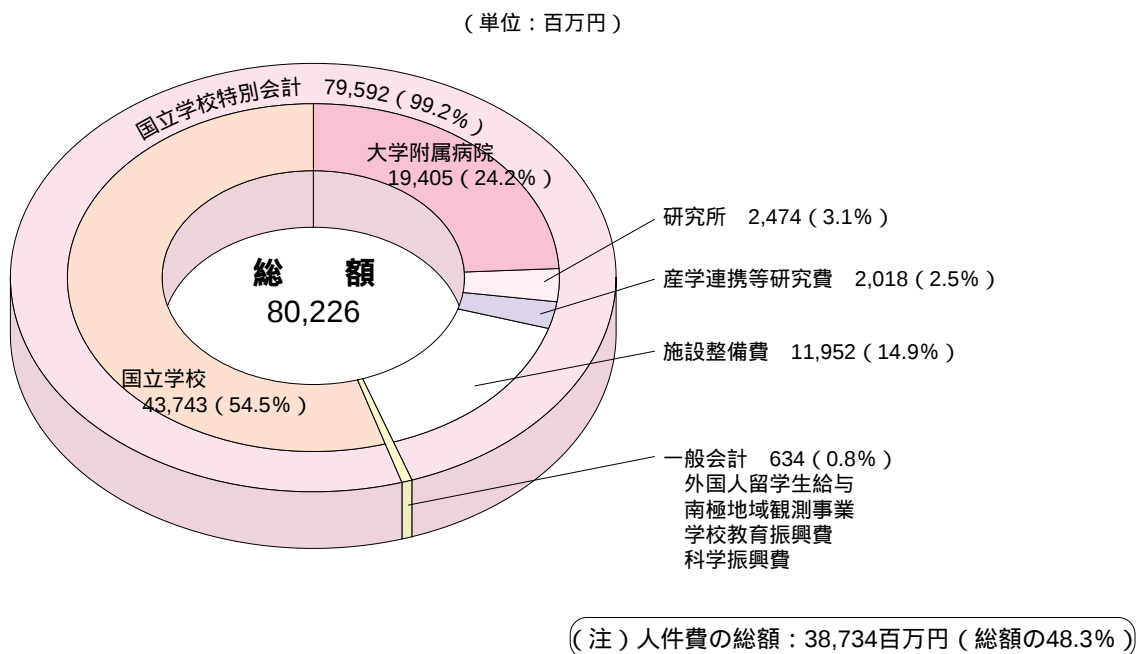


12 平成11年度決算額（歳入・歳出）

歳入



歳出



13 土地・建物・船舶数

(平成12年3月31日現在)

区 分	土 地 (㎡)	建物 (延面積㎡)
事務局	227,044	25,529
附属図書館	15,397	21,972
文学部	25,745	27,841
教育学部		
法学部		
経済学部		
文学部二風谷研究室	15,087	304
文学部斜里研究室	661	125
理学部	42,631	52,461
臨海実験所	399,745	2,595
海藻研究施設	56,644	853
理学研究科		
浦河地震観測所	980	225
えりも地殻変動観測所	(えりも町等からから借入1,524)	280
札幌地震観測所	(私有地借入1,427)	234
地震予知観測地域センター	(根釧西部森林管理署 弟子屈事務所等から借入 8,020)	113
有珠山火山観測所	3,600	637
忍路臨海実験所	1,415	446
医学部	医学部附属病院 敷地共用	39,572 89,461 23,625 11,099
附属病院		
歯学部		
附属病院		
薬学部	20,013	11,099
工学部	131,831	115,877
農学部	59,713	34,488
農場	605,729	9,009
演習林(本部)	33,792	2,115
天塩地方演習林	223,675,157	1,924
中川地方演習林	180,668,255	3,280
雨龍地方演習林	214,984,028	2,252
苫小牧地方演習林	27,146,245	4,005
檜山地方演習林	1,014,552	566
和歌山地方演習林	4,291,203	941
林木育種試験場	178,434	1,575
海岸林造成試験場	13,739	-
豊平試験地	939,838	-
植物園	133,327	3,556
日高牧場	4,653,540	4,813
余市果樹園	57,327	563
獣医学部	40,859	12,038
家畜病院		
水産学部	88,321	29,057
洞爺湖臨湖実験所	15,086	752
七飯養魚実習施設	10,940	443
白尻水産実験所	4,491	1,341
網干場	7,431	492
言語文化部	1,186	2,528
地球環境科学研究科	17,106	16,958

区 分	土 地 (㎡)	建物 (延面積㎡)
低温科学研究所	33,750	10,880
流水研究施設	3,607	1,114
網走流水観測レーダー基地	(網走南部森林管理署などから 借入 7,577)	18
枝幸流水観測レーダー基地	(宗谷森林管理署 枝幸事務所等から借入 10,928)	40
雪崩観測実験室	天塩地方演習林共用	125
苫小牧凍上観測室	苫小牧地方演習林共用	81
母子里融雪観測所	雨竜地方演習林共用	128
電子科学研究所	11,723	9,889
免疫科学研究所	医学部附属病院敷地共用	医学部建物共用
触媒化学研究センター	5,228	3,225
大型計算機センター	4,471	4,274
アイソトープ総合センター	医学部附属病院敷地共用	2,686
情報メディア教育研究総合センター	3,389	2,204
留学生センター	4,677	1,610
高等教育機能開発総合センター	35,828	24,814
先端科学技術共同研究センター	3,380	2,100
保健管理センター	事務局敷地共用	765
情報教育館(放送大学を含む)	高等教育機能開発総合センター敷地共用	6,469
体育施設	178,823	13,103
新馬術部	19,830	512
小樽ヨット艇庫	7,628	825
炭戸艇庫	2,332	-
宮の森スキー合宿所	3,349	-
奥手稲山の家	(石狩森林管理署から借入1,815)	118
パラダイスヒュッテ	(私有地等から借入 1,039)	153
外国人研究者等宿泊施設	6,722	2,644
留学生会館	1,294	1,335
国際交流会館	14,176	3,917
クラーク会館	9,609	6,558
福利厚生施設	(4カ所) 10,660	6,020
大滝セミナーハウス	22,994	2,323
寄宿舎(恵迪寮)	18,113	11,712
女子寮(霜星寮)	1,344	1,694
水産学部寄宿舎(北農寮)	7,986	3,224
公務員宿舎		
札幌キャンパス	25,752	15,197
札幌市内(キャンパス外)	20,082	2,899
函館市内	504	108
その他の地方	43,790	4,129
看護婦宿舎	6,457	4,505
納骨堂	160	22
医療技術短期大学部	医学部附属病院敷地共用	10,246
旧医学部附属病院登別分院	30,058	4,357
札幌市内	札幌キャンパス1,764,231	630,710
その他の地方施設	その他1,099,394	10,011
函館市内	96,811	32,389
その他の地方施設	657,308,969	41,665
総 計	660,269,405	714,775
船	おしよ丸 1,383トン	
(主要なもの)	北星丸 892トン	
	うしお丸 128トン	

点検評価関係資料

1	北海道大学点検評価規程	165
2	北海道大学点検評価委員会組織図	168
3	北海道大学点検評価システム・タイムスケジュール	169
4	平成12年度～平成9年度点検評価課題.....	170
5	平成8年度～平成4年度点検評価事項	171
6	北海道大学における点検評価報告書発行状況一覧	175
7	北海道大学における第三者評価（外部評価）実施状況一覧	179
8	平成12年度北海道大学点検評価委員会等名簿	181

1 北海道大学点検評価規程

平成3年12月18日

海大達第48号

(趣 旨)

第1条 この規程は、北海道大学（以下「本学」という。）の教育研究水準の向上を図り、かつ、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動等の状況について行う点検及び評価に関し、必要な事項を定めるものとする。

(全学委員会)

第2条 本学に、次に掲げる事項を行うため、北海道大学点検評価委員会（以下「全学委員会」という。）を置く。

- (1) 本学の点検及び評価の基本方針並びに実施基準等の策定に関すること。
- (2) 全学に係る点検及び評価の実施に関すること。
- (3) 本学の点検及び評価に関する年次報告書の作成及び公表に関すること。
- (4) 本学の点検及び評価結果の学外者による検証の実施に関すること。
- (5) 大学評価・学位授与機構による大学評価事業の実施に関すること。

(組 織)

第3条 全学委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 総長
 - (2) 副学長
 - (3) 各学部長
 - (4) 各大学院研究科長
 - (5) 各附置研究所長
 - (6) 附属図書館長
 - (7) 医学部附属病院長及び歯学部附属病院長
 - (8) 言語文化部長
 - (9) 各全国共同利用施設の長
 - (10) 各学内共同教育研究施設の長
 - (11) 保健管理センター所長及び体育指導センター所長
 - (12) 事務局長
 - (13) その他総長が必要と認めた者
- 2 前項第13号の委員は、総長が委嘱する。
- 3 前項の委員の任期は、委嘱された年度の末日までとする。

(委員長)

第4条 全学委員会に委員長を置き、総長をもって充てる。

- 2 委員長は、全学委員会を招集し、その議長となる。

(議 事)

第5条 全学委員会は、委員の半数以上が出席しなければ議事を開き、議決することができない。

- 2 全学委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(幹事会)

第6条 全学委員会に、次に掲げる事項について企画調整を行うため、幹事会を置く。

- (1) 点検及び評価に係る基本的事項の策定等に関すること。
 - (2) 点検及び評価に係る具体的実施方策等に関すること。
 - (3) 年次報告書の作成及び公表に関すること。
 - (4) 本学の点検及び評価結果の学外者による検証の具体的実施方策等に関すること。
 - (5) 大学評価・学位授与機構による大学評価事業の具体的実施方策等に関すること。
 - (6) その他点検及び評価についての総合調整に関すること。
- 2 幹事会は、次に掲げる者をもって組織する。
- (1) 副学長
 - (2) 大学院の文学研究科長、教育学研究科長、法学研究科長、経済学研究科長及び国際広報メディア研

- 究科長，言語文化部長並びにスラブ研究センター長のうちから 2名
- (3) 大学院の理学研究科長，工学研究科長，農学研究科長，水産科学研究科長及び地球環境科学研究科長，低温科学研究所長，電子科学研究所長，遺伝子病制御研究所並びに触媒化学研究センター長のうちから 4名
- (4) 大学院の医学研究科長，歯学研究科長，薬学研究科長及び獣医学研究科長，医学部附属病院長並びに歯学部附属病院長のうちから 2名
- (5) 事務局長
- (6) その他全学委員会委員のうちから総長が必要と認めた者
- 3 前項第2号から第4号まで及び第6号の構成員は，総長が指名する。
- 4 前項の構成員の任期は，指名された年度の末日までとする。
- 5 幹事に座長を置き，総長が指名する副学長をもって充てる。

(専門委員会)

- 第7条 全学委員会に，点検及び評価に係る専門的事項を処理するため，専門委員会を置くことができる。
- 2 専門委員会委員は，総長が委嘱する。
- 3 前項に定めるもののほか，専門委員会に関し必要な事項は，全学委員会が別に定める。

(実施部局)

- 第8条 点検及び評価を行う学部等（以下「実施部局」という。）は，次のとおりとする。
- (1) 各学部
- (2) 各大学院研究科
- (3) 各附置研究所
- (4) 医学部附属病院及び歯学部附属病院
- (5) 言語文化部
- (6) 各全国共同利用施設
- (7) 各学内共同教育研究施設
- (8) 保健管理センター及び体育指導センター
- 2 前項第1号の学部及び同項第2号の大学院研究科が適当と認める場合は，一の実施部局として取り扱うことができる。
- 3 実施部局が行う点検及び評価に関し必要な事項は，この規程に定めるもののほか，当該実施部局の長が定める。

(部局委員会)

- 第9条 実施部局に，当該実施部局の点検及び評価を行うため，実施部局点検評価委員会（以下「部局委員会」という。）を置く。
- 2 部局委員会に関し必要な事項は，当該実施部局の長が定める。

(点検評価の実施及び公表)

- 第10条 全学委員会及び部局委員会は，教育研究活動等の状況について少なくとも4年に1回点検及び評価を行う。
- 2 総長及び実施部局の長は，全学委員会及び部局委員会が点検及び評価を実施し，その結果を取りまとめた場合には，報告書等として公表するものとする。
- 3 実施部局の長は，部局委員会が取りまとめた点検及び評価の結果を報告書等として公表した場合には，速やかに総長に報告するものとする。

(点検評価結果の対応)

- 第11条 総長及び実施部局の長は，全学委員会及び部局委員会が行った点検及び評価の結果に基づき，改善が必要と認められるものについては，その改善に努める。
- 2 総長は，全学に係る事項で，関連する学内の委員会において改善策を検討することが適当と認められるものについては，当該委員会に付託する。
- 3 総長は，実施部局に係る事項で，全学委員会が行った点検及び評価の結果に基づき，特に改善が必要と認められるものについては，当該実施部局の長にその改善策の検討を求めることができる。

(学外者による検証)

- 第12条 総長及び実施部局の長は，全学委員会及び部局委員会が行った点検及び評価の結果を報告書等として公表した場合には，適宜の方法により学外者による検証を受けるように努めるものとする。

2 実施部局の長は、前項の規定により検証を受けた場合には、その結果を速やかに総長に報告するものとする。

(庶 務)

第13条 全学委員会の庶務は、総務部総務課において処理する。

(雑 則)

第14条 この規程に定めるもののほか、点検及び評価に関し必要な事項は、全学委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成3年12月18日から施行する。

附 則 (平成4年6月24日海大達第31号)

この規程は、平成4年7月1日から施行する。

附 則 (平成7年4月1日海大達第46号)

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則 (平成9年2月19日海大達第1号)

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附 則 (平成12年4月1日海大達第49号)

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則 (平成12年7月26日海大達第118号)

この規程は、平成12年7月26日から施行する。

2 北海道大学点検評価委員会組織図

北海道大学点検評価委員会（全学委員会）	
○任 務.....	本学の点検及び評価の基本方針並びに実施基準等の策定に関すること。 全学に係る点検及び評価の実施に関すること。 本学の点検及び評価に関する年次報告書の作成及び公表に関すること。 本学の点検及び評価結果の学外者による検証の実施に関すること。 大学評価・学位授与機構による大学評価事業の実施に関すること
○委 員 長.....	総長
○委 員.....	総長，副学長，各学部長，各大学院研究科長，各附置研究所長，附属図書館長，医学部附属病院長，歯学部附属病院長，言語文化部長，各全国共同利用施設の長，各学内共同教育研究施設の長，保健管理センター所長，体育指導センター所長，事務局長，その他総長が必要と認めた者
○任 期.....	委嘱された年度の末日まで
○根 拠 規 程.....	北海道大学点検評価規程第2条，第3条，第4条，第5条
幹 事 会	
○任 務.....	次に掲げる事項の企画調整 点検及び評価に係る基本的事項の策定等に関すること。 点検及び評価に係る具体的実施方策等に関すること。 年次報告書の作成及び公表に関すること。 本学の点検及び評価結果の学外者による検証の具体的実施方策等に関すること。 大学評価・学位授与機構による大学評価事業の具体的実施方策等に関すること。 その他点検及び評価についての総合調整に関すること。
○座 長.....	総長が指名する副学長
○構 成 員.....	副学長 文学研究科長，教育学研究科長，法学研究科長，経済学研究科長，国際広報メディア研究科長，言語文化部長，スラブ研究センター長のうちから2名 理学研究科長，工学研究科長，農学研究科長，水産科学研究科長，地球環境科学研究科長，低温科学研究所長，電子科学研究所長，遺伝子病制御研究所長，触媒化学研究センター長のうちから4名 医学研究科長，歯学研究科長，薬学研究科長，獣医学研究科長，医学部附属病院長，歯学部附属病院長のうちから2名 事務局長 その他全学委員会委員のうちから総長が必要と認めた者
○任 期.....	指名された年度の末日まで
○根 拠 規 程.....	北海道大学点検評価規程第6条
専門委員会（点検評価する課題に応じて設置）	
○任 務.....	点検及び評価に係る専門的事項を処理する。
○委 員 長.....	幹事会構成員のうちから総長が指名する者。委員長は部局長任期が終了しても，専門委員会が存続する間継続する。
○委 員.....	課題に応じて，その課題を検討するにふさわしい分野や職を考慮しその人数や部局割をその都度決定する。総長が委嘱する。
○任 期.....	委嘱された年度の末日まで，1年で課題の検討が終了しない場合は延長する。
○根 拠 規 程.....	北海道大学点検評価規程第7条

3 北海道大学点検評価システム・タイムスケジュール

(タイムスケジュール)

前年度の2月～

3月まで

点検評価委員会幹事会

- ・翌年度に点検評価すべき課題の原案を作成する。
- ・課題に応じた専門委員会の構成原案を作成する。
- ・専門委員会の名称，メンバーを検討する。課題を検討するにふさわしい分野，若しくは職（評議員、教務委員、学生委員等）を考慮して選抜，部局割と人数を決定する。
- ・専門委員会の任期は原則として1年とし，課題によって継続性を持たせ，延長もできるようにする。
- ・専門委員会の委員長は幹事会のメンバーとする。

3月

点検評価委員会（全学委員会）

- ・翌年度の点検評価すべき課題を決定する。
- ・専門委員会の設置を決定する。

当該年度

4月～11月

専門委員会

- ・点検評価すべき課題に応じて設置する。
- ・点検評価すべき課題の具体的検討を行う。
現状分析→点検評価→改善すべき方策
- ・結果を幹事会へ報告する。

4月～2月

点検評価委員会幹事会

- ・専門委員会からの報告を受け，提言事項を整理し，報告書原案を作成する。
- ・点検評価委員会（全学委員会）へ報告する。
- ・研究活動一覧，研究者総覧を作成する。

1月～3月

点検評価委員会（全学委員会）

- ・幹事会からの報告を受け，報告書の内容を決定する。

2月～3月

報告書の刊行

- ・報告書は，毎年発行する。
- ・研究活動一覧，研究者総覧及び教育，管理運営，社会貢献活動一覧も併せて発行する。

4 平成12年度～平成9年度点検評価課題

本学では、平成4年度から平成8年度まで、点検項目やその実施方法等について細かく定めた「北海道大学点検項目指針」により点検・評価を実施していた。（「5 平成8年度～平成4年度点検評価事項」参照）

しかし、平成9年度からは、点検・評価の在り方を「これまでの総花的なものではなく、本学が直面する全学的な課題等に絞って機能的に点検・評価を行い、改善すべき方策を提言することまでも視野に置き検討する新しいシステムとし、それらの提言を受けて総長がリーダーシップを発揮し、改善のため具体的な行動に結び付け、本学の教育研究を活性化させることを目的としたもの」に改めて実施することとし、「北海道大学点検項目指針」を廃止した。

この新たなシステムによる点検・評価は、平成9年度から次の課題について行われた。

年 度	点 検 評 価 課 題
12年度	・ 教員の総合的業績評価について
	・ 大学院教育について

年 度	点 検 評 価 課 題
11年度	・ 教員の総合的業績評価について
	・ 大学院教育について

年 度	点 検 評 価 課 題
10年度	・ 学生指導について
	・ 教員の総合的業績評価について

年 度	点 検 評 価 課 題
9年度	・ 学業成績評価について
	・ 本学の共同研究の現状と課題について

5 平成8年度～平成4年度点検評価事項

平成8年度点検評価事項

部局共通点検項目

(平成8年8月27日全学委員会指定)

点 検 事 項	点 検 項 目
5 研究活動	研究業績（著書，論文，学術講演等）の状況 科学研究費補助金等研究助成金の状況 国内外・学内の共同研究 学術に関する受賞状況等

平成7年度点検評価項目

部局共通点検項目

(平成7年9月27日全学委員会指定)

点 検 事 項	点 検 項 目
5 研究活動	研究業績（著書，論文，学術講演等）の状況 科学研究費補助金等研究助成金の状況 学術に関する受賞状況等

平成6年度点検評価項目

1 全学点検項目

(平成6年6月22日全学委員会決定)

点 検 事 項	点 検 項 目
5 研究活動	大学等機関別・専門分野別の研究実績比較
6 教員組織	教員選考基準
10 施設設備及び環境	キャンパスプラン等施設設備の将来計画 学内交通体制と駐車場の整備・規制等 エネルギー供給計画と維持管理 給排水計画と維持管理
その他	教育業績の評価

2 部局共通点検科目

(平成6年6月22日全学委員会決定)

点 検 事 項	点 検 項 目
2 教育活動	2) 学生による教育指導の評価
5 研究活動	研究業績（著書，論文，学術講演等）の状況 科学研究費補助金等研究助成金の状況 学術に関する受賞状況等 内地研究員の受け入れ
6 教員組織	人事計画と将来構想 他大学等他機関との人事交流 外国人教員の任用 民間人等の任用計画と任用
8 社会との連携	民間等との共同研究，受託研究 研究生等の受け入れ
11 財政	庁舎の維持管理
その他	教育実績の評価

平成5年度点検評価項目

1 全学点検項目

(平成5年6月29日全学委員会決定)

点 検 事 項	点 検 項 目
2 教育活動	1) 一般教育，外国語教育及び保健体育等を含む全学教育実施体制と理念
5 研究活動	学内における研究支援体制
7 国際交流	海外の大学間協定等の方針・計画
9 図書及び学術情報	附属図書館の組織と管理運営 附属図書館と部局図書室の在り方 附属図書館の地域社会への開放 図書館資料の収集・保存と整備 学内ラン等情報ネットワーク・システムのサービスと利用状況
10 施設設備及び環境	施設設備の維持管理
12 管理運営及び組織機構	事務処理体制の効率化

2 部局共通項目

(平成5年6月29日全学委員会決定)

点 検 事 項	点 検 項 目
2 教育活動	2) 専任教官当たり担当授業時間数，学生数，授業の実施 2) 非常勤講師の任用状況 2) 専任教官の非常勤講師等の兼業 2) 学生による教育指導の評価（施行）
3 学生の受入れ	大学院学生の出身大学・学部
5 研究活動	研究業績（著書，論文，学術講演等）の状況 科学研究費補助金等研究助成金の状況 研究支援体制 学術に関する受賞状況等
6 教員組織	非常勤講師の選考基準と選考方法（2-2） と併せて実施
7 国際交流	海外の大学との部局間協定と交流 海外の大学等との共同研究・研究交流 留学生の受入れ状況と計画 留学修了者の進路
9 図書及び学術情報	部局図書室の運営 部局図書室の設備と資料・情報 部局図書室のサービス
10 施設設備及び環境	実験・実習設備の安全・防災対策
12 管理運営及び組織機構	事務処理体制の効率化

平成4年度点検評価事項

1 全学点検項目

(平成4年度3月18日全学委員会決定)

点 検 事 項	点 検 項 目
1 大学の在り方及び目標	北大の目標，使命，教育研究理念 総合大学としての北大の機能と将来構想
2 教育活動	1) 総合大学としての教育の在り方と実施体制 2) ガイダンスの実施方針 2) 学部移行の理念・方法 2) 学生の留年・休学・退学等の動態
3 学生の受入れ	学生募集と広報活動 入学者選抜の方針・実施方法 入学者選抜と追跡調査 入学の時期と入試問題の評価 社会人，帰国子女の受入れ
4 厚生補導	授業料の減免方針と選考 課外活動指導と課外活動施設の整備・管理 学生の健康管理
5 研究活動	研究活動等の状況 特別研究員の採択状況 大学機関別・専門分野別の研究実績比較
6 教員組織	教員選考基準 教員組織
7 国際交流	国際化に向けての教育研究組織 在外研究員候補者の選考方針，方法 外国人研究者宿泊施設の整備計画 国際交流事業基金等の事業計画・実施 留学生の受入れ方針 留学生の日本語日本文化等教育体制の支援 留学生宿舍の在り方と整備 留学生に対する支援体制 サマーセッション等海外との学生交流プログラムの方針と計画 留学修了者の進路
8 社会との連携	共同研究の対応組織 公開講座の実施
9 図書及び学術情報	附属図書館の利用サービス
10 施設設備及び環境	キャンパスプラン等施設設備の将来計画 環境整備計画と保守 学内交通体制と駐車場の整備・規則等 情報通信システムの計画と維持管理 国際化と社会人受入れに伴う施設設備の整備 教職員の福利厚生施設の整備 公害防止対策
11 財政	予算編成と執行・配分 予算要求の方針
12 管理運営及び組織機構	大学の管理運営体制と意志決定機構 評議会，部局長連絡会議，各種委員会の機能と構成 総長，学生部長，附属図書館長，教養部長の選出方法 事務・技術機構組織と研究支援体制 自己点検評価の実施状況

2 部局共通点検項目

点 検 事 項	点 検 項 目
1 部局等の在り方及び目標	部局等の目標，使命，教育研究理念 部局等の将来構想
2 教育活動	1) 総合大学としての教育の在り方と実施体制 1) 教育理念・目標とカリキュラム編成 2) ガイダンスの実施 2) 講義・演習・実験等の創意工夫 2) 教材，教育機器利用の教育 2) 演習等による少人数教育 2) 履修状況と成績評価・単位認定 2) 学位授与と論文指導 2) 大学院教育の研究指導 2) 大学院学生の専攻別定員と研究所等の教育協力 2) 教育支援体制 2) 学生による教育指導の評価 3) 卒業者・大学院修了者の就職状況
3 学生の受入れ	学生定員の充足と志願状況
5 研究活動	研究活動の状況 研究業績（著書，論文，学術講演等）の状況 科学研究費補助金等研究助成金の状況 国内外・学内の共同研究 民間等との共同研究 民間資金の活用状況 学術に関する受賞状況等
6 教員組織	教員組織・機構 採用，昇任の選考基準と選考方法 教官の採用計画・手順と欠員充足
10 施設設備及び環境	施設設備の維持管理 庁舎管理 実験・実習設備の安全・防災対策 学習環境と研究環境 学園生活環境
11 財政	予算の執行・配分 予算要求事項の選択
12 管理運営及び組織機構	部局の管理運営と意志決定 教授会，各種委員会の機構と構成 部局長，各種委員会委員の選出 事務・技術組織と研究支援体制 自己点検評価の実施状況

注：大学院改革を進めている研究科にあっては，等の大学院に関する項目を点検することが望ましい。

6 北海道大学における点検評価報告書発行状況一覧

平成13年3月現在

発行部局等名	標 題	発行年月
北海道大学（全学）	北大のルネサンスを目指して ～北海道大学の現状と課題～	5年6月
	北大のルネサンスを目指して ～北海道大学の現状と課題～	6年3月
	北大のルネサンスを目指して ～北海道大学の現状と課題～	7年3月
	（抜刷）学生による教育指導の評価	7年3月
	来るべき新世紀に向けて ～北大の新たな展開のために～	8年3月
	来るべき新世紀に向けて ～北大の新たな展開のために～	9年3月
	来るべき新世紀に向けて ～北大の新たな展開のために～	10年3月
	（抜刷）学業成績評価について・教員・学生によるアンケート調査・	10年3月
	（抜刷）本学の共同研究の現状と課題について・教員等によるアンケート調査・	10年3月
	来るべき新世紀に向けて ～北大の新たな展開のために～	11年3月
	来るべき新世紀に向けて ～北大の新たな展開のために～（概要）	11年3月
	（抜刷）教員の総合的業績評価について	11年3月
	来るべき新世紀に向けて ～北大の新たな展開のために～	12年3月
	来るべき新世紀に向けて ～北大の新たな展開のために～（概要）	12年3月
	（抜刷）教員の総合的業績評価について	12年3月
	21世紀の大いなる展開に向けて・研究指導型大学としての展開を求めて・	13年3月
	（抜刷）教員の総合的業績評価について	13年3月
	（別冊）研究活動一覧平成4年度	5年6月
	（別冊）研究活動一覧平成5年度	6年3月
	（別冊）研究活動一覧平成6年度	7年3月
	（別冊）研究活動一覧平成7年度	8年3月
	（別冊）研究活動一覧平成8年度	9年3月
	（別冊）国内外・学内の共同研究一覧平成8年度	9年3月
	（別冊）研究活動一覧平成9年度	10年3月
	（別冊）研究活動一覧平成10年度	11年3月
	（別冊）研究活動一覧平成11年度	12年3月
	（別冊）研究活動一覧平成12年度	13年3月
	北海道大学研究者総覧	6年2月
	北海道大学研究者総覧（追録）	6年9月
	北海道大学研究者総覧（追録）	7年8月
	北海道大学研究者総覧	8年12月
	北海道大学研究者総覧（追録）	9年10月
	北海道大学研究者総覧（追録）	10年7月
	北海道大学研究者総覧	12年2月
	北海道大学研究者総覧（追録）	13年3月
	（別冊）教育，管理運営，社会貢献活動一覧	13年3月
文学研究科・文学部	北海道大学文学部研究教育年報1992 - 1994	6年3月
	北海道大学文学部教育研究年報1994 - 1995	8年3月
	北海道大学文学部学外評価委員会報告書	10年3月
	北海道大学文学部教育研究年報1996 - 1998	11年3月
教育学研究科・教育学部	研究・教育の報告 第1号	63年3月
	研究・教育の報告 第2号	3年11月
	研究と教育の報告 - 1992年～1994年 - 第3号	7年3月
	研究と教育の報告 - 1995年～1997年 - 第4号	10年3月
	北海道大学教育学部有識者懇談会報告書 - 第三者点検評価報告書 -	10年11月
	北海道大学大学院教育学研究科・教育学部有識者懇談会報告書 - 第三者点検評価報告書 -	13年3月
法学研究科・法学部	北海道大学法学部の現状と課題	7年2月
経済学研究科・経済学部	北海道大学経済学部点検評価報告書 平成3～5年度	7年5月
	北海道大学経済学部点検評価報告書 平成6～8年度	10年3月
	（北海道大学経済学部外部評価資料 平成6～9年度）	10年7月
	北海道大学経済学部外部評価報告書	11年3月

発行部局等名	標 題	発行年月
理学研究科・理学部	理学への招待 北海道大学理学部ガイドブック 教官調査票（付録） （生物科学専攻外部評価資料） 生物科学専攻の外部評価 （物理学専攻外部評価資料） （地球惑星科学専攻外部評価資料） 物理学専攻の外部評価 地球惑星科学専攻の外部評価 （数学専攻外部評価資料） （化学専攻外部評価資料 第1分冊：専攻の概要） （化学専攻外部評価資料 第2分冊：研究業績） 数学専攻の外部評価 化学専攻の外部評価 理学研究科・理学部ON - LINE年次報告書 - 20世紀の外部評価を終えて -	5年1月 5年1月 8年6月 9年2月 9年6月 9年6月 10年1月 10年1月 10年5月 10年7月 10年7月 10年12月 11年2月 11年1月
医学研究科・医学部	北海道大学医学部研究活動 - 総括と展望 - 1991 北海道大学医学部研究活動 - 総括と展望 - 1992 北海道大学医学部研究活動 - 総括と展望 - 1993 北海道大学医学部研究活動 - 21世紀への視点 - 1994 北海道大学医学部研究活動 - 21世紀への視点 - 1995 北海道大学医学部研究活動 - 21世紀への視点 - 1996 北海道大学医学部・大学院医学研究科 外部評価報告書 - 研究活動を中心に - 北海道大学医学部研究活動 - 21世紀への視点 - 1997 北海道大学医学部研究活動 1998 北海道大学医学部（医学研究科）研究活動 1999	5年7月 7年2月 7年2月 8年6月 9年2月 10年3月 10年3月 11年3月 12年3月 12年12月
歯学研究科・歯学部	歯学：21世紀に向けて - 点検評価報告書 - （歯学部・歯学部附属病院） 新たな歯科教育と歯学研究への展開 - 歯学部の現状と展望 - 外部点検評価報告書	7年3月 10年3月 11年3月
薬学研究科・薬学部	点検評価報告書 自己点検・外部評価報告書 1998	7年3月 10年12月
工学研究科・工学部	北海道大学工学部の現況 北海道大学工学部の現況 北海道大学工学部材料・化学系（物質工学専攻・分子化学専攻）外部評価報告書 北海道大学大学院工学研究科情報エレクトロニクス系 外部評価報告書 北海道大学大学院工学研究科物理工学系 外部評価報告書 北海道大学大学院工学研究科・工学部の現況 北海道大学大学院工学研究科社会工学系外部評価報告書	5年6月 9年3月 9年6月 10年3月 11年3月 12年3月 12年3月
農学研究科・農学部	農学の教育と研究 平成3年度～平成5年度 北海道大学農学部点検評価報告書 北海道大学農学部の外部評価 農学の教育と研究 平成6年度～平成8年度 北海道大学農学部点検評価報告書	7年3月 8年4月 10年3月
獣医学研究科・獣医学部	北海道大学獣医学部教官プロフィール 21世紀の獣医学をめざして 北海道大学獣医学部自己点検評価報告書第1号（平成3年度・平成4年度） 自己点検評価報告書（第2号） - 大学院重点化の現状と問題点 - 外部評価報告書 - 大学院重点化の目的はどこまで達成されつつあるのか -	5年7月 5年10月 10年6月 10年6月
水産科学研究科・水産学部	北海道大学水産学部における点検と評価 北海道大学水産学部の現状と課題 - 自己点検評価報告書 北海道大学水産学部の現状と課題 - 自己点検評価報告書 北海道大学水産学部の現状と課題 - 自己点検評価報告書 北海道大学水産学部・水産学研究科 外部評価報告書	4年4月 6年3月 8年3月 10年3月 11年1月
地球環境科学研究科	地球環境を科学する - 点検評価報告書 - 平成5年度～平成7年度 物質環境科学専攻 外部評価報告書 地球環境変化の予測に向けて 外部評価報告書 地球環境を科学する 点検評価報告書 平成8年度 平成10年度	9年3月 11年3月 11年3月 12年3月
低温科学研究所	年報1992 年報1993 年報1994 年報1995 年報1996 年報1997 オホーツク海と周辺陸域における大気・海洋・雪氷圏相互作用 - COEプロジェクトと外部評価 - オホーツク海と周辺陸域における大気・海洋・雪氷圏相互作用 - COEプロジェクトと外部評価（ ） -	5年2月 6年2月 7年2月 8年2月 8年10月 9年12月 9年3月 10年3月

発行部局等名	標 題	発行年月
低温科学研究所	外部点検評価報告書	10年3月
	年報1998	11年1月
	雪崩事業費による研究の経緯と成果 外部点検評価報告書	11年3月
	附属流水研究施設外部評価報告書	11年3月
	年報1999	11年2月
	年報2000	13年3月
電子科学研究所	北海道大学低温科学研究所外部評価報告書(2000)	13年3月
	北海道大学電子科学研究所要覧 平成5 - 6年	5年12月
	研究活動 北海道大学電子科学研究所 平成4年度 - 6年度	7年3月
	研究活動 北海道大学電子科学研究所 平成7年度 - 8年度	9年9月
	北海道大学電子科学研究所 外部評価報告書	10年3月
	研究活動 北海道大学電子科学研究所 平成9年度 - 10年度	11年10月
遺伝子病制御研究所 (旧免疫科学研究所)	Collected Papers of Inst. Immunological Science 14	4年12月
	「研究業績のまとめ」 1989 - 1993	5年9月
	Collected Papers of Inst. Immunological Science 15	6年1月
	北海道大学免疫科学研究所 研究活動のまとめ1988 - 1992	6年3月
	Collected Papers of Inst. Immunological Science 16	6年10月
	北海道大学免疫科学研究所年報	7年9月
	Collected Papers of Inst. Immunological Science 17	7年9月
	北海道大学免疫科学研究所の外部評価	8年3月
	北海道大学免疫科学研究所外部評価実施報告書	8年3月
	北海道大学免疫科学研究所年報	8年9月
	Collected Papers of Inst. Immunological Science 18	8年11月
	Collected Papers of Inst. Immunological Science 19	9年10月
	北海道大学免疫科学研究所年報	10年2月
	北海道大学免疫科学研究所 北海道大学医学部附属癌研究施設 外部評価報告書	10年3月
	Collected Papers of Inst. Immunological Science 20	10年11月
	北海道大学免疫科学研究所年報	10年12月
医学部附属病院	外部点検評価報告書 北海道大学免疫科学研究所 1998 ~ 1999	11年5月
	Collected Papers of Inst. Immunological Science 21	11年11月
	北海道大学免疫科学研究所年報	11年11月
	Collected Papers of Inst. Immunological Science 22	13年
	北海道大学免疫科学研究所年報	13年
	診療活動の現状と課題 英知と力を合わせて21世紀に向かって 現状と将来への展望 自己点検・評価報告書 1995 ~ 1997	7年3月 10年3月
歯学部附属病院	歯学：21世紀に向けて - 点検評価報告書 - (歯学部・歯学部附属病院)	7年3月
	新たな歯科医療への展開 - 診療活動の現状と展望 -	10年3月
	外部点検評価報告書	11年3月
(教養部)	(北海道大学教養部点検評価報告書 平成4年度 - 平成7年度)	7年3月
言語文化部	ロゴス - しなやかな文化の懸け橋 北海道大学言語文化部点検評価報告書 NO.1	7年2月
	ことばでさぐり ことばでつなぐ 北海道大学言語文化部点検評価報告書 NO.2	10年2月
	外部評価報告書	12年11月
触媒化学研究センター	北海道大学触媒化学研究センター年報 第5号	6年5月
	Annual Report №5	6年5月
	北海道大学触媒化学研究センター年報 5年の歩み	6年7月
	北海道大学触媒化学研究センター年報 第6号	7年5月
	Annual Report №6	7年5月
	北海道大学触媒化学研究センター年報 第7号	8年5月
	Annual Report №7	8年5月
	北海道大学触媒化学研究センター外部点検評価報告書	9年1月
	北海道大学触媒化学研究センター年報 第8号	9年5月
	Annual Report №8	9年7月
	北海道大学触媒化学研究センター年報 第9号	10年5月
	Annual Report №9	10年7月
	Annual Report №10	11年7月
	北海道大学触媒化学研究センター年報 第10号	11年8月
	Annual Report №11	12年7月
	北海道大学触媒化学研究センター年報 第11号	12年11月

発行部局等名	標 題	発行年月
スラブ研究センター	スラブ研究センターを研究する スラブ研究センターを研究する スラブ研究センターを研究する 外部評価特集 スラブ研究センターを研究する（外部評価）No.4 - 1 スラブ研究センターを研究する（資料集）No.4 - 2	6年3月 8年3月 9年6月 12年3月 12年3月
大型計算機センター	technical report No.16 1994 technical report No.17 1995 technical report No.18 1996 technical report No.19 1997 technical report No.20 1998 北海道大学大型計算機センター外部評価報告書 technical report No.21 1999 technical report No.22 2000	6年9月 8年1月 8年12月 10年3月 11年3月 11年12月 12年2月 13年2月
アイソトープ総合センター	北海道大学アイソトープ総合センター 現状と課題	6年12月
機器分析センター	北海道大学機器分析センター報 点検評価特集号	7年3月
実験生物センター	北海道大学実験生物センター自己点検・評価報告書 第1号（利用研究業績及びセンター関連規約）	7年3月
遺伝子実験施設	Research Center For Molecular Genetics 1991 - 1993 北海道大学遺伝子実験施設 活動利用報告書（平成9年度） 北海道大学遺伝子実験施設 概要 北海道大学遺伝子実験施設 活動利用報告書（平成10年度） 北海道大学遺伝子実験施設 活動利用報告書（平成11年度）	7年3月 11年2月 11年3月 12年3月 13年3月
留学生センター	平成4年度～平成6年度北海道大学留学生センター点検評価報告書「北大キャンパスの国際化を目指して」 平成7年度～平成9年度北海道大学留学生センター点検評価報告書「ボーダレスの21世紀を目指して」 平成10年度～平成12年度北海道大学留学生センター点検評価報告書	7年3月 10年3月 13年3月
量子界面エレクトロニクス研究センター	量子界面エレクトロニクス研究 第1巻 量子界面エレクトロニクス研究 第2巻 量子界面エレクトロニクス研究 第3巻 量子界面エレクトロニクス研究 第4巻 量子界面エレクトロニクス研究 第5巻 北海道大学量子界面エレクトロニクス研究センター 外部評価報告書 量子界面エレクトロニクス研究 第6巻	6年12月 8年3月 9年3月 10年3月 11年3月 11年8月 12年3月
エネルギー先端工学研究センター	北海道大学エネルギー先端工学研究センター年報 第1号 北海道大学エネルギー先端工学研究センター年報 第2号 北海道大学エネルギー先端工学研究センター年報 第3号 北海道大学エネルギー先端工学研究センター年報 第4号 北海道大学エネルギー先端工学研究センター年報 第5号 北海道大学エネルギー先端工学研究センター年報 第6号 北海道大学エネルギー先端工学研究センター外部評価報告書 マルチビーム超高圧電子顕微鏡実験施設外部評価報告書	7年5月 8年3月 9年3月 10年3月 11年3月 12年3月 13年1月 13年1月
高等教育機能開発総合センター	より良き高等教育を求めて - 現状と課題そして展望 - 北海道大学高等教育機能開発総合センター点検評価報告書	11年3月
先端科学技術共同研究センター	業績集 平成8年～平成10年 外部評価報告書	11年9月 12年3月
保健管理センター	北海道大学保健管理センター自己点検・評価報告書 北海道大学保健管理センター点検評価報告書 北海道大学保健管理センター点検評価報告書	7年6月 10年9月 12年11月
体育指導センター	北海道大学体育指導センター年報 第6号 1994年 北海道大学体育指導センター年報 第7号 1995年 北海道大学体育指導センター年報 第8号 1996年 北海道大学体育指導センター年報 第9号 1997年 北海道大学体育指導センター年報 第10号 1998年 北海道大学体育指導センター年報 第11号 1999年 北海道大学体育指導センター年報 第12号 2000年	7年3月 8年3月 9年3月 10年3月 11年3月 12年3月 13年3月

発行部局等名	標 題	発行年月
医療技術短期大学部	明日の医療技術を目指して - 北海道大学医療技術短期大学部の現状と課題 - 明日の医療技術を目指して - 北海道大学医療技術短期大学部の現状と課題 - 明日の医療技術を目指して - 北海道大学医療技術短期大学部の現状と課題 - 北海道大学医療技術短期大学部外部評価報告書	5年12月 7年3月 8年8月 13年3月

7 北海道大学における第三者評価（外部評価）の実施状況一覧

実施年度	外部評価実施部局	実施時期	実施対象等	実施方法等	外部評価委員数及び国別人数			評価結果の活用状況
					国内	国外（国籍）	計	
平成5年度 (1部局)	スラブ研究センター	平成5年9月 ～12月	センターの組織・運営、 共同研究、個人研究の 評価	評価資料等の書面審査、 シンポジウム、セミナー への参加、ヒアリング	人 2	人 2	人 2	センターの管理運営、 共同研究の企画等の基 礎資料の参考
平成6年度 (2部局)	薬学部	平成7年3月	薬学部全般の評価	全国13の国立大学の評 価委員による評価資料 等の書面審査、アンケ ート方式	24		24	学部改革の参考
	触媒化学研究センター	平成6年7月	センター全般の評価、 将来の展望、活動評価、 研究成果の評価	シンポジウムへの参加、 評価資料等の書面審査	4	3 (アメリカ合衆国 2) (ロシア 1)	7	将来計画の基礎資料の 参考
平成7年度 (4部局)	農学部・農学研究科	平成8年1月 ～4月	学部7学科、研究科8専 攻の評価	アンケート調査方式に よる評価資料等の書面 審査・意見の収集	28		28	管理運営、教育研究活 動に反映
	免疫科学研究所	平成8年2月	研究所全体の評価、研 究成果の評価	評価資料等の書面審査、 ヒアリング、インタビ ュー、視察	8		8	研究所の改組計画、研 究計画等の参考
	触媒化学研究センター	平成7年10月	表面科学系分野の活動 評価、将来の展望、研 究成果の評価	評価資料等の書面審査、 シンポジウムへの参加		3 (アメリカ合衆国 1) (ドイツ連邦共和国 1) (連合王国 1)	3	将来構想策定の基礎資 料の参考
	スラブ研究センター	平成7年9月 ～12月	センターの組織・運営、 共同研究、個人研究の 評価	評価資料等の書面審査、 シンポジウム、セミナー への参加、ヒアリング	2		2	センターの管理運営、 共同研究の企画等の基 礎資料の参考
平成8年度 (6部局)	理学研究科・理学部	平成8年9月 10月	生物科学専攻 (生物科学科)(生物学、 高分子機能学)の評価	評価資料等の書面審査、 インタビュー、視察	10	2 (カナダ 1) (アメリカ合衆国 1)	2	教育研究活動、大学院 教育の基礎資料の参考
	工学研究科	平成9年2月 3月	物質工学専攻、分子化 学専攻の評価、提言	評価資料等の書面審査、 インタビュー、視察	10		10	教育・研究・管理運営 面等に活用
	地球環境科学研究科	平成8年9月 11月	研究科4専攻の評価、業 績進捗度、研究レベル、 研究構想の将来性の評 価	評価資料等の研究業績 等の書面審査、意見集 約	29	8 (アメリカ合衆国 6) (カナダ 1) (ドイツ連邦共和国 1)	37	研究の活性化、研究計 画等に活用
	低温科学研究所	平成9年1月 ～2月	寒冷海洋圏科学部門、 寒冷陸域科学部門の評 価	研究計画書等の評価資 料の書面審査	5	5 (アメリカ合衆国 3) (ロシア 2)	10	研究計画の活性化
	触媒化学研究センター	平成8年7月 12月	センター全般の評価、 理念、研究組織、将来 の展望、研究活動、研 究成果の評価(部門研 究活動評価、全体評価)	シンポジウムへの参加、 書面審査、ヒアリング、 討論	11	7 (連合王国 1) (アメリカ合衆国 2) (フランス 3) (ドイツ連邦共和国 1)	18	研究課題の設定、研究 体制の再編、研究組織 案の参考、将来構想策 定の基礎資料の参考
	スラブ研究センター	平成8年7月 ～12月	センターの組織・運営、 共同研究、個人研究の 評価	評価資料等の書面審査、 シンポジウム、セミナー への参加、ヒアリング	1	4 (アメリカ合衆国 1) (ロシア 2) (ハンガリー 1)	5	センターの管理運営、 共同研究の企画等の基 礎資料の参考
平成9年度 (9部局)	文学部・文学研究科	平成9年12月	学部、研究科全般の評 価	評価資料等の書面審査、 ヒアリング、視察	5		5	学部、研究科の教育・ 研究・管理運営面に活 用
	理学研究科・理学部	平成9年9月	物理学専攻(物理学科) の評価	評価資料による書面審 査、インタビュー、視 察	10	1 (アメリカ合衆国 1)	11	教育研究活動、大学院 教育の基礎資料の参考、 将来計画の参考
		平成9年8月	地球惑星科学専攻(地球 科学科)(地球惑星物 質科学、地球物理学) の評価	評価資料の書面審査、 インタビュー、視察	10	1 (アメリカ合衆国 1)	11	教育研究活動、大学院 教育の基礎資料の参考、 将来計画の参考
	医学部・医学研究科	平成9年6月 ～7月	学部全般、生理系、病 理系、社会医学系、内 科系、外科系、研究支 援部門、研究科の評価	評価資料等の書面審査、 実地調査、ヒアリング	10		10	学部、大学院の教育・ 研究、大学院重点化構 想の参考
	工学研究科	平成9年12月	情報工電ロニクス 系専攻群(システム情 報工学専攻、電子情報 工学専攻)の評価	評価資料等の書面審査、 討論、視察	10		10	教育・研究・管理運営 面等に活用
	獣医学研究科・獣医学 部	平成10年1月	研究科、学部、附属家 畜病院の評価	評価資料等の書面審査、 質疑応答、視察、イン タビュー	11	1 (アメリカ合衆国 1)	12	大学院、学部の教育研 究の参考
	地球環境科学研究科	平成10年2月	地圏環境科学専攻、生 態環境科学専攻、大気 海洋圏環境科学専攻の 評価	シンポジウムへの参加、 評価資料等による書面 審査、討論	9	6 (インドネシア 4) (アメリカ合衆国 1) (マレーシア 1)	15	研究の活性化、研究計 画等に活用
	低温科学研究所	平成10年1月 ～2月	研究所全体の評価、研 究プロジェクト計画の 学問的価値、妥当性	評価資料等の書面審査、 ヒアリング、討論	6		6	研究所の研究体制等の 改善の参考
	電子科学研究所	平成9年10月 ～12月	研究所全体、各研究部 門の評価	評価資料等の書面審査、 ヒアリング、視察	5		5	研究所の今後の運営、 活性化に活用
	免疫科学研究所 医学部附属癌研究施設	平成9年12月 ～ 平成10年1月	研究所全体、医学部附 属癌研究施設の評価、 全体評価、部門評価、 研究活動評価、将来計 画の評価	評価資料等の書面審査、 ヒアリング、視察	12		12	研究所、癌研究施設の 研究活動、将来計画等 に活用

実施年度	外部評価 実施部局	実施時期	実施対象等	実施方法等	外部評価委員数及び国別人数			評価結果の活用状況
					国内	国外（国籍）	計	
平成10年度 （10部局）	教育学部	平成10年6月	学部・研究科全般の評価	評価資料の書面審査及び意見交換	13		13	今後の教育・研究・管理運営に活用
	経済学部	平成10年8月～10月	学部・研究科全般の評価	評価資料の書面審査、実地調査及びヒアリング	6		6	今後の教育・研究及び大学院改革の検討資料として活用
	理学研究科・理学部	平成10年7月	数学専攻全般の評価	書面審査、インタビュー及び視察等	10	（アメリカ合衆国 1）	11	今後の教育・研究・管理運営に活用
		平成10年9月	化学専攻全般の評価	書面審査、インタビュー及び視察等	9	（アメリカ合衆国 1）	10	今後の教育・研究・管理運営に活用
	歯学部・歯学部附属病院	平成10年10月～11月	学部・研究科、附属病院全般の評価	評価資料の書面審査、質疑・応答及び視察	8		8	今後の教育・研究・診療活動に活用
	薬学研究科・薬学部	平成10年8月～9月	学部・研究科全般の評価	評価資料の書面審査	13		13	今後の教育・研究・管理運営に活用
	工学研究科・工学部	平成10年11月	物理工学系専攻群全般の評価	評価資料の書面審査、質疑・討論及び施設・設備等の視察	12		12	教育・研究・管理運営面等に活用
	水産学部	平成10年7月～8月	学部・研究科・附属施設全般の評価	評価資料の書面審査、ヒアリング及び施設の視察	8		8	今後の教育・研究・管理運営等に活用
	地球環境科学研究科	平成10年12月	大気海洋環境科学専攻全般の評価	評価資料の書面審査及びヒアリング	5		5	今後の教育・研究等に活用
		平成11年3月	物質環境科学専攻全般の評価	評価資料の書面審査及びヒアリング	5	（アメリカ合衆国 3）	8	
	低温科学研究所	平成10年10月～	寒冷地陸域化学部門の研究成果の評価	評価資料の書面審査及び質疑・討論	7		7	今後の研究に活用
		平成10年10月～	寒冷海洋圏科学部門・附属流水研究施設の研究成果の評価	評価資料の書面審査及び質疑・討論	9		9	今後の研究に活用
	大型計算機センター	平成11年3月	センターの施策、運用、整備、研究開発の評価	評価資料の書面審査、ヒアリング及び施設・設備の視察	4		4	今後の運営に活用
平成11年度 （6部局）	工学研究科	平成11年11月	社会工学系専攻群	資料の事前審査及び施設等の実地調査	10		10	今後の教育・研究・管理運営に活用
	言語文化部	平成11年12月	言語文化部全般の評価	資料の事前審査及び意見交換	6		6	公開講座の方法・内容の改善及び国際広報メディア研究科の将来計画に活用
	スラブ研究センター	平成11年7月～平成12年3月	センター全般の評価	書面審査、施設の視察、ヒアリング等	5		5	全国共同利用施設としての今後の在り方及び研究の長期計画の検討に活用
	遺伝子実験施設	平成11年5月	遺伝子実験施設全般の評価	関係者に概要及び活動・利用報告書を配付し意見を求めた。	-	（評価委員は選考しない）	-	今後の運営及び研究交流の促進に役立てる。
	量子界面エレクトロニクス研究センター	平成11年7月～8月	センター全般の評価	評価資料の書面審査及び質疑・応答等	8	（アメリカ合衆国 1） （ドイツ連邦共和国 1） （スウェーデン 1） （連合王国 1）	12	センター改組計画構想に活用
	先端科学技術共同センター	平成11年10月	センター全般の評価	評価資料の書面審査及び意見交換等	8		8	今後のセンターの活動の指針に活用
平成12年度 （6部局）	教育学研究科・教育学部	平成12年12月	教育学研究科・教育学部全体	資料の事前審査及び意見交換	11		11	教育・研究・管理運営等に活用
	農学研究科・農学部	平成13年2月～3月	生物資源生産学専攻	評価資料の書面審査、質疑・応答及び施設の調査	8		8	教育・研究・管理運営等に活用
	低温科学研究所	平成12年10月 平成12年12月	研究所全体	評価資料の書面審査及び質疑・討論	7	（ロシア 1）	8	研究・管理運営等に活用
	遺伝子実験施設	平成13年3月	施設全般	関係者に概要及び活動・利用報告書を配付し意見を求めた。	-	（評価委員は選考しない）	-	今後の運営及び研究交流の促進に役立てる。
	エネルギー先端工学研究センター	平成12年10月	超高圧電子顕微鏡研究室（マルチビーム超高圧電子顕微鏡施設）	質疑応答、施設視察、アンケート形式による調査結果の報告	6		6	今後の実験研究及び将来構想に活用
			センター全般	資料の事前審査、質疑応答及び施設視察	4		4	将来構想等に活用
	医療技術短期大学部	平成12年12月	大学部全般	評価資料の書面審査及び施設の視察等	5		5	教育研究・管理運営面に活用

8 平成12年度北海道大学点検評価委員会等委員名簿

1 点検評価委員会（構成員40名：オブザーバー1名含む。）

職 名	氏 名	備 考
総長	丹 保 憲 仁	委員長
副学長	富 田 房 男	
副学長	前 出 吉 光	
文学研究科長	瀧 川 哲 夫	
教育学研究科長	諸 富 隆	
法学研究科長	松 村 良 之 畠 山 武 道	～ H12.12.14 H12.12.15 ～
経済学研究科長	内 田 和 男	
理学研究科長	徳 永 正 晴	
医学研究科長	井 上 芳 郎	
歯学研究科長	松 本 章	
薬学研究科長	長 澤 滋 治	
工学研究科長	福 迫 尚一郎	
農学研究科長	太田原 高 昭	
獣医学研究科長	藤 田 正 一	
水産科学研究科長	繪 面 良 男	
地球環境科学研究科長	西 則 雄	
国際広報メディア研究科長	大 平 具 彦	
低温科学研究所長	本 堂 武 夫	
電子科学研究所長	井 上 久 遠	
遺伝子病制御研究所長	小野江 和 則	
附属図書館長	原 暉 之	
医学部附属病院長	藤 本 征一郎	
歯学部附属病院長	加 藤 熙	
言語文化部長	筑 和 正 格	
触媒化学研究センター長	魚 崎 浩 平	
スラブ研究センター長	村 上 隆	
大型計算機センター長	嘉 数 侑 昇	
アイソトープ総合センター長	西 信 三	
機器分析センター長	松 田 彰	
実験生物センター長	片 倉 晴 雄	
遺伝子実験施設長	高 木 信 夫	
留学生センター長	長谷川 淳	
量子界面エレクトロニクス研究センター長	長谷川 英 機	
エネルギー先端工学研究センター長	木 谷 勝	
高等教育機能開発総合センター長	前 出 吉 光	副学長兼務
先端科学技術共同研究センター長	富 田 房 男	副学長兼務
情報メディア教育研究総合センター長	伊 藤 精 彦	
総合博物館長	小 泉 格	
保健管理センター所長	武 藏 学	
体育指導センター所長	関 口 恭 毅	
事務局長	若 松 澄 夫	
医療技術短期大学部部長	森 田 穰	オブザーバー

2 点検評価委員会幹事会（構成員11名）

官 職	氏 名	備 考
副学長	富 田 房 男	座長
副学長	前 出 吉 光	
文学研究科長	瀧 川 哲 夫	
経済学研究科長	内 田 和 男	
工学研究科長	福 迫 尚一郎	
医学研究科長	井 上 芳 郎	
農学研究科長	太田原 高 昭	
獣医学研究科長	藤 田 正 一	
地球環境科学研究科長	西 則 雄	
電子科学研究所長	井 上 久 遠	
事務局長	若 松 澄 夫	

3 専門委員会等

（1）教員業績評価専門委員会（構成員17名）

官 職	氏 名	備 考
工学研究科長	福 迫 尚一郎	委員長
文学研究科 教授	土 屋 博	
教育学研究科 教授	木 村 保 茂	
法学研究科長	畠 山 武 道	
経済学研究科 教授	早 川 豊	
理学研究科 教授	佐々木 陽 一	
医学研究科 教授	阿 部 和 厚	
医学研究科 教授	田 代 邦 雄	医学部附属病院 推薦
歯学研究科 教授	渡 邊 継 男	
薬学研究科 教授	野 村 靖 幸	
工学研究科 教授	篠 原 邦 夫	
農学研究科 教授	田 原 哲 士	
獣医学研究科 教授	栗 原 幹 典	
水産科学研究科 教授	山 内 皓 平	
言語文化部長	筑 和 正 格	
低温科学研究所長	本 堂 武 夫	
スラブ研究センター 教授	望 月 哲 男	

「業績一覧」ワーキンググループ（構成員6名）

官 職	氏 名	備 考
法学研究科長	畠 山 武 道	座長
文学研究科 教授	土 屋 博	
医学研究科 教授	田 代 邦 雄	医学部附属病院 推薦
薬学研究科 教授	野 村 靖 幸	
工学研究科 教授	篠 原 邦 夫	
獣医学研究科 教授	栗 原 幹 典	

「授業評価」ワーキンググループ（構成員8名：オブザーバー1名含む。）

官 職	氏 名	備 考
医学研究科 教授	阿 部 和 厚	座長
教育学研究科 教授	木 村 保 茂	
経済学研究科 教授	早 川 豊	
理学研究科 教授	佐々木 陽 一	
歯学研究科 教授	渡 邊 継 男	
農学研究科 教授	田 原 哲 士	
スラブ研究センター 教授	望 月 哲 男	
高等教育機能開発総合センター 教授	小笠原 正 明	オブザーバー

(2) 大学院教育専門委員会（構成員8名）

官 職	氏 名	備 考
地球環境科学研究科長	西 則 雄	委員長
経済学研究科長	内 田 和 男	
教育学研究科 教授	小 出 達 夫	
理学研究科 教授	鈴 木 範 男	
医学研究科 教授	吉 木 敬	
歯学研究科 教授	戸 塚 靖 則	
工学研究科 教授	佐 伯 浩	
農学研究科 教授	寺 尾 日出男	

「アンケート作成」ワーキンググループ（構成員4名）

官 職	氏 名	備 考
教育学研究科 教授	小 出 達 夫	座長
理学研究科 教授	鈴 木 範 男	
歯学研究科 教授	戸 塚 靖 則	
農学研究科 教授	寺 尾 日出男	

(3) 大学評価事業専門委員会（構成員18名）

官	職	氏 名	備 考
文学研究科長		瀧 川 哲 夫	委員長
文学研究科 教授		新 田 孝 彦	
文学研究科 教授		小 林 甫	
教育学研究科 教授		鈴 木 敏 正	
法学研究科 教授		古 矢 旬	
経済学研究科 教授		佐々木 憲 介	
理学研究科 教授		中 原 純一郎	
医学研究科 教授		有 川 二 郎	
歯学研究科 教授		赤 池 忠	
薬学研究科 教授		有 賀 寛 芳	
工学研究科 教授		佐 伯 浩	
農学研究科 教授		三 島 徳 三	
獣医学研究科 教授		喜 田 宏	
水産科学研究科 教授		猪 上 徳 雄	
言語文化部 教授		宮 下 雅 年	
地球環境科学研究科 教授		中 村 博	
国際広報メディア研究科 教授		山 田 吉二郎	
高等教育機能開発総合センター 教授		山 岸 みどり	

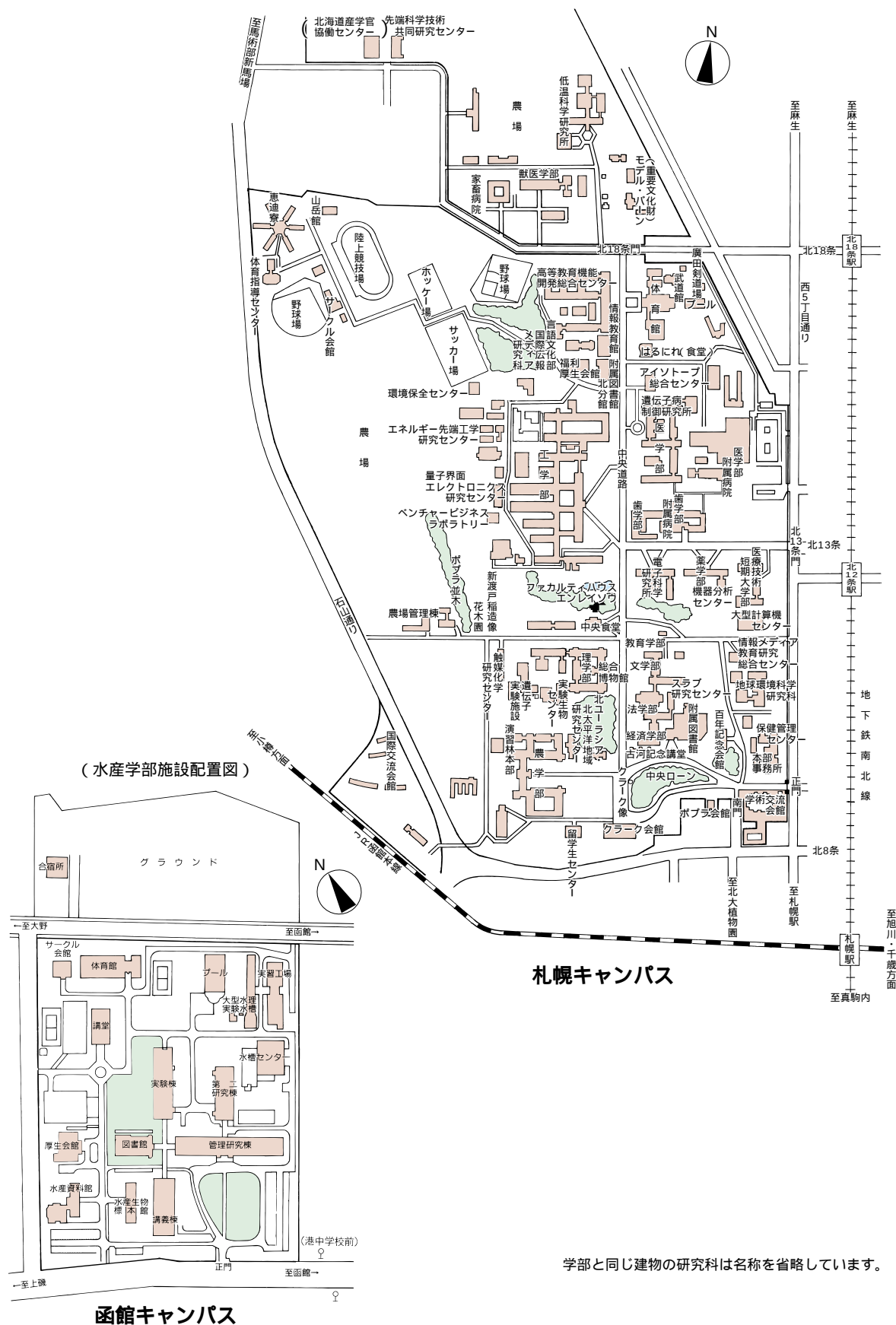
「教育サービス面における社会貢献」WG（構成員9名）

官	職	氏 名	備 考
工学研究科 教授		佐 伯 浩	座 長
国際広報メディア研究科 教授		山 田 吉二郎	幹 事
文学研究科 教授		小 林 甫	
教育学研究科 教授		鈴 木 敏 正	
経済学研究科 教授		佐々木 憲 介	
医学研究科 教授		有 川 二 郎	
薬学研究科 教授		有 賀 寛 芳	
獣医学研究科 教授		喜 田 宏	
高等教育機能開発総合センター 教授		山 岸 みどり	

「教養教育」WG（構成員8名）

官	職	氏 名	備 考
法学研究科 教授		古 矢 旬	座 長
文学研究科 教授		新 田 孝 彦	幹 事
理学研究科 教授		中 原 純一郎	
歯学研究科 教授		赤 池 忠	
農学研究科 教授		三 島 徳 三	
水産科学研究科 教授		猪 上 徳 雄	
言語文化部 教授		宮 下 雅 年	
地球環境科学研究科 教授		中 村 博	

北海道大学施設配置図



学部と同じ建物の研究科は名称を省略しています。

21世紀の大いなる展開に向けて

～ 研究主導型大学としての展開を求めて～

(平成12年度北海道大学年次報告書)

平成13年3月発行

編 集 北海道大学点検評価委員会

発 行 北 海 道 大 学

〒060 - 0808

札幌市北区北8条西5丁目

☎ 011 - 706 - 3600

FAX 011 - 706 - 4870

(担当：総務部総務課企画室)

北海道大学ホームページアドレス

<http://www.hokudai.ac.jp/>

印刷 富士プリント(株)